



A-Class

取扱説明書



Mercedes-Benz

表記と記載内容について

マーク	内容
	警告 重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
	環境 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。
	注意 けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
	知識 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
	操作手順などを示しています。
(▷ ページ)	関連する内容が他のページにもあることを示しています。

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をご使用になる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 表紙の画像はイメージであり、日本仕様とは異なる場合があります。
- この取扱説明書には、日本仕様には設定されない装備の記述が含まれている場合があります。
- この取扱説明書のイラストは主に左ハンドル車のものを使用しています。右ハンドル車では、車両の部品の配置や位置、そして操作方法が異なる場合がありますので、ご注意ください。
- この取扱説明書には、走行速度が100km/hを超えたときの車両機能や状態についての記述がありますが、公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i メルセデス・ベンツ日本(株) 公式サイト
<http://www.mercedes-benz.co.jp/>

メルセデス・ベンツ日本株式会社

取扱説明書に記載されている 装備について.....	4	各部の名称.....	27
さくいん.....	7	安全装備.....	37
はじめに.....	15	オープン / クローズ	77
		シート / ステアリング / ミラー ...	97
		ライト / ワイパー	111
		エアコンディショナーシステム...	133
		走行と停車.....	147
		マルチファンクションディスプレイ...	217
		収納 / 室内装備	269
		メンテナンス / 手入れ	287
		万一のとき.....	305
		ホイールとタイヤ.....	331
		テクニカルデータ.....	353

この取扱説明書には、

- ・ **車種や仕様により異なる装備**（以下の表では " △ " マークで表示）
- ・ **日本仕様の車両に装着されない装備**（以下の表では " × " マークで表示）

が記載されています。

取扱説明書をお読みいただく際の参考にしてください。

各部の名称

車幅灯表示灯	△
音声認識スイッチ	△

安全装備

リアシートサイドバッグ	×
後席シートベルトの状況表示	×
チャイルドセーフティシート検知システム (助手席エアバッグオフ表示灯含む)	×
盗難防止システム（けん引防止機能、室内センサー含む）	×

オープン / クローズ

コンビニエンスオープニング機能、コンビニエンスクロージング機能	△
パノラミックスライディングルーフ（電動サンシェード含む）	△

シート / ステアリング / ミラー

シートの手動調整	△
シートの電動調整	△
ヘッドレストの調整	×
リアシートのヘッドレストの脱着（中央）	△
電動ランバーサポート	△
シートヒーター	△
手動防眩式ルームミラー	×
手動格納式ドアミラー	×
パーキングヘルプ機能	△
メモリー機能	△

ライト / ワイパー

フロントフォグランプ	△
インテリジェントライトシステム	△
アダプティブハイビームアシスト	△
バイキセノンヘッドライト（ヘッドライトウォッシャー含む）	△
ハロゲンヘッドライト（ヘッドライト範囲調整ダイヤル含む）	△

エアコンディショナーシステム

オートエアコンディショナー	△
クライメートコントロール（左右独立調整） （ゾーン機能、余熱ヒーター機能、リア送風口を含む）	△

走行と停車

クルーズコントロール	△
ディストロニック・プラス （車間距離警告灯、車間ディスプレイ含む）	△
パークトロニック	△
アクティブパーキングアシスト	△
スピードリミットアシスト	×
ブラインドスポットアシスト	△
レーンキーピングアシスト	△

マルチファンクションディスプレイ

ヘッドライト照射範囲の設定	△
リア中央のSRS	×

収納 / 室内装備

サングラスケース	△
AUX 入力ジャック	△
メディアインターフェース	△
アンダーシートボックス（前席）	△
収納ネット	△
スルーローディング	△
AUDIO 5	×
リアシートのアームレストのカップホルダー	△
灰皿	×
ライター	×
ラゲッジルームのソケット	△
小物入れ内の携帯電話ブラケット	×
運転席側フロアマット	△

万一のとき

タイヤ交換工具	×
MOExtended タイヤ	△
タイヤフィット	△

ホイールとタイヤ

スチールホイール	×
応急用スペアタイヤ	×
AMG スタイリングパッケージ	△

テクニカルデータ

24GHz レーダーセンサーシステム	△
--------------------	---

ア

アクティブパーキングアシスト	199	エアコンディショナーシステムを オートモードに設定する	139
アシストメニュー	229	温度の調整	140
アダプティブハイビームアシスト	118	送風配分の設定	140
アダプティブブレーキ	73	送風量の設定	141
アダプティブブレーキライト	70	ゾーン機能の作動 / 解除	141
アテンションアシスト	209	内気循環スイッチを使用しての コンビニエンスオープニング / クロー징機能	144
安全のために	16	内気循環モードの作動 / 解除	143
オートマチック車の取り扱い	20	フロントウインドウのデフロスター	141
寒冷時の取り扱い	22	余熱ヒーター機能の作動 / 解除	145
子供を乗せるとき	20	リアデフォグガー	143
こんなことにも注意	24	エアバッグ	41
重要な安全上の注意事項	16	ウインドウバッグ	45
診断ソケット	17	運転席 / 助手席エアバッグ	43
走行する前に	18	運転席二ーバッグ	44
正しい使用方法	18	サイドバッグ	44
保証の適用	18	重要な安全上の注意事項	41
メルセデス・ベンツ指定サービス工場	18	エンジンオイル	357
イモビライザー	73	エンジンの始動	150
インストルメントパネル	28	エンジンの停止	168
インテリジェントライトシステム	116	エンジン番号	355
ウィンタータイヤ	335、350	エンジンルーム	288
ウインドウウォッシャーおよびヘッドライト ウォッシャー	360	エンジンオイル	291
運転席の適切な位置	98	エンジンオイルレベルゲージを 使用してのオイル量の点検	291
エアコンディショナーシステムの概要	134	エンジンオイルを補給する	292
エアコンディショナー使用時の注意事項	135	全体的な注意事項	291
エアコンディショナーの		他のサービス用品の点検と補給	293
コントロールパネル	135	ウインドウウォッシャー / ヘッドライトウォッシャーの補給	294
クライメートコントロール(左右独立調整)		冷却水の量の点検	293
使用時の注意事項	137	ボンネット	288
クライメートコントロール(左右独立調整) のコントロールパネル	137	エンジン冷却水温度計	219
重要な安全上の注意事項	134	応急用スペアタイヤ	351
エアコンディショナーシステムの操作	138	応急用スペアタイヤを取り出す	351
AC モードの作動 / 解除	139	サービスデータ	352
ウインドウの曇り取り	142	重要な安全上の注意事項	351
エアコンディショナーシステムの 作動 / 停止	138	全体的な注意事項	351
		オーディオメニュー	226
		オートマチックトランスミッション	157
		DIRECT SELECT レバー	157

運転のヒント	160
オートマチックギアシフト	161
オートマチックトランスミッションの トラブル	164
ギアシフト操作	159
シフトポジション	159
重要な安全上の注意事項	157
走行モード	160
パドルシフト	161
マニュアルギアシフト	162

力

外気温度表示	219
カップホルダー	279
可変スピードリミッター	179
環境保護のために	15
キー	78
エマージェンシーキー	80
キーの機能	79
キーの電池	80
キーのトラブル	83
重要な安全上の注意事項	78
ロックシステムの設定の変更	79
救急セット	307
クルーズコントロール	176
けん引およびけん引始動	321
けん引始動（緊急エンジン始動）	324
けん引フックの取り付け / 取り外し	323
車両を運搬する	324
重要な安全上の注意事項	321
フロントアクスルを上げて	
車両をけん引する	323
両アクスルを接地させて	
車両をけん引する	324
子供を乗せるとき	52
チャイルドセーフティシート	52
チャイルドブルーブロック	64
コンビネーションスイッチ	115

サ

サービスプロダクトと容量	355
--------------	-----

ウインドウウォッシャーおよび ヘッドライトウォッシャー	360
エンジンオイル	357
重要な安全上の注意事項	355
燃料	355
ブレーキ液	358
冷却水	359

サイドウインドウ	88
コンビニエンスオープニング機能	90
コンビニエンスクロージング機能	90
サイドウインドウの開閉	89
サイドウインドウのトラブル	91
サイドウインドウのリセット	91
サイドウインドウのリバース機能	89
重要な安全上の注意事項	88

サンバイザー	281
シート	99
シートの手動調整	101
シートの電動調整	101
シートヒーター	104
電動ランバーサポートの調整	104
ヘッドレストの調整	101

シートベルト	47
運転席と助手席のシートベルト着用警告	
	50
後席シートベルトの状況表示	50
シートベルト調整機能	49
シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター	51
シートベルトの高さ調整	49
シートベルトを着用する	48
シートベルトを外す	49
重要な安全上の注意事項	47

室内装備	279
12V 電源ソケット	283
運転席側フロアマット	286
カップホルダー	279
携帯電話	284
サンバイザー	281
灰皿	282
反射防止フィルムの装着	286
ライター	282

自動防眩機能	108
--------	-----

車外ライト	112
-------	-----

アダプティブハイビームアシスト	118	PRE-SAFE®（予防乗員保護）	46
インテリジェントライトシステム	116	SRS（乗員保護補助装置）	39
コンビネーションスイッチ	115	エアバッグ	41
車外ライトの設定	112	シートベルト	47
非常点滅灯	116	重要な安全上の注意事項	38
ヘッドライトウォッシャー	116	ステアコントロール	73
ヘッドライトの内側が曇るとき	119	ステアリング	105
車載品の収納場所	306	重要な安全上の注意事項	105
救急セット	307	ステアリングの調整	105
車載工具	307	スノーチェーン	336
停止表示板	306	スピードメーター	219
非常信号用具	306	スピードリミットアシスト	210
車両装備	16	積載のガイドライン	270
車両データ	360	設定メニュー	231
全体的な注意事項	360	前席上方の操作部	35
車両に保存されるデータ	25	センターコンソール	33
車両の電子機器	354	下部センターコンソール	34
電子制御部品の改造	354	上部センターコンソール	33
車輪の交換	340	走行	148
回転方向	341	ECO スタートストップ機能	152
車輪の入れ替え	341	イグニッション位置	149
車輪の清掃	341	エンジンの始動	150
車輪の装着	342	エンジンのトラブル	155
車輪の保管	341	重要な安全上の注意事項	148
パンクしたとき	340	発進	150
ジャンプスタート	318	走行安全装備	65
収納エリア	271	ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）	65
小物入れ	271	BAS	66
後席の小物入れ	273	CPA（衝突警告システム）	66
重要な安全上の注意事項	271	EBD	72
前席の小物入れ	271	ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）	70
収納ネット	273	アダプティブブレーキ	73
スルーローディング	273	アダプティブブレーキライト	70
荷物の固定	276	重要な安全上の注意事項	65
荷物固定用リング	276	ステアコントロール	73
バッグフック	276	走行安全装備の概要	65
パーセルシェルフ	276	走行時の注意	171
ラゲッジフロアボード下の小物入れ	277	ECO 表示	171
ラゲッジルームの拡大	274	寒冷時の走行	175
重要な安全上の注意事項	274	全体的な注意事項	171
分割可倒式シート	274		
ルーフキャリア	278		
乗員安全装備	38		

濡れた路面での走行	174
ブレーキ	172
走行装備	176
アクティブパーキングアシスト	199
アテンションアシスト	209
可変スピードリミッター	179
クルーズコントロール	176
スピードリミットアシスト	210
ディストロニック・プラス	182
パーキングアシストリアビューカメラ	205
パークトロニック	195
ホールド機能	193
レーントラッキングパッケージ	212
送風口の調整	145
サイド送風口の調整	146
重要な安全上の注意事項	145
中央送風口の調整	146
リア送風口の調整	146

タ

タイヤ / ホイールの使用	333
MoExtended (ランフラットタイヤ)	335
走行時の注意	333
タイヤトレッド	334
タイヤの選択、装着と交換	334
ホイールおよびタイヤの定期的な点検	333
タイヤ空気圧	337
指定のタイヤ空気圧	337
タイヤ空気圧警告システム	339
タイヤの回転方向	341
タコメーター	219
チャイルドセーフティシート	52
ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート 固定装置	56
重要な安全上の注意事項	52
助手席へのチャイルドセーフティシート の装着	54
推奨チャイルドセーフティシート	61
チャイルドセーフティシート検知システム	55
チャイルドセーフティシート検知システム のトラブル	59

チャイルドセーフティシートの 適切な装着位置	59
テザーアンカー	58
チャイルドブルーフロック	64
重要な安全上の注意事項	64
リアドアウインドウのオーバーライド機能	64
リアドアのチャイルドブルーフロックを 設定する	64
駐車	168
エンジンの停止	168
重要な安全上の注意事項	168
長期間駐車するとき	171
電気式パーキングブレーキ	169
長期間駐車するとき	171
停止表示板	306
ディストロニック・プラス	182
クルーズコントロールレバー	185
車間距離の設定	190
重要な安全上の注意事項	182
全体的な注意事項	184
速度の設定	189
ディストロニック・プラスで 走行するときのヒント	191
ディストロニック・プラスの解除	190
ディストロニック・プラスの設定、記憶、 維持、速度の呼び出し	185
ディスプレイと操作	218
エンジン冷却水温度計	219
外気温度表示	219
スピードメーター	219
タコメーター	219
マルチファンクションディスプレイの操作	220
メーターパネルの照明	218
メニューリスト	221
ディスプレイメッセージ	238
安全装備	239
エンジン	250
キー	260
車両	257
走行装備	252
タイヤ	256

ディスプレイメッセージを非表示にする	238
はじめに	238
メッセージメモリー	238
ライト	247
テクニカルデータに関する情報	354
電気式パーキングブレーキ	169
緊急ブレーキ	170
自動解除	170
自動作動	170
手動での作動 / 解除	169
全体的な注意事項	169
電球の交換	121
重要な安全上の注意事項	121
電球交換の概要	122
フロントの電球の交換	122
リアの電球の交換	125
電動ランバーサポート	104
ドア	84
内側から集中して車両を施錠および	
解錠する	84
内側からドアを解錠して開く	84
運転席ドアの解錠	
(エマージェンシーキー)	85
車速感応ドアロック	85
車両の施錠	
(エマージェンシーキーによる)	86
重要な安全上の注意事項	84
ドアの操作部	36
ドアミラー	106
冬季の使用	335
ウィンタータイヤ	335
スノーチェーン	336
標準タイヤでの走行	335
盗難防止システム	73
イモビライザー	73
けん引防止機能	74
室内センサー	75
盗難防止警報システム	73
トリップメニュー	222

ナ

ナビメニュー	224
慣らし運転	148
最初の約 1,500km まで	148
重要な安全上の注意事項	148
日常の手入れ	296
外装の手入れ	297
全体的な注意事項	296
内装の手入れ	302
荷物の固定	276
燃料	355
燃料の給油	165
重要な安全上の注意事項	165
燃料と燃料タンクのトラブル	167
燃料を給油する	166

ハ

パーキングアシストリアビューカメラ	205
パークトロニック	195
灰皿	282
バッテリー (車両)	314
重要な安全上の注意事項	314
バッテリーの充電	317
パノラミックスライディングルーフ	
重要な安全上の注意事項	92
パノラミックスライディングルーフの操作	93
パノラミックスライディングルーフの	
電動サンシェードの操作	94
パノラミックスライディングルーフの	
トラブル	96
パノラミックスライディングルーフの	
リバース機能	93
バンクしたとき	308、340
MOExtended タイヤ	
(ランフラットタイヤ)	309
車両の準備	308
タイヤフィット	310
ビークルプレート	354
エンジン番号	355
車両番号	354

車台番号が記載されたビークルプレート	354
非常信号用具	306
ヒューズ	325
エンジンルームのヒューズボックス	325
重要な安全上の注意事項	325
助手席足元のヒューズボックス	326
ヒューズ一覧	327
ヒューズを交換する前に	325
標準タイヤ	349
ホイールとタイヤの組み合わせ	347
ウィンタータイヤ	350
全体的な注意事項	347
標準タイヤ	349
ホールド機能	193
ボンネット	288

マ

マニュアルギアシフト	162
マルチファンクションステアリング	32
ミラー	106
自動防眩機能	108
ドアミラー	106
パーキングヘルプ機能	108
ルームミラー	106
メインメニューとサブメニュー	222
TEL メニュー	227
アシストメニュー	229
オーディオメニュー	226
設定メニュー	231
トリップメニュー	222
ナビメニュー	224
メニューの概要	222
メンテナンスメニュー	231
メーターパネル	30
表示灯 / 警告灯	31
メーターパネル	30
メーターパネルの表示灯 / 警告灯	261
安全装備	262
エンジン	266
シートベルト	261
走行装備	268

メモリー機能	109
シート位置の呼び出し	110
設定の記憶	109
メルセデス・ベンツ純正部品	15
メンテナンス	294
メンテナンスインジケーター	294
メンテナンスメニュー	231

ラ

ライター	282
ラゲッジルーム	87
重要な安全上の注意事項	87
外側からの開閉	87
テールゲートの非常解除	88
ルームミラー	106
ルームライト	120
緊急時点灯機能	121
ルームライトの概要	120
ルームライトの操作	120
冷却水	359

レーントラッキングパッケージ	212
全体的な注意事項	212
ブラインドスポットアシスト	212
レーンキーピングアシスト	214

ワ

ワイパー	127
フロントウインドウワイパーの 作動 / 停止の切り替え	127
リアウインドウワイパーの 作動 / 停止の切り替え	128
ワイパーのトラブル	131
ワイパーブレードの交換	129

A

ABS (アンチロック・ブレーキング・システム)	65
---------------------------------------	-----------

B

BAS	66
------------------	-----------

C

CPA（衝突警告システム）	66
アダプティブブレーキアシスト	68
車間距離警告機能	67
全体的な注意事項	66

D

DIRECT SELECT レバー	157
-------------------	-----

E

EBD	72
ECO スタートストップ機能	152
ECO スタートストップ機能の解除 / 作動	154
エンジンの自動再始動	153
エンジンの自動停止	152
重要な安全上の注意事項	152
全体的な注意事項	152
ECO 表示	171
ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）	70
ESP® の機能の設定 / 解除	71
ESP® の特性	71
重要な安全上の注意事項	70
全般的な注意事項	70
トラクションコントロール	70

M

MoExtended（ランフラットタイヤ）	335
-----------------------	-----

P

PRE-SAFE®（予防乗員保護）	46
-------------------	----

S

SRS（乗員保護補助装置）	39
---------------	----

T

TEL メニュー	227
----------	-----

数字

12V 電源ソケット	283
24 GHz レーダーセンサーシステム	362

環境保護のために

Daimler AG では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- 短距離短時間の走行を控えることで、燃料の余分な消費が抑えられます。
- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を車に載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。
- エンジン始動時は、アクセルペダルを踏み込まないでください。
- 慎重に運転をし、前車との車間距離を適切に保ってください。

🌱 環境

Daimler AG は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

メルセデス・ベンツ純正部品

🌱 環境

Daimler AG は、新品と同じ品質の再生アセンブリーおよび部品を供給しています。これらには、新品と同様の保証が適用されます。

! 車両の以下の範囲には、エアバッグやシートベルトテンショナー、およびそれらの保護システムのコントロールユニットやセンサーが取り付けられていることがあります。

- ドア
- ドアピラー
- ドアシル
- シート
- ダッシュボード
- メーターパネル
- センターコンソール

これらの範囲には、オーディオシステムのようなアクセサリーを取り付けしないでください。修理や钣金作業を実施しないでください。保護システムの十分な作動を損なうおそれがあります。

アクセサリーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場に取り付けることをお勧めします。

承認されていない部品やタイヤおよびホイール、または安全関連装備を使用すると、車両の走行安定性が損なわれることがあります。

これにより、ブレーキシステムなどの安全装置の誤作動を引き起こすことがあります。メルセデス・ベンツ純正部品または同等の品質を保証する部品のみを使用してください。タイヤやホイール、アクセサリーなどは、必ず車両に明確に適合する製品だけを使用してください。

メルセデス・ベンツでは、純正部品や交換部品、アクセサリーに対して、それらの信頼性、安全性および適合性がお客様の車両に対して明確に適合しているかをテストしています。継続的な市場調査は行なっていますが、メルセデス・ベンツは他の部品の使用を認めていません。個別にまたは公式に承認された部品であっても、これらの使用に対しては、メルセデス・ベンツは責任を負いません。

メルセデス・ベンツ純正部品、特別に承認された交換部品、アクセサリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手することができます。

車両装備

この取扱説明書では、本書の発行時点で車両に装着可能な、すべての標準およびオプション装備について記載しています。ただし、国により仕様が異なるため、本書に記載されているすべての機能が、お客様の車両に当てはまらない場合があることにご留意ください。このことは、安全に関する装備や機能にも当てはまります。そのため、記載されている記述やイラストが、お客様の装備と異なる場合があります。

オプション装備および日本仕様の車両に装着されない装備については、本書の"取扱説明書に記載されている装備について" (p.4 ページ) をご覧ください。装備や操作について不明点があるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

安全のために

重要な安全上の注意事項

警告

所定の点検整備や必要な修理を行わないと、故障やシステムが作動しなくなるおそれがあります。事故の危険性があります。

常に所定の点検整備や必要な修理をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全に関連した装備が制限付きで作動したり、あるいはまったく機能しなくなります。これは、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響します。ステアリングやブレーキの操作に非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

 警告

電気装備や同様にそれらのソフトウェアの配線などを改造すると、それらの機能や他のネットワークされた装置の操作に悪影響を及ぼすことがあります。これは特に安全に関連するシステムに影響します。車両の安全システムが適切に作動しなくなることがあります。事故とけがの危険性が増加します。

配線や電気装備、ソフトウェアに改造を行なわないでください。電気構成部品へのあらゆる作業や改造は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

以下のときは、車両が損傷する危険性があります。

- 例えば、高い縁石や未舗装路で車両がスタックしたとき
- 道路上の縁石や穴などの障害物を高い速度で乗り越えたとき
- 重量のある物体が車体下面や車体の部品にぶつかったとき

このような状況では、外観上に損傷はなくても、ボディ、車体下部、車体の部品、ホイールまたはタイヤが損傷していることがあります。このような損傷を受けた構成部品は、予想できない不具合が発生したり、または事故のときには、それらは設計通りの負荷に耐えられません。

車体下部のパネルが損傷したときは、葉や草、あるいは小枝が車体下部と車体下部のパネルの間に集まることがあります。それらが排気システムの熱い部品に長時間触れていると、それらが発火することがあります。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で車両を点検し、ただちに修理しなければなりません。走行を続けているときに走行安全性の障害に気付いた場合は、道路と交通状況に注意しながらただちに車を停車してください。このときには、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

診断ソケット

診断ソケットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場での診断機器の接続のために装備されています。

 警告

診断ソケットに機器を接続すると、車両システムの作動に影響を及ぼすことがあります。これにより、車両の安全性が損なわれます。事故の危険性があります。

診断ソケットには、いかなる機器も接続しないでください。

 警告

診断機器や機器のケーブルを診断ソケットに接続すると、ペダル操作の障害になります。車両の操作性や車安全性が脅かされます。事故の危険性があります。

車内のすべての物が確実に収納され、それらが運転席の足元に入らないことを確認してください。フロアマットは、ペダルとの間に十分な空間を確保するために、確実にかつ規定通りに取り付けてください。固定できないフロアマットは使用しないでください。

! エンジンが停止している状態で診断ソケットに機器を接続すると、バッテリーを消耗します。

診断ソケットに機器を接続すると、排出ガスのモニター情報がリセットされることがあります。これにより、次回の車両検査時に排出ガス基準に適合しなくなることがあります。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場には、車両に適切な作業を行なうために必要な専門知識と専用工具、ならびに設備が備わっています。上記の内容は、特に安全に関わる作業について重要です。

以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

- 安全に関わる作業
- 点検および整備
- 修理作業
- 装備などの変更や装着、加工作業
- 電気装備に関わる作業

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備を行なうことをお勧めします。

正しい使用方法

警告ラベルをはがすと、お客様や他の乗員が危険を認識することができなくなります。警告ラベルをはがさないでください。

走行するときは、以下の情報に従ってください。

- 取扱説明書の安全事項
- 取扱説明書のテクニカルデータ
- 交通ルールと規則
- 法律と自動車に関する安全基準

保証の適用

! 車両の操作を行なうときや車両に損傷が発生したときは、必ず本書に記載されている指示に従ってください。指示に従わないで発生した車両の損傷については、保証の対象外になります。

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をご覧ください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがあります。異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故の危険性があります。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいることがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけラゲッジルームに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストよりも、高く積み上げないでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発の危険性があります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、ひざの上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

- 6歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（▷52 ページ）を使用することが法律で義務付けられています。
- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやサイドウインドウ、パノラミックスライディングルーフなどは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。

サイドウインドウやパノラミックスライディングルーフの開閉部から身体を出さない

子供がサイドウインドウやパノラミックスライディングルーフの開閉部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、トランスミッションがポジション **P**、**N** 以外になっていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故の危険性があります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

トランスミッションがポジション **P** になっていることを確認して、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- トランスミッションをポジション **D**、**R** にシフトするときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、DIRECT SELECT レバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、電気式パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込んで発進してください。

また、坂道で発進するときは、ヒルスタートアシストも作動します (▶151 ページ)。

走行中

- 走行中はトランスミッションをポジション **N** にシフトしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷することがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故の危険性があります。
- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。また、安全装備が作動しなくなるおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、トランスミッションのポジションが走行位置になると、車が急発進して事故につながるおそれがあります。
- 急な上り坂などでは、アクセルペダルの踏み加減によって停止状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 完全に停車する前に、トランスミッションをポジション **P** にシフトしないでください。トランスミッションの損傷につながります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずトランスミッションをポジション **P** にシフトして、電気式パーキングブレーキを効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにトランスミッションをポジション **P** か **N** にするように心がけてください。**R** になっていることを忘れてアクセルペダルを踏み込み、車が後退して事故につながるおそれがあります。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることや、バッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温度に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地域の場合、少なくとも1年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやテールゲートの凍結

ドアやテールゲートが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやテールゲートが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやテールゲートを開こうとすると、周囲の防水シールやウェザーストリップの損傷につながります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり凍結していると、ボディを損傷したり、ステアリング操作ができなくなるなど、事故の危険性があります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、ウインドウなどが凍結しているときに、無理に動かすとモーターの損傷につながります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくる危険性があります。

警告

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンを始動すると、排気ガスが車内に入り、一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- 電気式パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、電気式パーキングブレーキを使用せず、トランスミッションをポジション **P** にシフトして、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないようにしてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディの損傷につながります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。

日射に関する注意事項

- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの動きをして、火災の危険性があります。
- メガネやサングラスを車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレームが変形したり、ひび割れすることがあります。

ライターに関する注意事項

- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発する危険性があります。
- ライターをグローブボックスや小物入れなどに入れたままにしたり、車内に落としたままにしないでください。

荷物を押し込んだときやシートを操作したときにライターの操作部に触れてライターが誤作動し、火災の危険性があります。

給油に関する注意事項

給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止することがあります。

ワイパーに関する注意事項

清掃時などにワイパーアームを起した後は、必ずワイパーブレードがワイパーアームに確実に取り付けられていることを確認してください。走行中にワイパーブレードが外れて、フロントウインドウを損傷することがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
- 定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- エンジンオイルには添加剤を入れないでください。エンジンの損傷につながります。
- 燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンの損傷につながります。故障が発生したときは、保証の対象外になります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話の使用

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

COMAND システムの操作

COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に COMAND ディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

車両に保存されるデータ

車両の電子部品にはデータメモリーが含まれています。

これらのデータメモリーには、以下の技術情報が一時的または恒常的に保存されます。

- 車両の作動状態
- 出来事
- 故障

この技術情報は、一般的には構成部品、モジュール、システムまたは環境の状態について記録します。

例えば、以下の通りです。

- システム構成部品の作動条件。これには、例えば液量などが含まれます。
- 車両と車両の各構成部品からの状況メッセージ。これには、ホイール回転数 / 速度、減速度、横方向の加速度などが含まれます。
- 重要なシステム構成部品の故障および異常。これには、ライト、ブレーキなどが含まれます。
- 特殊な走行状況での車両の反応。これには、エアバッグの作動、スタビリティコントロールシステムの介入などが含まれます。
- 環境条件。これには、外気温度などが含まれます。

このデータは本質的に以下の技術的なことにのみ使用されます。

- 故障や不具合の検知および改良の支援
- 車両機能の最適化

データを使用して、長距離走行に関する車両の移動経路をたどることはできません。

お客様の車両が点検整備を受けたときは、この技術情報が出来事および故障メモリーから読み出されます。

点検整備には以下が含まれます。

- 修理
- メンテナンス処理
- 保証請求
- 品質保証

この情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場の認定された従業員（メーカーを含む）が特別な診断機を使用して読み出します。必要に応じて、詳細な情報を確認することができます。

故障が解決された後、情報は故障メモリーから消去されるか、絶えず上書きされます。

通常の車両操作では、サービスデータは他の情報と併せて個人情報となる可能性があり、該当機関への提出を求められる場合があります。

以下のような例が含まれます。

- 事故レポート
- 車両の損傷
- 目撃者証言

インストルメントパネル.....	28
メーターパネル.....	30
マルチファンクションステアリング	32
センターコンソール.....	33
前席上方の操作部.....	35
ドアの操作部.....	36

インストルメントパネル

左ハンドル車



	名称	ページ
①	パドルシフト	161
②	コンビネーションスイッチ	115
③	メーターパネル	30
④	ホーン	
⑤	DIRECT SELECT レバー	157
⑥	パークトロニック警告ディスプレイ	196
⑦	前席上方の操作部	35
⑧	エアコンディショナーコントロールパネル	135 137

	名称	ページ
⑨	エンジンスイッチ	149
⑩	ステアリング調整ロック解除レバー	105
⑪	クルーズコントロールレバー	176
⑫	電気式パーキングブレーキスイッチ	169
⑬	ライトスイッチ	112
⑭	診断ソケット	17
⑮	ボンネットロック解除レバー	290

右ハンドル車



	名称	ページ
①	前席上方の操作部	35
②	パークトロニック警告ディスプレイ	196
③	コンビネーションスイッチ	115
④	メーターパネル	30
⑤	ホーン	
⑥	DIRECT SELECT レバー	157
⑦	パドルシフト	161
⑧	ライトスイッチ	112
⑨	電気式パーキングブレーキスイッチ	169

	名称	ページ
⑩	診断ソケット	17
⑪	ボンネットロック解除レバー	290
⑫	エンジンスイッチ	149
⑬	ステアリング調整ロック解除レバー	105
⑭	クルーズコントロールレバー	176
⑮	エアコンディショナーコントロールパネル	135 137

メーターパネル

メーターパネル



	名称	ページ
①	セグメント付きスピードメーター	219
②	マルチファンクションディスプレイ	220
③	タコメーター	219

	名称	ページ
④	エンジン冷却水温度計	219
⑤	燃料計	
⑥	メーターパネル照度調整ノブ	218

表示灯 / 警告灯



P54.33-2379-31

	名称	ページ
①	ヘッドライト表示灯	113
②	車幅灯表示灯 日本仕様車には装備され ないことがあります。	114
③	ハイビーム表示灯	115
④	ESP® 表示灯	264 265
⑤	電気式パーキング ブレーキ表示灯（赤色）	265
⑥	電気式パーキング ブレーキ警告灯（黄色）	265
⑦	車間距離警告灯	268
⑧	方向指示表示灯	115
⑨	SRS 警告灯	266
⑩	シートベルト警告灯	261
⑪	日本仕様車には装備され ません	

	名称	ページ
⑫	エンジン冷却水警 告灯	266 267 268
⑬	リアフォグランプ 表示灯	114
⑭	フロントフォグラ ンプ表示灯	113
⑮	エンジン警告灯	266
⑯	燃料残量警告灯	266
⑰	ESP® オフ表示灯	264 265
⑱	ABS 警告灯	262 263 264
⑲	ブレーキ警告灯	262 264

マルチファンクションステアリング



	名称	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	220
②	ディスプレイ	別冊
③	 音声認識スイッチ：別冊の取扱説明書をご覧ください。	別冊
④	 受話拒否または通話終了 電話帳 / 通話履歴の終了	221
	 発信または受話 通話履歴の表示	221
	 音量の調整	221

	名称	ページ
	 消音	221
⑤	 メインメニューの選択	220
	 サブメニューの選択またはリストのスクロール	220
	 選択の確定 ディスプレイメッセージの消去	220
⑥	 戻る 音声認識の解除：別冊の取扱説明書をご覧ください。	221

センターコンソール

上部センターコンソール



	名称	ページ		名称	ページ
①	コントロールパネル	別冊	⑤	 非常点滅灯スイッチ	116
②	 シートヒータースイッチ	104	⑥	 助手席エアバッグオフ表示灯	55
③	 パークトロニックオフスイッチ	197	⑦	 走行モード選択スイッチ	160
④	 ECO スタートストップスイッチ	154	⑧	日本仕様車には装備されません	

下部センターコンソール



	名称	ページ
⑧	灰皿	282
	ライター	282
	12V 電源ソケット	283
	小物入れ	272
⑨	小物入れ	272

	名称	ページ
⑩	カップホルダー	280
⑪	小物入れ	272
⑫	コントローラー：別冊 の取扱説明書をご覧ください。	

前席上方の操作部



	名称	ページ
①	リアルームライトの点灯 / 消灯スイッチ	120
②	右側読書灯の点灯 / 消灯スイッチ	120
③	フロントルームライト / ルームライトオート制御の解除スイッチ	120
④	けん引防止機能解除スイッチ	74
⑤	ルームミラー	106

	名称	ページ
⑥	室内センサー解除スイッチ	75
⑦	サングラスケース	271
⑧	パノラミックスライディングルーフの開閉スイッチ	93
⑨	フロントルームライトの点灯スイッチ	120
⑩	左側読書灯の点灯 / 消灯スイッチ	120

ドアの操作部



	名称	ページ
①	ドアレバー	84
②	  集中解錠スイッチ / 集中施錠スイッチ	84
③	    シートおよびドアミラー設定のメモリー / ポジションスイッチ	109
④	電動シートの調整スイッチ	101

	名称	ページ
⑤	    ドアミラーの調整および格納 / 展開スイッチ	106 107
⑥	 サイドウインドウの開閉スイッチ	89
⑦	 リアサイドウインドウオーバーライド機能の設定 / 解除スイッチ	64

役に立つ情報.....	38
乗員安全装備.....	38
子供を乗せるとき.....	52
走行安全装備.....	65
盗難防止システム.....	73

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で入手可能な、お客様の車両でのすべての車種、シリーズ、およびオプション装備について記載しています。国により仕様が異なることがあります。記載されているすべての機能が、お客様の車両に装備されていないことがあることにご留意ください。このことは、安全に関するシステムや機能にも当てはまります。

乗員安全装備

重要な安全上の注意事項

 警告

整備作業が適切に行なわれていない場合は、車両の走行安全性が損なわれることがあります。その結果、車両のコントロールを失い、事故を起こす原因になります。また、安全装備が本来の機能を発揮しなくなり、お客様や他の方を保護することができなくなるおそれがあります。

点検整備や修理などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

 警告

乗員保護装置の以下の構成部品を改造したり、不適切な作業を行なわないでください。正常に作動しなくなることがあります。

- シートベルトとベルトアンカー、シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグを含む乗員保護装置
- 配線
- 車載ネットワークで接続された電子制御部品

衝突の際に車両の減速度がシステムを作動させるために十分な高いレベルに達していても、エアバッグやシートベルトテンショナーが正常に作動しなくなったり、誤作動することがあります。この理由により、決して乗員保護装置を改造しないでください。

そのため、決して車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

シートベルトや SRS（乗員保護補助装置）は相互に補完し、連動して作動する乗員保護装置です（▷39 ページ）。これらは、想定される事故の状況において、乗員が負傷する危険性を低減して安全性を高めます。ただし、シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

乗員保護装置の機能を十分に発揮させるため、以下のことに注意してください。

- シートやヘッドレストは正しい位置に調整してください（▷98 ページ）。

- シートベルトを正しく着用してください (▷47 ページ)。
- エアバッグの作動時に、エアバッグが正しく展開できるようにしてください (▷41 ページ)。
- ステアリングを正しい位置に調整してください。
- 乗員保護装置を改造しないでください。

エアバッグは、シートベルトを着用した乗員の保護機能を高めます。しかしながら、エアバッグはシートベルトの効果を補助する乗員保護装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。車両にエアバッグが装備されていても、乗員全員が常に正しくシートベルトを着用しなければなりません。エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。たとえば、エアバッグの作動が正しく着用したシートベルトの保護効果を高めると判断されない場合、エアバッグは作動しません。

エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。第一に、シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの間に適切な距離を保つことができます。第二に、たとえば正面衝突の際に、シートベルトは乗員が衝撃を受けた方向に投げ出されるのを防ぐことができます。

SRS (乗員保護補助装置)

はじめに

SRS は以下により構成されます。

- SRS 警告灯 
- エアバッグ
- エアバッグコントロールユニット (クラッシュセンサーを含む)
- 前席および後席左右のシートベルトテンショナー
- 前席のベルトフォースリミッター

SRS は、事故の際に乗員が車室内の部品にぶつかる危険性を低減します。また事故の際に乗員が受ける衝撃を緩和させます。

SRS 警告灯

警告

SRS に異常が発生すると、各システムが不意に作動したり、減速度の大きい事故が起きても正常に作動しなくなる場合があります。

以下のときは異常が発生しています。

- イグニッション位置を **1** か **2** にしたときに SRS 警告灯  が点灯しないとき
- エンジンを始動してから数秒間経過しても SRS 警告灯  が消灯しないとき
- エンジンがかかっているときに SRS 警告灯  が再度点灯したとき

このような場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で SRS の点検を受けてください。

メーターパネルのSRS警告灯  は、イグニッション位置を **1** か **2** にすると点灯します。エンジンを始動してから数秒後に消灯します。

SRSの機能は、イグニッションがオンのとき、またはエンジンがかかっているときに定期的に診断されます。そのため、異常が発生した場合は適時検出されます。

シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッターとエアバッグの作動

衝突の最初の段階において、エアバッグコントロールユニットは、車両の減速度または加速度に関連する以下の重要な物理的データの評価を行いません。

- 持続時間
- 方向
- 強さ

このデータの評価に基づいて、エアバッグは初期の段階で最初にシートベルトテンショナーを作動させます。

前後方向にさらに高い度合いの車両の減速度または加速度があるときは、運転席 / 助手席エアバッグが作動します。

車両には、衝撃の大きさに応じて展開力を2段階に制御する、2ステージ式の運転席 / 助手席エアバッグが装備されています。衝突の際に、エアバッグコントロールユニットは車両の減速度または加速度の評価を行いません。作動の最初の段階で、運転席 / 助手席エアバッグには負傷の危険性を低減させるための火薬ガスが充填されます。1000分の数秒の間に2度目の作動のための規定値を超えたとき、運転席 / 助手席エアバッグは完全に作動します。

シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動規定値は、車両の減速度または加速度に応じて適切に設定されます。この作動は本来予防措置です。作動は衝突の開始から適切なタイミングで行なわれます。

車両の減速度または加速度、および衝撃の方向は基本的に以下の要素により決定されます。

- 事故の間の衝撃の配分
- 衝撃の角度
- 車両の変形特性
- 車両に衝突した障害物の特性

衝突の後に発生し、測定された衝撃は、エアバッグの作動に決定的な役割を行わないだけでなく、エアバッグの作動に指示を与えるものでもありません。

ボンネットやフェンダーなどの車体は、エアバッグが作動することなく著しく変形することがあります。これは、比較的容易に変形するパーツのみで、影響や減速度合いが高くない場合です。対照的に、車両がほんの少しの変形を受けた場合のみでもエアバッグが作動することもあります。これは、縦方向のボディメンバーなどの非常にかたい車両部分がぶつかり、結果として高い減速度が発生した場合です。

i 前席のシートベルトテンショナーは、前席のシートベルトの先端がシートベルトバックルに正しく差し込まれているときにのみ作動します。

i エアバッグはすべての種類の事故で作動するわけではありません。それぞれのエアバッグシステムは独立して作動します。

エアバッグシステムの作動内容は、検知された衝突の強さ、特に車両の減速度または加速度、および以下のような事故の形態により決定されます。

- 前方からの衝突
- 側面からの衝突

エアバッグ

重要な安全上の注意事項

警告

エアバッグは補助的な乗員保護装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。

エアバッグの作動により重大な、または致命的なけがをする危険性を低減するため、以下の注意事項を守ってください。

- 乗員全員がシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直の位置にして、シートに深く腰かけてください。ヘッドレストは、目の高さで後頭部が支えられるように調整してください。
- 妊娠中の女性は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- 身長 150cm 未満または 12 歳未満の子供は、適切なチャイルドセーフティシートにより確実に身体を固定してください。
- すべての乗員は、できるだけエアバッグから離れた位置にシートを調整してください。運転席シートは安全に車を操作できる位置に調整してください。運転者の胸部を運転席エアバッグ収納部の中央からできるだけ遠ざけてください。
- 助手席シートはできるだけ後方に動かしてください。特に子供を乗せたチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着しているときは重要です。

- 子供を含めて、乗員はサイドバッグやウインドウバッグが作動するウインドウ周辺に頭部を寄りかけないでください。
- 助手席エアバッグが無効になっている場合を除いて、助手席シートには後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。チャイルドセーフティシート検知システム装備車の助手席シートにチャイルドセーフティシート検知システム用トランスポンダーを内蔵したチャイルドセーフティシートを装着したときは、助手席エアバッグは作動しません。助手席エアバッグオフ表示灯  が点灯し続けます。

チャイルドセーフティシート検知システムが装備されていない場合、または後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートにチャイルドセーフティシート検知システム用トランスポンダーが内蔵されていない場合は、子供を乗せたチャイルドセーフティシートは後席の適切な位置に装着してください。前向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着する場合は、助手席シートをできるだけ後方に動かしてください。

- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物が入っていないことを確認してください。
- 特に走行中は、運転席 / 助手席エアバッグ収納部の上に寄りかからないでください。
- ダッシュボードに足をのせないでください。

- ステアリングは必ず外側のみを握ってください。これにより、エアバッグは完全に展開します。ステアリングの内側を握った状態でエアバッグが作動すると、けがをすることがあります。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間に、人やペットまたは荷物がいないことを確認してください。
- バックレストとドアの間に物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックには、コートハンガーなどのかたい物をかけないでください。
- カップホルダーなどのアクセサリをドアに取り付けしないでください。

エアバッグは瞬時に作動するため、エアバッグによるけがの危険性を避けることはできません。

警告

エアバッグは、以下の部分が覆われていない状態で、バッジやステッカーなどが貼付されていないときにのみ、確実に機能します。

- ステアリングパッド部
- ステアリングコラム下部のニーバッグ収納部
- 助手席エアバッグ収納部
- フロントシートのバックレスト外側
- リアシートのバックレスト左右端部
- 前席のAピラーから後席のCピラー間のルーフレーム収納部

⚠ 警告

エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがあります。この白煙を吸い込むと、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがあります。

呼吸障害を防ぐため、安全を確認のうえすみやかに車外へ出てください。サイドウィンドウを開き、新鮮な空気で車内を換気することもできます。この白煙は人体への影響はありません。また、車両火災の心配もありません。

⚠ 警告

エアバッグが作動した直後は、エアバッグの構成部品が熱くなっています。火傷をするおそれがあるため、エアバッグの構成部品には触れないでください。

エアバッグはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換しなければなりません。さもないと、次に事故が起こった際にエアバッグで乗員を保護できません。

エアバッグが作動すると、シートベルトによる保護を補完して、乗員の身体の動きをゆるやかにして拘束します。

エアバッグが作動したときは、作動音が聞こえ、白煙が発生します。ごくまれに作動音が聴力に影響することがあります。発生した白煙は人体への影響はありません。SRS 警告灯  が点灯します。

エアバッグの収納部には、AIRBAG のマークがあります。

運転席 / 助手席エアバッグ

! 助手席に重い荷物を置かないでください。システムが助手席に乗員がいると判断し、事故のときに助手席エアバッグが作動することがあります。作動したエアバッグは交換しなければなりません。



運転席エアバッグ①はステアリング前部で、助手席エアバッグ②はグローブボックス前部および上部で作動します。

運転席 / 助手席エアバッグは、運転席乗員および助手席乗員の頭部および胸部の保護を行ないます。

運転席 / 助手席エアバッグは、以下のように作動します。

- 衝突の初期段階で車両の縦方向に高い度合いの車両の減速度または加速速度を伴うとき
- 運転席 / 助手席エアバッグの作動が、シートベルトによる保護機能が高めるとシステムが判断したとき
- シートベルトの着用の有無に応じて作動
- 他のエアバッグとは独立して作動

車両が横転したときは、運転席 / 助手席エアバッグは基本的に作動しません。

助手席のチャイルドセーフティシート検知システム装備車

助手席エアバッグ②は、助手席に乗りしているとシステムが判断したときにのみ作動します。センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯  は消灯しています (▶55 ページ)。

助手席シートにチャイルドセーフティシートを装着し、センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯  が点灯していないときは、以下が考えられます。

- チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないチャイルドセーフティシートが助手席シートに装着されているか、あるいは
- チャイルドセーフティシート検知システムに対応したチャイルドセーフティシートが不適切に装着されている

運転席ニーバッグ



運転席ニーバッグ①は、ステアリングコラムの下方で作動します。運転席ニーバッグはフロントエアバッグとともに作動します。運転席ニーバッグは、前方からの衝撃が一定の規定値を超えた場合に、フロントエアバッグとともに作動するように設計されています。運転席ニーバッグは、適切に位置し、着用されたシートベルトと組み合わせられた場合に、もっとも効果的に作動します。

運転席ニーバッグ①は、運転者の以下のようなけがを軽減します。

- 膝のけが
- 大腿部のけが
- 下肢のけが

サイドバッグ

警告

シートカバーを使用したい場合は、安全上の理由により、メルセデス・ベンツ車のために承認されたシートカバーのみを使用することをお勧めします。

シートカバーは、サイドバッグから裂ける、特別な縫い目を備えた物でなければなりません。さもないと、サイドバッグが適切に作動できなくなり、事故のときに本来の保護効果を発揮することができません。適切なシートカバーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場などで入手できます。



フロントサイドバッグ①とリアシートサイドバッグ②は、シートバック外側で作動します。

サイドバッグが作動すると、衝撃が発生した側の、前席乗員の胸部、および乗員の腰部に対する保護を高めます。ただし、以下の部分は保護しません。

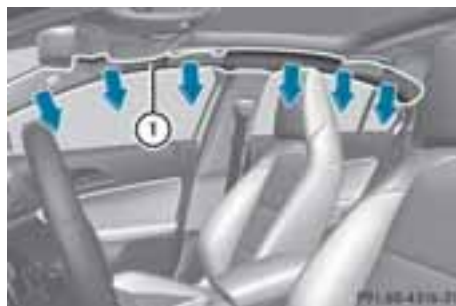
- 頭部
- 頸部
- 腕部

サイドバッグは以下のように作動します。

- 衝撃が発生した側で作動
- 側面衝突のように、衝突の初期段階で車両の横方向に高い度合いの車両の減速度または加速度を伴うとき
- シートベルトの着用とは独立して作動
- 運転席 / 助手席エアバッグとは独立して作動
- シートベルトテンショナーとは独立して作動

車両が横転したときは、サイドバッグは基本的に作動しません。システムが縦方向に一定以上の車両の減速度または加速度を検知し、サイドバッグの作動がシートベルトによってもたらされるものに追加の保護を行なうことができると判断したときに、サイドバッグは作動します。

ウインドウバッグ



ウインドウバッグ①は、車両の衝撃が発生した側の乗員の頭部（胸部または腕部ではなく）の保護レベルを向上させます。

ウインドウバッグ①は、ルーフフレーム側部に内蔵されており、AピラーからCピラーの範囲で作動します。

ウインドウバッグは以下のように作動します。

- 側面衝突などで、衝突の初期段階で車両の横方向に高い度合いの車両の減速度または加速度を伴うとき
- 衝撃が発生した側で作動
- 運転席側および助手席側で、車両が横転し、作動がシートベルトによってもたらされるものに追加の保護を行なうことができるとシステムが判断した場合

- シートベルトの着用とは独立して作動
- 助手席乗員の乗車とは関係なく作動
- 運転席 / 助手席エアバッグとは独立して作動

PRE-SAFE®（予防乗員保護）

警告

シートを調整するときは、挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。

- !** シートを動かすときは、足元やシートの後方に物がいないことを確認してください。シートや物を損傷する危険性があります。

PRE-SAFE® は、車が危険な状態にあることを検知して、乗員保護を高める効果をもたらします。

PRE-SAFE® は、以下のときに作動します。

- BAS が作動するような急ブレーキを効かせたとき
- ディストロニック・プラス装備車では、アダプティブブレーキアシストが強力に作動したとき
- ディストロニック・プラス装備車では、レーダーセンサーシステムが差し迫った衝突の危険性がある特定の状況を検知したとき
- 物理的な限界を超え、強いアンダーステア状態やオーバーステア状態になるような危機的な状況のとき

PRE-SAFE® は、検知した危険な状況に応じて以下のように作動します。

- 前席シートベルトを引き込みます。
- メモリー機能装備車では、助手席シートが不適切な位置にある場合は、適正な位置に調整します。
- 車が横滑りをすると、パノラミックスライディングルーフとサイドウィンドウが少し開いた状態まで自動的に閉じます。

事故が起こることなく車が危険な状態から脱したときは、PRE-SAFE® によりシートベルトの張力が緩みます。PRE-SAFE® により変更されたすべての設定が元に戻ります。

シートベルトの張力が緩まないとき：

- ▶ 停車しているときに、バックレストやシートを少し後方に動かします。

シートベルトの張力が緩み、ロック機構が解除されます。

シートベルトの調整と PRE-SAFE® に組み込まれたコンビニエンス機能に関する情報は、" シートベルト調整機能 " をご覧ください（▷49 ページ）。

シートベルト

重要な安全上の注意事項

警告

シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、本来の保護効果を発揮することができません。そのような状況では、事故のときに重大な、または致命的なけがをする原因になります。

そのため、乗員全員が常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。

- 妊娠中の女性は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトは身体に密着させて、ねじれないように着用してください。そのため、コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。肩を通るベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。そして、シートベルトを引き上げて上半身に密着させてください。腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。腹部にはかけないでください。必要であれば、ベルトを少し押し下げてから引き戻して、たるみを取ってください。
- シートベルトが鋭利な物やこわれやすい物にかからないようにしてください。特に眼鏡やペン、キーなどがその位置にあったり、衣服のポケットに入っていないことを確認してください。事故のときにシートベルトが損傷して裂け、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。
- それぞれのシートベルトは必ず 1 人だけが使用してください。子供を決して他の乗員のひざの上に座らせて走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに子供を保護することができません。その結果、子供と他の方が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長 150cm 未満の乗員はシートベルトを正しく着用することができません。この理由により、身長 150cm 未満の乗員は、体格に合った専用の乗員保護装置を使用してください。
- 身長 150cm 未満かつ 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。この理由により、子供の体格に合ったチャイルドセーフティシートを適切なシートに装着して、子供を固定してください。追加の情報は " 安全装備 " 章にある " 子供を乗せるとき " (p.52 ページ) をご覧ください。チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示に従ってください。
- 乗員が使用しているシートベルトで荷物を固定しないでください。

⚠ 警告

バックレストをできるだけ垂直に近い位置にしないと、シートベルトは本来の効果を発揮することができません。そのような状況では、事故のときに重大な、または致命的なけがをする原因になります。

走行する前に、シートが正しい位置に調整され、バックレストができるだけ垂直に近い位置にあることを確認してください。

⚠ 警告

汚れたり損傷したシートベルトや、改造または事故により衝撃を受けたシートベルトは、本来の保護効果を発揮することができません。そのような状況では、事故のときに重大な、または致命的なけがをする原因になります。

この理由により、シートベルトに汚れや損傷がないか定期的にチェックしてください。

損傷したシートベルトや事故により衝撃を受けたシートベルトは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

安全上の理由により、車両のためにメルセデス・ベンツにより承認されたシートベルトのみを使用することをお勧めします。

シートベルトは、事故のときに乗員の身体の移動を最も効果的に抑えることができる拘束装置です。乗員を拘束することにより、乗員が車内の部品にぶつかる危険性を低減させます。

シートベルトを着用する



- ▶ シートを調整し、バックレストをできるだけ垂直に近い角度にします（▷98 ページ）。
- ▶ シートベルトをベルトアンカー ① からゆっくりと引き出します。
- ▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、肩を通るベルトが肩の中央に、腰を通るベルトが骨盤のできるだけ低い位置にかかるようにします。
- ▶ プレート ② の先端をバックル ③ に差し込みます。

シートベルト調整機能：必要に応じて、運転席と助手席のシートベルトが上半身に密着するように自動調整されます。

- ▶ 必要であれば、シートベルトの高さを調整します。
- ▶ 必要であれば、肩を通るベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

解除ボタン④でのシートベルトの解除に関する情報は（▷49 ページ）をご覧ください。

シートベルト調整機能

シートベルト調整機能では、運転席と助手席のシートベルトが乗員の上半身に密着するように調整されます。

シートベルトは、以下のときに少し引き込まれます。

- プレートの先端をバックルに差し込み、イグニッション位置を **2** にしたとき
- イグニッション位置が **2** のときに、プレートの先端をバックルに差し込んだとき

シートベルト調整機能は、乗員とシートベルトの間のたるみを検知すると、それらを密着させるように作動します。マルチファンクションディスプレイにより、シートベルト調整機能の設定と解除ができます（▷236 ページ）。

シートベルト調整機能は、PRE-SAFE®のコンビニエンス機能に組み込まれています。PRE-SAFE®に関する詳しい情報は、"PRE-SAFE®（予防乗員保護）"をご覧ください（▷46 ページ）。

シートベルトの高さ調整

運転席シートと助手席シートのシートベルトは、高さを調整することができます。肩にかかるシートベルトが肩の中央を通るように高さを調整してください。



- ▶ **上げる**：ベルトアンカーを上にもスライドさせます。
ベルトアンカーが好みの位置に固定されます。
- ▶ **下げる**：ベルトアンカーのロック解除ボタン①を押して保持します。
- ▶ そのままベルトアンカーを下にもスライドさせます。
- ▶ ロック解除ボタン①から指を放し、ベルトアンカーがロックされていることを確認します。

シートベルトを外す

! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。さもないと、シートベルトやプレートがドアやシートに挟まれることがあります。ドアや内張り、シートベルトを損傷するおそれがあります。損傷したシートベルトは乗員保護効果を十分に発揮できないため、交換しなければなりません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。



- ▶ バックル ③ の解除ボタン ④ を押します。
- ▶ プレート ② をベルトアンカー ① のほうに巻き取らせます。

運転席と助手席のシートベルト着用警告

メーターパネルのシートベルト警告灯  は、すべての乗員にシートベルトの着用を促します。警告灯は点灯し続けるか点滅します。また、警告音が鳴る場合もあります。

運転者と助手席乗員がシートベルトを着用すると、シートベルト警告灯  が消灯し、警告音が鳴り止みます。

特定の国のみ：運転者と助手席乗員のシートベルトの着用に関わらず、エンジンを始動するとシートベルト警告灯  が約 6 秒間点灯します。運転者と助手席乗員がシートベルトを着用すると、警告灯が消灯します。

i シートベルト警告灯  について、詳しくは、"メーターパネルの表示灯 / 警告灯" をご覧ください (▶261 ページ)。

後席シートベルトの状況表示



後席シートベルト状況表示の例

後席シートベルトの状況表示は、後席の乗員がシートベルトを着用していることを運転者に知らせます。イラストの例では、後席右側の乗員がシートベルトを着用していることを示しています。後席シートベルトの状況表示は、リアシートベルトの着用を示します。ディスプレイの  マークは、着用されたシートベルトを示します。シートベルトを着用していないか、乗員がいない場合は、 マークが表示されます。

以下のときは、マルチファンクションディスプレイに後席シートベルトの状況表示が約 30 秒間表示されます。

- 走行を開始して速度が約 10km/h に達したとき
- 走行中に後席の乗員がシートベルトを着用したか、外したとき
- 誰かが車に乗車したか降車し、再度走行を開始したとき

後席シートベルトの状況表示は、ただちに消すことができます (▶238 ページ)。

i 後席シートベルトの状況表示は、特定の国にのみ装備されます。

シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター

警告

シートベルトテンショナーが作動したときは、他の事故が発生したときに追加の保護効果を発揮することができません。そのため、作動したシートベルトテンショナーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

シートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄規則を守ってください。この規則について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 助手席に乗車していないときは、シートベルトのプレートバックルに差し込まないでください。さもないと、事故のときに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

フロントシートベルトにはシートベルトテンショナーとベルトフォースリミッターが装備されています。後席左右のシートベルトにはシートベルトテンショナーが装備されています。

シートベルトテンショナーは、事故のときにシートベルトを引き込み、乗員の身体を密着させます。

シートベルトテンショナーは、不適切なシート位置や、正しく着用されていないシートベルトを補正することはありません。

シートベルトテンショナーは、バックレストに乗員の身体を引き寄せるためのものではありません。

フロントシートベルトにはベルトフォースリミッターが装備され、作動すると衝突時に巻き上げたベルトの拘束力を緩め、乗員の身体を加わる負担を軽減します。

フロントのベルトフォースリミッターは、フロントエアバッグと連動し、減速力の一部を吸収します。この結果として、乗員の身体にかかる力を広い範囲に分散させます。

シートベルトテンショナーは、以下のときに作動します。

- イグニッション位置が **2** のとき
- 保護装置が作動しているとき。SRS 警告灯  をご覧ください (▷39 ページ)
- それぞれのフロントシートベルトでプレートバックルに固定されているとき

後席左右のシートベルトテンショナーは、シートベルトの着用とは独立して作動します。

シートベルトテンショナーは、事故の状況や衝撃の強さが以下のようなときに作動します。

- 前方または後方からの衝突の際は、衝突の初期段階で車両の縦方向に高い度合いの車両の減速度または加速度を伴うとき
- 側面衝突の際は、衝撃の反対側で横方向に車両が急激に減速または加速したとき
- 車両が横転した特定の状況で、追加の保護をもたらすことができるとシステムが判断したとき

エアバッグが作動したときは、作動音が聞こえ、白煙が発生します。ごくまれに作動音が聴力に影響することがあります。発生した白煙は人体への影響はありません。SRS 警告灯  が点灯します。

シートベルトにベルトフォースリミッターも装着されていて、作動したときは、シートベルトにより乗員にかかる力が低減されます。

フロントシートのベルトフォースリミッターはフロントエアバッグと連動しており、減速力を部分的に引き受けます。これにより、負荷がより広い範囲に配分されることになります。

子供を乗せるとき

チャイルドセーフティシート

重要な安全上の注意事項

警告

急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時などに、子供が重大な、または致命的なけがをする危険性を低減するため、以下の点に注意してください。

- 身長 150cm 未満かつ 12 歳未満の子供は、常に適切なシートに装着したチャイルドセーフティシートに乗せて身体を固定してください。シートベルトは子供向けに設計されていないため、チャイルドセーフティシートが必要です。

- 子供を乗車させた後ろ向きのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して走行しないでください。ただし、助手席シートにチャイルドセーフティシート検知システムを装備している車両で、チャイルドシート検知システム用トランスポンダーを内蔵したチャイルドセーフティシートで子供の身体を固定している場合を除きます。
- 助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、助手席シートをできるだけ後方に動かしてください。
- 絶対に他の乗員のひざの上に子供を乗せて走行しないでください。急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時などに子供を保護することができません。子供が車内の部品にぶつかり重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

警告

チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着しないと、保護機能を発揮できません。衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体が保護されません。子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。この理由により、チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。

チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。子供の安全性が高くなります。

チャイルドセーフティシートの底面全体がシートクッションに接していなければなりません。そのため、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。

チャイルドセーフティシートのクッションカバーは、シートの専用品のみを使用してください。損傷したカバーは、メルセデス・ベンツ純正品のみと交換してください。

車両のためにメルセデス・ベンツにより承認されたチャイルドセーフティシートのみを使用することをお勧めします。

警告

固定されていなかったり適切な位置に置かれていない荷物は、以下のような場合に子供と他の乗員すべてがけがをする危険性を増加させます。

- 事故のとき
- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時

確実に固定できない限り、車内には重い物やかたい物は積まないでください。詳しい情報は、さくいんの"積載のガイドライン"で見つけることができます。

警告

子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。車内の部品でけがをするおそれがあります。また、車内が高温または低温になると重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や周りの人がけがをするおそれがあります。子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられるおそれがあります。

ホールド機能の注意事項にも従ってください。関連情報はさくいんで見つけることができます。

子供を乗車させるときは、メルセデス・ベンツ純正チャイルドセーフティシートを使用して、身体を固定してください。チャイルドセーフティシートは、子供の体格や年齢、体重に適したものでなければなりません。チャイルドセーフティシートは後席の適切な位置に装着するのが理想的です。走行している間は、子供の身体がチャイルドセーフティシートに固定されていることを確認してください。

メルセデス・ベンツでは、一覧表に示されたチャイルドセーフティシートのみを使用することをお勧めします (▷61 ページ)。

適切なチャイルドセーフティシートについての詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i チャイルドセーフティシートの清掃は、メルセデス・ベンツ純正カーケア用品の使用をお勧めします。これに関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

助手席へのチャイルドセーフティシートの装着

警告

助手席エアバッグが無効にならない場合。

- 助手席エアバッグが作動すると、助手席に装着したチャイルドセーフティシートに乗車した子供が重大な、または致命的なけがをすることがあります。これは子供が助手席エアバッグの近くに着座して作動した場合に特に危険性が高まります。
- 絶対に後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して、子供を乗車させないでください。後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは、後席の適切な位置にのみ装着してください。
- 前向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して、子供を乗車させるときは、必ず助手席シートを最後方の位置にしてください。

以下の場合、助手席エアバッグが無効になりません。

- 助手席シートにチャイルドセーフティシート検知システムを装備していない車両の場合

- 助手席シートにチャイルドセーフティシート検知システムを装備している車両では、チャイルドセーフティシート検知システム用トランスポンダーを内蔵していないチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着した場合

- 助手席シートにチャイルドセーフティシート検知システムを装備している車両では、助手席エアバッグオフ表示灯  が点灯しない場合

チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが助手席側サンバイザーの両面に貼付されています。

推奨されたチャイルドセーフティシートについての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。



助手席サンバイザーに貼付された警告ステッカー



チャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着することを禁止する警告ステッカー

後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを、助手席シートに装着して使用しないでください。

チャイルドセーフティシート検知システム

⚠ 警告

チャイルドセーフティシート検知システムに対応したチャイルドセーフティシートを装着しても、助手席エアバッグオフ表示灯  が点灯しないときは、助手席エアバッグは無効になりません。助手席エアバッグが作動すると、子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。以下に注意してください。

- 後ろ向きで使用するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着しないでください。
- 後ろ向きで使用するタイプのチャイルドセーフティシートは後席の適切な位置に装着してください。

または

- 前向きで使用するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着し、助手席シートを最後方の位置に動かしてください。

- メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、チャイルドセーフティシート検知システムの点検を受けてください。

チャイルドセーフティシート検知システムの機能と信号の送受信が正しく行なわれるように、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートの底面全体がシートクッションに接するようにしてください。不適切に装着されたチャイルドセーフティシートでは、事故のときに保護機能を発揮することができなくなり、けがをするおそれがあります。

⚠ 警告

助手席シートには、以下のような電子機器を置かないでください。

- 電源の入ったノートパソコン
- 携帯電話
- 磁気カードや IC カード

電子機器からの信号がチャイルドセーフティシート検知システムに干渉することがあります。これはシステムの誤作動につながります。これにより、チャイルドセーフティシート検知システム用のトランスポンダーを装備したチャイルドセーフティシートを装着していない状態で助手席エアバッグオフ表示灯  が点灯することがあります。事故のときに助手席エアバッグが作動しません。また、イグニッション位置を **2** にしたときに、SRS 警告灯  が点灯するか、SRS 警告灯  が点灯し、助手席エアバッグオフ表示灯  が短時間点灯しないことがあります。



助手席シートにチャイルドセーフティシート検知システムが装備されていない場合は、専用のステッカーにより確認できます。ステッカーは、助手席側ダッシュボードの側面に貼付されています。助手席ドアを開くと、このステッカーが確認できます。

チャイルドセーフティシート検知システム非装備車：イグニッション位置を2にすると、表示灯  が短時間点灯しますが、機能はありません。助手席シートにチャイルドセーフティシート検知システム対応のシートが装着されていることを示していません。



助手席に装備されたチャイルドセーフティシート検知システムは、メルセデス・ベンツ純正チャイルドセーフティシートが助手席に装着されているかどうかを検知します。この場合は、表示灯  ① が点灯します。助手席エアバッグが無効になります。

i チャイルドセーフティシート検知システムにより助手席エアバッグが無効になっていても、助手席の以下の装置は作動します。

- サイドバッグ
- ウインドウバッグ
- シートベルトテンショナー

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

警告

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置を使用してチャイルドセーフティシートを装着した場合、体重約 22kg 以上の子供には十分な保護機能を発揮することができません。この理由により、体重約 22kg 以上の子供は、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置で装着されたチャイルドセーフティシートには乗車させないでください。体重約 22kg 以上の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを3点式シートベルトで装着してください。さらに、チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着しないと、保護機能を発揮できません。衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体が保護されません。子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。この理由により、チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。

安全上の理由により、チャイルドセーフティシートを後席に装着するときは、メルセデス・ベンツ車向けに推奨された ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを使用してください。

正しく装着されていないチャイルドセーフティシートは外れるおそれがあり、子供や他の方が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着したときは、必ず左右の固定装置に確実に装着されていることを確認してください。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、保護機能を発揮できなくなるおそれがあります。その結果、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

この理由により、事故で損傷したり強い負荷を受けたチャイルドセーフティシートや固定装置は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着するときは、中央後席のシートベルトを挟み込んでいないことを確認してください。さもないと、シートベルトを損傷するおそれがあります。



► ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着します。ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着するときは、製造者の指示に従ってください。

ISOFIX は、専用のチャイルドセーフティシートを後席に装着するための標準規格化された固定方式です。2 組の ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート用固定リング ① が、左右の後席に装備されています。

テザーアンカー

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

後席のバックレストが完全にロックされていることを確認してください。左右のロックインジケーターが見えていないときは、後席のバックレストはロックされています。後席のバックレストがロックされていないと、事故のときにラゲッジルームから荷物が前方に投げ出されるなどして、乗員がけがをするおそれがあります。



テザーアンカーは、ISOFIX で固定された ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートと後席の間で、補助的な固定を行ないます。これにより、けがの危険性をさらに低減します。

テザーアンカーは後席バックレストの左右背面にあります。

▶ **調整式ヘッドレスト装備車両：**ヘッドレストを上げます。

▶ **ヘッドレスト下のヘッドレストの 2 本の支柱の間にテザーベルト ③ を通します。**

調整式ヘッドレスト非装備車両：

▶ **1 本のベルトストラップがあるテザーベルト：**ヘッドレスト上の中央にテザーベルト ③ を通します。

▶ **2 本のベルトストラップがあるテザーベルト：**ヘッドレスト脇の左右にテザーベルト ③ を通します。

▶ **テザーベルト ③ のフック ② をテザーアンカー ① にかけます。**

以下のことを確認してください。

- 図のように、フック ② がテザーアンカー ① にかかっていること
- テザーベルト ③ がねじれていないこと
- パーセルシェルフが取り付けられているときは、テザーベルト ③ がリアシートのバックレストとパーセルシェルフの間を通っていること

▶ **調整式ヘッドレスト装備車両：**必要であれば、ヘッドレストを少し下げます (▷103 ページ)。テザーベルト ③ の適切な取り回しを妨げていないことを確認します。

▶ **テザーアンカーで ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着します。**そのときは製造者の装着指示に従ってください。テザーベルト ③ が締まっていることを確認します。

チャイルドセーフティシート検知システムのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯  AIRB. OFF が点灯している。	助手席にチャイルドセーフティシート検知システム用トランスポンダーを内蔵した純正チャイルドセーフティシートが装着されているため、助手席エアバッグが解除されている。 ⚠ 警告 助手席にチャイルドセーフティシートが装着されていない場合は、チャイルドセーフティシート検知システムが故障している。 イグニッション位置を 2 にしたときに、SRS 警告灯  が点灯したり、助手席エアバッグオフ表示灯  AIRB. OFF が短時間点灯しないこともある。 けがの危険性があります。 ▶ 助手席シートに以下のものを置いていたときは取り除いてください。 • ノートパソコン • 携帯電話 • 磁気カードや IC カード 助手席エアバッグオフ表示灯  AIRB. OFF が点灯し続けているとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

チャイルドセーフティシートの適切な装着位置

下表の記号説明：

- X このカテゴリー（適応体重）の子供には適切でないシート
- U この体重カテゴリーでの使用が承認されたユニバーサルカテゴリーのチャイルドセーフティシートに適合
- UF このカテゴリー（適応体重）に適合する " ユニバーサル " の前向きチャイルドセーフティシートに適合
- L 推奨しているようなチャイルドセーフティシートに適合。以下の表 " 推奨チャイルドセーフティシート "（▷61 ページ）をご覧ください。

	シート位置			
カテゴリー（適応体重）	助手席シート		リアシート ¹	
	助手席エアバッグが無効になっていない	助手席フロントエアバッグが無効になっている	左、右	中央
カテゴリー 0： ～ 10kg	X	U ^{2,3} , L ^{2,3}	U, L	U, L
カテゴリー 0+： ～ 13kg	X	U ^{2,3} , L ^{2,3}	U, L	U, L
カテゴリー I： 9 ～ 18kg	UF ³ , L ³	U ³ , L ³	U, L	U, L
カテゴリー II： 15 ～ 25kg	UF ³ , L ³	U ³ , L ³	U, L	U, L
カテゴリー III： 22 ～ 36kg	UF ³ , L ³	U ³ , L ³	U, L	U, L

"ユニバーサル" のチャイルドセーフティシートは、オレンジ色の認証ラベルが目印です。



チャイルドセーフティシートの認証ラベルの例

- 1: カテゴリー 0 または カテゴリー 0+ のベビーカーシートをリアシートで使用する場合は、ベビーカーシートと接触しないように運転席または助手席シートを調整しなければなりません。
- 2: チャイルドセーフティシート検知システム装備車：助手席エアバッグが作動しない場合、チャイルドセーフティシート自動検知用トランスポンダー付きの "ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシートを装着しなければなりません。助手席エアバッグオフ表示灯  が点灯していなければなりません。
- 3: 助手席シートを最も後方および最も高い位置に移動し、バックレストをほぼ直角の位置にして、ベルトの高さを最も低い位置に調整します。電装調整式シートでは、シートクッションの角度を最も高く、および最も起きた位置に調整しなければなりません。

* 上記の内容は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。適切なチャイルドセーフティシートについては、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

下表の記号説明：

X この体重やサイズのカテゴリーで ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適さない ISOFIX のポジション

IUF この体重カテゴリーでの使用が承認された "ユニバーサル" カテゴリーに属している ISOFIX 対応前向きチャイルドセーフティシートに適合

IL 推奨しているような ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適合。以下の表 "推奨チャイルドセーフティシート" (▷61 ページ) をご覧ください。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの装着のための後席の適合性

カテゴリー（適応体重）	サイズ等級	装着器具タイプ	左右リアシート
キャリアコット	F	ISO/L1	X
	G	ISO/L2	X
0：～ 10kg 生後約 6 カ月位まで	E	ISO/R1	IL
0+：～ 13kg 生後約 15 カ月位まで	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	IL
	C	ISO/R3	IL ^{4,5}
I：9～ 18kg 生後約 9 カ月～ 4 歳位	D	ISO/R2	IL
	C	ISO/R3	IL ^{4,5}
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF

推奨チャイルドセーフティシート

チャイルドシート検知システム用トランスポンダーを内蔵しないチャイルドセーフティシートが助手席シートに装着されている場合：

▶ 助手席シートを最後方の位置に動かします。

4: スタイルまたはアーバンパッケージ装備、または 4 点式または 6 点式アンカー装着フロントシート装備車両：フロントシートを最も高い位置に移動してください。

5: 2 点式アンカー装着フロントシート装備車両：フロントシートをもっとも高い位置に移動してください。

* 上記の内容は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。適切なチャイルドセーフティシートについては、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

カテゴリー (適応体重)	メーカー	タイプ	認証番号 (E1 ...)	注文番号 (A 000 ...)	チャイルド セーフティ シート検知 システム
カテゴリー 0 : ~ 10kg 生後約 6 カ月 位まで	Britax Römer	ベビーセー フプラス	03 301146 04 301146	970 10 00	対応
カテゴリー 0+ : ~ 13kg 生後約 15 カ 月位まで	Britax Römer	ベビーセー フプラス	03 301146 04 301146	970 10 00	対応
カテゴリー I : 9 ~ 18kg 生後約 9 カ月 ~ 4 歳位	Britax Römer	デュオ プラス	03 301133 04 301133	970 11 00	対応
				970 16 00	非対応
カテゴリー II/III : 15 ~ 36kg 約 4 歳 ~ 12 歳位	Britax Römer	キッド フィックス	04 301198	970 18 00	対応
				970 19 00	非対応

"ユニバーサル / セミユニバーサル" カテゴリーの推奨 ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート：

カテゴリー (適応体重)	サイズ 等級	メーカー	タイプ	認証番号 (E1 ...)	注文番号	チャイルド セーフティ シート検知 システム
キャリー コット	F	—	—	—	—	—
	G	—	—	—	—	—
グループ 0 : ~ 10kg	E	—	—	—	—	—

* 上記の内容は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。適切なチャイルドセーフティシートについては、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

グループ0+： ～ 13kg	E	Britax Römer	ベビー セーフ ISOFIX プラス	04 301146	B6 6 86 8224	非対応
	D	—	—	—	—	—
	C	—	—	—	—	—
グループI： 9 ～ 18kg	D	—	—	—	—	—
	C	—	—	—	—	—
	B	—	—	—	—	—
	B1	Britax Römer	デュオ プラス	04 301133	A000 970 11 00	対応
					A000 970 16 00	非対応
	A	—	—	—	—	—

* 上記の内容は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。適切なチャイルドセーフティシートについては、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

チャイルドブルーロック

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

子供が後席に乗車するときは、リアドアとリアサイドウィンドウのチャイルドブルーロックを設定してください。さもないと、走行中に子供がリアドアやリアサイドウィンドウを開き、彼らや他の方がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。車内の各部に触れてけがをするおそれがあります。車内が高温または低温になると重大な、または致命的な症状を起こすおそれがあります。

チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や他の方がけがをするおそれがあります。子供が車外に出ると、けがをしたり、車にはねられるおそれがあります。

リアドアのチャイルドブルーロックを設定する



リアドアのチャイルドブルーロックは左右独立して設定できます。チャイルドブルーロックが設定されたリアドアは、車内からは開かなくなります。車が解錠されているときは、ドアは車外から開くことができます。

- ▶ **設定する**：レバーを矢印 ① の方向に上げます。
- ▶ チャイルドブルーロックが確実に設定されていることを確認します。
- ▶ **解除する**：レバーを矢印 ② の方向に下げます。

リアサイドウィンドウのオーバーライド機能



- ▶ **設定 / 解除する**：スイッチ ① を押します。スイッチの表示灯が点灯しているときは、リアサイドウィンドウの操作はできません。操作は運転席ドアのスイッチでのみ行なうことができます。スイッチの表示灯が消灯しているときは、後席のスイッチで操作することができます。

走行安全装備

走行安全装備の概要

この項目では、以下の走行安全装備に関する情報を記載しています。

- ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）
- BAS（ブレーキアシスト）
- CPA（衝突警告システム）
- アダプティブブレーキライト
- ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）
- アダプティブブレーキ
- ステアコントロール

重要な安全上の注意事項

適切な運転スタイルをとっていない場合や注意が散漫な場合は、走行安全装備は事故の危険性を低減させることはできず、また物理的法則を無効にすることもできません。走行安全装備は、運転の補助のために設計された支援のみを行なうシステムです。先行車との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作の責任は運転者にあります。常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせ、先行車との安全な距離を保ってください。注意して運転してください。

i 走行安全装備は、タイヤが路面を十分にグリップしているときにのみ最大限に効果を発揮します。"ホイールとタイヤ"（▶331 ページ）に記載されているタイヤや推奨されるタイヤの残り溝の最小値などの注意事項に特に注意してください。

冬の走行状況では、必ずウィンタータイヤ（M+S タイヤ）を装着し、必要であればスノーチェーンを使用してください。このようにすることによってのみ、本書に記載されている走行安全装備の効果を十分に発揮させることができます。

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）

重要な安全上の注意事項

i 走行安全装備の " 重要な安全上の注意事項 " をご覧ください（▶65 ページ）

⚠ 警告

ABS に異常があるときは、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。これにより、ステアリングでの操縦性およびブレーキ性能が著しく損なわれます。また、走行安全装備が解除されます。横滑りや事故を起こす危険性が高まります。

注意して走行してください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場では ABS の点検を受けてください。

ABS に異常があるときは、走行安全装備を含む他のシステムも作動しなくなります。ABS 警告灯 (▶262 ページ) と、マルチファンクションディスプレイに表示されるディスプレイメッセージ (▶238 ページ) の指示に従ってください。

ABS は、ブレーキ圧をコントロールすることによりブレーキ時の車輪のロックを防ぐ装置です。これにより、ブレーキを効かせながら、ステアリング操作を続けることができます。

ABS は路面の状況に関わらず、走行速度が約 8km/h を超えると作動可能になります。滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS は作動します。

イグニッション位置を **2** にすると、ABS 警告灯 (☹) が点灯します。エンジンを始動すると消灯します。

ブレーキ操作をする

▶ **ABS が作動したとき**：必要なだけ、そのままブレーキペダルを踏み続けてください。

▶ **強い制動力が必要なとき**：ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。

ABS が作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じることがあります。

ブレーキペダルの振動は路面状況が危険であることを知らせるものであり、より慎重に運転することを促します。

BAS

i " 重要な安全上の注意事項 " をご覧ください (▶65 ページ)

⚠ 警告

BAS に異常があるときは、緊急ブレーキ時に制動距離が長くなります。事故の危険性があります。

緊急ブレーキ時には、ブレーキペダルを最大限の力で踏み込んでください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

BAS (ブレーキアシスト) は、緊急ブレーキ時に作動します。ブレーキペダルを素早く踏み込むと、BAS は自動的に制動力を高めて制動距離を短縮します。

ブレーキペダルから足を放すと、ブレーキは通常の状態に戻ります。BAS の機能は解除されます。

CPA (衝突警告システム)

全体的な注意事項

CPA (衝突警告システム) は、アダプティブブレーキアシストと車間距離警告から構成され、以下のような特徴があります。

車間距離警告機能

重要な安全上の注意事項

i " 重要な安全上の注意事項 " をご覧ください (▷65 ページ)

警告

車間距離警告機能は以下のものには反応しません。

- 人間や動物
- 対向車
- 横切る車
- カーブを走行しているとき

車間距離警告機能は、危険な状況すべてを検知することはできません。事故の危険性があります。

常に交通状況に注意を払い、いつでもブレーキ操作が行なえるようにしてください。

車間距離警告機能は、常に障害物と複雑な交通状況を明確に認識できるわけではありません。

そのような状況では、車間距離警告機能は以下のようになります。

- 不必要な警告を行なう場合があります
- 警告を行なわない場合があります

常に交通状況に注意して、車間距離警告機能だけに頼らないでください。

機能

▶ **システムを設定する / 解除する** : マルチファンクションディスプレイにより、車間距離警告機能の設定と解除を行ないます (▷230 ページ)。

車間距離警告機能を設定すると、ホールド機能を作動させていないときは、マルチファンクションディスプレイに  マークが表示されます。アクティブパーキングアシスト装備車では、シフトポジションが **P** になっているか、約 35km/h 以上の速度で走行しているときに  マークが表示されます。

車間距離警告機能は、車両前方における追突の危険性を減少させたり、衝突時の衝撃を軽減する働きをします。車間距離警告機能が衝突の危険性を検知したときは、視覚的および聴覚的な警告が行なわれます。車間距離警告機能は、運転者の操作がなければ衝突を防ぐことはできません。

車間距離警告機能は、約 30km/h 以上の速度で走行しているとき、または以下のときに警告を行ないます。

- 走行速度に対して、前方を走行している車両との車間距離が不十分な状態で数秒間走行したとき。メーターパネルの車間距離警告灯  が点灯します。
 - 前方を走行している車両に急速に接近しているとき。断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの車間距離警告灯  が点灯します。
- ▶ 前方の車両との車間距離を増やすため、ただちにブレーキを効かせてください。

または

- ▶ 安全な状況であれば、回避操作を行なってください。

走行中に車間距離警告機能が警告を行なえるよう、マルチファンクションディスプレイ（▶230 ページ）でこの機能を常に設定し、作動させておいてください。

システムの動作環境により、システムが運転状況に不必要な警告を行なうことがあります。レーダーセンサーシステムの補助により、車間距離警告機能は、一定時間自車の前方にある障害物を検知することができます。

約 70km/h までの速度では、車間距離警告機能は停車または駐車している車両など、静止している障害物も検知できます。

障害物に急激に接近していて、車間距離警告機能が衝突の危険性を検知したときは、システムは視覚的および聴覚的な警告を両方行ないます。

以下のときは、障害物の検知が行なわれないことがあります。

- センサーが汚れているとき、またはセンサーが付着物により覆われているとき
- 雪や激しい雨が降っているとき
- 他の電波の発生源と干渉しているとき
- 自走式タワー駐車場の内部など、電波の強い反射が起きているとき
- オートバイなどの幅の狭い車両が前方を走っているとき
- 前方を走行している車両の位置が右または左にずれているとき

車の前後を損傷したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を行なってください。低速で衝突し、車の前部に外観上の損傷がないときも、このことに該当します。

i "重要な安全上の注意事項" をご覧ください（▶65 ページ）

アダプティブブレーキアシスト

i "重要な安全上の注意事項" をご覧ください（▶65 ページ）

警告

アダプティブブレーキアシストは、常に障害物と複雑な交通状況を明確に認識できるわけではありません。このようなとき、アダプティブブレーキアシストは作動しない場合があります。事故の危険性があります。

常に交通状況に注意して、いつでもブレーキ操作が行なえるようにしてください。

警告

アダプティブブレーキアシストは以下のものには反応しません。

- 人間や動物
- 対向車
- 横切る車
- 静止した障害物
- カーブを走行しているとき

結果として、アダプティブブレーキアシストは危険な状況をすべて検知することはできません。事故の危険性があります。

常に交通状況に注意して、いつでもブレーキ操作が行なえるようにしてください。

アダプティブブレーキアシストは、レーダーセンサーシステムを使用して交通状況の評価し、約 30km/h 以上の速度で危険な状況が起きたときにブレーキ操作を援助します。

センサーシステムの補助により、アダプティブブレーキアシストは、一定時間自車の前方にある障害物を検知することができます。

障害物に接近していて、アダプティブブレーキアシストが衝突の危険性を検知したとき、アダプティブブレーキアシストは追突を防ぐために必要な制動力を算出します。ブレーキを強く効かせたときは、アダプティブブレーキアシストは交通状況に合わせて自動的に制動圧力を上げます。

▶ 緊急ブレーキの必要性がなくなるまでブレーキペダルを踏み続けます。

ABS が車輪のロックを防ぎます。

以下のときは、ブレーキは再度通常通り作動するようになります。

- ブレーキペダルから足を放したとき
- 追突の危険性がなくなったとき
- 車両前方に障害物が検知されなくなったとき

その後、アダプティブブレーキアシストは解除されます。

PRE-SAFE® 装備車：アダプティブブレーキアシストが特に高いブレーキ圧を必要とする場合は、PRE-SAFE® が同時に待機状態になります。

約 250km/h の走行速度までは、アダプティブブレーキアシストはモニターしている間に少なくとも一回以上認識された動く障害物に反応することができます。アダプティブブレーキアシストは、静止した障害物には反応しません。

レーダーセンサーシステムの故障によりアダプティブブレーキアシストが作動しないときも、ブレーキシステムは最大限の制動能力を確保し、BAS も作動します。

以下のときは、障害物の検知が行なわれないことがあります。

- センサーが汚れているとき、またはセンサーが付着物により覆われているとき
- 雪や激しい雨が降っているとき
- 他の電波の発生源と干渉しているとき
- 自走式タワー駐車場の内部など、電波の強い反射が起きているとき
- オートバイなどの幅の狭い車両が前方を走っているとき
- 前方を走行している車両の位置が右または左にずれているとき

車の前後を損傷したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を行ってください。低速で衝突し、車の前部に外観上の損傷がないときも、このことに該当します。

アダプティブブレーキライト

約 50km/h 以上の速度で走行中に急ブレーキを効かせたとき、またはブレーキ操作中に BAS やアダプティブブレーキアシストが作動したときは、ブレーキライトが素早く点滅します。このように、後続車により目立つ方法で警告が行なえます。

約 70km/h 以上からの急ブレーキにより停車したときは、非常点滅灯が自動的に点滅します。ブレーキペダルを再度踏み込むと、ブレーキライトは点灯し続けます。非常点滅灯は、走行速度が約 10km/h 以上になると自動的に消灯します。非常点滅灯スイッチ（▷116 ページ）を押すことにより、非常点滅灯を消灯することもできます。

i アダプティブブレーキライトは特定の国にのみ装備されています。

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）

全般的な注意事項

i " 重要な安全上の注意事項 " をご覧ください（▷65 ページ）

ESP® は、走行安定性とトラクション、つまりタイヤと路面との間の動力伝達をモニターします。

車の走行ラインが運転者の望む進行方向から外れていることを ESP® が検知した場合は、1 個または複数の車輪にブレーキを効かせ、車両を安定させます。エンジン出力の調整も行ない、物理的な限界内で車両を望む方向に保とうとします。ESP® は、濡れた路面や滑りやすい路面での発進操作をアシストします。また、ESP® はブレーキ時も車両を安定させることができます。

トラクションコントロール

i " 重要な安全上の注意事項 " をご覧ください（▷65 ページ）

トラクションコントロールは ESP® の一部です。

トラクションコントロールは、空転した場合に、駆動輪に個別にブレーキを効かせます。これにより、片側が滑りやすい路面などでの発進や加速を可能にします。

ESP® を解除しても、トラクションコントロールは設定されたままになります。

重要な安全上の注意事項

i " 重要な安全上の注意事項 " をご覧ください（▷65 ページ）

警告

ESP® が故障したときは、ESP® は車両を安定させられなくなります。さらに、他の走行安全装備も停止します。これにより、横滑りや事故の危険性が高まります。

注意して走行してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場では ESP® の点検を受けてください。

! ブレーキダイナモを使用して電気式パーキングブレーキを点検するときは、イグニッション位置を **0** にしてください。ESP® によるブレーキの作動により、ブレーキシステムを損傷することがあります。

前輪を上げてけん引するときは、ESP® の注意事項に従ってください (▶323 ページ)。

エンジンがかかっているときに ESP® オフ表示灯  が点灯し続けているときは、ESP® が解除されています。

ESP® 表示灯  と ESP® オフ表示灯  が点灯し続けるときは、故障により、ESP® が作動しなくなります。

警告灯 (▶264 ページ) と、マルチファンクションディスプレイに表示されるディスプレイメッセージ (▶238 ページ) の指示に従ってください。

i 推奨されたサイズのタイヤのみを装着してください。この場合にのみ、ESP® は正しく作動します。

ESP® の特性

全般的な注意事項

エンジンを始動したとき、ESP® は常以待機状態になります。

ESP® が作動すると、メーターパネル内の ESP® 表示灯  が点滅します。

ESP® が作動したときは、以下のようになしてください。

- ▶ 状況を問わず、ESP® の機能を解除しないでください。
- ▶ 発進するときには、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- ▶ 実際の道路と天候状況に運転スタイルを合わせてください。

ECO スタートストップ機能装備車

車両が停止した場合、ECO スタートストップ機能は自動的にエンジンを停止します。再度発進したとき、エンジンは自動的に始動します。このとき、ESP® は、以前に選択されていた状態のままになります。**例：**エンジンが停止する前に ESP® を解除していた場合は、エンジンが再始動しても ESP® は解除されたままになります。

ESP® の設定 / 解除

重要な安全上の注意事項

i 走行安全装備の " 重要な安全上の注意事項 " をご覧ください (▶65 ページ)

ESP® の状況を以下の間で選択できます。

- ESP® を待機状態にする
- ESP® を解除する

警告

ESP® を解除したときは、ESP® は車両を安定させなくなります。横滑りや事故の危険性が高まります。

ESP® は、以下の状況が許すときのみ解除してください。

以下の状況では、ESP® を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行するとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

 上記の状況がなくなったときは、ESP® をすみやかに待機状態にしてください。さもないと、車両が横滑りを始めたり、車輪が空転を始めた場合に、ESP® が車両を安定させることができません。

ESP® の解除 / 設定

▶ 解除する：(▷230 ページ)

メーターパネルの ESP® オフ表示灯  が点灯します。

▶ 待機状態にする：(▷230 ページ)

メーターパネルの ESP® オフ表示灯  が消灯します。

ESP® が解除されているときの特性

ESP® を解除しているときに 1 個または複数の車輪が空転したときは、メーターパネルの ESP® 表示灯  が点滅します。この状況では ESP® は車両を安定させません。

ESP® を解除したときは、以下のようになります。

- エンジン出力の制御は制限されるようになり、駆動輪が空転することがあります。車輪の空転は、地面を掘る動作につながり、より強い駆動力が得られます。
- トラクションコントロールシステムは引き続き作動します。
- ブレーキを効かせたときは ESP® は自動的に作動します。

EBD

 走行安全装備の " 重要な安全上の注意事項 " をご覧ください (▷65 ページ)

警告

EBD に異常があるときは、急ブレーキ時などには後輪がロックする危険性があります。これにより、横滑りや事故の危険性が高まります。

変化した車両操縦性に運転スタイルを合わせてください。必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場でブレーキシステムの点検を受けてください。

警告灯 (▷263 ページ) と、マルチファンクションディスプレイに表示されるディスプレイメッセージ (▷241 ページ) の指示に従ってください。

EBD は、後輪のブレーキ圧を検知して制御を行ない、ブレーキ時の走行安定性を高めます。

アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキは、ブレーキ時の利便性と安全性を高めるシステムです。アダプティブブレーキには、ホールド機能 (▷193 ページ) とヒルスタートアシスト (▷151 ページ) も含まれます。詳しい情報については " 走行時の注意 " をご覧ください (▷171 ページ)。

ステアコントロール

ステアコントロールは、車両の走行姿勢を安定させるのに必要な向きの操舵力をステアリングに伝達し、運転者が適切な回避操作が行なえるようステアリング操作を補助する機能です。

このステアリング補助機能は、特に以下のような状況で作動します。

- ブレーキを効かせたときに、右側または左側の前後車輪が濡れた路面または滑りやすい路面にあるとき
- 車がスリップを始めたとき

ESP® に異常があるときは、ステアコントロールによるステアリング操作の補助は行なわれません。ただし、パワーステアリングは引き続き機能します。

盗難防止システム

イモビライザー

イモビライザーは、正規のキー以外ではエンジンを始動させない盗難防止装置です。

▶ **待機状態にする：**エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ **解除する：**イグニッション位置を **1** か **2** にします。

車両から離れるときは、常にキーを携帯し、車両を施錠してください。車内にある有効なキーを使用すると、どのような人でもエンジンを始動することができます。

i イモビライザーは、エンジンを始動すると解除されます。

盗難防止警報システム



▶ **待機状態にする：**リモコン操作で車を施錠します。

表示灯 ① が点滅します。警報システムが約 15 秒後に待機状態になります。

- ▶ **解除する**：リモコン操作で車を解錠します。

または

- ▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

システムが待機状態にあるときに以下を行なうと、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。

- ・ エマージェンシーキーでの車両の解錠
- ・ ドアを開く
- ・ テールゲートを開く
- ・ ボンネットを開く

- ▶ **警報を停止する**：エンジンスイッチにキーを差し込みます。

または

- ▶ キーの  ボタンまたは  ボタンを押します。

たとえば、警報を作動させた開いたドアを閉じてても、警報は解除されません。

けん引防止機能

機能

けん引防止機能が待機状態のときに車両の傾きを検知すると、サイレンが鳴り非常点滅灯が点滅します。たとえば、ジャッキアップなどにより車両の片側が持ち上げられたときに警報が作動します。

待機状態にする

- ▶ 以下を確認します。

- ・ ドアが閉じていること
- ・ テールゲートが閉じていること

この状態でのみ、けん引防止機能は待機状態になります。

- ▶ リモコン操作で車を施錠します。

けん引防止機能が約 60 秒後に待機状態になります。

解除する

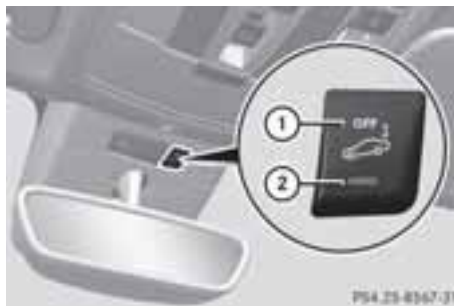
- ▶ リモコン操作で車を解錠します。

または

- ▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

けん引防止機能は自動的に解除されます。

解除する



- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が数秒間点灯します。
- ▶ リモコン操作で車を施錠します。
けん引防止機能が解除されます。

けん引防止機能は、以下の操作を行なうまで解除されます。

- 車を再度解錠する
- ドアを再度開いて閉じる
- 車を再度施錠する

誤作動を防止するため、以下のような状況で車を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- 運搬されるとき
- フェリーや車両運搬車などに積載されるとき
- 機械式駐車場などに駐車するとき

室内センサー

機能

室内センサーを待機状態にしたときは、車内で物体の動きを検知すると、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。たとえば、車内に人が侵入したときなどに警報が作動します。

待機状態にする

▶ 以下を確認します。

- サイドウインドウが閉じていること
- パノラミックスライディングルーフが閉じていること
- ルームミラーやルーフトリムのグリップハンドルにマスコットなどの物が掛かっていないこと

上記の操作により誤作動を防止します。

▶ 以下を確認します。

- ドアが閉じていること
- パノラミックスライディングルーフが閉じていること
- テールゲートが閉じていること

この状態でのみ、室内センサーは待機状態になります。

▶ リモコン操作で車を施錠します。

室内センサーが約 30 秒後に待機状態になります。

解除する

▶ リモコン操作で車を解錠します。

または

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

室内センサーは自動的に解除されます。

解除する



▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が数秒間点滅します。

▶ リモコン操作で車を施錠します。

室内センサーが解除されます。

室内センサーは、以下の操作を行なうまで解除されます。

- 車を再度解錠する
- ドアを再度開いて閉じる
- 車を再度施錠する

誤作動を防止するため、以下のような状況で車を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残るとき
- パノラミックスライディングルーフを少し開いた状態にしておくとき
- サイドウィンドウを少し開いた状態にしておくとき

役に立つ情報.....	78
キー.....	78
ドア.....	84
ラゲッジルーム.....	87
サイドウインドウ.....	88
パノラミックスライディンググループ	92

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で入手可能な、お客様の車両でのすべての車種、シリーズ、およびオプション装備について記載しています。国により仕様が異なることがあります。記載されているすべての機能が、お客様の車両に装備されていないことがあることにご留意ください。このことは、安全に関するシステムや機能にも当てはまります。

キー

重要な安全上の注意事項

警告

子供だけを車内に残した場合は、以下を行なうおそれがあります。

- ドアを開き、他の方や道路使用者を危険にさらす
- 車外に出て、交通を混乱させる
- 車両の装備を操作する

さらに、以下により車両を動かすおそれがあります。

- パーキングブレーキを解除する
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンを開始する

事故およびけがの危険性があります。

車両から離れるときは常に、キーを携帯し、車両を施錠してください。付き添いのない子供や動物を車両に残さないでください。キーは常に、子供の手の届かないところに置いてください。

警告

乗員（特に子供）を長時間熱や寒さにさらしておくと、重大な、または致命的なけがの危険性があります。付き添いのないまま、乗員（特に子供）を車両に残さないでください。

警告

キーに重い、または大きな物を取り付けると、キーがエンジンスイッチで不意にまわるおそれがあります。これはエンジンが停止する原因になるおそれがあります。事故の危険性があります。

キーに重い、または大きな物を取り付けないでください。エンジンスイッチにキーを差し込む前に、大きなキーホルダーは取り外してください。

! キーを強い磁場から離してください。さもないと、リモコン機能に影響を及ぼすおそれがあります。

強い磁場は、強力な電子機器の周辺で発生します。

キーを以下に近付けないでください。

- 携帯電話または他のキーなどの電子機器
- 硬貨やアルミホイールなどの金属類
- 金属ケースなど内側が金属類のもの

キーの機能



- ① 車両を施錠する
 ② 車両を解錠する

▶ **集中して解錠する：** スイッチを押します。

解錠から約 40 秒以内に車両を開かない場合は、以下になります。

- 車両が再度施錠されます。
- 盗難防止警報システムが再度待機状態になります。

▶ **集中して施錠する：** スイッチを押します。

キーで以下の全ての解錠 / 施錠ができます。

- ドア
- テールゲート
- 燃料給油フラップ

解錠したときは、非常点滅灯が 1 回点滅します。

施錠したときは、それらが 3 回点滅します。

マルチファンクションディスプレイでロケイターライティングを設定している場合は、暗いときは車外ライトも点灯します (▶234 ページ)。

車両が施錠されたことを確認するための確認音を設定することもできます。確認音は、マルチファンクションディスプレイを使用して作動または解除させることができます (▶236 ページ)。

ロッキングシステムの設定の変更

運転席ドアと燃料給油フラップのみを解錠するようにロッキングシステムの設定を変更できます。これは運転者が単独で走行することが多い場合に便利です。

▶ **設定を変更する：** キーのバッテリーチェックランプが 2 回点滅するまで、 および スイッチを同時に約 6 秒間押して保持します (▶81 ページ)。

i 車両の信号範囲内でロッキングシステムの設定を変更した場合は、 または スイッチを押すと以下ようになります。

- 車両が施錠される。または
- 車両が解錠される

このとき、キーは以下のように作動します。

▶ **運転席ドアを解錠する：** スイッチを 1 回押します。

▶ **集中して解錠する：** スイッチを 2 回押します。

▶ **集中して施錠する：** スイッチを押します。

- ▶ **初期設定に戻す：**キーのバッテリーチェックランプが2回点滅するまで、 および  スイッチを同時に約6秒間押しして保持します（▶81 ページ）。

エマージェンシーキー

全体的な注意事項

車両をキーで解錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーを使用して運転席ドアを解錠し、開いた場合は、盗難防止警報システムが作動します（▶73 ページ）。

警報を停止するためには、以下のいくつかの方法があります。

- キーの  または  スイッチを押す

または

- エンジンスイッチにキーを差し込む

エマージェンシーキーを使用して車両を解錠しても、燃料給油フラップは自動的に解錠されません。

- ▶ **燃料給油フラップを解錠する：**エンジンスイッチにキーを差し込みます。

エマージェンシーキーの取り外し



- ▶ 解除キャッチ ① を矢印の方向に押し、同時にエマージェンシーキー ② をキーから取り外します。

キーの電池

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

電池は有毒で、腐食性物質が含まれています。電池を飲み込んだ場合は、著しく健康を害するおそれがあります。致命的なけがの危険性があります。

電池は子供の手の届かないところに置いてください。電池を飲み込んだときは、ただちに医師の診断を受けてください。

🌱 環境



バッテリーには有害物質が含まれています。家庭ごみとして廃棄することは違法です。分別して収集され、環境を配慮したリサイクルシステムで廃棄されなければなりません。



バッテリーは環境を配慮した方法で廃棄されなければなりません。放電したバッテリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または使用済みバッテリーの収集場所にお持ちください。

キーの電池交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

電池の点検



- ▶ または スイッチを押します。

バッテリーチェックランプ ① が短時間点灯する場合は、電池は正常に作動しています。

バッテリーチェックランプ ① が短時間点灯しない場合は、バッテリーが放電しています。

- ▶ 電池を交換してください。(▷81 ページ)

- ▶ **i** 車両の信号受信範囲内でキーのバッテリーを点検した場合は、 または スイッチを押すと以下のようになります。

- 車両が施錠します。または
- 車両が解錠します。

- ▶ **i** 電池はメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐに入手できます。

電池の交換

CR2025 3V の電池が必要です。

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り出します (▷80 ページ)。



- ▶ バッテリートレイカバー ① が開くまで、キーの開口部をエマージェンシーキー ② で矢印の方向に押します。このときは、カバー ① を押さえないでください。
- ▶ バッテリートレイカバー ① を取り外します。



- ▶ 電池 ③ が落ちるまで、手のひらでキーを繰り返して軽くたたきます。
- ▶ プラス電極が上方を向くように新しい電池を差し込みます。このときは、糸くずのない布を使用してください。
- ▶ 電池の表面に糸くず、脂分および他の汚れがないことを確認してください。
- ▶ バッテリートレイカバー ① の前方のタブを差し込み、押して閉じます。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます。
- ▶ 車両でキーのすべてのスイッチの機能を点検します。

キーのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
キーを使用して車両を施錠または解錠できない。	キーの電池が放電している、またはほぼ放電している。 ▶ キーのリモコン機能を使用して、再度車両を施錠 / 解錠してください。キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から  /  スイッチを押してください。 作動しないとき： ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください（▷81 ページ）。 ▶ エマージェンシーキーを使用して車両を施錠（▷86 ページ）または解錠（▷85 ページ）してください。 強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ リモコン機能を使用して、再度車両を施錠 / 解錠してください。キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から  /  スイッチを押してください。 キーが故障している。 ▶ エマージェンシーキーを使用して車両を施錠（▷86 ページ）または解錠（▷85 ページ）してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーを点検してください。
キーを紛失した。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、キーを無効にしてください。 ▶ ただちに自動車保険会社に紛失を報告してください。 ▶ 必要であれば、ドアの鍵も交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社に紛失を報告してください。 ▶ 必要であれば、ドアの鍵も交換してください。
キーを使用してエンジンが始動できない。	車両の電圧が非常に低い。 ▶ シートヒーターやルームライトなど、必要のない電気装備を停止して、再度エンジンの始動を試みてください。 始動しないとき： ▶ スターターバッテリーを点検し、必要であれば充電してください（▷314 ページ）。 または ▶ 車両をジャンプスタートしてください（▷318 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
キーによるエンジン始動ができない。	ステアリングロックが機械的にかかっている。 ▶ キーを抜き、エンジンスイッチに再度差し込んでください。このときは、ステアリングを両方向にまわしてください。

ドア

重要な安全上の注意事項

 警告

子供だけを車内に残した場合は、以下を行なうおそれがあります。

- ドアを開き、他の方や道路使用者を危険にさらす
- 車外に出て、交通を混乱させる
- 車両の装備を操作する

さらに、以下により車両を動かすおそれがあります。

- パーキングブレーキを解除する
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンを開始する

事故およびけがの危険性があります。

車両から離れるときは常に、キーを携帯し、車両を施錠してください。付き添いのない子供や動物を車両に残さないでください。キーは常に、子供の手の届かないところに置いてください。

 警告

乗員（特に子供）を長時間熱や寒さにさらしておくと、重大な、または致命的なけがの危険性があります。付き添いのないまま、乗員（特に子供）を車両に残さないでください。

内側からドアを解錠して開く



▶ ドアハンドル ② を引きます。

ドアが施錠されているときは、ロックノブ ① が上がります。ドアが解錠され、開くことができます。

車両が施錠されているときも、車内からドアを開くことができます。

キーにより車両が施錠されていたときは、内側からドアを開くと盗難防止警報システムが作動します。警報を停止してください（▶73 ページ）。

チャイルドブルーフロックによりロックされていない場合に限り、車内からリアドアを開くことができます（▶64 ページ）。

内側から集中して車両を施錠および解錠する

内側から集中して車両を施錠または解錠できます。これは、例えば発進する前に車両を施錠したい場合などに便利です。



▶ **解錠する**：スイッチ ① を押します。

▶ **施錠する**：スイッチ ② を押します。

すべてのドアとテールゲートが閉じているときは、車両が施錠されます。

これにより、燃料給油フラップは施錠または解錠されません。

キーを使用して車両が施錠されている場合は、車両を集中して解錠することはできません。

車両が施錠されているときも、車内からドアを開くことができます。

キーにより車両が施錠されていたときは、内側からドアを開くと盗難防止警報システムが作動します。警報を停止してください（▷73 ページ）。

車速感応ドアロック



▶ **解除する**：音が鳴るまで、スイッチ ① を約 5 秒間押して保持します。

▶ **設定する**：音が鳴るまで、スイッチ ② を約 5 秒間押して保持します。

i 2 つのうちのいずれかのスイッチを押して、音が鳴らない場合は、対応する設定がすでに選択されています。

イグニッション位置が **0** 以外のときに車輪が回転すると、車両は自動的に施錠されます。

そのため、以下のときに閉め出されるおそれがあります。

- 車が押される
- 車がけん引される
- ダイナモメーター上で車両がテストされる

車速感応ドアロックはマルチファンクションディスプレイを使用しても設定または解除できます（▷235 ページ）。

運転席ドアの解錠（エマージェンシーキー）

キーで車両を解錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーを使用して運転席ドアを解錠し、開いた場合は、盗難防止警報システムが作動します（▷73 ページ）。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り出します（▷80 ページ）。

▶ エマージェンシーキーを、運転席ドアの鍵にいっぱいまで差し込みます。



- ▶ エマージェンシーキーを反時計回りに ① の位置にまわします。

ドアが解錠されます。

- i** 右ハンドル車では、エマージェンシーキーを時計回りにまわします。

- ▶ エマージェンシーキーをまわして戻し、抜きます。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます。

車両の施錠（エマージェンシーキーによる）

キーで車両を施錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

- ▶ 運転席ドアを開きます。
- ▶ 助手席ドア、リアドアおよびテールゲートを閉じます。
- ▶ 集中施錠スイッチを押します（▶84 ページ）。
- ▶ 助手席ドアとリアドアのロックノブがまだ見えているかどうかを確認します。必要であれば、手でロックノブを押し込みます。
- ▶ 運転席ドアを閉じます。

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り出します（▶80 ページ）。

- ▶ エマージェンシーキーを、運転席ドアの鍵にいっぱいまで差し込みます。



- ▶ エマージェンシーキーを時計回りに ① の位置にいっぱいまでまわします。

- i** 右ハンドル車では、エマージェンシーキーを反時計回りにまわします。

- ▶ エマージェンシーキーをまわして戻し、抜きます。
- ▶ ドアとテールゲートが施錠されていることを確認します。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます。

- i** 上記のように車両を施錠した場合は、燃料給油フラップは施錠されません。盗難防止警報システムは待機状態になりません。

ラゲッジルーム

重要な安全上の注意事項

 警告

内燃エンジンは、一酸化炭素のような有毒な排気ガスを排出します。エンジンがかかっているときにテールゲートが開いている場合、特に車両が移動している場合は、排気ガスが車内に入るおそれがあります。中毒の危険性があります。

 警告

乗員（特に子供）を長時間熱や寒さにさらしておくと、重大な、または致命的なけがの危険性があります。付き添いのないまま、乗員（特に子供）を車両に残さないでください。

! 開くときは、テールゲートは上方および後方に動きます。そのため、テールゲートの上方および後方に十分な間隔があることを確認してください。

i テールゲート開口時の寸法についての詳細は、テクニカルデータの項目にあります（▶360 ページ）。

荷物は、できればラゲッジルームに積載してください。積載のガイドラインに従ってください（▶270 ページ）。

ラゲッジルームにキーを置いたままにしないでください。さもないと、閉め出されるおそれがあります。

以下が行なえます。

- 外側からテールゲートを手動で開閉する
- エマージェンシーキーで内側からテールゲートを解錠する

外側からの開閉

開く

- ▶ キーの  スイッチを押します。



- ▶ ハンドル ① を引きます。
- ▶ テールゲートを上げます。

閉じる



- ▶ クロージングハンドル ① を使用して、テールゲートを引き下げます。
- ▶ ロックするまでテールゲートを下ろします。

- ▶ 必要であれば、キーの  スイッチで車両を施錠します。

テールゲートの非常解除

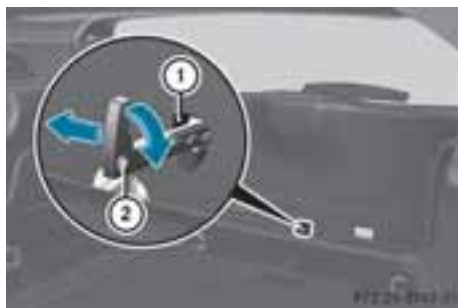
車外からテールゲートを開けられなくなった場合は、テールゲート内側の非常解除を使用してください。

- !** 開くときは、テールゲートは上方および後方に動きます。そのため、テールゲートの上方および後方に十分な間隔があることを確認してください。

- i** テールゲート開口時の寸法についての詳細は、テクニカルデータの項目にあります (▶360 ページ)。

非常解除は、ラゲッジルームから作業を行ないます。リアシートのバックレストを倒すには (▶274 ページ) をご覧ください。

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り出します (▶80 ページ)。



- ▶ エマージェンシーキー ② をトリムの開口部 ① に差し込みます。
- ▶ エマージェンシーキー ② を 90 度まわします。

- ▶ エマージェンシーキー ② を差し込んだまま矢印の方向に押して、テールゲートを開きます。

サイドウィンドウ

重要な安全上の注意事項

警告

サイドウィンドウを開いている間は、付近にある身体が挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

閉じている動作の間は、付近に身体がないことを確認してください。挟まれた場合は、スイッチを放すか、スイッチを押して、サイドウィンドウを再度開いてください。

警告

子供がサイドウィンドウを操作した場合は、特に付き添いがなく残されている場合に、挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

リアサイドウィンドウのオーバーライド機能を作動させてください。車両から離れるときは常に、キーを携帯し、車両を施錠してください。付き添いのないまま、子供を車両に残さないでください。

サイドウインドウのリバース機能

サイドウインドウには、自動リバース機能が装備されています。閉じている動作の間に、かたい障害物がサイドウインドウをブロックしたり、作動を妨げた場合は、サイドウインドウは自動的に再度開きます。ただし、リバース機能は単なる補助であり、サイドウインドウが閉じるときの注意に対する運転者の責任を軽減させるものではありません。

⚠ 警告

リバース機能は以下には反応しません。

- ・ 小指などの、柔らかい、軽いまたは薄い障害物
- ・ 閉じる動作の最後の 4mm の範囲
- ・ リセットの間
- ・ 自動リバース機能の直後に、手動でサイドウインドウを再度閉じたとき

これらの状況では、リバース機能は挟み込みを防止できないことを意味しています。けがの危険性があります。

閉じるときは、閉じる範囲に身体がないことを確認してください。挟まれた場合は、スイッチを押してサイドウインドウを再度開いてください。

サイドウインドウの開閉

運転席ドアには、すべてのサイドウインドウのスイッチがあります。各ドアにも、対応するサイドウインドウのスイッチがあります。

運転席ドアのスイッチに優先権があります。



- ① フロント左
- ② フロント右
- ③ リア右
- ④ リア左

i サイドウインドウのオーバーライド機能を設定しているときは、リアからサイドウインドウを操作することはできません (▶64 ページ)。

▶ **イグニッション位置を 1 か 2 にします。**

▶ **開く：**対応するスイッチを押します。

▶ **完全に開く：**手応えがある位置を越えるまで、対応するスイッチを押します。

自動で開き始めます。

▶ **閉じる：**対応するスイッチを引きます。

▶ **完全に閉じる：**手応えがある位置を越えるまで、対応するスイッチを引きます。

自動で閉じ始めます。

▶ **自動開閉を中断する：**対応するスイッチを再度押す、または引きます。

i 手応えがある位置を越えるまでスイッチを操作した場合は、対応する方向に自動開閉作動が開始します。再度操作することにより、自動作動を停止できます。

i イグニッション位置を**0**にするか、エンジンスイッチからキーを抜いた後でも、サイドウィンドウの操作を続けることができます。この機能は約5分間または運転席ドアか助手席ドアを開くまでそのままになります。

コンビニエンスオープニング機能

走行を開始する前に、車両を換気することができます。以下の機能を同時に実行するためにキーを使用します。

- 車両を解錠する
- サイドウィンドウを開く
- パノラミックスライディンググループと電動サンシェードを開く

i コンビニエンスオープニング機能は、キーを使用してのみ操作することができます。キーが運転席ドアハンドルの近くになければなりません。

- ▶ キーの先端部を運転席ドアハンドルに向けます。
- ▶ サイドウィンドウとパノラミックスライディンググループが好みの位置になるまで、 スイッチを押して保持します。

パノラミックスライディンググループの電動サンシェードが閉じているときは、電動サンシェードが最初に開きます。

▶ パノラミックスライディンググループが好みの位置になるまで、 スイッチを再度押して保持します。

▶ **コンビニエンスオープニング機能を中断する：** スイッチを放します。

コンビニエンススクローリング機能

警告

コンビニエンススクローリング機能を使用しているときは、サイドウィンドウおよびスライディンググループの閉じる範囲に身体が挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

コンビニエンススクローリング機能を使用しているときは、閉じる動作に常に注意してください。閉じるときは、閉じる範囲に身体がないことを確認してください。

車両を施錠するときに、同時に以下ができます。

- サイドウィンドウを閉じる
- パノラミックスライディンググループを閉じる

パノラミックスライディンググループ装備車では、その後に電動サンシェードを閉じることができます。

i キーが運転席ドアハンドルの近くになければなりません。

- ▶ キーの先端部を運転席ドアハンドルに向けます。
- ▶ サイドウィンドウとパノラミックスライディンググループが完全に閉じるまで、 スイッチを押して保持します。

- ▶ すべてのサイドウィンドウとパノラミックスライディングルーフが閉じていることを確認します。

パノラミックスライディングルーフ装備車：

- ▶ パノラミックスライディングルーフの電動サンシェードが完全に閉じるまで、 スイッチを再度押して保持します。
- ▶ **コンビニエンスクロージング機能を中断する：**  スイッチを放します。

サイドウィンドウのリセット

以下のときは、それぞれのサイドウィンドウをリセットしなければなりません。

- 完全に閉じた後に、サイドウィンドウが再度少し開く
- サイドウィンドウが完全に開閉しなくなった
- ▶ すべてのドアを閉じます。
- ▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。
- ▶ サイドウィンドウが完全に閉じるまで、運転席ドア操作部の対応するスイッチを引きます (▶89 ページ)。
- ▶ さらに 2 秒間スイッチを保持します。

サイドウィンドウが再び少し開くときは：

- ▶ ただちに対応するスイッチを軽く引いて、サイドウィンドウを全閉します。

- ▶ スイッチを引いたまま 2 秒以上保持します。
- ▶ スイッチを放した後に対応するサイドウィンドウが閉じたままになっている場合は、サイドウィンドウは適切にリセットされています。そのような状況でない場合は、上記の手順を再度繰り返してください。

サイドウィンドウのトラブル

警告

ブロック、またはリセットされた後ただちにサイドウィンドウを再度閉じた場合は、サイドウィンドウは強い力、または最大の力で閉じます。そのときは、リバース機能は作動しません。これにより、けがの危険性、さらに致命的なけがの危険性が高まります。

閉じる範囲に身体がないことを確認してください。閉じる動作を停止するときはスイッチを離すか、またはスイッチを押してサイドウィンドウを再度開いてください。

トラブル：ウィンドウガイドに葉などの物がありブロックされているため、サイドウィンドウを閉じることができない。

- ▶ 物を取り除いてください。
- ▶ サイドウィンドウを閉じてください。

トラブル：サイドウィンドウを閉じることができず、原因が分からない。 閉じている間にサイドウィンドウが妨げられ、再度少し開く場合は、以下のようしてください。

- ▶ サイドウィンドウが妨げられた後に、サイドウィンドウが閉じるまで、ただちに対応するスイッチを再度引きます。

強い力でサイドウィンドウが閉じます。

閉じている間にサイドウィンドウが再度妨げられて、再度少し開く場合は、以下のようにしてください。

- ▶ サイドウィンドウが停止した後に、サイドウィンドウが閉じるまで、ただちに対応するスイッチを再度引きます。

挟み込み防止機能がない状態で、サイドウィンドウが閉じます。

パノラミックスライディンググループ

重要な安全上の注意事項

警告

スライディンググループを開閉するときは、付近にある身体が挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

開閉作動中は、付近に身体がないことを確認してください。

挟まれた場合は、以下を行なってください。

- ただちにスイッチを放す、または
- 自動作動中に、スイッチをいずれかの方向に軽く押す

開閉動作が停止します。

警告

子供がパノラミックスライディンググループを操作した場合は、特に付き添いがなく残されている場合に、挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは常に、キーを携帯し、車両を施錠してください。付き添いのないまま、子供を車両に残さないでください。

警告

高い速度では、チルトアップしているパノラミックスライディンググループの後部が自動的に下がります。これにより、お客様や他の乗員が挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

車両が動いているときは、パノラミックスライディンググループの作動範囲に手を伸ばしていないことを確認してください。

挟まれた場合は、道路や交通状況に注意しながら、ただちに速度を下げてください。パノラミックスライディンググループは、元の位置に再度開きます。

最大の位置に達していない場合は、さらに上げることができます。

! 雪や氷がないときにのみ、パノラミックスライディンググループを開いてください。さもないと、故障が発生することがあります。

パノラミックスライディンググループから物が突き出ないようにしてください。さもないと、シール部を損傷するおそれがあります。

i パノラミックスライディンググループを開いているときは、走行風の影響などで空気の振動が感じられる場合があります。これは車内のわずかな圧力変動によるものです。この音を低減、またはなくすためには、パノラミックスライディンググループの位置を変更するか、サイドウィンドウを少し開いてください。

パノラミックスライディンググループのリバース機能

パノラミックスライディンググループには、自動リバース機能が装備されています。閉じている動作の間に、かたい障害物がパノラミックスライディンググループをブロックしたり、作動を妨げた場合は、パノラミックスライディンググループは自動的に再度開きます。ただし、リバース機能は単なる補助であり、パノラミックスライディンググループが閉じるときの注意に対する運転者の責任を軽減させるものではありません。

警告

リバース機能は以下には反応しません。

- 小指などの、柔らかい、軽いまたは薄い障害物
- 閉じる動作の最後の 4mm の範囲
- リセットの間
- 自動リバース機能の直後に、手でサイドウィンドウを再度閉じたとき

これらの状況では、リバース機能は挟み込みを防止できないことを意味しています。けがの危険性があります。

閉じるときは、閉じる範囲に身体がないことを確認してください。

挟まれた場合は、以下を行なってください。

- ただちにスイッチを放す、または
 - 閉じる動作の間に、スイッチをいずれかの方向に押す
- 閉じる動作が停止します。

パノラミックスライディンググループの操作

開閉



前席上方の操作部

- ① チルトアップする
- ② 開く
- ③ 閉じる / チルトダウンする

▶ イグニッション位置を 1 か 2 にします。

▶ 対応する方向に、 スイッチを押すか、引きます。

i 手応えがある位置を越えるまで  スイッチを押した場合は、対応する方向に自動開閉作動が開始します。再度押すことにより、自動作動を停止できます。

i パノラミックスライディンググループが開いた後は、電動サンシェードが少し閉じます。これにより、車内への風の侵入を減少させます。

i パノラミックスライディンググループの後部がチルトアップしている場合、高い速度では自動的に少し下がります。これにより、車内の騒音レベルが低下します。

低い速度では、自動的に再度上がります。

i イグニッション位置を**0**にするか、エンジンスイッチからキーを抜いた後でも、パノラミックスライディンググループの操作を続けることができます。この機能は約 5 分間または運転席ドアか助手席ドアを開くまでそのままになります。

i ルーフキャリアが装着されている場合は、パノラミックスライディンググループを開くことはできません。車内を換気するためには、パノラミックスライディンググループをチルトアップしてください。

レインクローズ機能

レインクローズ機能はレインセンサー装備車でのみ使用できます。

イグニッション位置を**0**にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたときは、以下のときにパノラミックスライディンググループが自動で閉じます。

- 雨が降りだした場合
- 外気温度が極端に高い、または低いとき
- 約 6 時間後
- 電力供給に故障がある場合

車内を換気するため、パノラミックスライディンググループがチルトアップした状態になります。

i レインクローズ機能で閉じているときにパノラミックスライディンググループの動きが妨げられたときは、再度少し開きます。その後レインクローズ機能は解除されます。

以下のときは、パノラミックスライディンググループは閉じません。

- チルトアップしている場合
- 動きが妨げられた場合
- 車両が橋の下にあるときなど、レインセンサーによりモニターされているフロントウインドウの範囲に雨が落ちない場合

パノラミックスライディンググループの電動サンシェードの操作

重要な安全上の注意事項

警告

電動サンシェードを開閉するときは、電動サンシェードとパノラミックスライディンググループのフレームとの間に身体が挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

開閉するときは、電動サンシェードの作動範囲に身体がないことを確認してください。

挟まれた場合は、以下を行なってください。

- ただちにスイッチを放す、または
- 自動開閉動作の間に、スイッチをいずれかの方向に押す

開閉動作が停止します。

電動サンシェードは、車内への日光を遮ります。パノラミックスライディンググループが閉じているときにのみ、2つの電動サンシェードを一緒に開閉することができます。

電動サンシェードのリバース機能

電動サンシェードには、自動リバース機能が装備されています。閉じている動作の間に、かたい障害物が電動サンシェードをブロックしたり、作動を妨げた場合は、電動サンシェードは自動的に再度開きます。ただし、リバース機能は単なる補助であり、電動サンシェードが閉じるときの注意に対する運転者の責任を軽減させるものではありません。

警告

リバース機能は特に、小指のような柔らかい、軽いまたは薄い障害物には反応しません。これらの状況では、リバース機能は挟み込みを防止できないことを意味しています。けがの危険性があります。

挟まれた場合は、以下を行なってください。

- ただちにスイッチを放す、または
- 自動で閉じる動作の間に、スイッチをいずれかの方向に押す

閉じる動作が停止します。

開閉



前席上方の操作部

- ① 開く
- ② 開く
- ③ 閉じる

▶ イグニッション位置を 1 か 2 にします。

▶ 対応する方向に、 スイッチを押すか、引きます。

i 手応えがある位置を越えるまで  スイッチを操作した場合は、対応する方向に自動開閉作動が開始します。再度操作することにより、自動作動を停止できます。

i パノラミックスライディンググループが開いた後は、電動サンシェードが少し閉じます。これにより、車内への風の侵入を減少させます。

パノラミックスライディンググループおよび電動サンシェードのリセット

パノラミックスライディンググループやフロントの電動サンシェードがスムーズに作動しない場合は、以下のようにパノラミックスライディンググループと電動サンシェードをリセットしてください。

- ▶ イグニッション位置を 1 か 2 にします。
- ▶ パノラミックスライディンググループが完全に閉じるまで、手応えがある位置まで  スイッチを矢印 ③ の方向に繰り返し引きします。
- ▶ さらに 2 秒間  スイッチを引いたままにします。
- ▶ パノラミックスライディンググループが完全に閉じるまで、手応えがある位置まで  スイッチを矢印 ③ の方向に繰り返し引きします。
- ▶ さらに 2 秒間  スイッチを引いたままにします。
- ▶ パノラミックスライディンググループ (▷92 ページ) と電動サンシェード (▷94 ページ) が再度完全に開閉することを確認します。
- ▶ そのような状況でない場合は、上記の手順を再度繰り返してください。

パノラミックスライディンググループのトラブル

警告

故障または電力供給が遮断された後にパノラミックスライディンググループをリセットしていない場合は、その後にリバース機能が故障したり、作動しなくなることがあります。パノラミックスライディンググループは強い力、または最大の力で閉じます。作動中、閉じる範囲にある身体が挟まれるおそれがあります。これにより、けがの危険性、さらに致命的なけがの危険性が高まります。

そのような、または類似の状況では、閉じる範囲に身体がないことを確認してください。故障または電力供給が遮断された後は、必ずパノラミックスライディンググループをリセットしてください。

トラブル：パノラミックスライディンググループを閉じることができず、原因がわからないとき。 閉じている間にサイドウィンドウが妨げられ、再度少し開く場合は、以下のようにしてください。

- ▶ パノラミックスライディンググループが妨げられた後に、パノラミックスライディンググループが閉じるまで、ただちに前席上方の操作部の  スイッチを手応えがある位置まで引き下げて保持します。

強い力でパノラミックスライディンググループが閉じます。

閉じている間にパノラミックスライディンググループが再度妨げられて、再度少し開く場合は、以下のようにしてください。

- ▶ パノラミックスライディンググループが妨げられた後に、パノラミックスライディンググループが閉じるまで、ただちに前席上方の操作部の  スイッチを手応えがある位置まで引き下げて保持します。

挟み込み防止機能がない状態で、パノラミックスライディンググループが閉じます。

役に立つ情報.....	98
運転席の適切な位置.....	98
シート.....	99
ステアリング.....	105
ミラー.....	106
メモリー機能.....	109

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で入手可能な、お客様の車両でのすべての車種、シリーズ、およびオプション装備について記載しています。国により仕様が異なることがあります。記載されているすべての機能が、お客様の車両に装備されていないことがあることにご留意ください。このことは、安全に関するシステムや機能にも当てはまります。

運転席の適切な位置



シート調整に関する安全ガイドラインに従ってください (▷99 ページ)。

▶ シート ③ を適切に調整していることを確認します。

手動シートの調整 (▷101 ページ)

電動シートの調整 (▷101 ページ)

シートを調整するときは、以下のことを確認してください。

- 運転席エアバッグからできるだけ離れている
- 通常の起きた姿勢で着座している
- シートベルトを適切に着用できる
- バックレストをできるだけ垂直の位置に調整している
- 大腿部が軽く支えられるようにシートの角度を調整している
- ペダルを適切に踏める

▶ ヘッドレストを適切に調整していることを確認します (▷101 ページ)。

そのためには、後頭部がヘッドレストの中央で目の高さで支えられるようにヘッドレストを調整していることを確認します。

ステアリング調整に関する安全ガイドラインに従ってください (▷105 ページ)。

▶ ステアリング ① を適切に調整していることを確認します。

ステアリングの調整 (▷105 ページ)

ステアリングを調整するときは、以下のことを確認してください。

- 腕を少し曲げてステアリングを握ることができる
- 足を自由に動かせる
- メーターパネルのすべての表示を確認できる

シートベルトに関する安全ガイドラインに従ってください（▶47 ページ）。

- ▶ シートベルト ② を適切に着用していることを確認します。

シートベルトは以下のようになっています。

- 身体に密着している
- 肩の中央にかかっている
- 骨盤の腰骨にかかっている

- ▶ 走行する前に、道路や交通状況が十分視認できるようにルームミラーとドアミラーを調整します。

メモリー付パワーシート装備車：

- ▶ シートとドアミラーの設定を記憶させます（▶109 ページ）。

シート

警告

子供がシートを調整した場合は、特に付き添いがない場合に、身体を挟まれるおそれがあります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯し、車両を施錠してください。付き添いのない子供を車内に残さないでください。

警告

運転しているときに以下のことを行なうと、車両のコントロールを失うおそれがあります。

- 運転席シート、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを着用する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、シート、ヘッドレスト、ステアリングを調整し、シートベルトを着用してください。

警告

シートの高さを不用意に調整すると、乗員が挟まれて、けがをすることがあります。特に子供は、電動シート調整スイッチを不意に操作して、挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

シートが動いている間は、シート調整システムのレバー部品の下に、手や他の身体が入っていないことを確認してください。

警告

シートを調整するときは、シートのガイドレールなどにお客様や他の乗員が挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

調整するときは、シートの作動範囲に身体が入っていないことを確認してください。

⚠ 警告

バックレストが起きた位置にない場合は、シートベルトは意図された保護効果を発揮することができません。ブレーキ時や事故の際に、シートベルトの下に滑り込み、腹部や頸部などにけがをするおそれがあります。これにより、けが、特に致命的なけがの危険性が高まります。

走行を開始する前にシートを適切に調整してください。シートが起きた位置であることを常に確認してください。

⚠ 警告

ヘッドレストが装着されていない場合、適切に調整されていない場合は、意図された保護効果を発揮することができません。事故や急ブレーキの際などに、頭部や頸部にけがをする危険性が高まります。

常にヘッドレストを装着して走行してください。走行する前に、ヘッドレストの中央が目の高さで乗員の後頭部を支えていることを確認してください。

! シートやシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。

- シート表皮が濡れたときなどは、シートヒーターを作動させないでください。また、シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- 推奨されているようにシート表皮を清掃してください。"内装の手入れ"をご覧ください。
- シートの上で重い物を運搬しないでください。ナイフ、くぎまたは工具のような鋭利な物をシートクッションの上に置かないでください。可能であれば、シートは人のみを乗せてください。
- シートヒーターを使用しているときは、ブランケット、コート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシートなどの被覆物でシートを覆わないでください。

! シートを後方に動かすときは、足元やシートの後方に物がいないことを確認してください。シートや物を損傷する危険性があります。

i 前席および後席のヘッドレスト（スポーツシート装備車を除く）は取り外すことができます。

詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i 関連する項目：

ラゲッジルームの拡大（リアシートの折りたたみ）

シートの手動調整



シートの前後位置の調整

- ▶ レバー ① を上げ、シートを前方または後方にスライドさせます。
- ▶ レバー ① を再度放します。
シートが固定されていることを確認します。

バックレストの角度の調整

- ▶ バックレストに体重をかけないようにします。
- ▶ ダイヤル ④ を前方または後方にまわします。

シートの高さの調整

- ▶ シートが好みの高さになるまで、ハンドル ③ を繰り返し上方に引くか、下方に押します。

シートクッションの角度の調整

大腿部が軽く支えられるように角度を調整します。

- ▶ ダイヤル ② を前方または後方にまわします。

シートの電動調整



- ① ヘッドレストの高さの調整
(スポーツシート装備車を除く)
- ② シートクッションの角度の調整
- ③ シートの高さの調整
- ④ シートの前後位置の調整
- ⑤ バックレストの角度の調整

i メモリー機能により、シート位置を記憶させることができます (▶109 ページ)。

ヘッドレストの調整

⚠ 警告

運転しているときに以下のことを行なうと、車両のコントロールを失うおそれがあります。

- 運転席シート、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを着用する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、シート、ヘッドレスト、ステアリングを調整し、シートベルトを着用してください。

⚠ 警告

ヘッドレストが装着されていない場合、適切に調整されていない場合は、意図された保護効果を発揮することができません。事故や急ブレーキの際などに、頭部や頸部にけがをする危険性が高まります。

常にヘッドレストを装着して走行してください。走行する前に、ヘッドレストの中央が目の高さで乗員の後頭部を支えていることを確認してください。

全体的な注意事項

スポーツシート装備車では、ヘッドレストを調整したり、リアヘッドレストを脱着することはできません。

ヘッドレストの手動調整

ヘッドレストの高さの調整



- ▶ **上げる**：好みの高さにヘッドレストを引き上げます。
- ▶ **下げる**：解除ノブ①を矢印の方向に押して、好みの高さにヘッドレストを押し下げます。

ヘッドレストの前後位置の調整



この機能により、ヘッドレストと後頭部の間の距離を調整することができます。

- ▶ **前方に動かす**：固定するまで、ヘッドレストを矢印の方向に前方に引きます。
- ▶ **後方に動かす**：解除ノブ①を押して保持し、ヘッドレストを後方に押します。
- ▶ ヘッドレストが好みの位置になったときに、解除ノブを放し、ヘッドレストが固定されていることを確認します。

ヘッドレストの電動調整

- ▶ **ヘッドレストの高さを調整する**：ヘッドレスト調整スイッチ（▷101ページ）を矢印の方向に上または下にスライドします。

リアシートのヘッドレスト

ヘッドレストの高さの調整



- ▶ **上げる**：好みの高さにヘッドレストを引き上げます。
- ▶ **下げる**：解除ノブ①を押して、好みの高さにヘッドレストを押し下げます。

リアシートのヘッドレストの脱着

⚠ 警告

ヘッドレストが装着されていない場合、適切に調整されていない場合は、意図された保護効果を発揮することができません。事故や急ブレーキの際などに、頭部や頸部にけがを及ぼす危険性が高まります。

常にヘッドレストを装着して走行してください。走行する前に、ヘッドレストの中央が目の高さで乗員の後頭部を支えていることを確認してください。

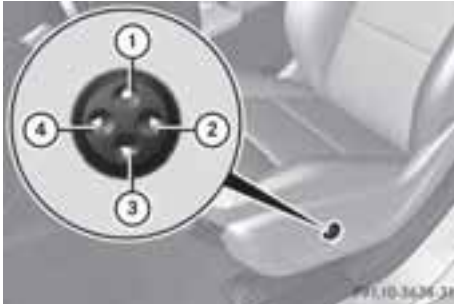
外側リアシートのヘッドレストを脱着することができます。



- ▶ **ヘッドレストを取り外すために**、シートのバックレストを前方に少し倒します（▶274 ページ）。
- ▶ **取り外す**：ヘッドレストを停止するまで引き上げます。
- ▶ **解除ノブ①を押して**、ヘッドレストをガイドから引き抜きます。
- ▶ **取り付ける**：前方から見て支柱の切り欠きが左側になるようにして、ヘッドレストを差し込みます。
- ▶ **固定した音が聞こえるまで**、ヘッドレストを押し下げます。

電動ランバーサポートの調整

背中での最適な支持が得られるように、前席のバックレストの形状を個別に調整できます。



- ① サポートを上げる
- ② サポートを弱くする
- ③ サポートを下げる
- ④ サポートを強くする

シートヒーター

シートヒーターの作動と停止

⚠ 警告

シートヒーターを繰り返し作動させると、シートクッションやバックレストのパッドが熱くなりすぎることがあります。温度の感じ方が鈍い乗員や過度に高い温度に反応しにくい乗員の健康に影響を与えたり、低温火傷を起こすおそれがあります。けがの危険性があります。

そのため、シートヒーターを繰り返し作動させないでください。



スイッチの 3 個の赤い表示灯は、選択したヒーターレベルを示しています。

約 8 分後に、システムは自動的にレベル 3 からレベル 2 に低く切り替わります。

約 10 分後に、システムは自動的にレベル 2 からレベル 1 に低く切り替わります。

レベル 1 に設定されてから約 20 分後に、システムは自動的に停止します。

▶ **イグニッション位置が 1 または 2 であることを確認します。**

▶ **作動させる：**希望のヒーターレベルに設定されるまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

▶ **停止する：**表示灯が消灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

i バッテリーの電圧が低下すると、シートヒーターが停止することがあります。

シートヒーターのトラブル

シートヒーターが短時間で停止したり、作動できなくなります。多くの電気装備が使用されているために、車両の電気システムの電圧が低下しています。

- ▶ リアデフォグガーやルームライトのような、必要のない電気装備を停止してください。

ステアリング

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

運転しているときに以下のことを行なうと、車両のコントロールを失うおそれがあります。

- 運転席シート、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを着用する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、シート、ヘッドレスト、ステアリングを調整し、シートベルトを着用してください。

⚠ 警告

子供がステアリングを調整した場合は、身体を挟まれるおそれがあります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯し、車両を施錠してください。付き添いのない子供を車内に残さないでください。

ステアリングの調整

⚠ 警告

走行しているときにステアリングを調整すると、ステアリングが不意に動くことがあります。これにより、車両のコントロールを失う原因になるおそれがあります。事故の危険性があります。

走行する前に、ステアリングが固定されていることを確認してください。車両が動いているときは、ステアリングのロックを解除しないでください。



- ① ステアリング調整ロック解除レバー
- ② ステアリングの高さを調整する
- ③ ステアリングの前後位置を調整する

- ▶ ステアリング調整ロック解除レバー
① を完全に押し下げます。
ステアリングコラムのロックが解除されます。
- ▶ 希望の位置にステアリングを調整します。
- ▶ ステアリング調整ロック解除レバー
① を完全に押し上げます。

- ▶ ステアリングが固定されていることを確認します。そのためには、ステアリングを上下に押し、または前後に動かしてみます。

ミラー

ルームミラー



- ▶ **防眩モード：**ノブ①を前後に動かします。

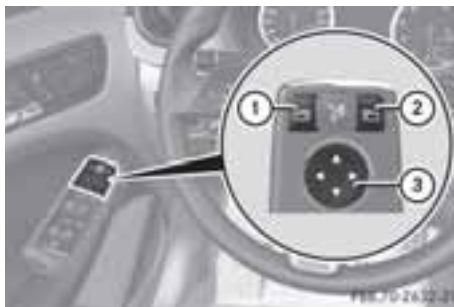
ドアミラー

ドアミラーの調整

警告

ドアミラーは像の大きさを小さくします。ミラーに見えている対象物は、表示されているものよりも近くにあります。車線変更のときなどに、後方を走行している車両との距離を見誤るおそれがあります。事故の危険性があります。

そのため、常に肩越しに見て、後方を走行している車両との実際の距離を判断してください。



- ▶ イグニッション位置が1か2になっていることを確認します。
- ▶ 左側ドアミラースイッチ①または右側ドアミラースイッチ②を押します。
対応するスイッチの表示灯が赤く点灯します。
しばらくすると表示灯は消灯します。表示灯が点灯している間に調整スイッチ③を使用して、選択したミラーを調整します。
- ▶ ドアミラーを適切な位置に調整できるまで、調整スイッチ③を上、下、または左または右に押します。交通状況を適切に視認できるようにします。

より広い視界を確保するため、ドアミラーは凸面になっています。

リアデフォグガーを作動させたときに外気温度が低い場合は、エンジン始動後にドアミラーは自動的に温められます。ドアミラーのヒーター機能は、約10分以内に停止します。

-  リアデフォグガーを作動させることにより、ドアミラーを温めることができます。

ドアミラーの電動格納 / 展開



▶ イグニッション位置が **1** が **2** になっていることを確認します。

▶ スイッチ ① を軽く押します。

ドアミラーが格納 / 展開します。

i 走行するときはドアミラーが完全に展開されていることを確認してください。さもないと、振動するおそれがあります。

i 47km/h 以上で走行している場合は、ドアミラーを格納できなくなります。

ドアミラーの設定

バッテリーの接続が外れたり、完全に放電したときは、ドアミラーをリセットしなければなりません。さもないと、マルチファンクションディスプレイで " 施錠時のドアミラー格納 " を設定していても、ドアミラーは格納しません (▷237 ページ)。

▶ イグニッション位置が **1** になっていることを確認します。

▶ スイッチ ① を軽く押します。

施錠時のドアミラー格納

マルチファンクションディスプレイで " 施錠時のドアミラー格納 " が設定されているとき (▷237 ページ) は、以下ようになります。

- リモコン操作で車両を施錠するとすぐに、ドアミラーが自動的に格納します。

- 車両を解錠し、運転席または助手席ドアを開くとすぐに、ドアミラーは自動的に展開します。

i ドアミラー格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納したときは、ドアミラーは展開しません。

ドアミラーが押されて適正な位置にないとき

ドアミラーが押されて適正な位置にないときは、以下のようになさいます。

▶ **手動格納式ドアミラー装備車**：手でミラーを正しい位置に戻します。

▶ **電動格納式ドアミラー装備車**：クリック音が聞こえ、ミラーが適正な位置で固定されるまで、ドアミラー格納 / 展開スイッチ (▷107 ページ) を押して保持します。

ドアミラーが再度固定され、通常通りドアミラーを調整できるようになります。

自動防眩機能

以下のときは、ルームミラーと運転席側ドアミラーが自動的に防眩モードになります。

- ・イグニッション位置が **1** か **2** で、さらに
- ・ヘッドライトから照射された光がルームミラーのセンサーに当たったとき

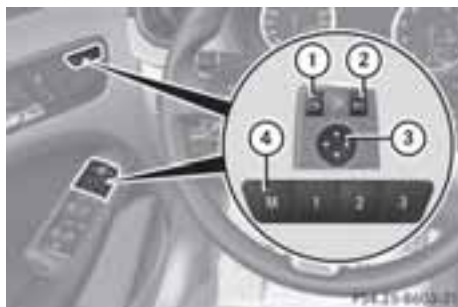
リバースギアに入っているとき、またはルームライトが点灯しているときは、ミラーは防眩モードになりません。

パーキングヘルプ機能

駐車時の位置に設定し記憶させる

リバースギアを使用する

リバースギアに入れるとすぐに、助手席側後輪が見えるような位置に助手席側ドアミラーが動くように設定することができます。この位置を記憶させることができます。



- ▶ 停車して、イグニッション位置が **2** であることを確認します。

- ▶ 助手席側ドアミラースイッチ **②** を押します。

- ▶ リバースギアに入れます。

助手席側ドアミラーが、あらかじめ設定させていた駐車時の位置に動きます。

- ▶ ドアミラー調整スイッチ **③** を使用して、ドアミラーを調整します。後輪および路肩がドアミラーに見えるようにします。

駐車時の位置が記憶されます。

- i** トランスミッションを他の位置にシフトすると、助手席側ドアミラーは約 10 秒後に走行時の位置に戻ります。

メモリースwitchを使用する

リバースギアに入れたときに、助手席側後輪が見えるような位置に助手席側ドアミラーが動くように設定することができます。この位置を記憶させることができます。この設定は、メモリースwitch **M④** を使用して記憶させることができます。

- ▶ 停車して、イグニッション位置が **2** であることを確認します。

- ▶ 助手席側ドアミラースイッチ **②** を押します。

- ▶ リバースギアに入れます。

助手席側ドアミラーが、あらかじめ設定されていた駐車時の位置に動きます。

▶ ドアミラー調整スイッチ ③ を使用して、ドアミラーを調整します。後輪および路肩がドアミラーに見えるようにします。

▶ メモリースイッチ M④ を押し、約 3 秒以内に調整スイッチ ③ のいずれかの矢印を押します。

ドアミラーが動かなければ、駐車時の位置が記憶されます。

ミラーがその位置から動いたときは、手順を繰り返してください。

記憶させた駐車時の位置を呼び出す

▶ イグニッション位置を 2 にします。

▶ 助手席側ドアミラースイッチを押します (▷108 ページ)。

▶ リバースギアに入れます。

助手席側ドアミラーの角度が、記憶させた駐車時の位置に動きます。

助手席側ドアミラーは、以下のときに元の位置に戻ります。

- 速度が約 15km/h を越えてすぐ
- リバースギアから他の位置にして約 10 秒経過したとき
- 運転席側ドアミラー選択スイッチ ① を押したとき

メモリー機能

設定の記憶

警告

運転席側のメモリー機能を走行中に使用した場合は、調整により、車両のコントロールを失う原因になるおそれがあります。事故の危険性があります。

運転席側のメモリー機能は、車両が停止している間にのみ使用してください。

警告

メモリー機能がシートを調整している間は、乗員、特に子供が挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

メモリー機能が調整を行なっている間は、シートの作動範囲に乗員の身体がないことを確認してください。挟まれた場合は、メモリー機能のポジションスイッチからただちに指を放してください。調整が停止します。

警告

子供がメモリー機能を作動させた場合は、特に付き添いがない場合に、身体を挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯し、車両を施錠してください。付き添いのない子供を車内に残さないでください。

メモリー機能で、例えば 3 人の異なる運転者などの 3 つの異なる設定を記憶させることができます。

以下の項目がひとつの設定として記憶されます。

- シート、バックレストおよびヘッドレスト（スポーツシート装備車を除く）の位置
- 運転席側は、運転席側および助手席側ドアミラーの位置



- ▶ シート位置を調整します（▶101 ページ）。
- ▶ 運転席ではドアミラー（▶106 ページ）を調整します。
- ▶ メモリースイッチ **M** を押し、約 3 秒以内にポジションスイッチ **1**、**2**、または **3** を押します。

選択したポジションに設定が記憶されます。設定が完了すると、確認音が鳴ります。

シート位置の呼び出し

- ▶ シートとドアミラーが記憶した位置になるまで、対応するポジションスイッチ **1**、**2**、または **3** を押して保持します。

i ポジションスイッチを放すとすぐに、設定の作動は中断します。

役に立つ情報.....	112
車外ライト.....	112
ルームライト.....	120
電球の交換.....	121
ワイパー.....	127

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で入手可能な、お客様の車両でのすべての車種、シリーズ、およびオプション装備について記載しています。国により仕様が異なることがあります。記載されているすべての機能が、お客様の車両に装備されていないことがあることにご留意ください。このことは、安全に関するシステムや機能にも当てはまります。

車外ライト

車外ライトの設定

設定

車外ライトは以下により設定します。

- ライトスイッチ
- ヘッドライト照射角度調整ダイヤル（ハロゲンヘッドライト装備車）（▷114 ページ）
- コンビネーションスイッチ（▷115 ページ）
- マルチファンクションディスプレイ（▷232 ページ）

ライトスイッチ

操作



- 1 左側パーキングライト
- 2 右側パーキングライト
- 3 車幅灯、ライセンスプレートライト、メーターパネルなどの照明
- 4 **AUTO** ライトセンサーによるオートモード
- 5 ロービーム / ハイビームヘッドライト
- 6 リアフォグランプ
- 7 フロントフォグランプ（フロントフォグランプ装備車）

車両から離れるときに警告音が聞こえるときは、ライトが点灯したままになっています。

▶ ライトスイッチを **AUTO** にまわします。

車外ライトは以下のときに自動的に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜いたとき
- イグニッション位置が **0** のときに、運転席側ドアを開いたとき

ヘッドライトオートモード

警告

霧や雪、または霧雨のような天候状況による他の視界不良の原因がある場合は、ライトスイッチが **AUTO** のときにロービームヘッドライトが自動的に点灯しないことがあります。事故の危険性があります。

そのような状況では、ライトスイッチを  にまわしてください。

ヘッドライトオートモード機能は単なる支援です。運転者には常に、車両のライトの点灯に関する責任があります。

AUTO はライトスイッチの好ましい位置です。ライトの設定は、以下のときに周囲の明るさ（霧や雪、霧雨のような天候状況による視界不良を除く）に応じて、自動的に選択されます。

- イグニッション位置が **1** のとき

周囲の明るさに応じて、車幅灯が自動的に点灯 / 消灯します。

- エンジンがかかっているとき

マルチファンクションディスプレイでデイトタイムドライビングライトを設定しているときは、デイトタイムドライビングライトが点灯します。または、周囲の明るさに応じて、車幅灯とロービームヘッドライトが自動的に点灯 / 消灯します。

オートモードにする

- ▶ ライトスイッチを **AUTO** の位置にします。

デイトタイムライトは、昼間時の自車の検知性を高めます。デイトタイムライトは、マルチファンクションディスプレイで設定します（▶232 ページ）。

ロービームヘッドライトが点灯しているときは、メーターパネルの  表示灯が点灯します。

ロービーム

ライトセンサーが暗さを検知していないときでも、イグニッション位置が **2** で、ライトスイッチが  の位置のときは、車幅灯とロービームヘッドライトが点灯します。これは霧や雨のときに便利です。

- ▶ **ロービームヘッドライトを点灯する**：イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを始動します。

- ▶ ライトスイッチを  にまわします。

メーターパネルの緑色の  表示灯が点灯します。

フロントフォグランプ

霧、雪または雨による視界不良時の状況で、フロントフォグランプは視界を向上させるとともに、他の道路使用者への自車の認識をより容易にします。フロントフォグランプは、車幅灯または車幅灯とロービームヘッドライトを点灯しているときに使用できます。

- ▶ **フロントフォグランプを点灯する**：イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを作動します。

- ▶ ライトスイッチを  または **AUTO** にまわします。

- ▶  スイッチを押します。

メーターパネルの緑色の  表示灯が点灯します。

- ▶ フロントフォグランプを消灯する：

 スイッチを押します。

メーターパネルの緑色の  表示灯が消灯します。

フロントフォグランプ装備車の中に、"フロントフォグランプ" 機能があります。インテリジェントライトシステム装備車でフォグランプの作動については (▶116 ページ) をご覧ください。

リアフォグランプ

リアフォグランプは、濃い霧のときに、後方の交通に対しての自車の視認性を向上させます。リアフォグランプの使用は、法規に従ってください。

- ▶ リアフォグランプを点灯する：イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを作動します。

- ▶ ライトスイッチを  または **AUTO** にまわします。

- ▶  スイッチを押します。

メーターパネルの黄色の  表示灯が点灯します。

- ▶ リアフォグランプを消灯する：  スイッチを押します。

メーターパネルの黄色の  表示灯が消灯します。

- i** バイキセノンヘッドライトまたはインテリジェントライトシステム装備車のみ：リアフォグランプが点灯したときは、法規により右側テールライトのブレーキライト下側の 15 個の LED が消灯します。

車幅灯

! バッテリーが過度に放電しているときは、次のエンジン始動を可能にするために、車幅灯またはパーキングライトが自動的に消灯します。法規に沿って、常に車両を安全かつ十分明るい場所に駐車してください。車幅灯  を数時間使用し続けることは避けてください。可能であれば、右側  または左側  のパーキングライトを点灯してください。

- ▶ 車幅灯を点灯する：ライトスイッチを  の位置にします。

仕様により、メーターパネルの緑色の  表示灯または計器照明が点灯します。

パーキングライト

パーキングライトを点灯すると、車両の片側の車幅灯が点灯します。

- ▶ パーキングライトを点灯する：キーがエンジンスイッチに差し込まれていない状態にするか、イグニッション位置を **0** にします。

- ▶ ライトスイッチを  (車両左側) または  (車両右側) にまわします。

ヘッドライト範囲の調整 (ハロゲンヘッドライト)

ヘッドライト範囲の調整により、車両の積載に合わせて、ヘッドライトの光軸を調整できます。



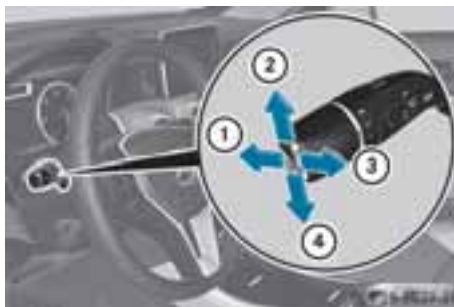
ヘッドライト範囲調整

- ① 運転席と助手席に乗車
- ② 運転席と助手席、および後席に乗車
- ③ 運転席と助手席、および後席に乗車し、ラゲッジルームに積載
- ④ 運転席と助手席、および後席に乗車し、トレーラーけん引時など最大許容後軸荷重を使用

- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ 車両の積載状況に対応した位置に、ヘッドライト範囲調整ダイヤルをまわします。

コンビネーションスイッチ

方向指示



- ① ハイビームヘッドライト
- ② 方向指示、右
- ③ パッシング
- ④ 方向指示、左

- ▶ **短時間作動させる：**コンビネーションスイッチを矢印②または④の方向に、手応えがある位置まで軽く操作します。

対応する方向指示灯が3回点滅します。

- ▶ **作動させる：**コンビネーションスイッチを矢印②または④の方向に、手応えがある位置を越えるまで操作します。

ハイビームヘッドライト

- ▶ **ハイビームヘッドライトを点灯する：**イグニッション位置を2にするか、エンジンを始動します。

- ▶ ライトスイッチを  または **AUTO** にまわします。

- ▶ コンビネーションスイッチを矢印①の方向に、手応えがある位置を越えるまで操作します。

AUTO 位置では、周囲が暗く、エンジンがかかっているときにのみ、ハイビームヘッドライトが点灯します。

ハイビームヘッドライトが点灯しているときは、メーターパネルの青色の  表示灯が点灯します。

- ▶ **ハイビームヘッドライトを消灯する：**コンビネーションスイッチを通常の位置に戻します。

メーターパネルの青色の  表示灯が消灯します。

- ① **アダプティブハイビームアシスト**
 ② 装備車：アダプティブハイビームアシストを設定しているときは、ハイビームヘッドライトの作動が制御されます。

パッシング

- ▶ **点灯する**：イグニッション位置を **1** または **2** にするか、エンジンを始動します。
- ▶ **コンビネーションスイッチを矢印 ③ の方向に引きます。**

非常点滅灯



非常点滅灯は、以下のときに自動的に作動します。

- エアバッグが作動したとき
- 約 70km/h 以上の速度から、車両が急減速して停車したとき
- ▶ **非常点滅灯を作動させる**：スイッチ ① を押します。
すべての方向指示燈が点滅します。このときにコンビネーションスイッチを使用して方向指示燈を作動させたときは、車両の対応する側の方向指示燈のみが点滅します。
- ▶ **非常点滅灯を解除する**：スイッチ ① を押します。

フルブレーキを効かせた後は、車両の速度が再度 10km/h に達すると、非常点滅灯は自動的に解除されます。

i 非常点滅灯はイグニッションがオフのときでも作動します。

ヘッドライトウォッシャー

ヘッドライトが点灯していて、エンジンがかかっているときは、フロントウインドウウォッシャー (▷127 ページ) を約 5 回作動させると、ヘッドライトが自動的に清掃されます。イグニッション位置を **0** にしたときは、ヘッドライトウォッシャーはリセットされ、回数は 0 に戻ります。

インテリジェントライトシステム

全体的な注意事項

インテリジェントライトシステムは、そのときの走行や天候状況に合わせてヘッドライトを自動的に調整するシステムです。車両の速度や天候状況などに応じて路面の照射を向上させる先進機能があります。

システムには、アクティブライトシステム、コーナリングライト、ハイウェイモード、フォグランプ強化機能が含まれます。システムは、周囲が暗いときにのみ作動します。

マルチファンクションディスプレイを使用して、"インテリジェントライトシステム" を設定または解除することができます (▷233 ページ)。

アクティブライトシステム



アクティブライトシステムは、前輪のステアリング動作に応じて、ヘッドライトを動かすシステムです。このようにして、走行している間は関連する範囲が照射されたままになります。これにより、歩行者、サイクリストおよび動物を認識できます。

作動：ライトが点灯しているとき。

コーナリングライト



コーナリングライトは、曲がる方向の広い角度にわたる路面の照射を向上させ、急カーブなどでのより良い視界を可能にします。コーナリングライトは、ロービームヘッドライトが点灯しているときにのみ作動します。

作動：

- 40km/h 以下の速度で走行していて、方向指示灯を作動させるか、またはステアリングをまわした場合。
- 40 km/h から 70km/h の間の速度で走行していて、ステアリングをまわした場合。

非作動：40km/h 以上の速度で走行するか、または方向指示灯を停止する、またはステアリングを直進位置にまわした場合。

コーナリングライトは短時間点灯したままになることがあります、最大約 3 分後に自動的に消灯します。

ハイウェイモード



ハイウェイモードは、照射範囲を増やします。

作動：

- 110km/h 以上の走行速度で、約 1000m ステアリングを大きく動かさなかった場合。
- 130km/h 以上の速度で走行した場合。

非作動：作動した後に、80km/h 以下の速度で走行した場合。

フォグランプ強化機能



フォグランプ強化機能は、運転者が感じる眩しさを軽減し、道路の端の照射を向上させます。

作動：70km/h以下の速度で走行していて、リアフォグランプを点灯した場合。

非作動：作動した後に、100km/h以上の速度で走行した場合、またはリアフォグランプを消灯した場合。

アダプティブハイビームアシスト

⚠ 警告

以下のときは、アダプティブハイビームアシストが道路使用者を認識しないことがあります。

- 歩行者など、道路使用者が照明を持っていない場合
- サイクリストなど、道路使用者が暗い照明を持っている場合
- ガードレールの後ろにいるなど、道路使用者の照明が遮られている場合

まれな場合、アダプティブハイビームアシストは非常に遅れて道路使用者を認識したり、またはまったく認識しないことがあります。このとき、または類似の状況では、自動的なハイビームヘッドライトが解除されなかったり、または不意に作動することがあります。事故の危険性があります。

常に注意深く交通状況に従い、適時ハイビームヘッドライトを解除してください。

この機能を使用すると、ヘッドライトがハイビームとロービームの間で自動的に切り替わるように設定できます。反対方向から接近してくる、または車両の前方を走行しているライトを点灯した車両を認識し、それに従ってヘッドライトをハイビームからロービームに切り替えます。

システムは、他の車両との距離に応じてロービームヘッドライトの範囲を自動的に調整します。システムが他の車両を検知しなくなると、ハイビームヘッドライトを再作動させます。

システムの光学センサーは、フロントウインドウ裏側の前席上方の操作部付近にあります。



▶ **作動させる：**マルチファンクションディスプレイを使用して、アダプティブハイビームアシストを作動させます (▶234 ページ)。

▶ ライトスイッチを **AUTO** にまわします。

▶ 手応えがある位置を越えるまで、コンビネーションスイッチを矢印①の方向に押します (▶115 ページ)。

暗く、ライトセンサーがロービームヘッドライトを作動させた場合は、マルチファンクションディスプレイに **[D]** が表示されます。

約 55km/h 以上の速度で走行している場合：

車両と他の道路使用者との間の距離に応じて、ヘッドライトの範囲が自動的に設定されます。

約 55km/h 以上の速度で走行していて、他の道路使用者が認識されない場合：

自動的にハイビームヘッドライトが点灯します。メーターパネルの **[D]** 表示灯も点灯します。

約 45km/h 以下の速度で走行しているか、または他の道路使用者が認識されている、または道路が十分に照らされている場合：

自動的にハイビームヘッドライトが消灯します。メーターパネルの **[D]** 表示灯が消灯します。マルチファンクションディスプレイの **[D]** は点灯したままになります。

▶ **解除する：**コンビネーションスイッチを通常の位置に動かして戻します。

マルチファンクションディスプレイの **[D]** が消灯します。

ヘッドライトの内側が曇るとき

外気の湿度が高いときは、ヘッドライトの内側が曇ることがあります。

▶ ヘッドライトを点灯して走行してください。

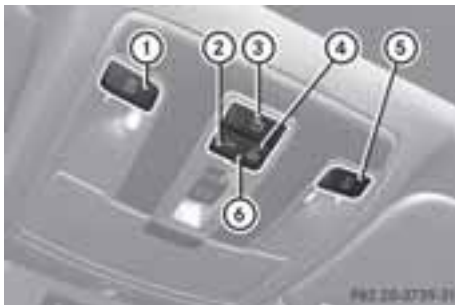
走行時間や天候状況 (湿度と気温) に応じて、ヘッドライト内側の曇り具合は低減します。

ヘッドライト内側の曇り具合が低減しない場合：

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場ヘッドライトの点検を受けてください。

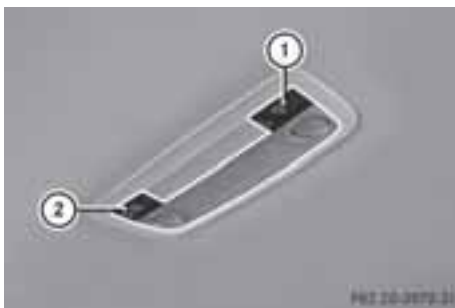
ルームライト

ルームライトの概要



前席上方の操作部

- ① 左側フロント読書灯の点灯 / 消灯の切り替え
- ② フロントルームライトの点灯
- ③ リアルームライトの点灯 / 消灯の切り替え
- ④ フロントルームライト / ルームライトオート制御の解除
- ⑤ 右側フロント読書灯の点灯 / 消灯の切り替え
- ⑥ ルームライトオート制御の作動



後席上方の操作部

- ① 左側リア読書灯の点灯 / 消灯の切り替え
- ② 右側リア読書灯の点灯 / 消灯の切り替え

ルームライトの操作

重要な注意事項

車両のバッテリーの放電を防ぐため、イグニッション位置が 2 以外のときは、ルームライト機能は一定時間後に自動的に解除されます。

アンビエントライトの照度は、マルチファンクションディスプレイを使用して設定することができます (▶234 ページ)。

ルームライトのオート制御

- ▶ **作動させる**：スイッチを中立の位置 ⑥ にします。
- ▶ **解除する**：スイッチを の位置にします。

ルームライトは以下のときに自動的に点灯します。

- リモコン操作で車両を解錠したとき
- ドアを開いたとき
- エンジンスイッチからキーを抜いたとき

エンジンスイッチからキーを抜いた後に、ルームライトは短時間点灯します。マルチファンクションディスプレイを使用して、この遅延消灯機能を作動させることができます (▶235 ページ)。

ルームライトの手動制御

- ▶ **フロントルームライトを点灯する**：スイッチを の位置にします。
- ▶ **フロントルームライトを消灯する**：スイッチを の位置にするか、ドアが閉じているときは中立位置にします。

- ▶ リアルームライトの点灯 / 消灯を切り替える：  スイッチを押します。
- ▶ 読書灯の点灯 / 消灯を切り替える：  スイッチを押します。

緊急時点灯機能

車両が事故に巻き込まれたときは、ルームライトが自動的に点灯します。

- ▶ 緊急時点灯機能を解除する：非常点滅灯スイッチを押します。

または

- ▶ キーを使用して車両を施錠および解錠します。

電球の交換

重要な安全上の注意事項

バイキセノンヘッドライト

警告

バイキセノンヘッドライトには高電圧が発生しています。バイキセノンヘッドライトのカバーを取り外して電気端子に触れると、感電するおそれがあります。致命的なけがの危険性があります。

バイキセノンヘッドライトの部品や電気端子には、決して触れないでください。バイキセノンヘッドライトに関する作業は常に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

車両にバイキセノンヘッドライトが装備されているときは、以下のことにより認識することができます。エンジンを始動したときに、バイキセノンヘッドライトからの配光が上から下に動き、再度戻ります。このことを見るためには、エンジンを始動する前に、ライトが点灯されていなければなりません。

電球とライトは、車両安全性の重要な要因です。そのため、これらの機能が適切であることを常に確認してください。ヘッドライトの設定を定期的に点検してください。

その他のライト

警告

電球、ライトおよびプラグコネクタは、使用している間に非常に熱くなります。電球を交換するときは、これらの構成部品により火傷をするおそれがあります。けがの危険性があります。

電球を交換する前は、これらの構成部品を冷ましてください。

バイキセノンヘッドライト以外にもお客様自身で交換できない電球があります。リストに挙げられている電球のみを交換してください（▶122 ページ）。お客様自身で交換できない電球は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

電球交換の支援が必要な場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。

新しい電球のガラス部分には素手で触れないでください。少しの汚れであってもガラス表面で溶け、電球の寿命を短くします。装着するときは常に、きれいな布を使用するか、バルブのベース部分にのみ触れてください。

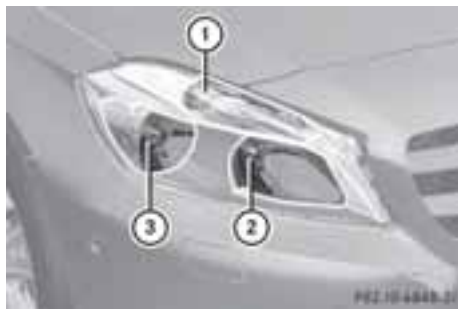
適切な種類の電球のみを使用してください。

新しい電球が点灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

電球とライトは、車両安全性の重要な要因です。そのため、これらの機能が適切であることを常に確認してください。ヘッドライトの設定を定期的に点検してください

電球交換の概要

以下の電球を交換することができます。電球の種類の詳細は、以下をご覧ください。



ハロゲンヘッドライト装備車

- ① 方向指示灯：PY 21W
- ② ハイビームヘッドライト / 車幅灯 / パーキングライト：H15 55W / 15W
- ③ ロービームヘッドライト：H7 55W



インテリジェントライトシステム装備車

- ① コーナリングライト：H7 55W



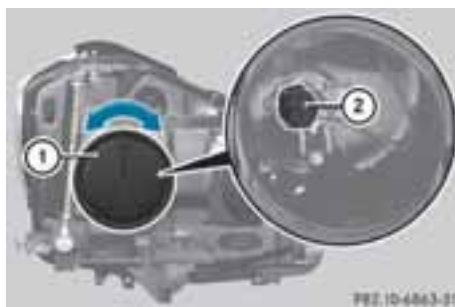
テールライト（ハロゲンヘッドライト装備車）

- ① バックライト：W 16W
- ② 方向指示灯：PY 21W
- ③ テールライト / ブレーキライト：W 16W
- ④ リアフォグランプ：W 16W
- ⑤ テールライト：W 16W

フロントの電球の交換

フロントホイールアーチのカバーの着脱

フロントの電球を交換する前に、フロントホイールハウジングからカバーを外す必要があります。



- ▶ **取り外す**：ライトを消灯します。
- ▶ 前輪を内側にまわします。
- ▶ ノブ ① を 90 度まわします。
カバー ② のロックが外れます。
- ▶ カバー ② を押し下げます。
- ▶ **取り付ける**：カバー ② を押し上げます。
- ▶ ノブ ① を 90 度まわします。
カバー ② がロックされます。

ロービームヘッドライト（ハロゲンヘッドライト）

⚠ 警告

これらの電球には圧力がかかっています。以下の場合に交換をすると、破裂するおそれがあります。

- 熱いままになっている
- 取り外すときに物にぶつかった
- 落下した

電球を交換するときは、保護眼鏡と清潔な手袋を着用してください。必要であれば、電球をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

- ▶ フロントホイールアーチのカバーを取り外します（▶122 ページ）。
- ▶ハウジングカバー ① を反時計回りにまわし、引いて取り外します。
- ▶ 電球ホルダー ② を反時計回りにまわし、引いて取り外します。
- ▶ 電球ホルダー ② から電球を抜きます。
- ▶ 新しい電球を電球ホルダー ② に差し込みます。
- ▶ 電球ホルダー ② をライトに差し込み、時計回りにまわします。
- ▶ハウジングカバー ① を合わせ、固定されるまで時計回りにまわします。
- ▶ フロントホイールアーチのカバーを取り付けます（▶122 ページ）。

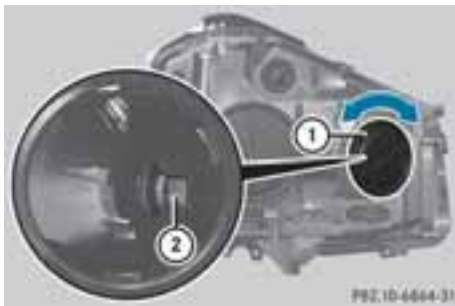
ハイビームヘッドライトおよび車幅灯 / パーキングライト (ハロゲンヘッドライト)

⚠ 警告

これらの電球には圧力がかかっています。以下の場合に交換をすると、破裂するおそれがあります。

- 熱いままになっている
- 取り外すときに物にぶつかった
- 落下した

電球を交換するときは、保護眼鏡と清潔な手袋を着用してください。必要であれば、電球をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。



- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ハウジングカバー ① を反時計回りにまわし、引いて取り外します。
- ▶ 電球 ② を反時計回りにまわし、引いて取り外します。
- ▶ 新しい電球を差し込み、止まるまで固定します。
- ▶ハウジングカバー ① を合わせ、固定されるまで時計回りにまわします。

方向指示灯 (ハロゲンヘッドライト)



- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ 電球ホルダー ① を反時計回りにまわし、引いて取り外します。
- ▶ 電球ホルダー ① から電球を抜きます。
- ▶ 新しい電球を電球ホルダー ① に差し込みます。
- ▶ 電球ホルダー ① を差し込み、固定されるまで時計回りにまわします。

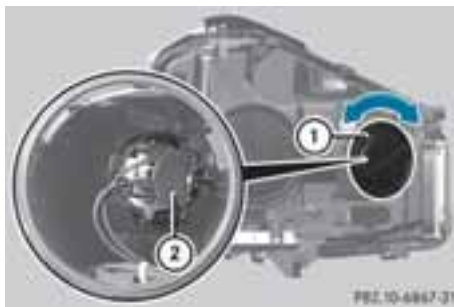
コーナリングライト機能 (インテリジェントライトシステム)

⚠ 警告

これらの電球には圧力がかかっています。以下の場合に交換をすると、破裂するおそれがあります。

- 熱いままになっている
- 取り外すときに物にぶつかった
- 落下した

電球を交換するときは、保護眼鏡と清潔な手袋を着用してください。必要であれば、電球をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

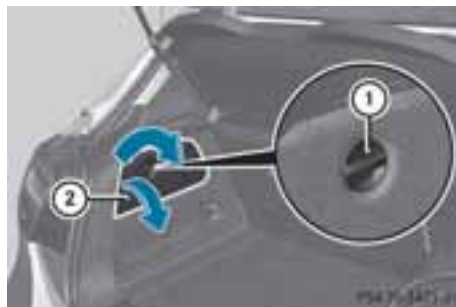


- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ハウジングカバー ① を反時計回りにまわし、引いて取り外します。
- ▶ 電球ホルダー ② を反時計回りにまわし、引いて取り外します。
- ▶ 電球ホルダー ② から電球を抜きます。
- ▶ 新しい電球を電球ホルダー ② に差し込みます。
- ▶ 電球ホルダー ② をライトに差し込み、時計回りにまわします。
- ▶ハウジングカバー ① を合わせ、固定されるまで時計回りにまわします。

リアの電球の交換

サイドトリムパネルの開閉

テールライトの電球を交換する前に、ラゲッジルームのサイドトリムパネルを開く必要があります。



左側サイドトリムパネル



右側サイドトリムパネル

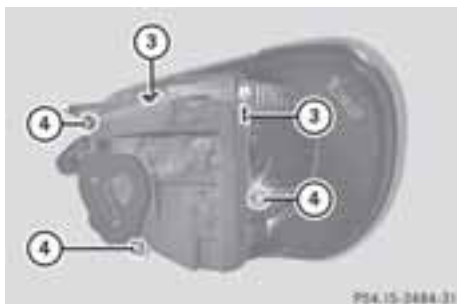
- ▶ **開く**：解除ノブ ① を矢印の方向に 90 度まわし、サイドトリムパネル ② を外します。
- ▶ **閉じる**：サイドトリムパネル ② を差し込み、解除ノブ ① を矢印と逆方向に 90 度まわします。

テールライト

- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ ラゲッジルームを開きます。
- ▶ サイドトリムパネルを開きます (▷125 ページ)。



- ▶ コネクター②のロックを解除し、取り外します。
- ▶ ウイングナット①を緩め、ライトクラスターを取り外します。



ライトクラスター

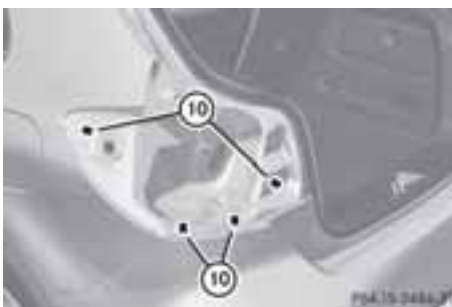
- ▶ コインなどの適切な物を使用して、プラスチックナット④を取り外します。
- ▶ アタッチメント③のロックを解除します。
- ▶ ライトクラスターから電球ホルダーを取り外します。



電球ホルダー

- ⑤ テールライト / ブレーキライト
- ⑥ バックライト
- ⑦ リアフォグライト
- ⑧ テールライト
- ⑨ 方向指示灯

- ▶ **テールライト / ブレーキライト / リアフォグライト / バックライト：**該当する電球を電球ホルダーから取り外します。
- ▶ 新しい電球を電球ホルダーに差し込みます。
- ▶ **方向指示灯：**電球を電球ホルダーに軽く押し込み、反時計回りにまわして、電球ホルダーから取り外します。
- ▶ 新しい電球を電球ホルダーに差し込み、時計回りにまわします。
- ▶ ライトクラスターのアタッチメント③に電球ホルダーを固定し、プラスチックナット④を締めます。



- ▶ ライトクラスターを車両に差し込み、ガイド⑩に合っていることを確認します。
- ▶ ウイングナット①を締め、端子にコネクター②を再接続します。
- ▶ サイドトリムパネルを閉じます (▷125 ページ)。

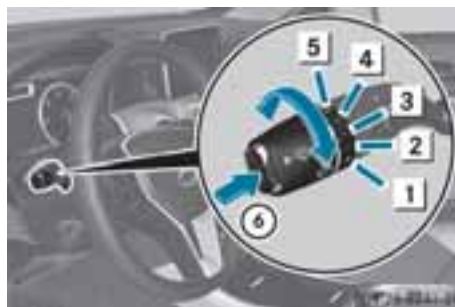
ワイパー

フロントウインドウワイパーの作動 / 停止の切り替え

! ワイパーブレードを損傷するおそれがあるため、フロントウインドウが乾いているときはワイパーを作動させないでください。さらに、フロントウインドウが乾いているときに拭き取ると、フロントウインドウに付着している汚れにより、ガラスに傷が付くおそれがあります。

雨が降っていない天候のときにフロントウインドウワイパーを作動させる必要があるときは常に、ウォッシャー液を使用して作動させてください。

! 自動洗車機で洗車した後に、フロントウインドウワイパーがフロントウインドウに油膜を残すときは、ワックスや他の残留物が原因であることがあります。自動洗車機で洗車した後は、ウォッシャー液でフロントウインドウを清掃してください。



コンビネーションスイッチ

- 1 ☐ 0 フロントウインドウワイパーの停止
- 2 ☐ ... 間欠作動、低（レインセンサーが低い感度に設定）
- 3 ☐ 間欠作動、高（レインセンサーが高い感度に設定）
- 4 ☐ — 連続作動、低速
- 5 ☐ = 連続作動、高速
- 6 ☐ 1 回作動 / ☐ ウォッシャー液を使用した拭き取り

- ▶ イグニッション位置を 1 か 2 にします。
- ▶ 対応する位置にコンビネーションスイッチをまわします。

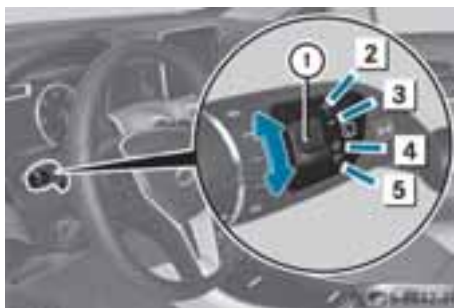
! レインセンサー装備車：雨が降っていない天候状況でフロントウィンドウが汚れたときは、フロントウィンドウワイパーが不意に作動することがあります。これにより、フロントウィンドウワイパーのブレードが損傷したり、フロントウィンドウを傷つけるおそれがあります。

この理由により、雨が降っていないときは常に、フロントウィンドウワイパーを停止してください。

レインセンサー装備車： [...] または [...] の位置では、雨の強さに応じて適切な拭き取り頻度が自動的に設定されます。[...] 位置では、[...] 位置に比べレインセンサーはより感度がよくなり、フロントウィンドウワイパーがより頻繁に拭き取ることになります。

ワイパーブレードが摩耗すると、フロントウィンドウが適切に拭き取られなくなります。これにより、交通状況から注意がそれる原因になるおそれがあります。

リアウィンドウワイパーの作動 / 停止の切り替え



コンビネーションスイッチ

- ① スイッチ
- ② ウォッシャー液を使用した拭き取り
- ③ **I** 間欠拭き取りの作動
- ④ **0** 間欠拭き取りの停止
- ⑤ ウォッシャー液を使用した拭き取り

- ▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。
- ▶ 対応する位置にコンビネーションスイッチをまわします。

リアウィンドウワイパーが作動しているときは、メーターパネルにマークが表示されます。

ワイパーブレードの交換

重要な安全上の注意事項

 警告

ワイパーブレードを交換している間にワイパーが作動し始めると、ワイパーアームに挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります

ワイパーブレードを交換する前に、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

! ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーのワイパーアームのみに触れるようにしてください。

! ワイパーアームを起こした状態でボンネット / テールゲートを開かないでください。

ワイパーブレードがないワイパーアームをウインドウの上に載せないでください。

ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーアームを確実に持ってください。ワイパーブレードが取り付けられていない状態でワイパーアームから手を放すと、ワイパーアームがフロントウインドウ / リアウインドウに当たり、ぶつかった衝撃でフロントウインドウ / リアウインドウを損傷するおそれがあります。

ワイパーブレードの交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

フロントウインドウのワイパーブレードの交換

ワイパーブレードを取り外す

- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ フロントウインドウからワイパーアームを起こします。



- ▶ 両側の解除クリップ②を押します。
- ▶ ワイパーブレード①を、ワイパーアーム④から矢印③の方向に起こします。
- ▶ ワイパーブレード①を矢印⑤の方向に取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

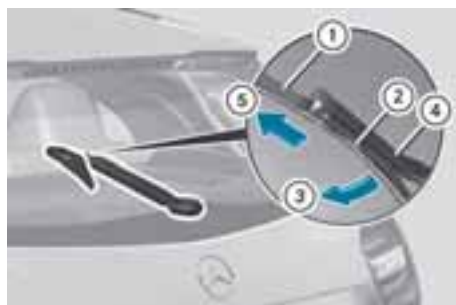


- ▶ 新しいワイパーブレード①の凹部⑥を突起⑤に合わせます。

- ▶ 固定クリップ②がブラケット④に固定されるまで、ワイパーブレード①をワイパーアームの上に矢印③の方向に押します。
- ▶ ワイパーブレード①が、適切に固定されていることを確認します。
- ▶ ワイパーアームをフロントウィンドウの上に下ろして戻します。

リアウインドウのワイパーブレードの交換

ワイパーブレードを取り外す



- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ リアウインドウからワイパーアームを起こします。
- ▶ 両側の解除クリップ②を押します。
- ▶ ワイパーブレード①を、ワイパーアーム④から矢印③の方向に起こします。
- ▶ ワイパーブレード①を矢印⑤の方向に取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける



- ▶ 新しいワイパーブレード①の凹部⑥を突起⑤に合わせます。
- ▶ 固定クリップ②がブラケット④に固定されるまで、ワイパーブレード①をワイパーアームの上に矢印③の方向に押します。
- ▶ ワイパーブレード①が、適切に固定されていることを確認します。
- ▶ ワイパーアームをリアウインドウの上に下ろして戻します。

ワイパーのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
ワイパーが妨げられている。	葉や雪などが、ワイパーの動きを妨げている。ワイパーモーターの作動が停止している。 ▶ 安全上の理由により、エンジンスイッチからキーを抜きます。 ▶ 原因となっている障害物を取り除きます。 ▶ 再度、ワイパーを作動させます。
ワイパーがまったく作動しない。	ワイパーの駆動機構が故障している。 ▶ コンビネーションスイッチの他のワイパーの作動を選択します。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。
噴射ノズルの位置がずれている。	噴射ノズルからのウインドウウォッシャー液がフロントウインドウの中央に当たらなくなっている。噴射ノズルの位置がずれている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で噴射ノズルを調整してください。

役に立つ情報.....	134
エアコンディショナーシステムの 概要.....	134
エアコンディショナーシステムの 操作.....	138
送風口の調整.....	145

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で入手可能な、お客様の車両でのすべての車種、シリーズ、およびオプション装備について記載しています。国により仕様が異なることがあります。記載されているすべての機能が、お客様の車両に装備されていないことがあることにご留意ください。このことは、安全に関するシステムや機能にも当てはまります。

エアコンディショナーシステムの概要

重要な安全上の注意事項

エアコンディショナーの設定は、以降の説明に従って正しく行なってください。さもないと、ウィンドウが曇ります。これにより交通状況が把握できず、事故の原因になります。

- エアコンディショナーの停止は短時間に留めてください。
- 内気循環モードの使用は短時間に留めてください。
- AC モードが作動した状態で使用してください。
- 必要であれば、デフロスターモードを短時間のみ使用してください。

エアコンディショナーは、車内の温度や湿度を制御し、空気中の不快な物質を除去します。

エアコンディショナーはエンジンがかかっているときにのみ作動します。サイドウィンドウやパノラミックスライディングルーフを閉じて走行しているときにのみ、最適な作動が行なわれます。

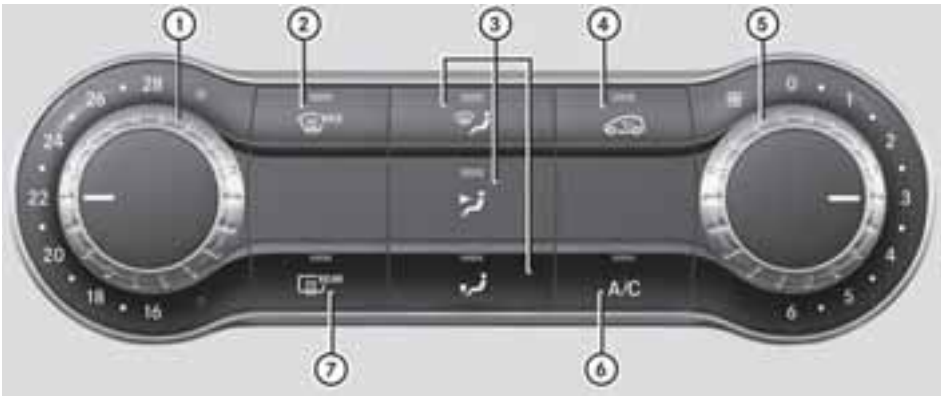
クライメートコントロール（左右独立調整）装備車の余熱ヒーター機能は、イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはエンジンスイッチからキーが抜いてあるときにのみ作動 / 解除することができます。

i 外気温度が高いときは、コンビニエンスオープニング機能（▷90 ページ）を使用して、車内を一時的に換気してください。これにより、好みの車内温度により早く達することができます。

i エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減ることがあります。

i エンジンスイッチからキーを抜いてから約 1 時間経過すると、エアコンディショナーシステムの乾燥のため、余熱ヒーター機能が自動的に約 30 分間作動することがあります。

エアコンディショナーのコントロールパネル



- ① 温度の設定 (▷140 ページ)
- ② デフロスターの作動 / 解除 (▷141 ページ)
- ③ 送風配分の設定 (▷140 ページ)
- ④ 内気循環モードの作動 / 解除 (▷143 ページ)
- ⑤ 送風量の設定 (▷141 ページ)
- ⑥ AC モードの作動 / 解除 (▷139 ページ)
- ⑦ リアデフォグガーの作動 / 停止 (▷143 ページ)

エアコンディショナー使用時の注意事項

エアコンディショナー

以下には、エアコンディショナーを最も効果的にご使用いただくための指示と推奨が含まれています。

- ダイヤル ⑤ を時計回りに好みの位置にまわして、エアコンディショナーを作動させてください。
- 通常は設定温度を 22℃ にすることをお勧めします。
- 外気温度が低いとき、または降雨時にウインドウの曇りを防ぐ推奨位置：送風配分を  に設定し、可能であれば  と  を解除します (▷140 ページ)。

内気循環モード  を解除します (▷143 ページ)。

送風量ダイヤル ⑤ を 3 と 6 の間にします (▷141 ページ)。

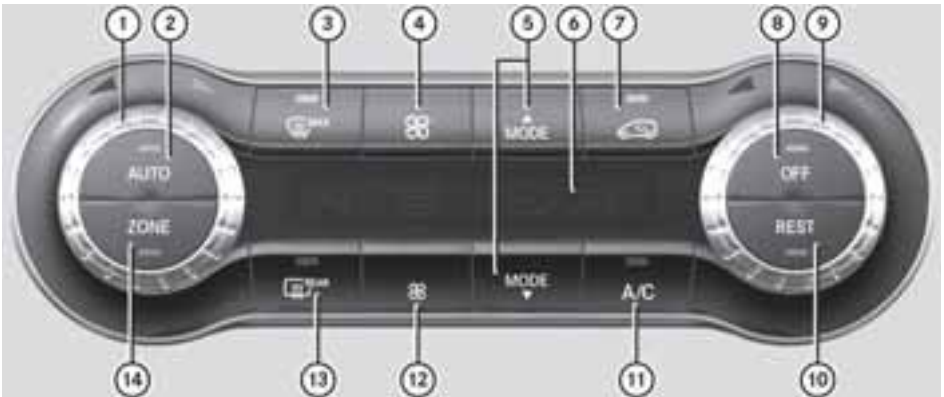
- 車内を急速冷房または急速暖房したい場合の推奨位置：送風量ダイヤル ⑤ を短時間 3 と 6 の間にします (▷141 ページ)。
- 車内の温度を一定にする場合の推奨位置：送風量ダイヤル ⑤ を 1 と 3 の間にします (▷141 ページ)。
- 冬季の送風配分の推奨位置：  または  に設定します (▷140 ページ)。
- 夏季の送風配分の推奨位置：  または  と  に設定します (▷140 ページ)。

- デフロスターモードは、フロントウインドウの曇りが取れるまでのみ、一時的に使用してください。
- 内気循環モードは、外気に不快な臭いがあるときやトンネルの中のと
きなどのみに、一時的に使用してください。さもないと、内気循環モードでは外気が車内に送風されないため、ウインドウが曇るおそれがあります。
- エアコンディショナーの設定を変更したときは、COMAND ディスプレイ下部に、エアコンディショナーの主な作動内容が約 3 秒間表示されます。詳しくは別冊の取扱説明書をご覧ください。

ECO スタートストップ機能

エンジンが自動的に停止しているときは、エアコンディショナーの作動能力が低下します。最大限の能力でエアコンディショナーを作動させたいときは、ECO スタートストップスイッチを押して、ECO スタートストップ機能を解除してください (▶154 ページ)。

クライメートコントロール（左右独立調整）のコントロールパネル



- ① 温度の設定、左側（▷140 ページ）
- ② オートモードの設定（▷139 ページ）
- ③ デフロスターの作動 / 解除（▷141 ページ）
- ④ 送風量を上げる（▷141 ページ）
- ⑤ 送風配分の設定（▷140 ページ）
- ⑥ ディスプレイ
- ⑦ 内気循環モードの作動 / 解除（▷143 ページ）
- ⑧ エアコンディショナーの作動 / 停止（▷138 ページ）
- ⑨ 温度の設定、右側（▷140 ページ）
- ⑩ 余熱ヒーターの作動 / 解除（▷145 ページ）
- ⑪ AC モードの作動 / 解除（▷139 ページ）
- ⑫ 送風量を下げる（▷141 ページ）
- ⑬ リアデフォグガーの作動 / 停止（▷143 ページ）
- ⑭ ゾーン機能の作動 / 停止（▷141 ページ）

クライメートコントロール（左右独立調整）使用時の注意事項

クライメートコントロール（左右独立調整）

以下には、クライメートコントロール（左右独立調整）を最も効果的にご使用いただくための指示と推奨が含まれています。

- **AUTO** および **A/C** スイッチを使用してエアコンディショナーを作動させてください。**AUTO** および **A/C** スイッチ **A/C** の表示灯が点灯します。
- 通常は設定温度を 22℃にすることをお勧めします。
- デフロスターモードは、フロントウインドウの曇りが取れるまでのみ、一時的に使用してください。

- 内気循環モードは、外気に不快な臭いがあるときやトンネルの中のとときなどのみに、一時的に使用してください。さもないと、内気循環モードでは外気が車内に送風されないため、ウインドウが曇るおそれがあります。
- ゾーン機能は運転席側の温度設定を助手席側にも適用させるときに使用してください。[ZONE] スイッチの表示灯が消灯します。
- 余熱ヒーター機能は、エンジンを停止したときに車内を暖めたり、換気するときに使用してください。余熱ヒーター機能はイグニッション位置が0か1のとき、またはエンジンスイッチからキーが抜いてあるときに作動 / 解除することができます。

ECO スタートストップ機能

エンジンが自動的に停止しているときは、エアコンディショナーの作動能力が低下します。最大限の能力でエアコンディショナーを作動させたいときは、ECO スタートストップスイッチを押して、ECO スタートストップ機能を解除してください（▷154 ページ）。

エアコンディショナーシステムの操作

エアコンディショナーシステムの作動 / 停止

ご使用前に守っていただきたい事項

エアコンディショナーシステムが停止すると、送風や内気循環も停止します。この設定は短時間のみ使用してください。さもないと、ウインドウが曇るおそれがあります。

エアコンディショナー

- ▶ **作動させる**：好みの位置（0 の位置を除く）にダイヤル ⑤ を時計回りにまわします（▷135 ページ）。
- ▶ **停止する**：0 の位置にダイヤル ⑤ を反時計回りにまわします（▷135 ページ）。

クライメートコントロール（左右独立調整）

- ▶ **作動させる**：[AUTO] スイッチを押します。[AUTO] スイッチの表示灯が点灯します。送風量と送風配分が自動モードに設定されます。

または

- ▶ [OFF] スイッチを押します。[OFF] スイッチの表示灯が消灯します。以前選択していた設定で再度作動します。

- ▶ **停止する**：[OFF] スイッチを押します。[OFF] スイッチの表示灯が点灯します。

i クライメートコントロール（左右独立調整）は、基本的には [AUTO] スイッチを使用して、エアコンディショナーシステムを作動させてください。

AC モードの作動 / 解除

ご使用前に守っていただきたい事項

"AC モード" 機能が解除されていると、車内の空気は冷却（暖かい気候の間）されません。また、除湿も行なわれません。ウインドウがより早く曇るおそれがあります。そのため、AC モードの解除は短時間に留めてください。

AC モードは、エンジンがかかっているときにのみ使用できます。設定温度に応じて、車内の空気が冷房または除湿されます。

AC モードが作動しているとき、除湿された水分は車体下方に排水されます。これは正常であり、故障の兆候ではありません。

作動と解除

- ▶ **作動させる：**  スイッチを押します。 スイッチの表示灯が点灯します。
- ▶ **解除する：**  スイッチを押します。 スイッチの表示灯が消灯します。AC モードには、少し遅れて解除される機能があります。

AC モードのトラブル

 スイッチを押したときに、表示灯が 3 回点滅するか、消灯したままになります。AC モードを作動できなくなります。

故障により、AC モードが解除されています。

- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場点検を受けてください。

エアコンディショナーシステムをオートモードに設定する

クライメートコントロール（左右独立調整）のみに "オートモード" 機能があります。

オートモードでは、設定温度が一定のレベルで自動的に維持されます。システムが送風温度や送風量、送風配分を自動的に制御します。

オートモードは AC モードが作動しているときに、最適な作動を得ることができます。好みによって、AC モードを解除してください。

"AC モード" 機能が解除されているときは、車内の空気は冷却（暖かい気候の間）されません。また、除湿も行なわれません。ウインドウがより早く曇るおそれがあります。そのため、AC モードの解除は短時間に留めてください。

- ▶ 好みの温度に設定します。
- ▶ **作動させる：**  スイッチを押します。 スイッチの表示灯が点灯します。自動的な送風量と送風配分が作動します。

- ▶ **手動で操作する：**  または  スイッチを押します。

または

- ▶  または  スイッチを押します。 スイッチの表示灯が消灯します。自動的な送風量または送風配分が解除されます。

温度の調整

エアコンディショナー

車内全体の温度を設定できます。

- ▶ **上げる / 下げる**：ダイヤル ① を時計回りまたは反時計回りにまわします (▷135 ページ)。

少しずつ、温度設定を変更してください。22℃から開始してください。

クライメートコントロール（左右独立調整）

運転席および助手席側で異なる温度を設定できます。

- ▶ **上げる / 下げる**：ダイヤル ① または ② を時計回りまたは反時計回りにまわします (▷137 ページ)。

少しずつ、温度設定を変更してください。22℃から開始してください。

送風配分の設定

エアコンディショナー

送風配分の設定

-  デフロスター送風口からの送風になります。
-  中央およびサイド送風口からの送風になります。
-  足元送風口からの送風になります。

- i** 複数の送風配分を同時に作動させることもできます。そのためには、複数の送風配分スイッチを押してください。それにより、異なる送風口を通した送風になります。

送風配分を設定する

- ▶ 、、 スイッチの一つ、または複数を押します。

対応する表示灯が点灯します。

クライメートコントロール（左右独立調整）

送風配分の設定

-  デフロスターおよびサイド送風口からの送風になります。
-  中央およびサイド送風口、同時にデフロスター送風口からの送風になります。
-  足元およびサイド送風口、デフロスター送風口からの送風になります。
-  中央およびサイド送風口からの送風になります。
-  足元およびサイド送風口からの送風になります。
-  中央およびサイド送風口、足元送風口からの送風になります²。

- i** 送風配分の設定にかかわらず、サイド送風口からの送風は常に行なわれます。サイド送風口は、送風口を時計回りに停止するまでまわしたときにのみ、閉じることができます。

- ▶ 好みのマークがディスプレイに表示されるまで、**MODE** または **MODE** スイッチを押します。

2: 特定の国にのみ装備。

送風量の設定

エアコンディショナー

- ▶ **上げる / 下げる**：ダイヤル ⑤ を時計回り、または反時計回りにまわします (▷135 ページ)。

クライメートコントロール (左右独立調整)

- ▶ **上げる / 下げる**： または  スイッチを押します。

ゾーン機能の作動 / 解除

この機能はクライメートコントロール (左右独立調整) でのみ使用できます。

- ▶ **作動させる**： スイッチを押します。

 スイッチの表示灯が点灯します。

運転席側の温度設定は、助手席側には適用されません。

- ▶ **解除する**： スイッチを押します。

 スイッチの表示灯が消灯します。

運転席側の温度設定が、助手席側に適用されます。

フロントウインドウのデフロスター

フロントウインドウの霜取りや、フロントウインドウまたはサイドウインドウの曇り取りに、この機能を使用することができます。

- i** フロントウインドウの曇りが取れるまでのみ、デフロスター機能を選択してください。

- ▶ **作動させる**： スイッチを押します。

 スイッチの表示灯が点灯します。

以下の内容でエアコンディショナーシステムが作動します。

- 外気温度によっては、送風量が上がります。
- 外気温度によっては、送風温度が高くなります。
- フロントウインドウとサイドウインドウへの送風配分になります。
- 内気循環モードが解除されます。

- i** "デフロスター" 機能は、最適な曇り取り効果になるように送風量を自動的に設定します。結果として、スイッチを押した後に送風量が自動的に上がったり、または下がることがあります。

i デフロスター機能が作動しているときに、送風量を手動で調整することができます。

- **エアコンディショナー**：ダイヤル ⑤ を時計回り、または反時計回りにまわします (▶135 ページ)。
- **クライメートコントロール (左右独立調整)**：スイッチ  または  を押します。

▶ **解除する**： スイッチを押します。

 スイッチの表示灯が消灯します。以前選択していた設定が再度作動します。AC モードは作動したままになります。内気循環モードは解除されたままになります。

または

▶ **AUTO** スイッチを押します (クライメートコントロール (左右独立調整) のみ)。

 スイッチの表示灯が消灯します。送風量と送風配分がオートモードに設定されます。

または

▶ **クライメートコントロール (左右独立調整)**：温度ダイヤル ① または ⑨ を時計回りまたは反時計回りにまわします (▶137 ページ)。

ウインドウの曇り取り

ウインドウの内側が曇るとき

エアコンディショナー

- ▶ AC モード  を作動させます。
- ▶ ウインドウが曇り続けるときは、デフロスター機能を作動させます。

i フロントウインドウの曇りが取れるまでのみ、デフロスター機能を選択してください。

クライメートコントロール (左右独立調整)

- ▶ AC モード  を作動させます。
- ▶ オートモード  を作動させます。
- ▶ ウインドウが曇り続けるときは、デフロスター機能を作動させます。

i フロントウインドウの曇りが取れるまでのみ、デフロスター機能を選択してください。

フロントウインドウの外側が曇るとき

▶ フロントウインドウワイパーを作動させます。

▶ 送風配分を  または  に設定します。

i フロントウインドウの曇りが取れるまでのみ、デフロスター機能を選択してください。

リアデフォッガー

作動 / 停止

リアデフォッガーは多くの電力を使用します。そのため、リアウインドウの曇りが取れたらすみやかに停止してください。数分後に自動的に停止します。バッテリーの電圧が低下したときは、リアデフォッガーは停止することがあります。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶  スイッチを押します。

 スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーのトラブル

リアデフォッガーが短時間で停止するか、作動させることができません。

バッテリーが十分に充電されていません。

▶ 読書灯やルームライト、シートヒーターなど、必要でない装備を停止してください。

バッテリーが十分に充電されると、リアデフォッガーは再度作動できるようになります。

内気循環モードの作動 / 解除

内気循環モードを作動させると、特に外気温度が低いときはウインドウが曇りやすくなります。ウインドウの曇りを避けるため、内気循環モードの作動は短時間に留めてください。

不快な臭いが車外から車内に入ってくるときは、車外の空気の送風を停止できます。車内にある空気が循環されます。

内気循環モードの操作はいずれのコントロールパネルでも共通です。

▶ **作動させる**： スイッチを押します。

 スイッチの表示灯が点灯します。

i 外気温度が高いときは、自動的に内気循環モードが作動します。自動的に内気循環モードが作動したときは、 スイッチの表示灯は点灯しません。

約 30 分後に、外気が追加されます。

▶ **解除する**： スイッチを押します。

 スイッチの表示灯が消灯します。

i 内気循環モードは以下のときに自動的に解除されます。

- 外気温度が約 5℃ 以下のときは約 5 分後
- AC モードが解除されているときは約 5 分後
- 外気温度が約 5℃ 以上のときは約 30 分後

内気循環スイッチを使用時のコンビニエンスオープニング機能 / クロージング機能

⚠ 警告

コンビニエンスクロージング機能を作動させているときは、身体の一部がサイドウィンドウやスライディンググループの閉じている範囲に挟まれることがあります。けがの危険性があります。

コンビニエンスクロージング機能を作動させているときは、作動が完全に閉じるまで確認してください。閉じているときは、閉じている範囲に身体の一部が入っていないことを確認してください。

⚠ 警告

コンビニエンスオープニング機能が作動している間は、サイドウィンドウとドアフレームとの間に身体の一部が引き込まれたり、挟まれることがあります。けがの危険性があります。開いているときは、サイドウィンドウに何も触れていないことを確認してください。挟まれる危険性があるときは、ただちに  スイッチを操作してください。サイドウィンドウが停止します。引き続きサイドウィンドウを閉じるときは、 スイッチを引きます。

- ▶ **コンビニエンスクロージング機能：**サイドウィンドウとパノラミックスライディンググループが閉じるまで、内気循環  スイッチを押して保持します。

 スイッチの表示灯が点灯します。内気循環モードが作動します。

コンビニエンスクロージング機能の作動中に、閉じている範囲に身体の一部が入ったときは、以下の操作を行ってください。

- ▶  スイッチを押します。
サイドウィンドウが停止します。
- ▶ その後サイドウィンドウを開くときは、 スイッチを再度押します。
- ▶  スイッチを押します。
パノラミックスライディンググループが停止します。
- ▶ その後パノラミックスライディンググループを開くときは、 スイッチを再度押します。
- ▶ 内気循環  スイッチを再度 2 秒以上押します。
サイドウィンドウが逆方向に動きまします。
- ▶ **コンビニエンスオープニング機能：**サイドウィンドウとパノラミックスライディンググループが開くまで、内気循環  スイッチを押して保持します。サイドウィンドウとパノラミックスライディンググループが元の位置まで動いて戻ります。

 スイッチの表示灯が消灯します。内気循環モードが解除されます。

- i** コンビニエンスクロージング機能で閉じた後に、サイドウィンドウまたはパノラミックスライディングルーフを手動で開いたときは、次にコンビエンスオープニング機能を使用して開いたときに、この箇所は動きません。

余熱ヒーター機能の作動 / 解除

余熱ヒーター機能は、クライメートコントロール（左右独立調整）でのみ使用できます。

エンジンを停止した後に、最大 30 分間、停止した車両を暖め続けるためにエンジンの余熱を使用することができます。暖房時間は設定した温度によります。

- i** 送風量の設定に関わらず、送風は低い設定で行なわれます。
- i** 高い気温のときに余熱ヒーター機能を作動させたときは、換気のみが作動します。送風は中ぐらいの設定で行なわれます。

▶ イグニッション位置を **0** か **1** にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ **作動させる**： スイッチを押します。

 スイッチの表示灯が点灯します。

▶ **解除する**： スイッチを押します。

 スイッチの表示灯が消灯します。

- i** 以下のときは、余熱ヒーター機能が自動的に解除されます。
- 約 30 分後
 - イグニッション位置を **2** にしたとき
 - バッテリーの電圧が低下したとき

送風口の調整

重要な安全上の注意事項

警告

送風口からは、非常に熱い、または非常に冷たい送風が行なわれることがあります。この結果、送風口のすぐ近くでは火傷やしもやけの原因になるおそれがあります。けがの危険性があります。

すべての乗員と送風口との間には常に十分な距離が確保されていることを確認してください。必要であれば、車内の他の場所に送風を向けてください。

車内の送風口を通して外気を送風するために、以下の点に注意してください。

- フロントウィンドウとボンネットとの間の吸気口が、氷、雪、または葉などで覆われていないこと
 - 車内の送風口や排気グリルが覆われていないこと
- i** 送風方向を設定するために、送風口を好みの方向に動かすことができます。

i 最適なエアコンディショナーシステムの機能は、送風口が完全に開いているとき、また送風口が中央の位置に調整されているときに得ることができます。

中央送風口の調整



- ▶ **中央送風口を開く**：いずれかの中央送風口 ① をつまんで、反時計回りにまわします。
- ▶ **中央送風口を閉じる**：いずれかの中央送風口 ① をつまんで、停止するまで時計回りにまわします。

▶ **サイド送風口を開く**：サイド送風口 ② をつまんで、③ の位置まで反時計回りにまわします。

▶ **サイド送風口を閉じる**：サイド送風口 ② をつまんで、④ の位置に停止するまで時計回りにまわします。

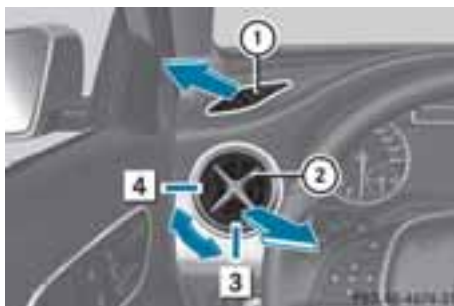
リア送風口の調整



- ① リア送風口、左
- ② リア送風口、右
- ③ リア送風口ダイヤル

▶ **開く / 閉じる**：ダイヤル ③ を上または下にまわします。

サイド送風口の調整



- ① サイドウインドウのデフロスター送風口
- ② サイド送風口

役に立つ情報	148
慣らし運転	148
走行	148
オートマチックトランスミッション	
	157
燃料の給油	165
駐車	168
走行時の注意	171
走行装備	176

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で入手可能な、お客様の車両でのすべての車種、シリーズ、およびオプション装備について記載しています。国により仕様が異なることがあります。記載されているすべての機能が、お客様の車両に装備されていないことがあることにご留意ください。このことは、安全に関するシステムや機能にも当てはまります。

- エンジン回転数がタコメーターのレッドゾーン（許容限度）の2/3を超えないように、適切なギアシフト操作を行なって走行してください。
- マニュアルギアシフトでのシフトダウン操作によりエンジンブレーキを効かせないでください。
- アクセルペダルをいっぱいまで踏み込む操作は避けてください（キックダウン）。

約 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

i エンジンや駆動系部品の交換を行ったときも、上記の注意事項を守って慣らし運転を行なってください。

慣らし運転

重要な安全上の注意事項

新品のブレーキパッド / ライニングは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。この期間は、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏み、制動力を補ってください。

最初の約 1,500km まで

最初に十分注意してエンジンを取り扱うことにより、その後、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

- 最初の約 1,500km までは、速度と回転数を変えて走行してください。
- アクセルペダルをいっぱいに踏み込むなど、エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。

走行

重要な安全上の注意事項

警告

運転者の足元にある物は、ペダルの動きを制限したり、ペダルを踏むことを妨げるおそれがあります。車両の操作や走行安全性が危うくなります。事故の危険性があります。

車両内のすべての物が適切に収納され、運転者の足元に入り込まないことを確認してください。フロアマットは確実に、およびペダルに十分な間隔を確保できるように装着してください。固定されていないフロアマットは使用しないでください。

⚠ 警告

以下のような不適切な履物はペダルの適切な使用を妨げるおそれがあります。

- 厚い底の靴
- 高いヒールの靴
- スリッパ

事故の危険性があります。

ペダルの適切な使用を確保するために、適切な履物を着用してください。

⚠ 警告

走行している間にエンジンを停止すると、安全に関連した機能が制限付きでのみ使用できるか、または完全に使用できなくなります。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキブースターの機能に影響を与えるおそれがあります。ステアリングやブレーキの操作に非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行している間はエンジンを停止しないでください。

⚠ 警告

走行している間にパーキングブレーキが完全に解除されていない場合は、パーキングブレーキが以下になるおそれがあります。

- 過熱、およびそれによる火災
- 制動能力の喪失

火災や事故の危険性があります。走行する前に、パーキングブレーキを完全に解除してください。

❗ 暖機運転は素早く行なってください。エンジンが暖まっていないときは、エンジン出力を最大まで使わないでください。

シフト操作は、完全に停車して行なってください。

滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪を空転させないように穏やかにアクセルペダルを操作してください。さもないと、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

イグニッション位置



- 0 キーを抜く位置
- 1 ワイパーなど複数の電気装備に電源を供給する位置
- 2 イグニッション（すべての電気装備への電源供給）および運転するときの位置
- 3 エンジンを始動する位置

i 異なる車両のキーを差し込んだときも、エンジンスイッチをまわせることがあります。ただし、エンジンスイッチの位置は選択できません。エンジンの始動はできません。

エンジンの始動

重要な安全上の注意事項

警告

車の排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を引き起こします。死亡する危険性があります。そのため、密閉された場所では、エンジンをかけたままにしないでください。

警告

環境の影響により、または動物によりもたらされた可燃物が排気システムや熱くなったエンジン部品に触れると、発火するおそれがあります。火災の危険性があります。

エンジンルームや排気システムに可燃物がないことを、定期的に点検してください。

! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

i エンジンが冷えている状態でエンジンを始動したときは、触媒コンバーターをより早く作動温度にするために、より高いエンジン回転数でエンジンが作動します。この結果、エンジン音が変わることがあります。

▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。

マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示に **P** が表示されます。

i トランスミッションがポジション **N** のときも、ブレーキペダルを踏んでエンジンを始動することができません。

始動手順

▶ エンジンスイッチ (▷149 ページ) のキーを **3** の位置にまわして、エンジンが始動したらすぐに放します。

発進

i トランスミッションをポジション **P** から好みのポジションにシフトするためには、ブレーキペダルを踏む必要があります。その後にシフトロックが解除されます。ブレーキペダルを踏んでいないときは、DIRECT SELECT レバーの操作はできませんが、シフトロックは解除されません。

i トランスミッションオイルの温度が -20°C 以下のときは、エンジンがかかっているときにのみ、トランスミッションをポジション **P** から他のポジションにシフトできます。

▶ ブレーキペダルを踏み、そのまま保持します。

▶ トランスミッションをポジション **D** または **R** にシフトします。

▶ ブレーキペダルから足を放します。

▶ アクセルペダルを注意しながら踏み込みます。

電気式パーキングブレーキが自動的に解除されます。

メーターパネルの赤色のパーキングブレーキ表示灯  が消灯します。

- i** 発進すると、車が自動的に施錠されます。ドアのロックノブが下がります。

ドアは車内からいつでもロックを解除して開くことができます。

また、車速感应ドアロックを解除することもできます (▷85 ページ)。

- i** エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正な作動温度に達します。

パーキングブレーキ作動時からの発進



上り坂での発進時に後方に下がることがないように、電気式パーキングブレーキを効かせてください。

- ▶ ハンドル ① を押して、保持します。

電気式パーキングブレーキが効き、車が後方に下がることを防止します。

メーターパネルに赤色のパーキングブレーキ表示灯  が点灯します。

- ▶ アクセルペダルを踏み込みます。
- ▶ 車が動き出したら、すみやかにハンドル ① を放します。

電気式パーキングブレーキが解除されます。

メーターパネルの赤色のパーキングブレーキ表示灯  が消灯します。

- i** 電気式パーキングブレーキについて、詳しくは (▷169 ページ) をご覧ください。

ヒルスタートアシスト

警告

ヒルスタートアシストは、短時間で車へのブレーキ力がなくなるため、発進するおそれがあります。事故やけがの危険性があります。

そのため、ブレーキペダルからアクセルペダルに素早く足を動かしてください。ヒルスタートアシストで車を停止させているときは、決して車から離れないでください。

ヒルスタートアシストは、坂道発進時に車が後退または前進することを防ぎ、運転者の発進操作を補助します。ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが車を停止したまま保持します。そのため、車が動き出す前に、ブレーキペダルからアクセルペダルへ余裕を持って踏みかえることができます。

- ▶ ブレーキペダルから足を放します。

車両はその後約 1 秒間停止します。

- ▶ 発進します。

ヒルスタートアシストは以下のときは作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- トランスミッションがポジション N のとき

- 電気式パーキングブレーキが効いているとき
- ESP® が故障しているとき

上り坂で車両を停止したままにすることに関する情報は（▶160 ページ）をご覧ください。

ECO スタートストップ機能

重要な安全上の注意事項

警告

エンジンが自動的に停止しているときに車から離れると、エンジンは自動的に再始動します。車が動き出します。事故やけがの危険性があります。

車から離れるときは、常にイグニッション位置を **0** にして、車が動き出さないように固定してください。

全体的な注意事項

ECO スタートストップ機能は、車両が停止すると、自動的にエンジンを停止します。

再び発進しようとする、自動的にエンジンが始動します。ECO スタートストップ機能は、燃料消費と排出ガスを低減させます。

キーによりエンジンを始動するたびに、ECO スタートストップ機能が作動します。

マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター **ECO** が表示されている場合は、システムは操作可能です。ECO スタートストップ機能が手動で解除されたとき、または故障によりシステムが解除されているときは、ECO インジケーター **ECO** は表示されません。

エンジンの自動停止

全体的な注意事項

ECO スタートストップ機能は以下のときに作動し、マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター **ECO** が表示されます。

- ECO スタートストップスイッチの表示灯が緑色に点灯しているとき
- 外気温度がシステムに適した範囲内にあるとき
- エンジンが正常な作動温度にあるとき
- 車内の温度がエアコンディショナーの作動温度になっているとき
- バッテリーが十分に充電されているとき
- エアコンディショナーが作動しているときに、システムがフロントウィンドウの曇りを検知していないとき
- ボンネットが閉じているとき
- 運転席ドアが閉じていて、運転席側のシートベルトのバックルが差し込まれているとき

エンジン自動停止のためのすべての条件がそろっていないときは、ECO インジケーター **ECO** は表示されません。

i エンジンが自動的に停止したときも、車両のすべてのシステムは作動したままになります。

i エンジンは連続して最大 4 回（最初の停止と、それに続く 3 回の停止）まで自動的に停止します。その後は、マルチファンクションディスプレイに再度 ECO インジケーター **ECO** が表示された後に、エンジンの自動停止は使用可能になります。

ポジション **D** か **N** で、車両にブレーキが効いて停車しているときに、ECO スタートストップ機能は自動的にエンジンを停止します。

i 車が停車していてエンジンが自動停止しているときは、ホールド機能を作動させることができます。その場合はブレーキを効かせ続ける必要はありません。アクセルペダルを踏むとエンジンが自動的に始動し、ホールド機能のブレーキ作動は解除されます。最初にエンジンを始動させる必要があるため、アクセルペダルは静かに踏み込んでください。

エンジンの自動再始動

全体的な注意事項

エンジンは以下のときに自動的に始動します。

- ECO スタートストップスイッチを押して、ECO スタートストップ機能を解除したとき
- リバース **R** にシフトしたとき
- 車両が動き出したとき
- ブレーキシステムが要求したとき
- 車内の温度が作動温度になっていないとき

- エアコンディショナーが作動しているときに、システムがフロントウィンドウの曇りを検知したとき

- バッテリーの充電状態が低すぎるとき

- 運転席の乗員がシートベルトを外すか、運転席ドアを開いたとき

エンジンは以下の操作を行なうと自動的に始動します。

- ホールド機能が作動していない状態で、トランスミッションがポジション **D** または **N** のときに、ブレーキペダルから足を放したとき、または

- アクセルペダルを踏んだとき、または

- トランスミッションをポジション **P** 以外にしたとき

i トランスミッションをポジション **P** にしても、エンジンは始動しません。

i トランスミッションをポジション **R** から **D** にすると、マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター **ECO** がすぐに表示され、ECO スタートストップ機能が再び使用可能になります。

ECO スタートストップ機能の解除 / 作動



ECO スタートストップスイッチ

エンジンを停止したときに ECO インジケータ **ECO** が表示されているときは、エンジンが自動的に停止しています。その場合でも、車両のすべてのシステムは機能しています。

▶ 解除する：スイッチ ① を押します。

スイッチ ① の表示灯 ② とマルチファンクションディスプレイの ECO インジケータ **ECO** が消えます。

▶ 待機状態にする：スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が点灯します。エンジン自動停止のすべての条件（▶152 ページ）がそろっているときは、マルチファンクションディスプレイに ECO インジケータ **ECO** が表示されます。

ECO スタートストップ機能のすべての作動条件がそろっていないときは、マルチファンクションディスプレイには ECO インジケータ **ECO** は表示されません。この場合には、ECO スタートストップ機能は使用できません。

i 表示灯 ② が消灯しているときは、ECO スタートストップ機能は手動または故障により作動が解除されています。停車しても、エンジンは自動的に停止しません。

エンジンのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
エンジンが始動しない。	ホールド機能またはディストロニック・プラスが作動している。 ▶ ホールド機能（▷193 ページ）またはディストロニック・プラス（▷182 ページ）を解除してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がする。	- エンジンの電気システムに異常がある。 - 燃料供給に異常がある。 ▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチを 0 の位置にまわしてください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 何度始動を試みても、エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がする。燃料残量警告灯が点灯し、燃料計の指針が 0 を示している。	燃料タンクが空になっている。 ▶ 給油してください。
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低くなっている。 ▶ ジャンプスタートしてください（▷318 ページ）。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 過度の負荷によりスターターモーターが過熱している。 ▶ スターターが冷えるまで、約 2 分間待ってください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。 ▶ アクセルペダルを静かに踏み込んでください。 未燃焼の燃料が触媒に入り、損傷するおそれがあります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
冷 却 水 温 度 が 約 120℃を超えている。 冷却水警告灯が点灯し、警告音も鳴った。	リザーブタンクの冷却水量が非常に不足している。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ すみやかに安全に停車して、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、必要であれば、冷却水補給時の注意事項を読んでから、冷却水を補給してください（▶293ページ）。
	冷却水量が正常なときは、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで運転してください。 ▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。

オートマチックトランスミッション

重要な安全上の注意事項

 警告

エンジン回転数がアイドリング以上のときに、トランスミッションのポジションを **D** または **R** にした場合は、車両が急に発進するおそれがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションのポジションを **D** または **R** にするときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、アクセルペダルは同時に踏まないでください

 警告

エンジンを停止したときは、オートマチックトランスミッションが自動的にニュートラル **N** に切り替わります。車両が動き出すことがあります。事故の危険性があります。

エンジンを停止した後は、必ずパーキングポジション **P** に切り替えてください。停車した車両が動き出さないように、パーキングブレーキを効かせてください。

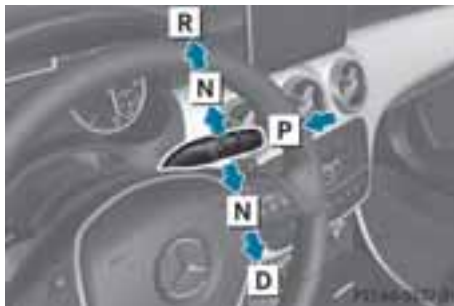
i エンジンを停止すると、エンジンとトランスミッションの間の動力伝達が中断されることに留意してください。車が動き出すことを防ぐため、以下のようにしてください。

- エンジンを停止して車を停車しているときは、車が動き出すことを防ぐため、トランスミッションをパーキングポジション **P** にシフトしてください。そして、
- 電気式パーキングブレーキを効かせてください。

DIRECT SELECT レバー

シフトポジションの概要

DIRECT SELECT レバーは、ステアリングの右側にあります。



P パーキングロック付きパーキングポジション

R リバース

N ニュートラル

D ドライブ

i DIRECT SELECT レバーから手を放すと、自動的に中立の位置に戻ります。現在のトランスミッションのポジション **P**、**R**、**N** または **D** は、マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示 (▷158 ページ) に表示されます。

トランスミッションのシフトポジションと走行モードの表示

現在のトランスミッションのシフトポジションと走行モードは、マルチファンクションディスプレイに表示されます。



- ① トランスミッションのシフトポジション表示
- ② 走行モード表示

i シフトポジション表示の矢印は、DIRECT SELECT レバーで選択できるシフトポジションとその方向を示しています。

! マルチファンクションディスプレイにトランスミッションのシフトポジションが表示されないときは、選択したシフトポジションにあるかどうかを調べるために慎重に発進してください。理想的には、トランスミッションのシフトポジションは **D**、走行モードは **E** または **S** を選択してください。

パーキングポジション P に入れる

- ▶ DIRECT SELECT レバーを矢印 **P** の方向に押します。

マルチファンクションディスプレイにトランスミッションのポジション **P** が表示されます。

i トランスミッションのポジションを **P** に入れたときは、マルチファンクションディスプレイにトランスミッションのポジション **P** が表示されていること確認してください。

i 車が停車しているときにのみ、パーキングポジション **P** に入れることができます。

i 以下のときは、自動的にパーキングポジション **P** にシフトされます。

- 車が停車していて、トランスミッションがポジション **D** か **R** のときに運転席ドアを開いた場合
- ごく低速で走行していて、トランスミッションがポジション **D** か **R** のときに運転席ドアを開いた場合

i ブレーキペダルを踏み、DIRECT SELECT レバーを上または下に操作すると、パーキングロックが解除されます。トランスミッションがニュートラル **N** にシフトします。

トランスミッションオイルの温度が -20°C 以下のときは、エンジンがかかっているときにのみ、トランスミッションをパーキングポジション **P** から他のポジションにシフトできます。

トランスミッションをパーキングポジション **P** から直接 **D** か **R** にシフトするには、以下のようにします。

- ブレーキペダルを踏みます。そして、
- DIRECT SELECT レバーを上または下に抵抗がある位置を越えて押します。

! エンジン回転数が高すぎるときや走行中は、**D** から直接 **R**、または **R** から直接 **D** か **P** にシフトしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

リバースギア R に入れる

! 必ず停車してからトランスミッションを **R** にシフトしてください。

i リバースギア **R** に入っているときは、ECO スタートストップ機能は待機状態になりません。

ECO スタートストップ機能について、詳しくは (▷152 ページ) をご覧ください。

- ▶ 車が停車しているときに、ブレーキペダルを踏みます。
- ▶ DIRECT SELECT レバーを、抵抗がある位置を越えて上に押します。

ニュートラル N にシフトする

- ▶ DIRECT SELECT レバーを、抵抗がある位置まで上または下に押します。

ドライブポジション D に入れる

- ▶ 車が停車しているときに、ブレーキペダルを踏みます。
- ▶ DIRECT SELECT レバーを、抵抗がある位置を越えて下に押します。

シフトポジション

P パーキングポジション

停止中に車両が動き出すことを防ぎます。停車しているとき以外はトランスミッションをポジション **P** にシフトしないでください。

R リバースギア

停車しているときにのみ、トランスミッションを **R** にシフトしてください。

N ニュートラル

エンジンから駆動輪に動力が伝達しません。

この位置でブレーキを緩めると、押したりけん引してもらうことで車を移動できます。

ESP® の機能が解除されているときや異常がある場合は、凍結路などで車がスリップする危険があるときにのみ、トランスミッションを **N** にシフトしてください。

エンジンを停止すると、オートマチックトランスミッションが自動的にニュートラル **N** にシフトします。

D ドライブ

オートマチックトランスミッションが自動変速します。すべての前進ギアを使用できます。

ギアシフト操作

オートマチックトランスミッションは、トランスミッションのポジションが **D** のときに自動的に変速を行いません。ギアシフトは以下により決定されます。

- 選択された走行モード (▷160 ページ)
- アクセルペダルの踏み具合
- 走行速度

運転のヒント

アクセルペダルの位置

アクセルペダルの踏み加減に応じて、ギアが変速するタイミングが以下のように変化します。

- 軽く踏んだときは、シフトアップするタイミングが早くなります。
- 深く踏み込んだときは、シフトアップするタイミングが遅くなります。

上り坂で車両を停止したままにする

警告

クラッチが過熱すると、電子制御システムは自動的に解除されます。これにより、トランスミッションへの動力伝達が遮断されます。たとえば、坂道では車両が後方に動き出すことがあります。事故の危険性があります。

上り坂では、アクセルペダルを踏むことにより車両を停止させたままにしないでください。

上り坂でアクセルペダルを踏むことにより車両を停止させたままにすると、クラッチが過熱することがあります。クラッチが過熱すると警告音が鳴ります。マルチファンクションディスプレイに**エンジン**は止めずに **停車してPにシフトして下さい**というディスプレイメッセージが表示されます。クラッチが冷却して、マルチファンクションディスプレイのディスプレイメッセージが消えた後にのみ、走行を継続することができます。

上り坂では、アクセルペダルを踏むことにより車両を停止したままにしないでください。

その代わりに、上り坂では以下によってのみ車を静止させてください。

- ブレーキペダルを踏む
- ホールド機能を作動させる
- 電気式パーキングブレーキを効かせる

キックダウン

急な加速が必要な場合はキックダウンを行ないます。

- ▶ アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速します。

- ▶ 希望する速度に達したら、アクセルペダルをゆるめます。

自動変速に戻ります。

走行モード

全体的な注意事項

走行モード選択スイッチにより、異なる走行特性の走行モードを選択することができます。



走行モード選択スイッチの例

E エコノミー	快適で経済的な走行
S スポーツ	スポーティな走行スタイル
M マニュアル	マニュアルギアシフト

▶ マルチファンクションディスプレイに希望する走行モードが表示されるまで、走行モード選択スイッチ ① を繰り返し押しします。

i エンジンを開始すると、オートマチックトランスミッションの走行モードは常に **E** に設定されます。

i オートマチックギアシフトについて、詳しくは (▶161 ページ) をご覧ください。

パドルシフト



① 左側パドルシフト (シフトダウン)

② 右側パドルシフト (シフトアップ)

走行モードが **M** のときは、ステアリングのパドルシフトを使用して、ギアをマニュアルで選択できます。

走行モードが **E** または **S** のときは、左側または右側のパドルシフトを引くと、オートマチックトランスミッションの走行モードが一定時間 **M** になります。パドルシフトの操作に応じて、オートマチックトランスミッションはただちにシフトダウンまたはシフトアップします。

i パドルシフトによるギアシフト操作は、トランスミッションがポジション **D** のときにのみ行なえます。

i マニュアルギアシフトについて、詳しくは (▶162 ページ) をご覧ください。

オートマチックギアシフト

走行モードが **E** のときは、以下のようになります。

- 快適性を重視したエンジン制御になります。
- シフトアップが早めに行なわれるため、燃料の余分な消費が抑えられます。
- 前進・後退ともに、アクセルペダルをいっぱいまで踏み込まないときは、穏やかに発進します。
- 滑りやすい路面などでの車両操縦性や走行安定性が向上します。
- オートマチックトランスミッションが早めにシフトアップするため、エンジン回転数が低く抑えられ、車輪が空転しにくくなります。

走行モードが **S** のときは、以下のようになります。

- スポーツ性を重視したエンジン制御になります。

- オートマチックトランスミッションが遅めにシフトアップします。
- シフトアップが遅めに行なわれるため、エンジン回転数が高くなり、燃料をより多く消費します。

マニュアルギアシフト

はじめに

走行モードが **M** のときは、パドルシフトを使用してギアをマニュアルで選択できます。このときはトランスミッションをポジション **D** にしてください。選択され変速された現在のギアがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

走行モードが **M** のときは、走行モードが **E** または **S** のときに比べて、ギアシフトの変速タイミングやレスポンス、スムーズさに関する違いがあります。

ギア	走行状況
3	エンジンブレーキを効かせるために使用
2	下り坂で以下のような走行をしているときに、エンジンブレーキを効かせるために使用 • 急な坂道 • 山道 • 過酷な状況
1	非常に急な下り坂や長い下り坂などでエンジンブレーキを効かせるために使用

マニュアルギアシフトの作動

常時作動させる

- ▶ マルチファンクションディスプレイに **M** が表示されるまで、走行モード選択スイッチを繰り返し押します。

走行モードを **E** または **S** にするまで、マニュアルギアシフト **M** が作動します。

一時的に作動させる

- ▶ 左側または右側のパドルシフトを引きます。

マルチファンクションディスプレイに **M** が表示されます。マニュアルギアシフト **M** が一時的に作動します。パドルシフトの操作に応じて、オートマチックトランスミッションはただちにシフトダウンまたはシフトアップします。

- i** パドルシフトによりマニュアルギアシフトが作動しているときは、走行状況に応じて、一時的に作動させたマニュアルギアシフト **M** は一定時間経過後に自動的に解除されます。この場合、オートマチックトランスミッションの走行モードは、以前選択していた **E** または **S** になります。下り坂を走行しているときは、一時的に作動させたマニュアルギアシフト **M** は、車両が下がっているときにアクセルペダルを踏んだときにのみ解除されます。

シフトアップする

- ▶ 右側のパドルシフトを引きます。
オートマチックトランスミッションがシフトアップします。
- i** エンジンの損傷を防ぐため、以下のときは、オートマチックトランスミッションは自動的にシフトアップします。
 - ギアレンジに対応するエンジンの許容回転数に達し、そして、
 - さらに加速を続けたとき

シフトダウンする

- ▶ 左側のパドルシフトを引きます。
オートマチックトランスミッションがシフトダウンします。
- i** シフトダウンをしないで減速するか停止したときは、オートマチックトランスミッションは、自動的にシフトダウンします。
- i** 最大限の加速をしたい場合は、トランスミッションが現在の走行速度に見合ったギアを選択するまで、左側のパドルシフトを引きます。
- i** シフトダウン操作によりエンジンの許容回転数を超えるおそれがあるときは、エンジン保護のため、シフトダウンされません。

キックダウンする

マニュアルギアシフト **M** のときにも、キックダウンを行なうことができます。

- ▶ アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速します。

- ▶ 希望する速度に達したら、元のギアに変速します。

i キックダウンを行なっている間は、パドルシフトを使用してシフト操作をすることはできません。

i アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込んだときは、エンジンの許容回転数に達すると自動的にシフトアップします。これにより、エンジンの損傷を防ぎます。

マニュアルギアシフトを解除する

- ▶ マルチファンクションディスプレイに **E** または **S** が表示されるまで、走行モード選択スイッチ (▷160 ページ) を繰り返し押します。

一時的に作動させたマニュアルモードを解除する

- ▶ マルチファンクションディスプレイに、以前選択していた走行モードの **E** または **S** が表示されるまで、右側のパドルシフトを引きます。
- i** マニュアルギアシフト **M** を解除すると、オートマチックトランスミッションの走行モード **E** または **S** により、現在のギアからシフトアップまたはシフトダウンすることがあります。これはアクセルペダルの踏み加減と走行速度、負荷により異なります。

オートマチックトランスミッションのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。 リバースギアに変速できない。	トランスミッションがエマージェンシーモードになっている。 ▶ 停車します。 ▶ トランスミッションをポジション P にします。 ▶ エンジンを停止します。 ▶ エンジンを再始動する前に、少なくとも約 10 秒間待ちます。 ▶ トランスミッションをポジション D にします。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

燃料の給油

重要な安全上の注意事項

 警告

燃料は高い可燃性です。燃料を不適切に取り扱うと、火災や爆発の危険性があります。

火気や裸火、火花、喫煙を避けてください。燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

 警告

燃料には毒性があり、死に至る危険性があります。命にかかわるおそれがあります。

燃料を飲み込んだり、燃料が肌や目または衣服に直接に触れないようにしてください。気化した燃料を吸い込まないでください。燃料は子供の手の届く場所に置かないでください。運転者や他の方が燃料に触れた場合は、以下のようにしてください。

- ただちに水と石鹼で、燃料に触れた部分の肌を洗い、燃料を取り除いてください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で燃料を完全に洗い流してください。ただちに医師の診断を受けてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診断を受けてください。無理に吐かせないでください。
- 燃料が衣服に付着した場合は、ただちに着替えてください。

 警告

静電気の帯電は火花の原因になり、それにより、気化した燃料が発火するおそれがあります。火災や爆発の危険性があります。

燃料給油フラップを開いたり、燃料ポンプに触れる前は、常に車のボディに触れてください。これにより、帯電した静電気を放電します。

! 誤って指定以外の燃料を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。さもないと、誤った燃料が燃料系部品全体にまわるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料装置から燃料を完全に抜き取ってください。

! 燃料を入れすぎると、燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。

! 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。さもないと、塗装面を損傷するおそれがあります。

! 燃料携行缶から燃料を補給するときは、フィルターを使用してください。燃料携行缶に付着した微粒子によって、燃料系の配管や燃料噴射システムの部品が詰まるおそれがあります。

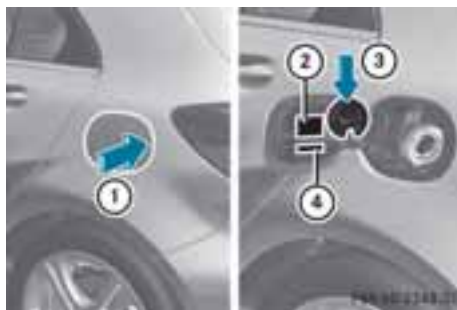
給油作業中は車内に戻らないでください。さもないと、静電気が帯電するおそれがあります。

燃料を入れすぎると、給油ノズルを抜いたときに燃料が噴き出すおそれがあります。

燃料および燃料の品質についてのさらなる情報は（▷355 ページ）をご覧ください。

燃料を給油する

燃料給油口の開閉



- ① 燃料給油フラップを開く
- ② タイヤ空気圧ラベル
- ③ キャップを差し込む
- ④ 使用燃料ラベル

キーを使用して車を解錠または施錠すると、燃料給油フラップも自動的に解錠 / 施錠されます。

メーターパネル内には、給油口の位置を示す  が表示されています。給油ノズルの横の矢印は、給油口の取り付け位置を示しています。

開く

- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ 燃料給油フラップを矢印 ① の方向に押します。

燃料給油フラップが少し開きます。

- ▶ キャップを反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ 外したキャップを燃料給油フラップ ③ の裏側にあるホルダーに差し込みます。
- ▶ 給油ノズルをタンクにいっぱいまで差し込んで固定し、給油を開始します。
- ▶ 給油ノズルが自動停止した時点で給油を停止します。
- i** 給油ノズルの自動停止後は、それ以上補給しないでください。さもないと、燃料があふれるおそれがあります。

閉じる

- ▶ キャップを燃料給油口に合わせ、カチッという音がするまで時計回りにまわします。
- ▶ 燃料給油フラップを閉じます。
- i** 車両を施錠する前に燃料給油フラップを閉じてください。

燃料と燃料タンクのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
燃料が漏れている。	燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。  警告 爆発または火災の危険性があります。 ▶ ただちにイグニッション位置を 0 にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。 または キーの電池が消耗している。 ▶ 車を解錠してください (▷79 ページ)。 または ▶ エマージェンシーキーを使用して解錠してください (▷85 ページ)。 燃料給油フラップは解錠されるが、給油フラップの開閉機構に異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

駐車

重要な安全上の注意事項

警告

葉や草、小枝などの燃えやすい物が熱くなった排気システムの部品に長時間触れ続けた場合は、発火する危険性があります。火災の危険性があります。

燃えやすい物が、熱くなった車両部品に触れないように車両を駐車してください。乾いた草地や畑などには駐車しないように、特に注意してください。

警告

車内に子供のみを残したままにすると、以下のようなことをするおそれがあります。

- パーキングブレーキを解除する
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** 以外にシフトする
- エンジンを開始する

車両の装備を操作するおそれもあります。事故やけがの危険性があります。

車両を離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。車内に子供のみを残したままにしないでください。

! 車両が動かないように、常に適切に固定してください。さもないと、車両または駆動系部品が損傷するおそれがあります。

車両が意図せずに動き出すことを防ぐために、以下のことを確認してください。

- 電気式パーキングブレーキを必ず効かせる
- トランスミッションがポジション **P** になっていて、マルチファンクションディスプレイにポジション **P** が表示されている
- 必ずエンジンスイッチからキーを抜く
- 坂道では前輪を歩道の縁石に向ける

エンジンの停止

重要な安全上の注意事項

警告

エンジンを停止したときは、オートマチックトランスミッションはニュートラルポジション **N** に切り替わります。車両が動き出すことがあります。事故の危険性があります。

エンジンを停止した後は常に、パーキングポジション **P** に切り替えてください。パーキングブレーキを効かせて、駐車した車両が動き出さないようにしてください。

- ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせします。
- ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。
- ▶ キーをまわして、イグニッション位置を **0** にしてから、キーを抜きます。イモビライザーが作動します。

i トランスミッションがポジション **D** または **R** のときにエンジンを停止すると、オートマチックトランスミッションは自動的に **N** にシフトします。

その後、運転席ドアまたは助手席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、オートマチックトランスミッションは **P** にシフトします。

エンジンを停止する前にオートマチックトランスミッションを **N** にシフトしたときは、ドアを開いても、オートマチックトランスミッションは **N** のままになります。

電気式パーキングブレーキ

全体的な注意事項

警告

車内に子供のみを残したままにすると、以下のようなことをするおそれがあります。

- パーキングブレーキを解除する
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** 以外にシフトする
- エンジンを始動する

車両の装備を操作するおそれもあります。事故やけがの危険性があります。

車両を離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。車内に子供のみを残したままにしないでください。



i 電気式パーキングブレーキは、エンジンが停止すると定期的に機能チェックを行ないます。作動音が発生しますが、異常ではありません。

手動での作動 / 解除

作動させる

- ▶ ハンドル ① を押します。

電気式パーキングブレーキが効いているときは、メーターパネルの赤色のパーキングブレーキ表示灯  が点灯します。

i 電気式パーキングブレーキは、エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときも効かせることができます。

解除する

- ▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

- ▶ ハンドル ① を引きます。

メーターパネルの赤色のパーキングブレーキ表示灯  が消灯します。

i 電気式パーキングブレーキは、イグニッション位置が **1** か **2** のときにのみ解除することができます。

自動作動

以下のときは、電気式パーキングブレーキが自動的に作動します。

- 車両が停止するまで、ディストロニック・プラスがブレーキを効かせたとき
- ホールド機能が、車両を停止状態に保っているとき

さらに、最低でも以下の条件のうち 1 つが満たされている必要があります。

- エンジンが停止している
- 運転席ドアが開いていて、運転席の乗員がシートベルトを外している
- システムに異常がある
- 電力供給が不足している
- 車両が長時間停車している

メーターパネルの赤色のパーキングブレーキ表示灯  が点灯します。

- i** ECO スタートストップ機能によりエンジンが停止したときは、電気式パーキングブレーキは自動的に作動しません。

自動解除

車両の電気式パーキングブレーキは、以下の作動条件がすべて満たされたときに自動的に解除されます。

- エンジンがかかっている
- トランスミッションがポジション **D** か **R** になっている
- シートベルトを着用している
- アクセルペダルを踏んだ

トランスミッションがポジション **R** のときは、テールゲートが閉じていなければなりません。

シートベルトが着用されていないときに電気式パーキングブレーキが自動解除されるには、以下の条件が満たされている必要があります。

- 運転席ドアが閉じている
- トランスミッションをポジション **P** 以外にシフトしたか、あるいは以前に約 3km/h 以上の速度で走行した

緊急ブレーキ

緊急時には、電気式パーキングブレーキスイッチを使用してブレーキを効かせることができます。

- ▶ 走行しているときに、電気式パーキングブレーキのハンドル ① を押します (▷169 ページ)。

- i** ハンドル ① を押している間、車両にブレーキが効きます。ハンドル ① を押し続けるに従い、ブレーキの制動力は強くなります。

ブレーキ作動時には以下ようになります。

- 警告音が鳴ります。
- **パーキングブレーキ 解除してください** というメッセージが表示されます。
- メーターパネルの赤色のパーキングブレーキ表示灯  が点滅します。

車両にブレーキが効いて完全に停車すると、電気式パーキングブレーキが効いた状態になります。

長期間駐車するとき

約 4 週間以上駐車したままにすると、バッテリーが完全放電して損傷するおそれがあります。

約 6 週間以上駐車したままにすると、不具合が発生するおそれがあります。

▶ 対応について、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i バッテリー充電器については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

走行時の注意

全体的な注意事項

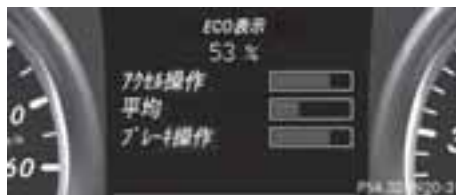
警告

走行している間にエンジンを停止すると、安全に関連した機能が制限付きでのみ使用できるか、または完全に使用できなくなります。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキブースターの機能に影響を与えるおそれがあります。ステアリングやブレーキの操作に非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行している間はエンジンを停止しないでください。

ECO 表示

ECO 表示により、運転スタイルがどの程度経済的であるかを確認できます。ECO 表示は、選択されている走行モードや運転状況での最も経済的な運転スタイルを達成する支援になります。燃費は運転スタイルによって大きな影響を受けます。



例：ECO 表示

ECO 表示は、以下の 3 つのバーから構成されます。

- アクセル操作
- 平均
- ブレーキ操作

パーセンテージ数は、3 本のバーの数値の平均値です。3 本のバーと平均値は 50% から開始します。高いパーセンテージ数は、より経済的な運転スタイルを示しています。

ECO 表示は、実際の燃費を示すものではありません。

運転スタイルに加えて、燃費は以下のような他の多くの要因に影響されます。

- 荷物
- タイヤ空気圧
- 冷間始動時
- 走行している道路の状況
- 電気装備の使用

これらの要因は、ECO 表示には反映されません。

ECO 表示では、運転スタイルは以下の 3 つの基準により評価されます。

- アクセル操作（加速操作の評価）
 - バーが埋められる：特に高速時の穏やかな加速
 - バーが空白になる：スポーティな加速
- 平均（運転スタイルの常時評価）
 - バーが埋められる：一定速度での走行、および不必要な加速や減速の回避
 - バーが空白になる：速度の変動
- ブレーキ操作（減速操作の評価）
 - バーが埋められる：予測運転、車間距離を保ち、アクセルペダルを放している。ブレーキを使用することなく、車両は惰性で走行している
 - バーが空白になる：頻繁なブレーキ操作

i 経済的な運転スタイルはエンジン回転数を抑えることにより達成できます。そのため、走行モード **E** で走行することにより、"アクセル操作" および "平均" で高い数値を得ることができます。

i 自動車専用道路などでの長距離にわたる一定速度での走行では、"平均" のバーのみが変化します。

i ECO 表示は、走行開始から終了までの運転スタイルの概要を示したものです。そのため、走行開始時は、バーが頻繁に変化します。運転時間が長くなると、これらの変化は小さくなります。バーが頻繁に変化する場合は、手動でリセットを行なってください。

ECO 表示に関するさらなる情報は (▷223 ページ) をご覧ください。

ブレーキ

重要な安全上の注意事項

警告

エンジンブレーキを強くするために滑りやすい路面でシフトダウンした場合は、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。横滑りしたり、事故を起こす危険性が増します。

滑りやすい路面では、エンジンブレーキを強くするためにシフトダウンしないでください。

下り坂の傾斜

長く急な下り坂で、特に荷物を積んでいるときは、適時低いギアを選択します。これは特に、荷物を積載した車両で走行するときには当てはまります。あらかじめ走行モードを **M** にする必要があります。

i クルーズコントロールや可変スピードリミッターまたはディストロニック・プラスが設定しているときも、同様の操作を行ないます。

エンジンブレーキを効かせることにより、少ないブレーキ操作で車両の加速を防ぐことができます。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗することを防ぎます。

i マニュアルギアシフト **M** にしているときに、下り坂でアクセルペダルを軽く踏み込むと、オートマチックトランスミッションの走行モードが一時的に以前選択していた **E** または **S** になることがあります。オートマチックトランスミッションが高いギアにシフトされることがあります。これによりエンジンブレーキの効果が減少します。

強い負荷および弱い負荷

警告

走行している間に足をブレーキペダルの上に置いた場合は、ブレーキシステムが過熱するおそれがあります。これにより、制動距離が長くなり、ブレーキシステムが故障する原因になります。事故の危険性があります。ブレーキペダルを足置きとして使用しないでください。走行している間は、ブレーキペダルとアクセルペダルを同時に踏まないでください。

! ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキパッドが過度に、かつ早期に摩耗します。

ブレーキに高い負担がかかったときは、ただちに停車するのではなく、しばらく走行を続けてください。ブレーキに風を当てることにより、より早く冷却することができます。

ブレーキを効かせずに長時間走行したときなどは、時々ブレーキの効きを確認してください。このためには、交通状況に注意しながら高い速度から強めにブレーキを効かせます。これにより、ブレーキの効きが向上します。

濡れた路面

激しい雨の中でブレーキを踏まずに長時間走行した後、最初にブレーキを踏んだときにブレーキの反応時間が遅れることがあります。洗車後や深い水の中を走行したときも同様の反応が起こることがあります。

滑りやすい路面では、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。前車との車間距離を十分に保ってください。

滑りやすい路面の走行後や洗車直後は、周囲の道路状況に注意しながらブレーキを強めに効かせてください。これによりブレーキディスクを暖め、より早く乾燥させて腐食を防ぐことができます。

凍結防止剤が撒かれた路面でのブレーキ性能の制限

塩分を散布した道路を走行した場合は、ブレーキディスクやブレーキパッドに塩の膜が形成されます。これにより、制動距離が著しく長くなるおそれがあります。

- 塩分の残留物を除去するために、時々ブレーキを効かせてください。そうするときは、他の道路使用者に危険を及ぼさないことを確認してください。
- 走行を終了したとき、および次に走行を開始するときは、注意してブレーキペダルを踏んでください。
- 前車との車間距離を十分に確保してください。

新品のブレーキパッド / ライニング

新品のブレーキパッド / ライニングは、走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。最適な制動性能に達するまでは、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

安全上の理由により、メルセデス・ベンツ車のために承認された、または品質基準に適合したブレーキパッド / ライニングのみを装着することをお勧めします。メルセデス・ベンツ向けに承認されていない、または品質基準に適合しないブレーキパッド / ライニングは、安全な車両操縦性に影響をおよぼすおそれがあります。

濡れた路面での走行

ハイドロブレーニング現象

一定以上の深さがある水たまりを走行するときは、以下の状態でも、ハイドロブレーニング現象が発生するおそれがあります。

- 走行速度を落としている
- タイヤトレッドの溝の深さが十分にある

この理由により、できるだけ水たまりやわだちを避け、ブレーキを効かせるときは注意してください。

冠水路の走行

! 前方を走行する車や対向車からも波が発生することに注意してください。これにより、最大水深を超えることがあります。

状況を問わず、これらの注意事項を守ってください。さもないと、エンジン、電気装備またはトランスミッションを損傷するおそれがあります。

冠水した道路を走行しなければならないときは、以下の点に注意してください。

- 許容されている最大水深は約 25cm です。
- 波が立たないように速度で走行してください。

寒冷時の走行

全体的な注意事項

警告

エンジンブレーキを強くするために滑りやすい路面でシフトダウンした場合は、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。横滑りしたり、事故を起こす危険性が増します。

滑りやすい路面では、エンジンブレーキを強くするためにシフトダウンしないでください。

警告

排気マフラーが塞がれていたり、適切な換気が不可能な場合は、一酸化炭素（CO）などの有害ガスが車内に侵入するおそれがあります。これは、たとえば車両が雪に埋まってしまった場合などです。致命的なけがの危険性があります。

エンジンをかけたままにする場合は、排気マフラーと車両周囲の範囲に雪がないことを確認してください。新鮮な空気を十分に供給するために、風下に面したサイドウインドウを開いてください。

冬になる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で車両に寒冷時の対応作業を行なってください。

"冬季の使用"に記載されている注意事項を守ってください(▷335ページ)。

サマータイヤでの走行

"冬季の使用"に記載されている注意事項を守ってください(▷335ページ)。

滑りやすい路面

警告

エンジンブレーキを強くするために滑りやすい路面でシフトダウンした場合は、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。横滑りしたり、事故を起こす危険性が増します。

滑りやすい路面では、エンジンブレーキを強くするためにシフトダウンしないでください。

車両がスリップしやすいとき、または低速走行中に停止できないときは、以下の指示に従ってください。

- ▶ トランスミッションをポジション N にシフトします。
- ▶ ステアリングの修正操作により、車両の操縦性を確保します。

滑りやすい路面では、特に慎重に走行してください。急加速、急ハンドル、急ブレーキなどは避けてください。

外気温度表示は凍結警告表示として使用できるようには設計されておらず、この目的のためには適していません。

外気温度表示の変化は、少し遅れて表示されます。

氷点より少し高い程度の温度表示は、路面に氷がないことを保証しているものではありません。森林地帯や橋の上では特に、道路が凍結していることがあります。氷点周辺の温度のときは、道路状況に特に注意してください。

-  スノーチェーン装着時の走行について、詳しくは(▷336ページ)をご覧ください。

走行装備

クルーズコントロール

重要な安全上の注意事項

適切な運転スタイルをとっていない場合は、クルーズコントロールは事故の危険性を低減させることはできず、また物理的法則を無効にすることもできません。クルーズコントロールは道路、天候または交通状況を考慮することはできません。クルーズコントロールは運転者を補助するためだけに設計されたものです。先行車との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作および車線内に車両を維持する責任は運転者にあります。

以下のときは、クルーズコントロールを使用しないでください。

- 一定の速度を維持できないような道路や交通状況のとき（例えば、混雑した交通状況やカーブしている道路）
- 滑らかな、または滑りやすい路面。ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が横すべりするおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪のときなど、十分な視界が得られないとき

運転者を交代する場合は、交代する運転者に記憶されている速度を伝えてください。

全体的な注意事項

クルーズコントロールは一定の走行速度を維持します。設定速度を超えないようにするために自動的にブレーキを効かせます。長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時低いギアを選択してください（▶162 ページ）。走行モードを **M** にする必要があります。そうすることにより、エンジンブレーキの効果を利用できます。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗することを防ぎます。

道路や交通状況が長時間の一定速度の維持に適している場合にのみ、クルーズコントロールを使用してください。約 30km/h 以上の走行速度を記憶できます。

クルーズコントロールレバー

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールと可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムを示しています。

- **LIM 表示灯が消灯**：クルーズコントロールが選択されています。
- **LIM 表示灯が点灯**：可変スピードリミッターが選択されています。



- ① 現在の走行速度に設定する、または設定速度を上げる
- ② LIM 表示灯
- ③ 現在の走行速度に設定する / 記憶されている前回の設定速度に設定する
- ④ 現在の走行速度に設定する、または設定速度を下げる
- ⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑥ クルーズコントロールを解除する

クルーズコントロールを作動させると、記憶された速度がマルチファンクションディスプレイに約 5 秒間表示されます。

メーターパネルには、記憶された速度と最高速度の間のセグメントが点灯します。

作動条件

以下のすべての作動条件を満たしているときに、クルーズコントロールを作動させることができます。

- 電気式パーキングブレーキが解除されていること
- 約 30km/h 以上の速度で走行していること
- ESP® が待機状態になっていて、作動していないこと

- トランスミッションがポジション D にあること
- クルーズコントロールが選択されていること

▶ **クルーズコントロールを選択する：**
LIM 表示灯 ② が消灯しているかどうかを確認します。

消灯しているときは、すでにクルーズコントロールが選択されています。

そうでないときは、クルーズコントロールレバーを矢印 ⑤ の方向に押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が消灯します。クルーズコントロールが選択されます。

記憶、維持、速度の呼び出し

現在の速度を記憶および維持する

約 30km/h 以上の速度で走行しているときは、現在の速度を記憶できます。

- ▶ 希望の速度に加速します。
- ▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④ に軽く押します。
- ▶ アクセルペダルから足を放します。

クルーズコントロールが作動します。車両は自動的に記憶された速度を維持します。

i クルーズコントロールは、急な上り坂では記憶された速度を維持できないことがあります。勾配が平坦になると記憶された速度に復帰します。クルーズコントロールは急な下り坂では自動的にブレーキを効かせることにより記憶された速度を維持します。

現在の速度を記憶する、または最後に記憶した速度を呼び出す

⚠ 警告

記憶させた速度を呼び出したときにその速度が現在の速度から離れている場合は、車は加速またはブレーキを効かせます。記憶させた速度が分からない場合は、意図せずに突然の加速やブレーキ作動が起こります。事故の危険性があります。

記憶させた速度を呼び出す前に、現在の交通状況を考慮してください。記憶させた速度が分からない場合は、現在の速度を再度記憶させてください。

- ▶ クルーズコントロールレバーを運転者の方向 ③ に軽く引きます。
- ▶ アクセルペダルから足を放します。
最初にクルーズコントロールを作動させたときは現在の速度が記憶され、または以前に記憶した速度に走行速度を制御します。

速度の設定

速度を設定する際には、車が瞬間的に加速またはブレーキを効かせる可能性があることに留意してください。

- ▶ クルーズコントロールレバーを、高い速度へは上 ① に、低い速度へは下 ④ に押します。
- ▶ 希望した速度に達するまでクルーズコントロールレバーを保持します。
- ▶ クルーズコントロールレバーから手を放します。

新しい速度が記憶されます。

- ▶ **1km/h 単位での調整**：クルーズコントロールレバーを、高い速度へは上 ① に、低い速度へは下 ④ に、抵抗がある位置まで軽く押します。

最後に記憶された速度が 1km/h 単位で上がる、または下がります。

- ▶ **10km/h 単位での調整**：クルーズコントロールレバーを、高い速度へは上 ① に、低い速度へは下 ④ に、抵抗がある位置を越えて軽く押します。

最後に記憶された速度が 10km/h 単位で上がる、または下がります。

- i** クルーズコントロールは、アクセルペダルを踏んでも解除されません。例えば、追い越しのために一時的に加速したときは、追い越しが完了した後に、クルーズコントロールは、最後に記憶された速度に車両の速度を調整します。

クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールを解除するにはいくつかの方法があります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを前方 ⑥ に軽く押します。

または

- ▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

- ▶ クルーズコントロールレバーを矢印 ⑤ の方向に軽く押します。

可変スピードリミッターが選択されます。クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。

クルーズコントロールは、以下のときに自動的に解除されます。

- 電気式パーキングブレーキを効かせたとき
- 走行速度が約 30km/h 以下になったとき
- ESP® が作動したときや、ESP® の機能を解除したとき
- 走行中にポジション **N** にシフトしたとき

クルーズコントロールが解除されると、確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに**クルーズコントロール 解除**というメッセージが約 5 秒間表示されます。

- i** エンジンを停止すると、記憶されている速度は消去されます。

可変スピードリミッター

重要な安全上の注意事項

可変スピードリミッターは、設定された速度を超えないように自動的にブレーキを効かせます。長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時ギアレンジ **1**、**2**、**3** を選択してください。そうすることにより、エンジンブレーキの効果を利用できます。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキの過熱と早期の摩耗を防ぎます。制動力がより必要な場合は、継続的ではなく、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。

適切な運転スタイルをとっていない場合は、可変スピードリミッターは事故の危険性を低減させることはできず、また物理的法則を無効にすることもできません。可変スピードリミッターは道路や交通事情を考慮することはできません。可変スピードリミッターは運転者を補助するためだけに設計されたものです。先行車との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作と車線内に車両を維持する責任は運転者にあります。

運転者を交代する場合は、交代する運転者に記憶されている速度を伝えてください。

全体的な注意事項

スピードリミッターには、以下のものがあります。

- **可変スピードリミッター**

市街地などの速度制限のためのものです。

- **ウィンタータイヤスピードリミッター**

ウィンタータイヤを装着して走行するときなど、長期間の速度制限のためのものです（▶235 ページ）。

- i** スピードメーターに表示された速度は、記憶された制限速度と若干異なる場合があります。

可変スピードリミッター

全体的な注意事項

クルーズコントロールレバーで、クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムを示しています。

- ・ **LIM 表示灯が消灯**：クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されています。
- ・ **LIM 表示灯が点灯**：可変スピードリミッターが選択されています。

エンジンがかかっているときに、クルーズコントロールレバーを使用して、約 30km/h 以上の速度を制限できます。



- ① 現在の走行速度、またはより速い速度を記憶する
- ② LIM 表示灯
- ③ 現在の速度を記憶する、または最後に記憶した速度を呼び出す
- ④ 現在の走行速度、またはより遅い速度を記憶する
- ⑤ クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑥ 可変スピードリミッターを解除する

可変スピードリミッターの選択

- ▶ LIM 表示灯 ② が点灯しているかどうかを確認します。

点灯しているときは、すでに可変スピードリミッターが選択されています。

そうでないときは、クルーズコントロールレバーを矢印 ⑤ の方向に押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。可変スピードリミッターが選択されます。

- ▶ アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込んでいないことを確認します。

現在の速度を記憶する

エンジンがかかっているときに、クルーズコントロールレバーを使用して、約 30km/h 以上の速度を制限できます。

- ▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④ に軽く押します。

現在の速度が記憶されます。マルチファンクションディスプレイに**制限速度 100km/h**のように記憶した速度が約 5 秒間表示されます。

スピードメーターの目盛りの始まりから制限速度までのセグメントが点灯します。

現在の速度を記憶する、または最後に記憶した速度を呼び出す

警告

記憶させた速度を呼び出したときに、その速度が現在の速度より低い場合は、車は減速します。記憶させた速度が分からない場合は、意図せずに突然の減速が起こります。事故の危険性があります。

記憶させた速度を呼び出す前に、現在の道路と交通状況に注意を払ってください。記憶させた速度が分からない場合は、現在の速度を再度記憶させてください。

- ▶ クルーズコントロールレバーを運転者の方向 ③ に軽く引きます。
- ▶ **1km/h 単位での調整**：クルーズコントロールレバーを、高い速度へは上 ① に、低い速度へは下 ④ に、抵抗がある位置まで軽く押します。

または

- ▶ 希望する速度に設定されるまで、クルーズコントロールレバーを抵抗がある位置まで押して保持します。高い速度へは上 ① に、低い速度へは下 ④ に押します。
- ▶ **10km/h 単位での調整**：クルーズコントロールレバーを、高い速度へは上 ① に、低い速度へは下 ④ に、抵抗がある位置を越えて軽く押します。

または

- ▶ 希望する速度に設定されるまで、クルーズコントロールレバーを抵抗がある位置を越えて押して保持します。高い速度へは上 ① に、低い速度へは下 ④ に押します。

可変スピードリミッターを解除する

ブレーキペダルを踏んで可変スピードリミッターを解除することはできません。

可変スピードリミッターを解除するためにはいくつかの方法があります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを前方 ⑥ に軽く押します。

または

- ▶ クルーズコントロールレバーを矢印を ⑤ の方向に軽く押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が消灯します。可変スピードリミッターが解除されます。

クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されます。

アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込んだとき（キックダウン時）も、可変スピードリミッターは解除されます。このときは警告音が鳴ります。ただし、記憶された速度より約 20km/h 以上低い速度までは解除されません。

-  エンジンを停止すると、記憶されている速度は消去されます。

ウィンタータイヤスピードリミッター

マルチファンクションディスプレイを使用して、約 160 km/h（例えばウィンタータイヤで走行するとき）から最高速度までの間の値に、速度を常時制限できます（▶235 ページ）。

記憶された速度に到達する少し前に、マルチファンクションディスプレイに速度が表示されます。

可変スピードリミッターを解除しても、ウィンタータイヤスピードリミッターは作動したままになります。

アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込んでも（キックダウン）、記憶された制限速度を超えることはできません。

ディストロニック・プラス

重要な安全上の注意事項

警告

ディストロニック・プラスは、以下のようなものには反応しません。

- 歩行者または動物
- 駐停車している車両など、道路上の静止している障害物
- 対向車や横切る車両

結果的に上記のような場合には、ディストロニック・プラスは警告を行なわなかったり、作動しないことがあります。事故の危険性があります。

交通状況には常に注意を払い、いつでもブレーキ操作が行なえるようにしてください。

警告

ディストロニック・プラスは常に明確に他の車両や複雑な交通状況を考慮することはできません。

上記のような状況では、ディストロニック・プラスは以下のようにになります。

- 不必要な警告を行ない、その後ブレーキを効かせます。
- 警告を行なわなかったり、作動しないことがあります。
- 意図せずに加速することがあります。

事故の危険性があります。

特にディストロニック・プラスによる警告が行なわれた場合には、注意して走行を続け、ブレーキ操作が行なえるようにしてください。

警告

ディストロニック・プラスによるブレーキは、車両の最大制動力の約 40%に相当します。この制動力が不十分なときは、ディストロニック・プラスは運転者に視覚的および聴覚的な警告を行ないます。事故の危険性があります。

このような状況では、運転者自身でブレーキを効かせ、回避操作を行なってください。

! ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動しているときは、特定の状況で車両が自動的にブレーキを効かせます。車両の損傷を防ぐため、以下のとき、または類似の状況のときには、ディストロニック・プラスまたはホールド機能を解除してください。

- けん引されるとき
- 洗車するとき

適切な運転スタイルをとっていない場合は、ディストロニック・プラスは事故の危険性を低減させることはできず、また物理的法則を無効にすることもできません。ディストロニック・プラスは道路や天候状況、または交通状況を考慮することはできません。ディストロニック・プラスは運転者を補助するためだけに設計されたものです。先行車との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作と車線内に車両を維持する責任は運転者にあります。

以下のときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください。

- 一定の速度を維持できないような道路や交通状況のとき（例えば、混雑した交通状況やカーブしている道路）
- 滑らかな、または滑りやすい路面。ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が横すべりするおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪のときなど、十分な視界が得られないとき

ディストロニック・プラスは、オートバイなど前方を走行している幅の狭い車両や、左または右にずれて走行している車両を検知しないことがあります。

特に以下のような場合は、障害物の検知が制限されることがあります。

- センサーに汚れがあるときやセンサーが覆われているとき
- 雪や激しい雨が降っているとき
- 他の電波からの干渉があるとき
- 自走式タワー駐車場の内部など、電波の強い反射の可能性があるとき

ディストロニック・プラスが車両前方に検知するものがないと判断しているときは、ディストロニック・プラスは意図せずに記憶された速度まで車を加速させることがあります。

このときの速度は以下ようになります。

- 合流車線または出口車線を走行しているときは、速度が速すぎることがあります。
- 左側車線の車を追い越すために右側車線を走行するときは、速度が速すぎることがあります。
- 右側車線の車を追い越すために左側車線を走行するときは、速度が速すぎることがあります。

運転者を交代する場合は、交代する運転者に記憶されている速度を伝えてください。

全体的な注意事項

ディストロニック・プラスは速度を制御し、前方に検知された車両との距離を自動的に維持するための補助を行いません。ディストロニック・プラスは設定された速度を超えないように自動的にブレーキを効かせます。

長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時低いギアを選択してください。走行モードを **M** にする必要があります (▶162 ページ)。そうすることにより、エンジンブレーキの効果を利用できます。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗することを防ぎます。

前方を走行している遅い車両を検知すると、ディストロニック・プラスは自動ブレーキを作動させ、あらかじめ設定した先行車との距離を維持します。

ディストロニック・プラスが衝突の危険性を検知したときは、視覚的および聴覚的な警告が行なわれます。運転者の介入なしでは、ディストロニック・プラスは衝突の危険性を回避することはできません。断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの車間距離警告灯が点灯します。先行車との車間距離を広げるためにただちにブレーキを効かせるか、安全に回避操作を行なってください。

国によっては、電波望遠鏡施設の近辺ではレーダーセンサーシステムは自動的に解除されます (▶362 ページ)。

走行時にディストロニック・プラスが支援を行なうためには、レーダーセンサーシステムが以下でなければなりません。

- 設定されている (▶236 ページ)
- 作動可能な状態である

i 国によっては、レーダーセンサーシステムを解除しなければなりません (▶236 ページ)。

レーダーセンサーシステムに関するさらなる情報は (▶236 ページ) をご覧ください。

以下のときは、ディストロニック・プラスは自動的に解除されます。

- 走行速度が 25km/h 以下で先行車が検知できないとき。または、
- 先行車が検知されなくなったとき

前方に車両がないとき、ディストロニック・プラスは、約 30km/h ～ 約 200km/h の走行速度の範囲で、クルーズコントロールと同じように作動します。前方を車両が走行しているときは、ディストロニック・プラスは、0km/h ～ 約 200km/h の走行速度の範囲で作動します。

急な坂道を走行しているときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください。

クルーズコントロールレバー

クルーズコントロールレバーでディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムを示しています。

- **LIM 表示灯が消灯**：ディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯が点灯**：可変スピードリミッターが選択されています。



- ① 現在の走行速度に設定する、または設定速度を上げる
- ② 車間距離を設定する
- ③ LIM 表示灯
- ④ 現在の走行速度に設定する、または最後に記憶させた速度を呼び出す
- ⑤ 現在の走行速度に設定する、または設定速度を下げる
- ⑥ ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑦ ディストロニック・プラスを解除する

ディストロニック・プラスの選択

- ▶ LIM 表示灯 ③ が消灯していることを確認します。

消灯しているときは、ディストロニック・プラスがすでに選択されています。

そうでないときは、クルーズコントロールレバーを矢印 ⑥ の方向に押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ③ が消灯します。ディストロニック・プラスが選択されます。

ディストロニック・プラスの設定、記憶、維持、速度の呼び出し

作動条件

ディストロニック・プラスは、以下の条件を満たすときに作動させることができます。

- エンジンがかかっていること。約 2 分以上走行するとディストロニック・プラスの使用準備が整います。
- 電気式パーキングブレーキが解除されていること
- ESP® が待機状態になっていて、作動していないこと
- トランスミッションがポジション **D** にあること
- **P** から **D** にシフトしたときに運転席ドアが閉じているか、運転者がシートベルトを着用していること
- 助手席側ドアと後席ドアが閉じていること
- 車両がスリップしていないこと

作動

走行中の作動：約 20km/h 以下の速度で走行しているときは、先行車が検知されていて、マルチファンクションディスプレイに表示されているときのみ、ディストロニック・プラスを作動させることができます。先行車が検知されなくなり、表示されなくなったときは、ディストロニック・プラスは解除され、確認音が鳴ります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを運転者の方向 ④ に軽く引くか、上 ① または下 ⑤ に押します。

ディストロニック・プラスが選択されます。

- ▶ 希望の速度が設定されるまで、クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ⑤ に押したままにします。

- ▶ アクセルペダルから足を放します。
設定速度以下で先行車が走行している場合、自車の速度が先行車と同じ速度に調整されます。

i アクセルペダルから足を完全に放していないときは、マルチファンクションディスプレイに**ディストロニック・プラス 制御待機中**というメッセージが表示されます。前方を走行している遅い車両との車間距離は維持されなくなります。アクセルペダルの踏み具合で自車の速度を調整してください。

停止している先行車に向かって走行しているときに作動させる：先行車が停車しているときは、自車が同様に停車してからのみ、ディストロニック・プラスを作動させることができます。

- ▶ クルーズコントロールレバーを運転者の方向 ④ に軽く引くか、上 ① または下 ⑤ に押します。

ディストロニック・プラスが選択されます。

i 約 20km/h 以下では、先行車が検知されたときのみ、ディストロニック・プラスを作動させることができます。マルチファンクションディスプレイの車間ディスプレイで確認してください。

- ▶ 希望の設定速度になるまで、クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ⑤ に押したままにします。

i クルーズコントロールレバーを使用して記憶速度を設定したり、レバーのダイヤル ② を使用して車間距離を設定することができます。



スピードメーターのディストロニック・プラス表示

ディストロニック・プラスを作動させたときは、設定速度域の 1 個または 2 個のセグメント ② が点灯します。

i デザイン上の理由により、スピードメーターに表示されている速度とディストロニック・プラスの設定速度が若干異なる場合があります。

ディストロニック・プラスが先行車を検知すると、先行車の速度 ① と設定速度 ③ の間のセグメント ② が点灯します。



ディストロニック・プラス作動中のマルチファンクションディスプレイの車間ディスプレイ

- ① ディストロニック・プラス作動表示
- ② 自車
- ③ 先行車との間に設定された調整可能な車間距離
- ④ 検知された先行車

マルチファンクションディスプレイのアシストメニュー (▶229 ページ) で、車間ディスプレイを選択することができます。

- ▶ マルチファンクションディスプレイで、**車間ディスプレイ** (▶230 ページ) を選択します。

- i** ディストロニック・プラスを作動させると、マルチファンクションディスプレイに記憶した速度が約 5 秒間表示されます。

走行

ブレーキペダルを踏んだとき、自車が停止しているとき以外はディストロニック・プラスが解除されます。

発進

- ▶ **前方の車両が発進したとき**：ブレーキペダルから足を放します。
- ▶ クルーズコントロールレバーを運転者の方向 (▶185 ページ) に軽く引きます。

または

- ▶ 軽くアクセルペダルを踏みます。
先行車の走行速度に合わせるようにして発進します。

先行車がないときは、ディストロニック・プラスはクルーズコントロールと同じように作動します。

ディストロニック・プラスが先行車の減速を検知したときは、自動ブレーキを作動させます。これにより、設定した車間距離を維持します。

ディストロニック・プラスが衝突の危険性を検知したときは、視覚的および聴覚的な警告が行なわれます。運転者の介入なしでは、ディストロニック・プラスは衝突の危険性を回避することはできません。断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの車間距離警告灯が点灯します。先行車との車間距離を広げるためにただちにブレーキを効かせるか、安全に回避操作を行なってください。

先行車が加速したことをディストロニック・プラスが検知した場合は、設定した速度までのみ、車両を加速させます。

車線変更

以下の状況で追い越し車線に変更する場合は、ディストロニック・プラスが運転者の補助を行ないます。

- 約 60 km/h 以上で走行しているとき
- 先行車の速度が自車の設定速度よりも遅く、ディストロニック・プラスが先行車との距離を維持して追従走行しているとき
- 対応する方向指示灯を作動させたとき
- ディストロニック・プラスが衝突の危険を検知していないとき

これらの条件を満たした場合は、車両は加速します。車線変更に時間がかかりすぎたり、自車と先行車との距離が短すぎるときは、加速は中断されます。

- i** 車線を変更するとき、ディストロニック・プラスは、左ハンドル車は左側、右ハンドル車は右側の車両または障害物をモニターします。

停止

警告

ディストロニック・プラスによってのみブレーキが効いているときは、車両から降りると、以下のときに車両が動き出すことがあります。

- システムや電力供給に異常があるとき
- 例えば、同乗者または車外から、クルーズコントロールレバーによりディストロニック・プラスが解除されたとき

- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
- バッテリーの接続を外したとき
- 例えば、同乗者がアクセルペダルを踏んだとき

事故の危険性があります。

車両から降りるときは、常にディストロニック・プラスを停止して、車両が動き出さないようにしてください。

ディストロニック・プラスを解除します (▷190 ページ)。

先行車が停止したことをディストロニック・プラスが検知すると、自車が停止するまでブレーキを効かせます。

一度自車が停止すると、停車したままになり、ブレーキペダルを踏む必要はありません。

- i** 一定時間が経過すると、電気式パーキングブレーキにより車両が動かなくなり、システムによるブレーキ作動の負荷を軽減します。

- i** 設定した車間距離によっては、自車は先行車後方の十分な距離があるところで停止することがあります。車間距離はレバーのダイヤルを使用して設定します。

ディストロニック・プラスが作動しているときに以下のことを行なうと、電気式パーキングブレーキにより車両が動かなくなります。

- 運転席ドアを開いて、運転席のシートベルトを外したとき
- ECO スタートストップ機能で自動的に停止している場合を除き、エンジンを停止したとき

- システムに故障が発生したとき
- 電力供給が不十分なとき

故障が発生した場合は、トランスミッションが自動的に **P** にシフトすることがあります。

現在の速度を記憶する、または最後に記憶した速度を呼び出す

⚠ 警告

記憶させた速度を呼び出したときにその速度が現在の速度から離れている場合は、車は加速またはブレーキを効かせます。記憶させた速度が分からない場合は、意図せずに突然の加速やブレーキ作動が起こります。事故の危険性があります。

記憶させた速度を呼び出す前に、現在の交通状況を考慮してください。記憶させた速度が分からない場合は、現在の速度を再度記憶させてください。

- ▶ クルーズコントロールレバーを運転者の方向（▷185 ページ）に軽く引きます。
- ▶ アクセルペダルから足を放します。

ディストロニック・プラスが作動します。最初に作動させたときは現在の速度が記憶されます。そうでない場合は、以前に記憶されていた巡航速度に車両を設定します。

速度の設定

車両が設定速度まで加速する、またはブレーキを効かせるまでには、若干の時間がかかることに留意してください。



- ① 現在の走行速度に設定する、または設定速度を上げる
- ② 現在の走行速度に設定する、または設定速度を下げる

- ▶ クルーズコントロールレバーを、高い速度には上 ① に、低い速度には下 ② に押しします。
- ▶ 希望の速度が設定されるまで、クルーズコントロールレバーを押したままにします。
- ▶ クルーズコントロールレバーから手を放します。

新しい速度が記憶されます。ディストロニック・プラスが作動し、新しく記憶させた速度に車両の速度を調整します。

- ▶ **1km/h 単位での調整**：クルーズコントロールレバーを、高い速度には上 ① に、低い速度には下 ② に、抵抗がある位置まで軽く押しします。

最後に記憶された速度が 1km/h 単位で上がる、または下がります。

- ▶ **10km/h 単位での調整**：クルーズコントロールレバーを、高い速度には上 ① に、低い速度には下 ② に、抵抗がある位置を越えて押します。

最後に記憶された速度が 10km/h 単位で上がる、または下がります。

- i** ディストロニック・プラスはアクセルペダルを踏んでも解除されません。追い越しを行なうために速度を上げたときは、追い越しが完了した後に、ディストロニック・プラスは車両の速度を設定速度に調整します。

車間距離の設定

時間間隔を 1 秒から 2 秒の間で変えることにより、ディストロニック・プラスの車間距離を設定することができます。この機能により、走行速度に応じてディストロニック・プラスが維持する先行車との最低距離を設定することができます。マルチファンクションディスプレイにこの距離を表示できます (▶187 ページ)。

- i** 先行車との間に十分で安全な車間距離を維持していることを確認してください。必要であれば、先行車との車間距離を調整してください。



- ▶ **長くする**：ダイヤル ③ を矢印 ② の方向にまわします。

ディストロニック・プラスは、自車と先行車の間に、より長い車間距離を維持します。

- ▶ **短くする**：ダイヤル ③ を矢印 ① の方向にまわします。

ディストロニック・プラスは、自車と先行車の間に、より短い車間距離を維持します。

ディストロニック・プラスの解除



ディストロニック・プラスの解除には、いくつかの方法があります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを前方 ① に軽く押します。

または

- ▶ 停車していないときに、ブレーキペダルを踏みます。

または

- ▶ クルーズコントロールレバーを矢印 ③ の方向に軽く押します。

可変スピードリミッターが選択されます。クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。

ディストロニック・プラスを解除すると、マルチファンクションディスプレイに**ディストロニックプラス オフ**と約 5 秒間表示されます。

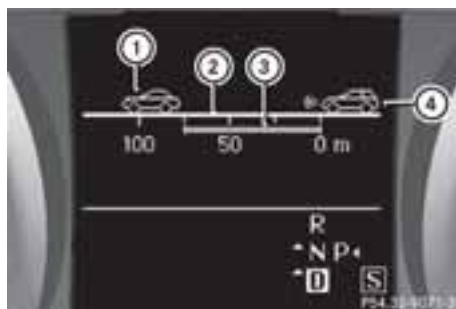
- i** エンジンを停止するまで、最後に記憶された速度がそのまま記憶されます。

ディストロニック・プラスは、以下のときに自動的に解除されます。

- 電気式パーキングブレーキを効かせたとき、または電気式パーキングブレーキにより車両が自動的に動かなくなったとき
- 走行速度が 10km/h 以下のときに、先行車がいなくなったときや先行車が検知されなくなったとき
- ESP® が作動したときや ESP® を解除したとき
- トランスミッションがポジション **P** や **R**、**N** になったとき
- 助手席ドアまたはいずれかの後席ドアが開いている状態で、発進させるためにレバーを手前に引いたとき
- 車両がスリップしたとき

ディストロニック・プラスが解除されると警告音が鳴ります。マルチファンクションディスプレイに**ディストロニックプラス オフ**と約 5 秒間表示されます。

マルチファンクションディスプレイのアシストメニュー (▷230 ページ) で、車間ディスプレイを選択することができます。



ディストロニック・プラス解除中のマルチファンクションディスプレイの車間ディスプレイ

- ① 検知された先行車
- ② 先行車との現在の距離を表示する車間距離インジケーター
- ③ 先行車との間に設定された調整可能な車間距離
- ④ 自車

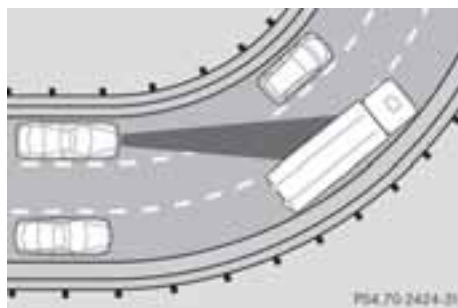
▶ マルチファンクションディスプレイで、**車間ディスプレイ** (▷230 ページ) を選択します。

ディストロニック・プラスで走行するときのヒント

全体的な注意事項

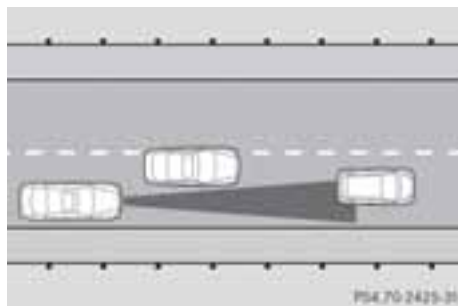
特に注意が必要な、道路と交通の特定の状況を以下に記載しています。このような状況下では、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。ディストロニック・プラスが解除されます。

カーブでの走行、カーブに入るときやカーブを抜けるとき



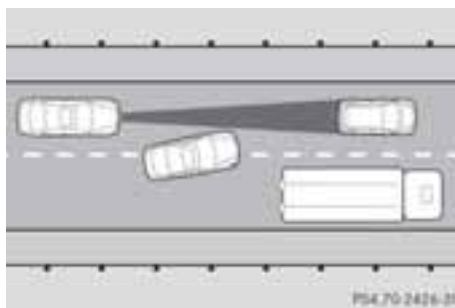
カーブでは、ディストロニック・プラスの機能が制限されます。車両が予想せずにブレーキを効かせたり、ブレーキが遅れることがあります。

自車の進路から左または右に少しずれた位置に車両が走行しているとき



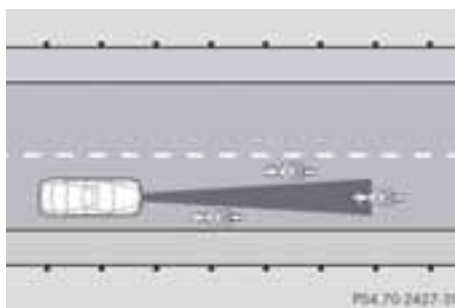
ディストロニック・プラスは、自車の進行方向から左または右にずれて走行している車両を検知できないことがあります。先行車との距離が非常に短くなる場合があります。

自車の進路に車両が割り込んでくるとき



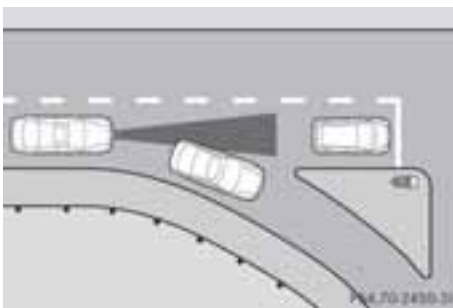
ディストロニック・プラスは割り込んでくる車両を検知できないことがあります。この車両との距離が非常に短くなる場合があります。

横幅の狭い車両が前方を走行しているとき



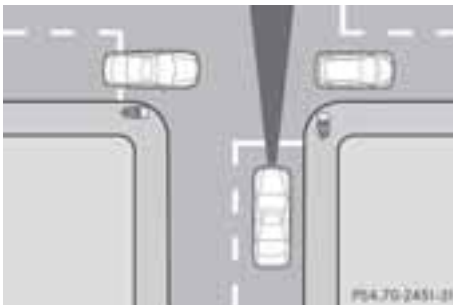
ディストロニック・プラスは、車線の端を走行している横幅の狭い車両を検知できないことがあります。先行車との距離が非常に短くなる場合があります。

自車の進路に障害物や停車車両があるとき



ディストロニック・プラスは、障害物や停車車両に対して自動ブレーキを作動させません。例えば、自車が追従していた先行車がカーブを曲がり、障害物や停車車両が現れたときは、ディストロニック・プラスはこれらに対して自動ブレーキを作動させません。

車両が横切ったとき



ディストロニック・プラスは、誤って自車の車線を横切る車両を検知することがあります。交差点でディストロニック・プラスを作動させているときは、意図せずに自車が発進することがあります。

ホールド機能

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ホールド機能によるブレーキが効いていても、車両から降りると、以下のときに車両が動き出すことがあります。

- システムや電力供給に異常があるとき
 - 例えば、同乗者がアクセルペダルを踏むことによりホールド機能が解除されたとき
 - エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
 - バッテリーの接続を外したとき
- 事故の危険性があります。

車両から降りるときは、常にホールド機能を停止して、車両が動き出さないようにしてください。

! ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動しているときは、特定の状況で車両が自動的にブレーキを効かせます。車両の損傷を防ぐため、以下のとき、または類似の状況のときには、ディストロニック・プラスまたはホールド機能を解除してください。

- けん引されるとき
- 洗車するとき

ホールド機能を解除します (▷194ページ)。

全体的な注意事項

ホールド機能は以下の状況で運転者を補助します。

- 特に急な坂道で発進するとき
- 急な坂道で車を動かすとき
- 発進待ちをしているとき

運転者がブレーキペダルを踏まなくても、車両が停止した状態を保ちます。

発進するためにアクセルペダルを踏み込むと、ブレーキ効果が解除され、ホールド機能は解除されます。

作動条件

ホールド機能は以下のときに作動させることができます。

- 停車しているとき
- エンジンがかかっているとき、または ECO スタートストップ機能によりエンジンが自動的に停止しているとき
- 運転席ドアを閉じているとき、または運転席の乗員がシートベルトを着用しているとき
- 電気式パーキングブレーキが解除されているとき
- トランスミッションがポジション **D**、**R**、**N** のいずれかのとき
- ディストロニック・プラスが解除されているとき

ホールド機能を作動させる



- ▶ 作動条件を満たしていることを確認します。
- ▶ ブレーキペダルを踏みます。
- ▶ マルチファンクションディスプレイにホールド機能表示灯 **HOLD** が表示されるまで、ブレーキペダルを意図的に素早く深く踏み込みます。

ホールド機能が作動し、ブレーキペダルから足を放すことができます。

- i** 最初にブレーキペダルを踏んだときにホールド機能が作動しない場合は、少し待った後に再度試してください。

ホールド機能を解除する

ホールド機能は以下のときに自動的に解除されます。

- トランスミッションがポジション **D** または **R** のときに、アクセルペダルを踏んだとき
- トランスミッションをポジション **P** にシフトしたとき
- ある一定以上の強さでブレーキペダルを再度踏み、マルチファンクションディスプレイのホールド機能表示灯 ① が消灯したとき
- 電気式パーキングブレーキを効かせて車両を動かないようにしたとき

- ディストロニック・プラスを作動させたとき

i 一定時間が経過すると、電気式パーキングブレーキにより車両が動かなくなり、ブレーキ作動の負荷を軽減します。

ホールド機能が作動していて以下のようなときは、電気式パーキングブレーキが自動的に作動して車両が動かなくなります。

- 運転席ドアを開いて、運転席のシートベルトを外したとき
- ECO スタートストップ機能で自動的に停止している場合を除き、エンジンを停止したとき
- システムに故障が発生したとき
- 電力供給が不十分なとき

故障が発生した場合は、トランスミッションが自動的に **P** にシフトすることがあります。

パークトロニック

重要な安全上の注意事項

パークトロニックは、補助のみを行なうものです。周囲に対する運転者の注意の代わりになるものではありません。安全な転回や駐車に関する責任は運転者にあります。転回し、駐車している間は、周囲に人や動物、障害物がないことを確認してください。

! 駐車するときは、鉢植えやトレーラーけん引部などセンサーの上下にあるものに十分注意してください。パークトロニックは、これらが車両の至近距離にあるときは検知できません。車両や物を損傷するおそれがあります。

センサーは超音波を吸収しやすい雪やその他のものを検知しないことがあります。

自動洗車機や大型車の排気ブレーキ、空気圧ドリルなどの超音波により、パークトロニックが誤作動することがあります。

不整地などではパークトロニックが正しく作動しないことがあります。

パークトロニックは、超音波センサーによる電子式駐車補助システムです。車両と障害物との距離を視覚的、聴覚的に示します。

パークトロニックは、以下のときに自動的に作動します。

- イグニッション位置が **2** のとき
- ポジション **D**、**R**、**N** にシフトしたとき
- 電気式パーキングブレーキが解除されているとき

パークトロニックは、走行速度が約 18km/h 以上になると作動を停止し、それより低い速度のときに再度作動します。

パークトロニックは、フロントバンパーの 6 個のセンサーとリアバンパーの 4 個のセンサーにより、車両周辺のエリアをモニターします。

センサーの検知範囲

全体的な注意事項

パークトロンニックは、以下のものを障害物として考慮することはできません。

- ・ 検知範囲の下方に位置する人や動物、または障害物
- ・ 検知範囲の上方に位置する突き出している荷物や車両後部、積載用スロープなど



① フロントバンパー左側のセンサーの例



側方図



上方図

センサーに汚れや氷および泥が付着しないようにしてください。さもないと、適切に機能しないことがあります。擦り傷や損傷を与えないように注意して、センサーを定期的に清掃してください（▷301 ページ）。

フロントセンサー

センター部 約 100cm

コーナ部 約 60cm

リアセンサー

センター部 約 120cm

コーナ部 約 80cm

最小範囲

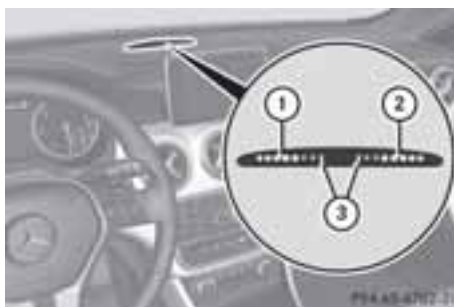
センター部 約 20cm

コーナ部 約 20cm

この範囲内に障害物があるときは、対応する警告灯が点灯して警告音が鳴ります。距離が最小範囲以下になると、距離が表示されなくなることがあります。

警告ディスプレイ

警告ディスプレイはセンサーと障害物との距離を示します。前方エリアの警告ディスプレイは中央送風口上部のダッシュボードにあります。後方エリアの警告ディスプレイは後席のルーフライニングにあります。



前方エリアの警告ディスプレイ

- ① 車両左側のセグメント
- ② 車両右側のセグメント
- ③ 作動可能状態を示すセグメント

車両の各側の警告ディスプレイは、5 個の黄色セグメントおよび 2 個の赤色セグメントに分けられます。作動可能状態を示す黄色セグメント ③ が点灯しているときは、パークトロニックは作動可能です。

エンジンがかかっているときに、選択したトランスミッションのポジションと車両の進行方向により、どの警告ディスプレイが作動するかが決定されます。

トランスミッションのポジション	警告ディスプレイ
D	前方エリアが作動します。
R、N または、車両が後退しているとき	前方と後方のエリアが作動します。
P	どのエリアも作動しません。

車両が障害物に近づくにつれ、障害物からの車両の距離に応じて 1 個またはそれ以上のセグメントが点灯します。

- 6 個目のセグメントになると、警告音が約 2 秒間断続的に鳴ります。
- 7 個目のセグメントになると、警告音が約 2 秒間鳴ります。これは、最短距離に達していることを示しています。

パークトロニックの解除 / 設定



- ① 表示灯
- ② パークトロニックの解除 / 設定

表示灯 ① が点灯しているときは、パークトロニックが解除されています。

- i** イグニッション位置を 2 にすると、パークトロニックは自動的に設定されます。

パークトロニックのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
パークトロニック警告ディスプレイの赤色セグメントだけが点灯している。 警告音が約 2 秒間鳴った。 約 20 秒後にパークトロニックが解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニックの故障のため、機能が解除されている。 ▶ トラブルが続くようであれば、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニック警告ディスプレイの赤色セグメントだけが点灯している。 約 20 秒後にパークトロニックが解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。 ▶ パークトロニックセンサーを清掃してください (▷301 ページ)。 ▶ 再度、イグニッション位置を 2 にしてください。 外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が解除されている。 ▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください (▷196 ページ)。

アクティブパーキングアシスト

重要な安全上の注意事項

アクティブパーキングアシストは、補助のみを行なうものです。周囲に対する運転者の注意の代わりになるものではありません。安全な転回や駐車に関する責任は運転者にあります。転回し、駐車している間は、周囲に人や動物、障害物がないことを確認してください。

警告

駐車操作を行なっているときは、車両が対向車線の部分に入ることがあります。結果的に、他の車両に衝突することがあります。事故の危険性があります。

駐車操作を行なっている間は、他の車両に注意を払ってください。必要であれば、車を停車するか、アクティブパーキングアシストの操作を中断してください。

! 縁石のような障害物を避けられないときは、鋭角でない角度でゆっくりと乗り越えてください。さもないと、ホイールやタイヤを損傷するおそれがあります。

アクティブパーキングアシストは、以下のような駐車に適さない駐車スペースを表示することもあります。

- 停車および駐車が禁止されている場所
- 私道の前方や出入り口
- 駐車に適さない路面

駐車の知識：

- 狭い道では、できるだけ駐車スペースの近くを通過して走行してください。
- 駐車スペース内にゴミが落ちていたり、草が生い茂ってたり、トレーラーけん引部が突き出ている場合などは、正しく見分けられなかったり、検知できないことがあります。
- 雪や激しい雨により、正しく計測されていない駐車スペースに誘導することがあります。
- 駐車を行なっている間は、パークトロニックの警告に注意してください（▶196 ページ）。
- 運転者はいつでも、操作を修正するためにステアリング手順に介入できます。アクティブパーキングアシストは中止されます。
- 車両からはみ出た荷物を運搬しているときは、アクティブパーキングアシストを使用しないでください。
- スノーチェーンを装着しているときは、決してアクティブパーキングアシストを使用しないでください。
- タイヤの空気圧が常に適正であることを確認してください。車両の駐車操作に直接影響します。

- 駐車スペースに車両を停める方法は、色々な要因により影響を受けます。それらは車両の前後に停車している車両の位置や形、場所の状態などです。場合により、アクティブパーキングアシストは駐車スペースからかなり離れていたり、十分に離れていない場所に誘導することがあります。場合により、縁石をまたいだり縁石に乗り上げることもあります。必要であれば、アクティブパーキングアシストによる駐車操作を中止してください。
- 運転者は駐車操作の間に前進ギアに入れることもできます。このときは車両が駐車スペースに向かって走行しなくなります。運転者がより良い駐車位置を得るためにギア操作を行った場合は、駐車手順が中止されます。

全体的な注意事項

アクティブパーキングアシストは、超音波センサーによる電子式駐車補助システムです。超音波は車両両側の道路の計測に使用されます。適切な駐車スペースは駐車マークで示されます。ステアリングの介入操作により、駐車を補助します。

パークトロニックも併せて利用できます (▶195 ページ)。パークトロニックが解除されているときは、アクティブパーキングアシストも使用できません。

駐車スペースが以下のときにアクティブパーキングアシストを使用してください。

- 走行する方向と平行なとき
- カーブしていない直線道路のとき
- 歩道以外の舗装路面など、道路と駐車スペースが同じ高さのとき

駐車スペースの検知

駐車スペースを計測しているときは、アクティブパーキングアシストの検知範囲外の高さにある障害物は検知されません。例えば、突き出している荷物や車両後部、積載用スロープなどは、システムが駐車手順を計算するときに考慮されません。状況によっては、アクティブパーキングアシストが駐車スペースを指示するタイミングが早すぎる場合があります。

警告

障害物が検知範囲の上方にある場合は、アクティブパーキングアシストの駐車スペースへのステアリング操作が早すぎる場合があります。結果的に衝突することがあります。事故の危険性があります。

障害物が検知範囲の上方にある場合は、車両を停止して、アクティブパーキングアシストを中止してください。

アクティブパーキングアシストは、前進しているときに自動的に作動します。システムは走行速度が約 35km/h になるまで作動します。作動中、システムは車両の両側の駐車スペースを独自に見つけて、測定します。走行速度が約 30km/h 以下のときは、メーターパネルにステータスインジケータとしてパーキングアシストマークが表示されます。通常では、アクティブパーキングアシストは助手席側のみの駐車スペースを表示します。運転席側の方向指示灯を作動させると、すみやかに運転席側の駐車スペースを表示します。運転席側に駐車するときは、運転席側の方向指示灯を作動させたままにしてください。

運転者がマルチファンクションステアリングの [OK] スイッチを押してアクティブパーキングアシストの使用を確認するまで、方向指示灯は作動させたままにします。

駐車スペースが検知されたときは、右または左向きの矢印が表示されます。



駐車スペースが検知されたときの例

- ① 左側に駐車スペースが検知されたとき
- ② パーキングアシストマーク
- ③ 右側に駐車スペースが検知されたとき

アクティブパーキングアシストは、以下のときにのみ駐車スペースを検知します。

- 走行する方向と平行なとき
- 少なくとも約 1.5m 以上の幅があるとき
- 車両の全長よりも約 1.0m 以上長いとき

駐車スペースの表示は、駐車スペースを通り過ぎてから約 15m 離れるまで表示されます。

駐車する

⚠ 警告

アクティブパーキングアシストは単にステアリング操作に介入して運転者を補助するものです。運転者自身がブレーキ操作を行わなければ、事故の危険性があります。

駐車や移動を行なうときは常に運転者自身がブレーキ操作を行なってください。

- ① 駐車作業中にパークトロニックが障害物を検知したときは、アクティブパーキングアシストは自動的にブレーキを効かせます。適切なタイミングでブレーキを効かせる責任は運転者にあります。

駐車スペースが進行方向と並行であっても、以下のときはアクティブパーキングアシストは運転者の支援を行いません。

- 駐車スペースが縁石の上にある
- 枝葉または草の舗装ブロックなどで駐車スペースが明確に塞がれている
- 作動範囲が狭すぎる

- ・ 駐車スペースが、木やトレーラーのような明確に区別できない障害物に接しているとき

▶ 希望する場所の駐車スペースマークがマルチファンクションディスプレイに表示されたときは、停車します。

▶ ポジション **R** にシフトします。

マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシストオン Yes: OK No:**  と表示されます。

▶ **操作を中止する**：マルチファンクションステアリングの  スイッチを押すか、走行します。

または

▶ **アクティブパーキングアシストを使って駐車する**：マルチファンクションステアリングの **[OK]** スイッチを押します。

マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト作動中 アクセルとブレーキを操作 周囲を確認** と表示されます。

▶ ステアリングが動きます。

▶ 常にブレーキ操作の準備をしながら後退します。後退中は速度が約 10km/h を超えないようにしてください。さもないと、アクティブパーキングアシストが解除されます。

i 小さな駐車スペースでは、できるだけ後方までバックすることにより最良の駐車結果が得られます。このときは、パークトロニックのメッセージにも従ってください。

▶ パークトロニックが継続的な警告音を発したらすみやかに停車します。警告を発する前ではありません。小さな駐車スペースでは位置の微修正が必要になります。

マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト作動中 D にシフト 周囲を確認** と表示されます。

▶ 停車した状態で、トランスミッションのポジション **D** を選択します。

アクティブパーキングアシストがただちに反対の方向にステアリングをまわします。

マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト作動中 アクセルとブレーキを操作 周囲を確認** と表示されます。

i 発進する前にステアリング操作が完了するまで待つことにより、最良の結果が得られます。

▶ 常にブレーキ操作の準備をしながら前進します。

▶ パークトロニックが継続的な警告音を発したらすみやかに停車します。警告を発する前ではありません。

マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト作動中 R にシフト 周囲を確認** と表示されます。

▶ トランスミッションのさらなるシフト操作が必要になる場合があります。

駐車操作が完了すると、すみやかにマルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト オフ** と表示されます。アクティブパーキングアシストが解除されます。パークトロニックは引き続き作動します。

▶ 必要であれば、位置の微修正を行いません。

▶ 常にパークトロニックの警告ディスプレイに従ってください (▶ 196 ページ)。

運転のヒント：

- 駐車後に車両がどのように駐車スペース内に位置しているかは、さまざまな要因に左右されます。これらには、前後に駐車している車両の位置や形状、および位置の状況が含まれます。アクティブパーキングアシストは、駐車スペースから非常に離れたところに、または十分離れていないところにガイドします。状況によっては、縁石に跨ったり、または上に誘導することもあります。必要な場合は、アクティブパーキングアシストでの駐車操作を中断してください。
- 早めに前進ギアに入れることもできます。車両は方向を変更し、駐車スペース内いっぱいまでは進みません。ギアの変更が早すぎると、パーキング操作は中断されます。この位置からは、適切な駐車位置に到達することはできなくなります。

駐車スペースから出る

警告

アクティブパーキングアシストは道路交通のモニターは行ないません。駐車スペースから出るときは、場合によっては車両が対向車線部分に入ることもあります。

安全性に対する責任は運転者にあり、接近してきたり通過する他の車両への注意を払わなければなりません。必要であれば車両を停止して、アクティブパーキングアシストを中止してください。

駐車スペースから出るときにアクティブパーキングアシストが運転者を支援するためには、以下のことが必要になります。

- 駐車スペースの境界が低すぎないこと
- 駐車スペースの境界の幅が広すぎないこと。システムは、駐車スペース内の開始地点に対して最大 45 度の位置まで車両を転回させます。
- 転回する距離が少なくとも 0.6m あること

アクティブパーキングアシストを使用して車両を駐車したときにのみ、アクティブパーキングアシストは駐車スペースから出る補助を行なうことができます。

- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ 道路に面した側の方向指示灯を作動させます。
- ▶ トランスミッションをポジション D または R にシフトします。

マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシストオン Yes: OK No:**  というメッセージが表示されます。

操作を中止する

- ▶ マルチファンクションステアリングの  スイッチを押すか、走行します。

または

アクティブパーキングアシストを使って駐車スペースから出る

- ▶ マルチファンクションステアリングの  スイッチを押します。

マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト作動中 アクセルとブレーキを操作 周囲を確認**と表示されます。

- ▶ ステアリングから手を放します。
- ▶ 常にブレーキ操作の準備をしながら後退または前進します。駐車スペースから出るときは速度が約 10km/h を超えないようにしてください。さもないと、アクティブパーキングアシストが解除されます。

- ▶ パークトロニックが警告音を発する前ではなく、継続的な警告音を発したらすみやかに停車します。
- ▶ 必要に応じて、停車した状態でトランスミッションをポジション **D** または **R** にシフトします。

アクティブパーキングアシストがただちに反対の方向にステアリングをまわします。マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト作動中 アクセルとブレーキを操作 周囲を確認**と表示されます。

- i** 発進する前に、ステアリング操作が完了することを待つことにより、最良の結果が得られます。

作動後に後退した場合は、ステアリングは直進の位置に動きます。

- ▶ 常にブレーキ操作の準備をしながら前進または後退します。
- ▶ パークトロニックが警告音を発する前ではなく、継続的な警告音を発したらすみやかに停車します。
- ▶ パークトロニックの指示に従って、必要な場合は前進または後退します。

駐車スペースから完全に出た場合のみ、ステアリングは直進の位置に動きます。確認音が聞こえ、**パーキングアシスト オフ**というメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。その後は、運転者自身でステアリング操作を行ない、交通に合流しなければなりません。パークトロニックは引き続き作動します。

アクティブパーキングアシストの中止

アクティブパーキングアシストはいつでも中止できます。

- ▶ ステアリングの動きを停止するか、運転者自身でステアリング操作を行ないます。

アクティブパーキングアシストが解除されます。マルチファンクションディスプレイに**パーキングアシスト 中止**と表示されます。

または

- ▶ センターコンソールのパークトロニックオフスイッチを押します (▷197 ページ)。

パークトロニックが停止し、アクティブパーキングアシストがただちに中止されます。マルチファンクションディスプレイに**パーキングアシスト 中止**と表示されます。

アクティブパーキングアシストは、以下のときに自動的に中止されます。

- トランスミッションのシフト操作が早すぎる時
- アクティブパーキングアシストを使用した駐車ができないとき

- 約 10km/h 以上の速度で走行したとき
- 車輪が空転して ESP® が作動するか、ESP® が作動できないとき。メーターパネルの ESP® 警告灯  が点灯します。

警告音が鳴ります。パーキングアシストマークが消え、マルチファンクションディスプレイに**パーキングアシスト中止**と表示されます。

アクティブパーキングアシストが中止されたときは、運転者自身でステアリングを再度まわさなければなりません。

システムに故障が発生した場合は、車両にブレーキが効いて停止します。走行するためには、再度アクセルペダルを踏んでください。

パーキングアシストリアビューカメラ

重要な安全上の注意事項

パーキングアシストリアビューカメラは、補助のみを行なうものです。周囲に対する運転者の注意の代わりになるものではありません。安全な転回や駐車に関する責任は運転者にあります。転回し、駐車している間は、周囲に人や動物、障害物がないことを確認してください。

以下のような場合は、パーキングアシストリアビューカメラは機能しなかったり、機能が制限されます。

- テールゲートが開いているとき
- 激しい雨や雪、霧のとき
- 夜間または非常に暗い場所のとき
- カメラが非常に明るい光にさらされたとき
- 周囲が蛍光灯や LED ライトで照らされているとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 寒冷時に暖房されたガレージに入ったときなど、急激な温度変化があったとき
- カメラのレンズが汚れていたり、付着物があるとき
- 車の後部を損傷したとき。このときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの位置や設定を調整してください。この作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

全体的な注意事項



パーキングアシストリアビューカメラ①は、テールゲートハンドルにあります。

パーキングアシストリアビューカメラ①は、視覚的に駐車および移動を補助します。ガイドラインとともに COMAND ディスプレイに車両後方のエリアを表示します。

車両後方のエリアは、ルームミラーに写るように鏡像で表示されます。

パーキングアシストリアビューカメラの作動 / 解除

- ▶ **作動させる**：イグニッション位置が 2 にあることを確認します。
- ▶ **COMAND システムのリアビューカメラ機能**が設定されていることを確認します。COMAND システムについて、詳しくは別冊の取扱説明書をご覧ください。
- ▶ リバースギア **R** に入れます。
車両後方のエリアが、ガイドラインとともにディスプレイに表示されます。



- ▶ **解除する**：パーキングアシストリアビューカメラは、以下のときに解除されます。
 - トランスミッションのポジション **P** を選択したとき
 - 約 10m 前進したとき
 - トランスミッションを **R** から他のポジションにシフトして約 15 秒経過したとき
 - 約 10km/h 以上の速度で前進したとき

ディスプレイの表示

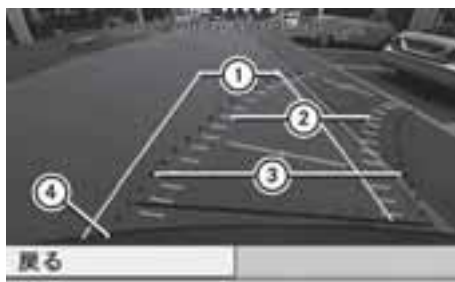
パーキングアシストリアビューカメラは、障害物の歪んだ映像を表示したり、不正確にまたはまったく表示しないことがあります。以下のエリアでは、パーキングアシストリアビューカメラでは障害物は表示されません。

- リアバンパーのすぐ近く
- リアバンパーの下方
- テールゲートハンドルのすぐ上方

! 地面に接していないものは、実際よりも遠くにあるように見えるため、注意してください。例えば以下のようなものがあります。

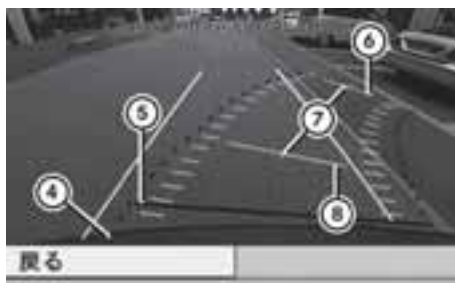
- 自車の後方に駐車している車両のバンパー
- トレーラーのけん引部
- トレーラーヒッチのボールカップリング
- 大型車両の後端
- 傾いた柱

表示されるガイドラインは目安です。障害物との正しい距離を測るためのものではありません。障害物に近づいたときは、赤色ガイドラインを越えないようにしてください。



レーン

- ① ステアリングが直進状態のときの車両全幅を示す白色レーン（固定）
- ② 現在のステアリング操舵角でのタイヤの進路を示す黄色レーン（ステアリング連動）
- ③ 現在のステアリング操舵角での車両全幅を示す赤色レーン（ステアリング連動）
- ④ バンパー



ガイドライン

- ④ バンパー
- ⑤ 車両後部から約 0.3m の距離を示す赤色ガイドライン
- ⑥ 車両後部から約 4.0m の距離を示す黄色ガイドライン
- ⑦ 車両中心軸（補助マーカー）
- ⑧ 車両後部から約 1.0m の距離を示す黄色ガイドライン

レーンとガイドラインは、リバースギア **R** に入れたときにのみ表示されます。

距離表示は地面にある障害物にのみ適用されます。



パークトロンニック装備車の追加メッセージ

- ① フロント警告ディスプレイ
- ② パークトロンニックの作動が可能であることを示す表示
- ③ リア警告ディスプレイ

パークトロンニック装備車：パークトロンニックが作動可能なときは（▷195ページ）、作動可能であることを示す表示 ② がディスプレイに表示されます。パークトロンニック警告ディスプレイが点灯しているときは、それに従って警告ディスプレイ ① と ③ もディスプレイ内で点灯します。

後退駐車機能

► COMAND システムの**リアビューカメラ**機能が設定されていて、パーキングアシストリアビューカメラが作動していることを確認します。COMAND システムについて、詳しくは別冊の取扱説明書をご覧ください。

レーンとガイドラインが表示されます。

ステアリングをまわさないで、駐車スペースにまっすぐ後退する



- ① ステアリングが直進状態のときの進路を示す白色レーン
- ② 車両後部から約 1.0m の距離を示す黄色ガイドライン
- ③ 車両後部から約 0.3m の距離を示す赤色ガイドライン

- ▶ 白色レーン ① の補助により、車両が駐車スペースに合うかどうかを確認します。
- ▶ 白色レーンを目安として使用して、後端位置に達するまで注意しながら後退します。

赤色ガイドライン ③ が駐車スペースの後端位置になります。車両は駐車スペースとほぼ平行になっています。

ステアリングをまわしながら、直角に後退する

- ▶ 駐車スペースを通過したら、車両を停止します。



ステアリングをまわす

- ① 現在のステアリング操舵角での車両の進路を示す赤色レーン
- ② 駐車スペースのマーク

- ▶ 車両が停止しているときに、赤色レーンが駐車スペースのマーク ② に達するまで、駐車スペースの方向にステアリングをまわします。
- ▶ ステアリングをその位置にしたまま注意して後退します。



ステアリングをまわして後退する

- ① 現在のステアリング操舵角での車両の進路を示す赤色レーン
- ▶ 駐車スペースのほぼ前になったときに車両を停止します。

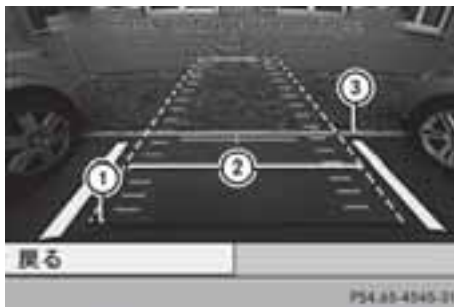
白色レーンが駐車スペースのマークに平行で、できるだけ接近するようにしてください。



後端位置まで後退する

- ① 現在のステアリング操舵角での車両の進路を示す白色レーン
- ② 駐車スペースのマーク

- ▶ 車両を停止しているときに、ステアリングを直進位置にまわします。



- ① 車両後部から約 0.3m の距離を示す赤色ガイドライン
- ② ステアリングが直進状態のときの進路を示す白色レーン
- ③ 駐車スペースの後端位置

- ▶ 後端位置に達するまで注意して後退します。

赤色ガイドライン ① が駐車スペースの後端位置 ③ になります。車両は駐車スペースとほぼ平行になっています。

アテンションアシスト

全般的な注意事項

アテンションアシストは高速道路や幹線道路のような道路で、長時間にわたり変化の少ない走行をするときに運転者を補助します。約 80km/h から約 180km/h の範囲で作動します。

アテンションアシストが運転者の疲労の増加や集中力の欠如などの典型的な兆候を検知したときは、休憩を促します。

重要な安全上の注意事項

アテンションアシストは、補助のみを行なうものです。疲労や注意力低下に対する警告が遅れたり、警告がまったく行なわれないことがあります。十分な休憩を取り、集中力のある運転の代わりになるものではありません。

アテンションアシストは以下のような基準を考慮して、運転者の疲労や集中力欠如の度合いを判断します。

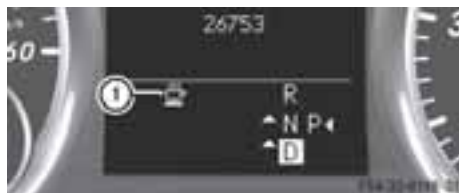
- ステアリング操作などの運転スタイル
- 時刻や運転時間などの走行に関する要因

以下のときは、アテンションアシストの機能が制限され、警告が遅れたり、警告がまったく行なわれないことがあります。

- 路面が平坦でなかったり、穴があるなど、道路の状態が悪いとき
- 横風が強いとき

- 高いスピードでカーブを曲がっているときや急加速をしているときなど、スポーティな運転を行なっているとき
- 約 80km/h 以下や約 180km/h 以上の速度で走行していることが多いとき
- COMAND システムを操作しているときや COMAND システムの電話機能で通話しているとき
- 時刻の設定が正しくないとき
- 車線を変えたり走行速度を変えるなど、活発な運転状況のとき

マルチファンクションディスプレイの警告とディスプレイメッセージ



- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、アテンションアシストを設定します (▶230 ページ)。

マルチファンクションディスプレイにマーク ① が表示されます。

アテンションアシストが設定されたときは、運転を開始してから約 20 分以内は警告は行なわれません。断続的な警告音が 2 回鳴り、マルチファンクションディスプレイにアテンションアシスト 休憩してくださいと表示されます。

- ▶ 必要であれば、休憩を取ってください。

- ▶ **OK** スイッチを押して、メッセージを確認します。

長時間の運転では、確実に休息するために、適切な時間に定期的な休憩を取ってください。休憩を取らないときは、最短で約 15 分後に再度警告を行ないます。アテンションアシストが運転者の疲労や注意力低下の典型的な兆候を検知すると、再度警告を行ないます。

以下のことを行なって走行を続けたときは、アテンションアシストはリセットされ、再度運転者の疲労の検知を開始します。

- エンジン进行停止する
- 運転を交代したり休憩を取るなどにより、運転者がシートベルトを外して、運転席ドアを開いたとき

スピードリミットアシスト

全体的な注意事項

スピードリミットアシストはマルチファンクションディスプレイに検知した速度制限を表示します。ナビゲーションシステムからのデータもこの目的のために使用されます。速度制限または速度制限の終了を示す交通標識をスピードリミットアシストが検知すると表示が現れます。スピードリミットアシストが交通標識を何も検知しない場合は、デジタル道路地図からの速度制限を取り込み、画面に表示します。

スピードリミットアシストはフロントガラスの上部に装着されたカメラで交通標識を検知します。



① スピードリミットアシストカメラ

重要な安全上の注意事項

スピードリミットアシストは、補助のみを行なうものであり、許容最高速度を規定している道路標識を常に検知するわけではありません。道路標識は常に、スピードリミットアシストの表示に優先します。

以下のときは、システムが機能しなかったり、機能が制限されます。

- 雪や雨、霧や小雨などで視界が悪いとき
- 対向車や太陽、または他の車からの反射光などでまぶしいとき
- フロントウィンドウが汚れていたり、曇っているとき、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われているとき
- 交通標識が汚れや雪、木などにより覆われているとき
- 交通標識の点灯が暗いとき
- 例えば、近くの道路工事や複数の車線に対応したものなど、不明瞭な交通標識のとき

マルチファンクションディスプレイの情報



- ① 速度制限、または速度制限の終了を示す交通標識（例）
- ② スピードリミットアシストが使用可能、およびマルチファンクションディスプレイの警告機能が作動
- ③ 表示される交通標識で使用される単位

検知した交通標識を短時間表示する

- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用してスピードリミットアシストを作動させます。

マーク ② が表示されます。

交通標識を検知すると、すみやかに速度制限、または速度制限区域の終了を示す交通標識 ① がマルチファンクションディスプレイに約 5 秒間表示されます。

速度制限を示す交通標識 ① は、通常は以下のときまで表示されます。

- 速度制限の終了を示す交通標識が検知されたとき
- 曲がったとき
- 街から出る、または入るとき
- 道路の種類が変わるとき（例：自動車専用道路や郊外の道路）

- 交通標識が繰り返されたり、再度検知されずに一定の最低距離を走行したとき

i COMAND システムを使用して、スピードリミットアシストを作動させることもできます。最高許容速度は COMAND ディスプレイに表示されます。

レーントラッキングパッケージ

全体的な注意事項

レーントラッキングパッケージは、ブラインドスポットアシスト（▷212 ページ）とレーンキーピングアシスト（▷214 ページ）から構成されています。

ブラインドスポットアシスト

重要な安全上の注意事項

警告

ブラインドスポットアシストは、以下には反応しません。

- ブラインドスポットエリアのある側面の非常に近い場所で追い越された車両
- 12km/h 以上の速度差で追い越しを行なった場合
- または、大きな速度差で車両が接近してきて、自車を追い越した場合

結果的に、そのような状況ではブラインドスポットアシストは警告を行なうことができません。事故の危険性があります。

常に交通状況に注意し、車両側方の安全な距離を保ってください。

ブラインドスポットアシストは、補助のみを行なうものです。場合によっては車両を検知できないことがあり、注意深い運転の代わりになるものではありません。

全体的な注意事項

ブラインドスポットアシストはレーダーセンサーシステムを使用して、車両側方のエリアをモニターします。約 30km/h 以上の速度で運転者を支援します。ドアミラーの警告表示によって、モニターしている範囲で検知された車両に運転者の注意が向けられます。そのときに車線変更する側の方向指示灯を作動させると、視覚的および聴覚的な衝突警告が行なわれます。この目的のために、ブラインドスポットアシストはリアバンパーのセンサーを使用します。

電波望遠鏡施設の近辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に解除されます（▷362 ページ）。

走行時にブラインドスポットアシストが支援を行なうためには、レーダーセンサーシステムが以下でなければなりません。

- 設定されている（▷236 ページ）
- 作動可能な状態である

i 国によっては、レーダーセンサーシステムを解除しなければなりません（▷236 ページ）。

レーダーセンサーシステムに関するさらなる情報は（▷236 ページ）をご覧ください。

センサーのモニター範囲

特に以下のときは、障害物の検知が制限されることがあります。

- センサーが汚れている場合、またはセンサーが何かにより覆われている場合
- 霧、激しい雨または雪などにより、視界が悪いとき
- 前方にオートバイや自転車などの幅の狭い車両が走行しているとき
- 車線の幅が非常に広いとき
- 車線の幅が狭いとき
- 車線の中央を走行していないとき
- ガードレール、または他の道路の境界

これらの場合は、モニター範囲にいる車両は検知されません。



ブラインドスポットアシストは図に示すように、約 3m までの車両後方、および車両のすぐ側方の範囲をモニターします。このために、ブラインドスポットアシストはリアバンパーのセンサーを使用します。

車線が狭い場合、特に車両が車線の中央を走行していない場合は、自車の 2 車線隣りの車両を検知することがあります。これは、車両が車線の外端部を走行している場合などです。

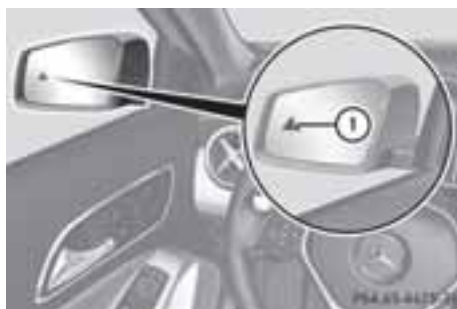
以下は、システムの特性に起因するものです。

- ガードレール、または似たような高さのある車線境界の近くを走行しているときに誤って警告が発せられることがあります。
- トラックのように特に長い車両の脇を長い間走行しているときに、警告が中断されることがあります。

2 つのブラインドスポットアシストのセンサーがリアバンパーの横に内蔵されています。バンパーのセンサーとその周辺に、汚れや、氷、泥がないことを確認してください。レーダーセンサーが自転車用ラック、または突き出た荷物などによって覆われないようにしてください。強い衝撃を受けたり、バンパーに損傷を与えたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの機能を点検してください。ブラインドスポットアシストが正しく作動しないことがあります。

表示灯と警告表示

ブラインドスポットアシストは、約 30km/h 以下の速度では作動しません。モニター範囲にいる車両は検知されません。



① 黄色表示灯 / 赤色表示灯

ブラインドスポットアシストがオンになっているとき、ドアミラーの表示灯①は、約30km/h以下の速度では黄色に点灯します。約30km/h以上の速度では、表示灯は消え、ブラインドスポットアシストが作動可能になります。

約30km/h以上の速度でブラインドスポットアシストのモニター範囲内に車両が検知されると、対応する側の警告灯①が赤色に点灯します。この警告は、後方から、または側方から車両がブラインドスポットのモニター範囲に入ったときに常に行なわれます。車両を追い越すときは、速度差が約12km/h以下の場合にのみ警告が行なわれます。

黄色の表示灯はリバースギアに入ると消灯します。ブラインドスポットアシストは作動しなくなります。

表示灯 / 警告灯の明るさは周囲の明るさによって自動的に調整されます。

衝突警告

方向指示灯を作動させて車線を変更し、モニター範囲側で車両が検知されると、2倍の速さの警告音が発せられます。赤色の警告灯①が点滅します。方向指示灯をそのままにすると、検知された車両が赤色の警告灯①の点滅により示されます。警告音はそれ以上鳴りません。

ブラインドスポットアシストを作動させる

- ▶ マルチファンクションディスプレイで、ブラインドスポットアシスト（▷231ページ）が設定されていることを確認します。
- ▶ イグニッション位置を **2** にします。

ドアミラーの警告灯①が約1.5秒間赤色に点灯し、黄色に変わります。

レーンキーピングアシスト

全体的な注意事項

レーンキーピングアシストはフロントウインドウ上部にあるカメラで車両前部をモニターします。レーンキーピングアシストは路面の車線マークを検知し、意図せずに車線を外れる前に運転者に警告を行ないます。



① レーンキーピングアシストカメラ

マルチファンクションディスプレイの表示単位 **速度 / 距離**：(▷232 ページ) 機能で **km** を選択すると、アクティブレーンキーピングアシストは約 60km/h の速度のときに作動を開始します。**miles** 表示が選択されていると、支援範囲は約 40mph から始まります。

重要な安全上の注意事項

警告

レーンキーピングアシストは、常に道路の車線マークを正しく検知することはできません。

そのような状況では、レーンキーピングアシストは以下のようになります。

- 不必要な警告を行ないます
- 警告が行なわれません

事故の危険性があります。

レーンキーピングアシストが警告を行なったときは特に、交通状況および車線内に車両を維持することに常に注意を払ってください。

警告

レーンキーピングアシストは車両を車線内に戻すことはできません。事故の危険性があります。

レーンキーピングアシストが警告を行なったときは特に、運転者自身がステアリングとブレーキまたはアクセル操作を常に行なってください。

適切な運転スタイルをとっていない場合は、レーンキーピングアシストは事故の危険性を低減させることはできません。レーンキーピングアシストは道路や交通事情、そして天候状況を考慮することはできません。レーンキーピングアシストは運転者を補助するためだけに設計されたものです。先行車との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作と車線内に車両を維持する責任は運転者にあります。

レーンキーピングアシストは車両を車線内に保つことはできません。

以下のときはシステムが影響を受けたり、機能しないことがあります。

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や小雨により視界が悪い
- 対向車や太陽、または他の車からの反射光などでまぶしい（例えば路面が濡れている）
- フロントウインドウに汚れや損傷、曇りがあるとき、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われている
- 工事区間などで、車線を表示する車線ラインがない、あるいは数本ある、または不明瞭である
- 車線ラインが摩耗している、黒ずんでいる、または汚れや雪などに覆われている
- 先行車両との車間距離が短くて車線マークが検知できない
- 車線の分岐や他との交差、合流などで車線マークが頻繁に変わる
- 道路が狭かったりカーブしている
- 道路の陰影が様々である

前輪が車線マークを超えると警告が行なわれます。警告はステアリングを約 1.5 秒間以上振動させることにより行なわれます。

レーンキーピングアシストを作動させる



▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、レーンキーピングアシストを設定します (▷231 ページ)。そのためには、**標準**または**アダプティブ** (▷231 ページ) を選択します。

マーク ① がマルチファンクションディスプレイに表示されます。

約 60km/h 以上の速度で走行しているときに車線マークを検知すると、マーク ① が表示されます。レーンキーピングアシストが使用可能な状態になります。

標準を選択すると、以下のときは警告の振動は行なわれません。

- 方向指示灯を作動させたとき。このようなときは、警告が短時間に抑えられることがあります。
- ABS や BAS、ESP® などの走行安全装備が作動したとき

アダプティブを選択すると、以下のときは警告の振動は行なわれません。

- 方向指示灯を作動させたとき。このようなときは、警告が短時間に抑えられることがあります。
- ABS や BAS、ESP® などの走行安全装備が作動したとき
- キックダウンなどの急加速を行なったとき
- 急ブレーキを効かせたとき
- 障害物を避けるために急に進路変更をしたり、急に車線変更をするなど、活発なステアリング操作を行なったとき

• きついカーブの内側をまたいだとき
車線ラインを越えたときは、必要な状況で適切なタイミングでのみ警告を行なうため、システムは特定の状況を認識し、それに応じて警告を行ないます。

以下のときは、早めに警告の振動が行なわれます。

- カーブの外側の車線ラインに近づいたとき
- 高速道路などの非常に幅の広い道路のとき
- システムが実線の車線マークを検出したとき

以下のときは、遅めに警告の振動が行なわれます。

- 狭い車線の道路のとき
- カーブの内側をまたいだとき

役に立つ情報.....	218
重要な安全上の注意事項.....	218
ディスプレイと操作.....	218
メインメニューとサブメニュー...	222
ディスプレイメッセージ.....	238
メーターパネルの表示灯 / 警告灯	261

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で入手可能な、お客様の車両でのすべての車種、シリーズ、およびオプション装備について記載しています。国により仕様が異なることがあります。記載されているすべての機能が、お客様の車両に装備されていないことがあることにご留意ください。このことは、安全に関するシステムや機能にも当てはまります。

重要な安全上の注意事項

 警告

走行中にマルチファンクションディスプレイや COMAND システムなどの車両装備を使用すると、交通状況への注意が散漫になります。車両のコントロールを失うことがあります。事故の危険性があります。

それらは道路状況および交通状況が許すときに限り操作してください。不確かな交通状況のときは、安全な場所まで移動し、車を停止した状態でのみ、操作を行なってください。

 警告

メーターパネルまたはマルチファンクションディスプレイに異常があったり故障しているときは、安全に関する機能の制限を認識することができません。車両の安全な操作が損なわれるおそれがあります。事故の危険性があります。

注意して走行してください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

走行中のマルチファンクションディスプレイの操作に関しては、現在走行している国の法令を遵守してください。

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムからのメッセージや警告のみを表示します。そのため、運転者は車両が安全に運転できる状態であることを常に確認しなければなりません。さもないと、安全でない車両を運転することにより、事故の原因になります。

メーターパネルのイラストについては、"各部の名称"の章をご覧ください (▷30 ページ)。

ディスプレイと操作

メーターパネルの照明

メーターパネルとディスプレイ、車内のスイッチ類の照明は、メーターパネル照度調整ノブを使用して調整できます。

メーターパネル照度調整ノブは、メーターパネル左側下部にあります (▷30 ページ)。

▶ メーターパネル照度調整ノブを時計回りまたは反時計回りにまわします。

ライトスイッチの位置が **AUTO**、**☀** または **☾** のときは、メーターパネルの照度は周囲の明るさに応じて変化します。

i メーターパネルのライトセンサーにより、マルチファンクションディスプレイの照度は自動的に調整されます。

日中は、メーターパネルのディスプレイ照明は点灯しません。

エンジン冷却水温度計

エンジン冷却水温度計は、メーターパネルの右側にあります。

冷却水が適切に充填されているときでも、通常の作動条件で冷却水温度の表示が約 120℃ 付近を示すことがあります。

暑い日や上り坂が続くときなどには、冷却水温度計の指針が上限付近を示すことがあります。

タコメーター

! 許容回転数を超えた範囲で走行しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

タコメーターのレッドゾーンは、エンジンの許容回転数を超えた範囲を示しています。

レッドゾーンに達すると、エンジン保護のため、燃料供給が中断されます。

外気温度表示

氷点に近い温度では、特に注意して走行してください。

マルチファンクションディスプレイ内に外気温度表示があります。

外気温度の変化は、少し遅れて表示されます。

スピードメーター

スピードメーター内のセグメントは、使用できる速度の範囲を示しています。

- クルーズコントロール (▷176 ページ) が作動しているときは、設定速度から最高速度までのセグメントが点灯します。
- 可変スピードリミッター (▷179 ページ) が作動しているときは、最初の目盛りから設定速度までのセグメントが点灯します。
- ディストロニック・プラス (▷182 ページ) が作動しているときは、設定速度の 1 個または 2 個のセグメントが点灯します。
- ディストロニック・プラスが先行車を検知したときは、先行車の速度と設定速度の間のセグメントが点灯します。

マルチファンクションディスプレイの操作

概要



- ① マルチファンクションディスプレイ
- ② 音声認識スイッチ（別冊の取扱説明書をご覧ください）
- ③ 右側キーパッド
- ④ 左側キーパッド
- ⑤ リターンスイッチ

▶ マルチファンクションディスプレイを作動させる：イグニッション位置を 1 にします。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイの操作と設定を行なうことができます。

左側キーパッド



- メインメニューおよびメニューリストの呼び出し



軽く押す：

- リストのスクロール
- サブメニューまたは機能の選択
- **オーディオ**メニュー：プリセットされた放送局の選局、音楽トラックまたはビデオシーンの選択
- **TEL**（電話）メニュー：電話帳の表示および電話帳の名前または電話番号の選択



押して保持する：

- **オーディオ**メニュー：高速スクロールによる、前 / 次の放送局または音楽トラック、ビデオシーンの選択
- **TEL**（電話）メニュー：電話帳を開いている場合、高速スクロールの開始



- 選択項目 / ディスプレイメッセージの確定
- **TEL**（電話）メニュー：電話帳への切り替えと発信の開始
- **オーディオ**メニュー：希望の放送局で放送局サーチ機能を停止

右側キーパッド

	- 通話を拒否する、または終了 - 電話帳 / 発信履歴の終了
	- 発信する、または受ける - リダイヤルメモリーに切り替える
	音量の調節
	
	消音

リターンスイッチ

	軽く押す： - 戻る - 音声認識の終了：別冊の取扱説明書をご覧ください。 - ディスプレイメッセージの消去 / 最後に使用したトリップメニュー機能の呼び出し - 電話帳 / 発信履歴の終了
	押し続けて保持する： トリップメニューの基本画面の呼び出し

メニューリスト



- ① 外気温度または速度 (▷232 ページ)
- ② 時刻
- ③ 表示エリア
- ④ メニューリスト
- ⑤ 走行モード
- ⑥ トランスミッション表示

▶ **メニューリスト ④ を表示させる：**
ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押します。

メニューリスト④は数秒後に消えます。

表示エリア③には選択したメニューやサブメニュー、ディスプレイメッセージが表示されます。

i COMAND システムを使用して時刻を設定することができます。別冊の取扱説明書をご覧ください。

マルチファンクションディスプレイには以下のメッセージが表示されることがあります。

◀**P**▶ アクティブパーキングアシスト
(▶199 ページ)

 クルーズコントロール (▶176 ページ)

LIM 可変スピードリミッター (▶179 ページ)

 リアワイパー (▶128 ページ)

 アダプティブハイビームアシスト (▶118 ページ)

 アテンションアシスト (▶209 ページ)

ECO ECO スタートストップ機能 (▶152 ページ)

 スピードリミットアシスト (▶210 ページ)

 レーンキーピングアシスト (▶214 ページ)

HOLD ホールド機能 (▶193 ページ)

 車間距離警告 (▶67 ページ)

120 km/h! 許容最高速度の超過 (特定の国のみ)

メインメニューとサブメニュー

メニューの概要

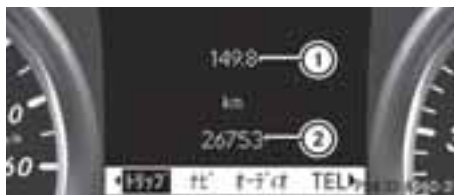
マルチファンクションディスプレイの操作は(▶220 ページ)をご覧ください。

車両のオプション装備により、以下のメニューを呼び出すことができます。

- **トリップ** メニュー (▶222 ページ)
- **ナビ** メニュー (▶224 ページ)
- **オーディオ** メニュー (▶226 ページ)
- **TEL** メニュー (▶227 ページ)
- **アシスト** メニュー (▶229 ページ)
- **メンテナンス** メニュー (▶231 ページ)
- **設定** メニュー (▶231 ページ)

トリップメニュー

基本画面



- ▶ マルチファンクションディスプレイにトリップメーター①とオドメーター②を含む**トリップ**メニューが表示されるまで、ステアリングの  スイッチを押して保持します。

トリップコンピューター " スタート後 " または " リセット後 "



" スタート後 " トリップコンピューターの例

- ① 距離
- ② 時間
- ③ 平均速度
- ④ 平均燃費

- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**トリップ** メニューを選択します。
- ▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、**スタート後** または **リセット後** を選択します。

スタート後 サブメニューの数値は、走行開始から算出されるものであり、**リセット後** サブメニューの数値は、サブメニューが最後にリセットされたときから算出されるものです (▶224 ページ)。

スタート後 のトリップコンピューターは、以下のときに自動的にリセットされます。

- イグニッションがオフになってから約 4 時間以上経過したとき
- 999 時間を超えたとき
- 9,999km を超えたとき

リセット後 のトリップコンピューターは、値が 9,999 時間または 99,999 km を超えると、自動的にリセットされます。

ECO 表示



- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**トリップ** メニューを選択します。
- ▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、**ECO 表示** を選択します。

イグニッションがオフになってから約 4 時間以上経過したときは、ECO 表示は自動的にリセットされます。

ECO 表示について、詳しくは (▶171 ページ) をご覧ください。

走行可能距離と燃費消費の表示



- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**トリップ** メニューを選択します。
- ▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、概算の走行可能距離 ① と現在の燃費 ② を選択します。

概算の走行可能距離 ① は、燃料の残量やそのときの運転スタイルによって変わります。燃料タンク内に残っている燃料の量が少なくなると、給油中の車両のマーク  が、走行可能距離の代わりにディスプレイに表示されます。

デジタルスピードメーター



- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、トリップメニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、デジタルスピードメーター ① を選択します。

数値のリセット



トリップメーターのリセットの例

以下の機能の数値をリセットできます。

- トリップメーター
- トリップコンピューター "スタート後 "
- トリップコンピューター "リセット後 "
- ECO 表示

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、トリップメニューを選択します。

- ▶  または  スイッチを押して、リセットしたい機能を選択します。
- ▶  スイッチを押します。
- ▶  スイッチを押して、はいを選択し、 スイッチを押します。

i ECO 表示の数値をリセットしたときは、"スタート後"の数値も同様にリセットされます。トリップコンピューター "スタート後"の数値をリセットしたときは、ECO 表示の数値も同様にリセットされます。

ナビメニュー

ナビゲーション案内の表示

- ▶ COMAND システムをオンにします（別冊の取扱説明書をご覧ください）。
- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、ナビメニューを選択します。

ナビメニューでは、マルチファンクションディスプレイにナビゲーション案内が表示されます。詳しい情報については別冊の取扱説明書をご覧ください。

ルート案内を行っていないとき



- ① 進行方向

ルート案内を行っているとき

進路変更の案内がないとき



- ① 目的地までの距離
② 次の進路変更までの距離
③ "案内ルートを進む"のマーク

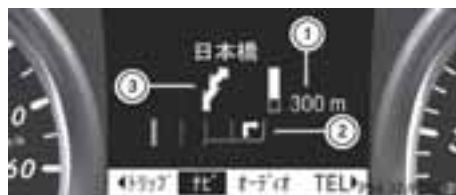
車線変更を伴わない進路変更の案内があるとき



- ① 進路変更の目標
② 進路変更までの距離と距離ディスプレイ表示
③ 進路変更マーク

進路変更の案内があるときは、距離ディスプレイ表示 ② が進路変更マーク ③ の横に表示されます。案内のあった進路変更地点に近づくにつれて、この表示は下から上へ短くなります。

車線変更を伴う進路変更の案内があるとき



- ① 交差点（分岐点）までの距離
② 推奨車線
③ 車線変更表示

複数の車線がある道路では、次の進路変更のための推奨車線 ② が表示されます。進路変更の間、追加の車線が表示されることがあります。

推奨車線は、デジタル地図に関連するデータがあるときのみ表示されます。

ナビゲーションシステムの他の状況表示

- 📍：目的地または立ち寄り地点に到着しました。
- 🔄：新ルートまたはルート計算中：新しいルートを探索中です。
- 📍：案内ルート外：車両の位置が地図の範囲外（地図外の位置）にあります。
- 📍：ルートなし：選択されている目的地へのルートを計算できませんでした。

オーディオメニュー

ラジオ放送局を選局する



- ① 周波数バンド
- ② プリセット番号および放送局名、または周波数

i プリセット番号は、放送局がプリセットされている場合にのみ放送局②と一緒に表示されます。

- ▶ COMAND システムをオンにします（別冊の取扱説明書をご覧ください）。
- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、オーディオメニューを選択します。
- ▶ プリセットされている放送局を選局する： または スイッチを軽く押します。
- ▶ 放送局リストから放送局を選局する： または スイッチを軽く押して保持します。

放送局リストが受信されない場合は、以下の操作を行ないます。

- ▶ 放送局サーチを使って放送局を選局する： または スイッチを軽く押して保持します。

i 周波数バンドの切り替えと放送局のプリセットの情報は、別冊の取扱説明書をご覧ください。

オーディオ機器またはメディアの操作



音楽 CD モードの表示例

- ① 現在選択されているオーディオ機器またはメディア
- ② 現在のトラック

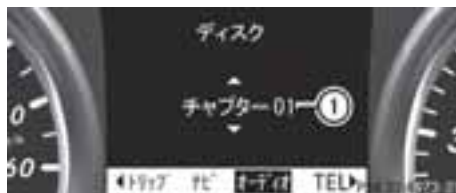
車両に装着された装備に応じて、多彩なオーディオ機器やメディアから音楽データを再生できます。

- ▶ COMAND システムをオンにします（別冊の取扱説明書をご覧ください）。
- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、オーディオメニューを選択します。
- ▶ 次 / 前のトラックを選択する： または スイッチを軽く押します。
- ▶ トラックリストからトラックを選択する（高速スクロール）：希望のトラック②が表示されるまで、 または スイッチを押して保持します。

または スイッチを長押しすると、スクロール速度が速くなります。すべてのオーディオ機器またはメディアがこの機能をサポートしているわけではありません。

オーディオ機器またはメディアにトラック情報が保存されているときは、マルチファンクションディスプレイにトラック名と番号が表示されます。オーディオ AUX モード（外部オーディオモード）では、現在のトラックは表示されません。

DVD ビデオの操作



DVD ビデオモードの表示の例

① 現在のチャプター

- ▶ COMAND システムをオンにして、DVD ビデオを選択します（別冊の取扱説明書をご覧ください）。
- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**オーディオ**メニューを選択します。
- ▶ **次 / 前のチャプターを選択する**：
▶ または ▼ スイッチを軽く押します。
- ▶ **チャプターリストからチャプターを選択する（高速スクロール）**：希望のチャプター ① が表示されるまで、▶ または ▼ スイッチを押して保持します。

TEL メニュー

はじめに

⚠ 警告

走行中にマルチファンクションディスプレイや COMAND システムなどの車両装備を使用すると、交通状況への注意が散漫になります。車両のコントロールを失うことがあります。事故の危険性があります。

それらは道路状況および交通状況が許すときに限り操作してください。不確かな交通状況のときは、安全な場所まで移動し、車を停止した状態でのみ、操作を行なってください。

電話の操作に関しては、現在走行している国の法令を遵守してください。

- ▶ 携帯電話と COMAND システムの電源をオンにします（別冊の取扱説明書をご覧ください）。
- ▶ 携帯電話と COMAND システムへの Bluetooth® 接続を確立してください（別冊の取扱説明書をご覧ください）。
- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**TEL**メニューを選択します。

マルチファンクションディスプレイに、以下のメッセージのいずれかが表示されます。

- **電話 待ち受け**またはネットワークのキャリア名：携帯電話がネットワークの探索を完了し、受信可能な状態です。

- **発信できません**：ネットワークに接続できない状態にあるか、携帯電話がネットワークを探索中の状態です。

i 適合する携帯電話と Bluetooth® による携帯電話の接続について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

着信を受ける



電話が着信したときの例

- ▶ ステアリングの スイッチを押して、着信した電話を受けます。

TEL メニューのときに電話が着信すると、マルチファンクションディスプレイにディスプレイメッセージが表示されます。

TEL メニューを表示していないときも着信した電話を受けることができます。

通話の拒否、または終了

- ▶ ステアリングの スイッチを押します。

TEL メニューでないときも、通話を終了または拒否できます。

電話帳からの発信

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**TEL** メニューを選択します。

- ▶ または **OK** スイッチを押して、電話帳を呼び出します。

- ▶ または スイッチを押して、希望の名称を選択します。

高速スクロールを開始するには、 または スイッチを約 1 秒以上押し続けます。

スイッチを放すか、リストの最後まで行くと、スクロールは停止します。

- ▶ **名称に 1 件だけ電話番号が保存されているとき**： または **OK** スイッチを押して、発信を開始します。

または

- ▶ **その名称に 1 つ以上の番号があるとき**： または **OK** スイッチを押して、電話番号を表示させます。

- ▶ または スイッチを押して、発信先の番号を選択します。

- ▶ または **OK** スイッチを押して、発信を開始します。

または

- ▶ **電話の発信を止める**： または スイッチを押します。

リダイヤル

マルチファンクションディスプレイでは、最後に発信した名称と番号がリダイヤルメモリーに保存されています。

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**TEL** メニューを選択します。

- ▶ スイッチを押して、リダイヤルメモリーに切り替えます。

- ▶ または スイッチを押して、希望の名称と番号を選択します。

- ▶  または **OK** スイッチを押して、発信を開始します。

または

- ▶ **電話の発信を止める**： または  スイッチを押します。

アシストメニュー

はじめに



アシストメニューでは、以下の選択を行なうことができます。

- スピードリミットアシストの表示およびこのメッセージ機能の設定 / 解除
- 車間ディスプレイの表示
- ESP® の設定 / 解除
- 車間距離警告機能の設定 / 解除
- アテンションアシストの設定 / 解除
- ブラインドスポットアシストの設定 / 解除
- レーンキープアシストの設定 / 解除

スピードリミットアシスト

スピードリミットアシストの表示

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシストメニュー**を選択します。

- ▶  または  スイッチを押して、**スピードリミットアシスト**を選択します。

- ▶ **OK** スイッチを押します。

状況に応じて (▷210 ページ)、マルチファンクションディスプレイに検知された制限速度が表示されます。

スピードリミットアシストのメッセージ機能の設定 / 解除

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシストメニュー**を選択します。

- ▶  または  スイッチを押して、**スピードリミットアシスト**を選択します。

- ▶ **OK** スイッチを押します。

マルチファンクションディスプレイにスピードリミットアシストが表示されます。

- ▶  スイッチを押します。

現在の選択内容が表示されます。

- ▶ **設定または解除する**：**OK** スイッチを押します。

スピードリミットアシストのメッセージ機能を設定したときは、検知された制限速度が自動的に約 5 秒間表示されます。この間は、マルチファンクションディスプレイの他の項目は表示されません。

スピードリミットアシストが作動しているとき、メッセージ機能を設定しているときは、イグニッション位置を **2** にすると、マルチファンクションディスプレイに  マークが表示されます。

車間ディスプレイの表示

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**車間ディスプレイ**を選択します。
- ▶  スイッチを押します。
マルチファンクションディスプレイにディストロニック・プラスの車間ディスプレイ (▶187 ページ) が表示されます。

ESP® の解除 / 作動

ESP® についての詳しい情報は (▶70 ページ) をご覧ください。

- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ESP** を選択します。
- ▶  スイッチを押します。
- ▶ **解除する**：再度  スイッチを押します。
メーターパネルの ESP® オフ表示灯  が点灯します。
- ▶ **待機状態にする**：再度  スイッチを押します。
メーターパネルの ESP® オフ表示灯  が消灯します。

車間距離警告機能の設定 / 解除

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。

- ▶  または  スイッチを押して、**車間距離警告**を選択します。
- ▶  スイッチを押します。
現在の選択内容が表示されます。
- ▶ **設定する / 解除する**：再度  スイッチを押します。

ホールド機能が作動していないときは、車間距離警告機能を設定すると、マルチファンクションディスプレイに  マークが表示されます (▶193 ページ)。

アクティブパーキングアシスト装備車：パークトロニックが作動していて、走行速度が約 35km/h 以下のときは、 マークの代わりにアクティブパーキングアシストマーク **P** が表示されます (▶199 ページ)。

車間距離警告機能についての詳しい情報は (▶66 ページ) をご覧ください。

アテンションアシストの設定 / 解除

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**アテンションアシスト**を選択します。
- ▶  スイッチを押します。
現在の選択内容が表示されます。
- ▶ **設定する / 解除する**：再度  スイッチを押します。

アテンションアシスト (▶209 ページ) を設定しているときは、イグニッション位置が **2** のときに、マルチファンクションディスプレイに  マークが表示されます。

ブラインドスポットアシストの設定 / 解除

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ブラインドスポット**を選択します。
- ▶  スイッチを押します。
現在の選択内容が表示されます。

- ▶ **設定する / 解除する**：再度  スイッチを押します。

ブラインドスポットアシストについての詳しい情報は（▷212 ページ）をご覧ください。

ブラインドスポットアシスト センサー 停止しましたと表示されたときは、レーダーセンサーシステムが解除されています。

- ▶ レーダーセンサーシステムが設定可能かどうかを確認してください（▷362 ページ）。
- ▶ レーダーセンサーシステムをオンにしてください（▷236 ページ）。

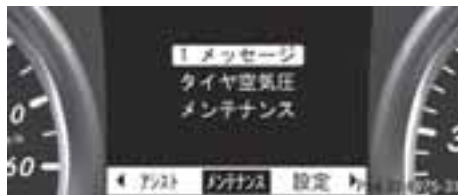
レーンキーピングアシストの設定 / 解除

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**レーンキーピングアシスト**を選択します。
- ▶  スイッチを押します。
現在の選択内容が表示されます。
- ▶  スイッチを押して、確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**オフ**、**標準**、または**アダプティブ**に設定します。

- ▶  スイッチを押して、設定を保存します。

レーンキーピングアシスト（▷214 ページ）を設定していて、イグニッション位置が**2**のときは、マルチファンクションディスプレイに  マークが表示されます。

メンテナンスメニュー



メンテナンスメニューには、以下の項目があります。

- ディスプレイメッセージの呼び出し（▷238 ページ）
- タイヤ空気圧警告システムの再起動（▷339 ページ）
- メンテナンスインジケータの呼び出し（▷294 ページ）

設定メニュー

はじめに



設定メニューには、以下の項目があります。

- メーターパネルの設定の変更
- ライトの設定の変更 (▷232 ページ)
- 車両の設定の変更 (▷235 ページ)
- コンフォートの設定の変更 (▷236 ページ)
- 設定項目の初期化 (▷237 ページ)

メーター

距離単位の設定

距離単位表示の機能により、マルチファンクションディスプレイの特定の表示のキロメートルまたはマイル表示を選択できます。

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**メーター**サブメニューを選択します。
- ▶  スイッチを押して、確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**表示単位 速度 / 距離**：機能を選択します。

選択されている設定、**km** または **miles** が表示されます。

- ▶  スイッチを押して、設定を保存します。

選択された距離の表示単位は、以下の項目に適用されます。

- **トリップ** メニューのデジタルスピードメーター
- オドメーターおよびトリップメーター

- トリップコンピューター
- 現在の燃費と走行可能距離
- クルーズコントロール
- 可変スピードリミッター
- ディストロニック・プラス
- メンテナンスインジケーターの表示

常時表示機能の選択

マルチファンクションディスプレイに速度あるいは外気温度を常時表示させるかどうかを選択できます。

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
 - ▶  または  スイッチを押して、**メーター**サブメニューを選択します。
 - ▶  スイッチを押して、確定します。
 - ▶  または  スイッチを押して、**サブメーター**：機能を選択します。
- 選択されている設定、**外気温度表示**または**速度表示 [mph]**：が表示されます。
- ▶  スイッチを押して、設定を保存します。

 速度は mph で表示されます。

ライト

ヘッドライト点灯モードの設定

デイトタイムライト：機能は、エンジンが停止しているときにのみ設定することができます。

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。

- ▶ ☐ または ☐ スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。
- ▶ ☐ スイッチを押して、確定します。
- ▶ ☐ または ☐ スイッチを押して、**デイトタイムライト**：機能を選択します。

選択されている設定、**オン**または**オフ**が表示されます。

- ▶ ☐ スイッチを押して、設定を保存します。

ヘッドライト点灯モードの詳しい情報は (▷112 ページ) をご覧ください。

インテリジェントライトシステムの設定

- ▶ ステアリングの ☐ または ☐ スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶ ☐ または ☐ スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。
- ▶ ☐ スイッチを押して、確定します。
- ▶ ☐ または ☐ スイッチを押して、**インテリジェントライトシステム**：機能を選択します。

選択されている設定、**オン**または**オフ**が表示されます。

- ▶ ☐ スイッチを押して、設定を保存します。

インテリジェントライトシステム：を設定したときは、以下の機能が作動します。

- ハイウェイモード
- アクティブヘッドライト
- コーナリングライト
- フォグランプ強化機能

ヘッドライト照射範囲の設定で、**右側通行用**を設定しているときは (▷233 ページ)、インテリジェントライトシステム設定画面の代わりに**インテリジェントシステム**システム作動できません **右側通行設定では無効**というディスプレイメッセージが表示されます。

インテリジェントライトシステムの詳しい情報は (▷116 ページ) をご覧ください。

ヘッドライト照射範囲の設定

- ▶ ステアリングの ☐ または ☐ スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶ ☐ または ☐ スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。
- ▶ ☐ スイッチを押して、確定します。
- ▶ ☐ または ☐ スイッチを押して、**ヘッドランプロービーム** 設定機能を選択します。

選択されている設定、**左側通行用**または**右側通行用**が表示されます。

- ▶ ☐ スイッチを押して、設定を保存します。

設定を変更すると、次に停車したときに変更が実行されます。

この機能は、インテリジェントライトシステム装備車のみで使用できます。

この機能を使用して、ロービームヘッドライトを左右対称または左右非対称に切り替えることができます。

ロービームヘッドライトを**右側通行用**に設定しているときは、ハイウェイモードおよびフォグランプ強化機能が解除されます。

ロービームヘッドライトを右側通行 / 左側通行に適した設定に切り替えるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

アダプティブハイビームアシストのオン / オフ

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押して、確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**アダプティブハイビームアシスト**：機能を選択します。

選択されている設定、**オン**または**オフ**が表示されます。

- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

この機能は、インテリジェントライトシステム装備車のみで使用できます。アダプティブハイビームアシストの詳細な情報は (▷118 ページ) をご覧ください。

アンビエントライト照度の設定

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押して、確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**アンビエントライト 明るさ**：機能を選択します。

- ▶ **OK** スイッチを押します。
- ▶  または  スイッチを押して、**レベル 5 ~ レベル 1** または**オフ**に設定を変更します。

ロケイターライティングの設定

ロケイターライティング機能を設定していて、ライトスイッチが **AUTO** の位置にあるときは、周囲が暗いときに以下の機能が作動します。

- **解錠時点灯機能**：キーで車を解除すると、車外ライトが約 40 秒間点灯し続けます。エンジンを始動するとロケイターライティングの機能が解除され、ヘッドライトオートモードが作動します (▷113 ページ)。
- **車外ライト残照機能**：エンジンを停止した後、約 60 秒間点灯し続けます。すべてのドアとテールゲートを閉じると、約 15 秒後に車外ライトが消灯します。

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押して、確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ロケイターライティング**：機能を選択します。

選択されている設定、**オン**または**オフ**が表示されます。

- ▶ **OK** を押して、設定を変更します。

車外ライト残照機能を一時的に解除するには、以下のようになります。

▶ 車両から離れる前に、イグニッション位置を **0** にします。

▶ イグニッション位置を **2** にします。
車外ライト残照機能が解除されます。

次にエンジンを始動すると、車外ライト残照機能が再び設定されます。

i ロケイターライティングおよび車外ライト残照機能を設定すると、車両の装備に応じて以下のライトが点灯します。

- 車幅灯
- フォグランプ
- ヘッドライト
- デイタイムドライビングライト
- ドアミラーのロケイターライティング
- テールライト
- ライセンスプレートライト

ルームライト残照機能の設定 / 解除

ルームランプ 消灯遅延：機能を設定したときは、エンジンスイッチからキーを抜いた後、ルームライトが約 20 秒間点灯したままになります。

▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。

▶  または  スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。

▶ **OK** スイッチを押して、確定します。

▶  または  スイッチを押して、**ルームランプ 消灯遅延**：機能を選択します。

選択されている設定、**オン**または**オフ**が表示されます。

▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

車両

ウィンタータイヤスピードリミッターの設定

▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。

▶  または  スイッチを押して、**車両**サブメニューを選択します。

▶ **OK** スイッチを押して、確定します。

▶  または  スイッチを押して、**速度制限(冬タイヤ)**：を選択します。

▶ **OK** スイッチを押して、確定します。

▶  または  スイッチを押して、10km/h 単位 (160km/h ~ 240 km/h) でウィンタータイヤスピードリミッターを調整します。**オフ**設定で、ウィンタータイヤスピードリミッターは解除されます。

▶ **OK** スイッチを押して、入力を確認します。

速度制限(冬タイヤ)：機能を使用して、ウィンタータイヤスピードリミッター (>182 ページ) を設定できます。

車速感応ドアロックのオン / オフ

▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。

▶  または  スイッチを押して、**車両**サブメニューを選択します。

▶ **OK** スイッチを押して、確定します。

- ▶  または  スイッチを押して、**車速感应ドアロック**：機能を選択します。

選択されている設定、**オン**または**オフ**が表示されます。

- ▶  スイッチを押して、設定を保存します。

車速感应ドアロックが設定されているときは、走行速度が約 15km/h 以上になると自動的にすべてが施錠されます。

- ① 車速感应ドアロックについての詳しい情報は (▷85 ページ) をご覧ください。

アンサーバック機能の設定 / 解除

イルトロック- アンサーバック：機能を設定しているときは、車を施錠すると確認音が鳴ります。

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。

- ▶  または  スイッチを押して、**車両**サブメニューを選択します。

- ▶  スイッチを押して、確定します。

- ▶  または  スイッチを押して、**イルトロック- アンサーバック**：機能を選択します。

選択されている設定、**オン**または**オフ**が表示されます。

- ▶  スイッチを押して、設定を保存します。

レーダーセンサーシステムの設定 / 解除

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。

- ▶  または  スイッチを押して、**車両**サブメニューを選択します。

- ▶  スイッチを押して、確定します。

- ▶  または  スイッチを押して、**レーダーセンサー**（取扱説明書を参照）：機能を選択します。

選択されている設定、**オン**または**オフ**が表示されます。

- ▶  スイッチを押して、設定を保存します。

レーダーセンサーシステムがオフのときは、ブラインドスポットアシスト (▷212 ページ) が解除されます。

コンフォート

シートベルト調整機能のオン / オフ

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。

- ▶  または  スイッチを押して、**コンフォート**サブメニューを選択します。

- ▶  スイッチを押して、確定します。

- ▶  または  スイッチを押して、**ベルト調整**：機能を選択します。

選択されている設定、**オン**または**オフ**が表示されます。

- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

シートベルト調整機能の詳しい情報は (▷49 ページ) をご覧ください。

施錠時のドアミラー格納のオン / オフ

この機能は、メモリー機能装備車にのみ表示されます。

- ▶ ステアリングの **◀** または **▶** スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**コンフォート**サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押して、確定します。
- ▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**ロック時のミラー格納**：機能を選択します。

選択されている設定、**オン**または**オフ**が表示されます。

- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

ロック時のミラー格納：機能を設定しているときは、車を施錠するとドアミラーが自動的に格納されます。車を解錠してドアを開くと、格納されたドアミラーが再び展開します。

機能をオンにしているときにドアのスイッチを使用してドアミラーを格納すると、ドアミラーは自動的に展開しません (▷107 ページ)。ドアミラーはスイッチを使用してのみ展開することができます。

設定項目の初期化

- ▶ ステアリングの **◀** または **▶** スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**設定初期化**サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押して、確定します。
全ての設定を 初期化しますか？ のメッセージが表示されます。
- ▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**はい**または**いいえ**を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押して、選択を確定します。
はいを選択したときは、マルチファンクションディスプレイに確認メッセージが表示されます。

安全上の理由により、すべての機能が初期化されるとは限りません。ウィンタータイヤスピードリミッターの**速度制限 (冬タイヤ)**：機能は、**車両**サブメニューでのみ設定できます。**ライト**サブメニューの**デイトタイムライト**：を初期化したいときは、イグニッション位置を **1** または **2** にしなければなりません。

ディスプレイメッセージ

はじめに

マルチファンクションディスプレイには、ディスプレイメッセージが表示されます。

この取扱説明書ではマークを含むディスプレイメッセージの表記を簡略化しているため、マルチファンクションディスプレイに実際に表示されるマークと異なる場合があります。

ディスプレイメッセージの指示に従って適切な処置を行ない、この取扱説明書に記載された注意事項をお守りください。

特定のディスプレイメッセージが表示されると、断続的または連続的な警告音も鳴ります。

エンジンスイッチからキーを抜くと、重要度の高い一部のメッセージを除いて、メッセージがすべて削除されます。故障の原因が解決すると、重要度の高いメッセージも削除されます。

停車または駐車するときは、ホールド機能（▷193 ページ）と駐車（▷168 ページ）に関する注意事項をお守りください。

ディスプレイメッセージを非表示にする

重要度の低いディスプレイメッセージは消すことができます。

- ▶ ディスプレイメッセージを非表示にするには、ステアリングの **OK** または  スイッチを押します。

ディスプレイメッセージが消えます。

重要度の高いメッセージは赤色で表示されます。

特に重要度の高いディスプレイメッセージは、非表示にすることができません。これらのメッセージは、故障や異常の原因が解決するまでマルチファンクションディスプレイに常時表示されます。

メッセージメモリー

マルチファンクションディスプレイには、特定のディスプレイメッセージが記憶されています。メッセージメモリーに記憶されたディスプレイメッセージを呼び出し、表示させることができます。

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**メンテナンス**サブメニューを選択します。

メッセージがある場合は、ディスプレイに **2 メッセージ** のように故障の件数が表示されます。

- ▶  または  スイッチを押して、**2 メッセージ** などを選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押して確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、ディスプレイメッセージをスクロールします。

安全装備

ディスプレイ表示



現在 使用できません
取扱説明書を参照

考えられる原因および症状 /▶ 対応

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、BAS（ブレーキアシスト）、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。アダプティブブレーキライトとCPA（衝突警告システム）も作動しない。加えて、メーターパネルの と 、 も点灯している。アテンションアシストは解除される。

可能性のある原因：

- 自己診断機能が終了していない
- バッテリー電圧が不十分である

⚠ 警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、たとえば急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがあります。

ステアリング特性およびブレーキ特性が著しく影響を受けます。緊急ブレーキの状況では制動距離が増えるおそれがあります。

ESP® が待機状態でないときは、ESP® は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。

▶ 適切な直線路で約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。

メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。メッセージが表示されたままのとき：

▶ 注意して走行してください。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。



故障
取扱説明書を参照

故障のため、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。

アダプティブブレーキライトとCPA（衝突警告システム）も作動しない。

加えて、メーターパネルの 、、 と も点灯している。

アテンションアシストは解除される。

⚠ 警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがあります。

ステアリング特性およびブレーキ特性が著しく影響を受けます。緊急ブレーキの状況では制動距離が増えるおそれがあります。

ESP® が待機状態でないときは、ESP® は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。

▶ 注意して走行してください。

▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 現在 使用できません 取扱説明書を参照	ESP[®]、BAS、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライトと CPA (衝突警告システム) も作動しない。 加えて、メーターパネルの  と  も点灯している。 アテンションアシストは解除される。 たとえば、自己診断機能が終了していない可能性がある。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。 緊急ブレーキの状況では制動距離が増えるおそれがあります。 ESP[®] が待機状態でないときは、ESP[®] は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。 ▶ 適切な直線路で約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。 メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。メッセージが表示されたままのとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 故障 取扱説明書を参照	故障のため、ESP[®]、BAS、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライトと CPA (衝突警告システム) も作動しない。 加えて、メーターパネルの  と  も点灯している。 アテンションアシストは解除される。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。 緊急ブレーキの状況では制動距離が増えるおそれがあります。 ESP[®] が待機状態でないときは、ESP[®] は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
  故障 取扱説明書を参照	故障のため、EBD（エレクトロニック・ブレーキ・ディストリビューション）、ABS、ESP[®]、BAS、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライトと CPA（衝突警告システム）も作動しない。 加えて、メーターパネルの  と 、 も点灯し、警告音が鳴った。 アテンションアシストは解除される。  警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、急ブレーキ時などに前輪と後輪がロックするおそれがあります。 ステアリング特性およびブレーキ特性が著しく影響を受けます。緊急ブレーキの状況では制動距離が増えるおそれがあります。 ESP[®] が待機状態でないときは、ESP[®] は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 パーキング ブレーキ 解除 してください	赤色の  が点滅し、警告音も鳴っている。 電気式パーキングブレーキの自動解除の条件が満たされていない（▶170 ページ）。 電気式パーキングブレーキが効いたまま走行している。 ▶ 手動で電気式パーキングブレーキを解除してください。 赤色の  が点滅し、警告音も鳴っている。 電気式パーキングブレーキを使用して、緊急ブレーキを行なっている（▶170 ページ）。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 パークング ブレーキ 取扱説明書を参照	黄色の  が点灯している。 電気式パークングブレーキが故障している。 パークングブレーキを効かせる： ▶ イグニッション位置を 0 にしてください。 ▶ 電気式パークングブレーキハンドルを少なくとも 10 秒間押してください。 ▶ トランスミッションをポジション P にシフトしてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	黄色の  と赤色の  が点灯している。 電気式パークングブレーキが故障している。 パークングブレーキを解除する： ▶ イグニッション位置を 0 にしてから、1 にしてください。 ▶ 手動で電気式パークングブレーキを解除してください。 または ▶ 自動で電気式パークングブレーキを解除してください（▶169 ページ）。 電気式パークングブレーキが解除できないときは： ▶ 走行を続けしないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	赤色の  が点滅し、黄色の  が点灯している。 電気式パークングブレーキが故障している。 パークングブレーキを解除する： ▶ イグニッション位置を 0 にしてから、1 にしてください。 ▶ 手動で電気式パークングブレーキを解除してください。 パークングブレーキを効かせる： ▶ イグニッション位置を 0 にしてから、1 にしてください。 ▶ 手動で電気式パークングブレーキを効かせてください。 赤色の  が点滅し続けるときは： ▶ 走行を続けしないでください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください（▶342 ページ）。 ▶ トランスミッションをポジション P にシフトしてください。 ▶ 前輪を路肩方向に向けてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
パーキング ブレーキ 取扱説明書を参照	黄色の が点灯している。電気式パーキングブレーキを効かせたか、解除した後、赤色の が約 10 秒間点滅した。その後に点滅は消灯するか、点灯したままになっている。 電気式パーキングブレーキが故障している。 ▶ イグニッション位置を 0 にしてから、1 にしてください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 電気式パーキングブレーキを効かせることができないときは： ▶ トランスミッションをポジション P にシフトしてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 電気式パーキングブレーキを解除することができないときは： ▶ 自動で電気式パーキングブレーキを解除してください (▶169 ページ)。 それでも電気式パーキングブレーキが解除されていないときは： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 黄色の が点灯している。手動で電気式パーキングブレーキを効かせるか、解除したときに、赤色の が点滅する。 電気式パーキングブレーキが故障している。手動で電気式パーキングブレーキを効かせることができない。 ▶ トランスミッションをポジション P にシフトしてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
パーキング ブレーキ 故障	黄色の が点灯している。電気式パーキングブレーキを効かせたか、解除した後、赤色の が約 10 秒間点滅した。その後に点滅は消灯するか、点灯したままになっている。 電圧が高すぎるか、低すぎるために、電気式パーキングブレーキが故障している。 ▶ バッテリーを充電するか、エンジンを始動するなどして、電圧超過または電圧低下の原因を解消してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせるか、解除してください。 電気式パーキングブレーキを効かせる、または解除することができないままのときは： ▶ イグニッション位置を 0 にしてから、1 にしてください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせるか、解除してください。 それでも電気式パーキングブレーキが解除されていないときは： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 走行している間のみ、ディスプレイメッセージが表示される。赤色の が点滅し、黄色の が点灯している。 手動で電気式パーキングブレーキを効かせることができない。 ▶ トランスミッションをポジション P にシフトしてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 パーキング ブレーキ イグニッションで 解除できます	赤色の  が点灯している。 イグニッション位置が 0 のときに、電気式パーキングブレーキを解除しようとしている。 ▶ イグニッション位置を 1 にしてください。
 ブレーキ液レベル 点検して ください	リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 加えて、メーターパネルの赤色の  が点灯し、警告音も鳴った。  警告 ブレーキ性能が損なわれることがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください (▶342 ページ)。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。問題は解消しません。
 ブレーキパッド摩耗 点検して ください	ブレーキパッド / ライニングの摩耗が限界に達している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で点検を受けてください。
プレセーフ 故障 取扱説明書を参照	PRE-SAFE® の重要な機能に異常がある。エアバッグなど他の乗員保護システムの機能は確保されている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場 で点検を受けてください。
プレセーフ 機能が現在 制限されています 取扱説明書を参照	アダプティブブレーキアシストが一時的に停止している。可能性のある原因： • ラジエターグリルのレーダーセンサーシステムのカバーが汚れている。 • 豪雨や雪のため機能に支障がある。 • 近くのテレビ局やラジオ局からの電磁波や、その他の電磁波の発生源などにより、レーダーセンサーシステムが一時的に作動停止している。 • システムが作動温度外になっている。 • バッテリーの電圧が低くなっている。 上記の原因がなくなると、メッセージは消えます。 アダプティブブレーキアシストは再度作動可能になります。 ディスプレイメッセージが消えないとき： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください (▶342 ページ)。 ▶ ラジエターグリルのレーダーセンサーシステムのカバーを清掃してください (▶301 ページ)。 ▶ エンジンを再始動してください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
プレセーフ 機能が制限 されています 取扱説明書を参照	アダプティブブレーキアシストが故障している。車間距離警告も機能しない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	マルチファンクションディスプレイにマークが表示されたときは、リアのシートベルトのバックルにシートベルトプレートが差し込まれている。 後席シートベルトの状況表示の詳しい情報は、(▶50 ページ) をご覧ください。
	マルチファンクションディスプレイにマークが表示されたときは、リアのシートベルトのバックルにシートベルトプレートが差し込まれていない。 ⚠ 警告 シートベルトを正しく着用していないか、シートベルトがシートベルトバックルに正しく差し込まれていないときは、本来の保護効果を発揮することができません。 けがの危険性が高まります。 ▶ 必要であれば、後席の乗員にシートベルトを着用させてください。 後席シートベルトの状況表示の詳しい情報は、(▶50 ページ) をご覧ください。
 SRS システム 故障 工場で点検	SRS（乗員保護補助装置）が故障している。メーターパネルの SRS 警告灯  も点灯している。 ⚠ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに全く作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 乗員安全装備の詳しい情報は、(▶38 ページ) をご覧ください。
 フロント左 SRS 故障 工場で点検 または フロント右 SRS 故障 工場で点検	フロント左側、または右側の SRS に異常がある。メーターパネルの SRS 警告灯  も点灯している。 ⚠ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに全く作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 リア左 SRS 故障 工場で点検 または リア右 SRS 故障 工場で点検	リア左側、または右側の SRS に異常がある。メーターパネルの SRS 警告灯  も点灯している。 ⚠ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに全く作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 リア中央 SRS 故障 工場で点検	リア中央の SRS に異常がある。メーターパネルの SRS 警告灯  も点灯している。 ⚠ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに全く作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ウインドウバッグ左 SRS 故障 工場で点検 または ウインドウバッグ右 SRS 故障 工場で点検	左側、または右側のウインドウバッグに異常がある。メーターパネルの SRS 警告灯  も点灯している。 ⚠ 警告 左側、または右側のウインドウバッグが不意に作動したり、事故のときに全く作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ライト

i LED に関するディスプレイメッセージは、すべての LED が切れたときにのみ表示されます。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 左コーナリングライト または 右コーナリングライト	左側または右側のコーナリングライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶121 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左ロービーム または 右ロービーム	左側または右側のロービームが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶121 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左リアウinker または 右リアウinker	リア左側またはリア右側の方向指示灯が切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶121 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左フロントウinker または 右フロントウinker	フロント左側またはフロント右側の方向指示灯が切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶121 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左ドアミラーウinker または 右ドアミラーウinker	左側または右側のドアミラー方向指示灯が切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶121 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ハイマウントブレーキランプ	ハイマウントブレーキライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶121 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左ブレーキランプ または 右ブレーキランプ	左側または右側のブレーキライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶121 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 左テールランプ / ブレーキランプ または 右テールランプ / ブレーキランプ	左側または右側のテールライト / ブレーキライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶121 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左ハイビーム または 右ハイビーム	左側または右側のハイビームが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶121 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ライセンスランプ	左側または右側のライセンスライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶121 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左フォグランプ または 右フォグランプ	左側または右側のフロントフォグランプが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶121 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 リアフォグランプ	リアフォグランプが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶121 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左フロント パーキングランプ または 右フロント パーキングランプ	フロント左側またはフロント右側のパーキングライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶121 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 バックランプ	バックライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶121 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 左テールランプ または 右テールランプ	左側または右側のテールライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶121 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左デイトタイム ドライビングランプ または 右デイトタイム ドライビングランプ	左側または右側のデイトタイムドライビングライトが故障している。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶121 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 インテリジェントライト システム故障	インテリジェントライトシステムが故障している。インテリジェントライトシステムは作動しないが、ライトは通常通り点灯する。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 故障 取扱説明書を参照	車外ライトが切れている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 オートライト 故障	ライトセンサーが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ライトを 消してください	車両から離れるときにライトが点灯していた。警告音も鳴った。 ▶ ライトスイッチを AUTO の位置にしてください。
アダプティブ ハイビームアシスト 作動できません	アダプティブハイビームアシストが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
アダプティブ ハイビームアシスト 現在 使用できません 取扱説明書を参照	アダプティブハイビームアシストが解除され、一時的に作動停止している。 可能性のある原因： • フロントウインドウのカメラ付近が汚れている。 • 豪雨や雪、霧などのために、視界が妨げられている。 ▶ フロントウインドウを清掃してください。 カメラが再び完全に機能しているとシステムが判断したときは、アダプティブハイビームアシスト 再び使用可能ですのメッセージが表示されます。 アダプティブハイビームアシストが再度作動できるようになります。

エンジン

ディスプレイ表示



冷却水を点検
してください
取扱説明書を参照

考えられる原因および症状 /▶ 対応

冷却水量が非常に不足している。

❗ エンジン冷却システムの冷却水が非常に少ない状態での長い走行は避けてください。さもないと、エンジンを損傷します。

▶ 作業をする前に注意事項を読んでから、冷却水を補給してください（▶293 ページ）。

▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジン冷却システムの点検を受けてください。



ファンのモーターが故障している。

▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。

▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。



停車して
エンジンを停止

冷却水の温度が高すぎる。

警告音も鳴っている。

⚠ 警告

エンジンがオーバーヒートしているときは走行しないでください。冷却水がエンジンルーム内に漏れて、発火する原因になります。

オーバーヒートしているエンジンからの蒸気は、ボンネットを開いたときの深刻な火傷の原因になります。

火傷の危険性があります。

▶ 道路や交通状況に注意しながら、ただちに停車して、エンジンを停止してください。

▶ 車両が動き出さないようにしてください（▶342 ページ）。

▶ エンジンが冷えるまで待ってください。

▶ 凍った泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。

▶ ディスプレイメッセージが消え、冷却水の温度が 120℃以下になるまでは、エンジンを再始動しないでください。さもないと、エンジンを損傷することがあります。

▶ エンジン冷却水表示に注意を払ってください。

▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水が適切に補充されているときは、通常の走行状況下では数値は 120℃まで上昇することがあります。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
	バッテリーが充電されていない。 警告音も鳴った。 可能性のある原因： • オルタネーターの故障 • V ベルトの損傷 • 電気システムの故障 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、ただちに停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ V ベルトを点検してください。 V ベルトが損傷しているとき： ! 走行を続けしないでください。エンジンがオーバーヒートするおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 V ベルトが損傷していないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐに点検を受けてください。
 給油の際 エンジンオイル量を 点検してください	エンジンオイル量が最低量まで達している。 警告音も鳴った。 ▶ 遅くとも次回の燃料補給までに、エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でもオイルが漏れていないかエンジンの点検を受けてください。
 給油してください	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	燃料タンクに燃料がほとんどない。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

走行装備	
ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 アテンションアシスト 休憩してください	評価基準を基に、運転者が疲労しているか、または注意力が欠如しているとアテンションアシストが判断している。警告音も鳴った。 ▶ 必要であれば、休憩を取ってください。 長距離運転時では、定期的に休憩を取り、身体を十分に休ませてください。
 アテンションアシスト 故障	アテンションアシストが作動しない状態になっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
スピードリミット アシスト 現在 使用できません 取扱説明書を参照	スピードリミットアシストが解除され、一時的に作動停止している。 可能性のある原因： • フロントウインドウのカメラ付近が汚れている。 • 豪雨や雪、霧などのために、視界が妨げられている。 ▶ フロントウインドウを清掃してください。 カメラが再び完全に機能しているとシステムが判断したときは、ディスプレイメッセージが消去される。 スピードリミットアシストが再度作動できるようになります。
スピードリミット アシスト： この国では 使用できません	スピードリミットアシストは特定の国でのみ使用できる。 ▶ 走行を続けてください。 スピードリミットアシストは、使用が承認されている国まで走行すれば、再びすみやかに使用することができます。
スピードリミット アシスト 作動できません	スピードリミットアシストが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
HOLD オフ	ホールド機能が解除されている。車が横すべりしている。 警告音も鳴った。 ▶ 時間を置いてから、再度ホールド機能を作動させてください (▶193 ページ)。 ホールド機能が解除されている。ブレーキペダルを深く踏み込んだときに、作動条件を満たしていなかった。 警告音も鳴った。 ▶ ホールド機能の作動条件を確認してください (▶193 ページ)。
レーダーセンサー 停止しました 取扱説明書を参照	レーダーセンサーシステムが解除されている。 ▶ レーダーセンサーシステムが設定可能かどうかを確認してください (▶362 ページ)。 ▶ レーダーセンサーシステムを設定してください (▶236 ページ)。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
レーダーセンサー 自動的に停止しました 取扱説明書を参照	車両が電波望遠鏡施設の近辺にあるため、レーダーからの電波の発信が妨げられている。レーダーセンサーシステムが自動的に解除された状態になっている。 ブラインドスポットアシストが作動していた場合は解除される。ドアミラーの黄色の表示灯  が点灯する。 ▶ 走行を続けてください。 車両が電波望遠鏡施設から十分離れた場所に移動すれば、ブラインドスポットアシストは再び作動させることができます。
レーンキープアシスト 現在 使用できません 取扱説明書を参照	レーンキープアシストが解除され、一時的に作動停止している。 可能性のある原因： • カメラ部分のフロントウインドウが汚れている。 • 豪雨や雪、霧などのために、視界が妨げられている。 • 車線ラインがない道路を長時間走行している。 • 車線ラインが汚れや雪などにより覆われている。 上記の原因がなくなると、メッセージは消えます。 レーンキープアシストは再度作動可能になります。 ディスプレイメッセージが消えないとき： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください (▶342 ページ)。 ▶ フロントウインドウを清掃してください。
レーンキープアシスト 作動できません	レーンキープアシストが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ブラインドスポットアシスト 現在 使用できません 取扱説明書を参照	ブラインドスポットアシストが一時的に停止している。 可能性のある原因： • センサーが汚れている。 • 豪雨や雪のため機能に支障がある。 • レーダーセンサーが作動温度外になっている。 • 近くのテレビ局やラジオ局からの電磁波や、その他の電磁波の発生源などにより、レーダーセンサーシステムが一時的に作動停止している。 ドアミラーの黄色の表示灯  も点灯している。 上記の原因がなくなると、メッセージは消えます。 ブラインドスポットアシストは再度作動可能になります。 メッセージが消えないとき： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください (▶342 ページ)。 ▶ センサーを清掃してください (▶301 ページ)。 ▶ エンジンを再始動してください。
ブラインドスポットアシスト 作動できません	ブラインドスポットアシストが故障している。 ドアミラーの黄色の表示灯  も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
パーキングガイドンス 中止しました	運転席ドアを開き、運転席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用し、運転席ドアを閉じた状態で、駐車操作を繰り返してください。 ステアリングがシステムにより動かされているときに、マルチファンクシヨンステアリングに不注意に触れた。 ▶ ステアリングがシステムにより動かされているときは、マルチファンクシヨンステアリングに触れていないことを確認してください。 車両が横滑りして、ESP® が作動した。 ▶ 時間をおいてから、アクティブパーキングアシストを使用してください（▶199 ページ）。
パーキングガイドンス 作動できません	何度もステアリング操作を行なったり、駐車操作を繰り返していた。アクティブパーキングアシストは、約 10 分後に再び作動可能になります（▶199 ページ）。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ エンジンを停止してから再始動してください。 ディスプレイメッセージが消えないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 パークトロニックが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ディストロニックプラス オフ	ディストロニック・プラスが解除された（▶182 ページ）。自動的に解除されたときは、警告音も鳴る。
ディストロニックプラス 再び使用できます	ディストロニック・プラスが一時的に停止した状態から再び作動可能な状態になった。ディストロニック・プラスを再度作動できます（▶182 ページ）。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
ディストロニックプラス 現在 使用できません 取扱説明書を参照	ディストロニック・プラスが一時的に停止している。 可能性のある原因： • 豪雨や雪などのため機能に支障がある。 • ラジエターグリルのセンサーが汚れている。 • 近くのテレビ局やラジオ局からの電磁波や、その他の電磁波の発生源などにより、レーダーセンサーシステムが一時的に作動停止している。 • システムが作動温度外になっている。 • バッテリーの電圧が低くなっている。 警告音も鳴っている。 上記の原因がなくなると、メッセージは消えます。 ディストロニック・プラスは再度作動可能になります。 ディスプレイメッセージが消えないとき： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください (▶342 ページ)。 ▶ ラジエターグリルのセンサーを清掃してください (▶301 ページ)。 ▶ エンジンを再始動してください。
ディストロニックプラス 故障	ディストロニック・プラスが故障している。アダプティブブレーキアシストも機能しないことがある。 警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ディストロニックプラス 制御待機中	アクセルペダルを踏んだ。ディストロニック・プラスが車両の速度の制御をしなくなった。 ▶ アクセルペダルから足を放してください。
ディストロニックプラス --- km/h	ディストロニック・プラスの作動条件を満たしていない。 ▶ ディストロニック・プラスの作動条件を確認してください (▶185 ページ)。
ディストロニックプラス と可変スピードリミッター 故障	ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターが故障している。警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
クルーズコントロールと 可変スピードリミッター 故障	クルーズコントロールと可変スピードリミッターが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
制限速度 --- km/h	アクセルペダルをいっぱいまで踏み込んでいるとき (キックダウン) は、可変スピードリミッターを作動させることができない。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
クルーズコントロール --- km/h	クルーズコントロールの作動条件を満たしていない。例えば、約 30km/h 以下の速度でクルーズコントロールを作動させようとした。 ▶ 作動条件が満たされていれば、約 30km/h 以上の速度で走行し、クルーズコントロールを設定してください。 ▶ クルーズコントロールの作動条件を確認してください (▶177 ページ)。
120 km/h 設定した 制限速度を 超えました	特定の国のみ：最高速度を超えた。 さらに、マルチファンクションディスプレイに 120 km/h! と表示された。 ▶ 速度を落として走行してください。

タイヤ

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
タイヤ空気圧 タイヤを点検 してください	タイヤ空気圧警告システムが空気圧の急激な低下を検知した。 警告音も鳴った。 ⚠ 警告 空気圧が低いタイヤにより、以下の危険性があります。 • 荷物を積載したり速度が上昇すると、特にタイヤがバーストすることがあります。 • タイヤが過度に、または不均一に摩耗し、タイヤの駆動力が著しく損なわれることがあります。 • 走行特性や操舵特性、ブレーキ特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。 ▶ 急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。そのときは、交通状況に注意してください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください (▶342 ページ)。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であればパンクしたときの操作説明に従ってください (▶308 ページ)。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気圧を適正にしてください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、またはタイヤを修理するか交換した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください (▶339 ページ)。
空気圧点検後 タイヤ空気圧 警告システム 再始動	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれ、その後に再起動が行なわれていない。 ▶ すべてのタイヤの空気圧を適正にしてください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください (▶339 ページ)。
タイヤ空気圧 警告システム 作動できません	タイヤ空気圧警告システムが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場点検を受けてください。

車両

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
エンジン始動 P または N にシフト	トランスミッションがポジション D または R のときにエンジンを始動しようとした。 ▶ トランスミッションをポジション P または N にシフトしてください。
バックアップバッテリー 故障	オートマチックトランスミッション用の補助バッテリーが充電されていない。 ▶ 次の機会に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。 ▶ それまでの間は、エンジンを停止する前にオートマチックトランスミッションをポジション P にしてください。 ▶ 車両から離れる前に、電気式パーキングブレーキを効かせてください。
ブレーキを踏んで エンジン始動	ブレーキペダルを踏まずに、トランスミッションがポジション N のときにエンジンを始動しようとした。 ▶ ブレーキペダルを踏んでください。
P または N からシフト ブレーキを踏んで エンジン始動	エンジンがかかっていないときに、トランスミッションをポジション D または R に動かそうとした。 ▶ エンジンを始動してください。 ▶ ブレーキペダルを踏んでください。 i ブレーキペダルを踏んでいるときにのみ、トランスミッションのポジションを P から好みの位置にすることができます。パーキングロックはその後でのみ解除することができます。ブレーキペダルを踏んでいない状態でも DIRECT SELECT レバーを動かすことはできますが、パーキングロックは効いたままになります。 i トランスミッションオイルの温度が -20℃ 以下のときは、エンジンがかかっているときにのみ、トランスミッションをポジション P から他の位置にすることができます。
ブレーキを踏んで P レンジからシフト	ブレーキペダルを踏まずに、セレクターレバーをポジション R、N または D に動かそうとした。 ▶ ブレーキペダルを踏んでください。
シフトポジションが P ではないため 車が動く恐れがあります	運転席側のドアが開いていて、トランスミッションがポジション R、N または D になっている。 警告音も鳴った。 ▶ トランスミッションをポジション P にシフトしてください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください (▶ 342 ページ)。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
シフトチェンジせず 工場で点検	故障のため、トランスミッションのポジションを変えることができない。 警告音も鳴った。 ポジション D が選択されているときは： ▶ トランスミッションをポジション D から変速することなく、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 ポジション R 、 N または P が選択されているときは： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
停車中のみ P レンジにシフト できます	車両が動いている。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ トランスミッションをポジション P にシフトしてください。
後退できません 工場で点検	トランスミッションが故障している。後退することができない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
トランスミッション 故障	トランスミッションが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
トランスミッション 故障 停止してください	トランスミッションが故障している。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください (▷342 ページ)。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
停止して P レンジに シフト エンジンは停止しない	トランスミッションが過熱している。 ▶ 注意して走行してください。 ディスプレイメッセージが消えれば、トランスミッションは再度作動できる状態になります。 ディスプレイメッセージが表示されたままのとき： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください (▷342 ページ)。 ▶ トランスミッションが冷え、ディスプレイメッセージが消えるまで待つてください。
	テールゲートが開いている。 ⚠ 警告 エンジンがかかっているときは、テールゲートが開いていると排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。 中毒の危険性があります。 ▶ テールゲートを閉じてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
	ボンネットが開いている。 警告音も鳴った。 ⚠ 警告 車両が動いているときは、開いているボンネットが視界を遮ることがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ボンネットを閉じてください。
アクティブフード 故障 取扱説明書を参照	アクティブボンネット（歩行者保護システム）が、すでに作動したため、または故障のために待機状態になっていない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	いずれかのドアが開いている。警告音も鳴った。 ▶ すべてのドアを閉じてください。
 パワーステアリング 故障 取扱説明書を参照	パワーステアリングの補助が故障している。 警告音も鳴った。 ⚠ 警告 ステアリング操作により大きな力が必要になります。 事故の危険性があります。 ▶ 大きな力でステアリングが操作できるか確認してください。 ▶ 安全にステアリング操作ができるとき：メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで注意して走行してください。 ▶ 安全にステアリング操作ができないとき：走行を続けしないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
発信できません	車両がネットワークプロバイダーの送受信範囲外にある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに携帯電話の使用可能表示が現れるまで待ってください。
 ウォッシャー液を 補充してください	リザーブタンクのウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。 i 冬季にウォッシャー液を補給しないしていると、ウォッシャー液が凍結することがあります。このときは、マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液を 補充してくださいのメッセージが表示されます。 ▶ ウォッシャー液を補給してください (▶294 ページ)。
ワイパー 故障	ワイパーが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
非常点滅灯 故障	非常点滅灯が故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

キー

ディスプレイ表示

考えられる原因および症状 /▶ 対応



キーが違います

エンジンスイッチに不適切なキーを差し込んでいる。
▶ 正しいキーを使用してください。



キーを交換
してください

キーを交換する必要がある。
▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メーターパネルの表示灯 / 警告灯

シートベルト

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 特定の国のみ：エンジン始動後に、赤色のシートベルト警告灯が約 6 秒間点灯する。	シートベルト警告灯が運転席と助手席の乗員にシートシートベルトの着用を促している。 ▶ シートベルトを着用してください。(▶47 ページ)
 特定の国のみ：エンジン始動後に、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。さらに、警告音が約 6 秒以内に鳴る。	運転席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください (▶47 ページ)。 警告音が鳴り止みます。
 運転席ドアまたは助手席ドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください (▶47 ページ)。 シートベルト警告灯が消灯します。 助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
 赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴る。	運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。その状態で走行速度が約 25km/h を超えるか、または速度が一時的に約 25km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください (▶47 ページ)。 シートベルト警告灯が消灯し、断続的な警告音も停止します。 助手席シートの上に荷物を置いている。その状態で速度が約 25km/h を超えるか、または速度が一時的に約 25km/h を超えた。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯し、断続的な警告音も停止します。

安全装備

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	リザーブタンクに十分な量のブレーキ液がない。 ⚠ 警告 ブレーキ性能が損なわれることがあります。事故の危険性があります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行を続けなください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください（▶342 ページ）。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。補給によりこの故障は解消しません。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。
 エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）に異常があるため機能が解除されている。そのため、BAS（ブレーキアシスト）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、PRE-SAFE®, CPA（衝突警告システム）、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトなども解除されている。 アテンションアシストは解除される。 ⚠ 警告 ブレーキシステムは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性があります。ステアリング特性およびブレーキ特性が著しく影響を受けます。緊急ブレーキの状況では制動距離が増えるおそれがあります。 ESP® が待機状態でないときは、ESP® は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行を続けてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ABS コントロールユニットが故障しているときは、ナビゲーションシステムやオートマチックトランスミッションなどの他のシステムも使用できない可能性があります。

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	ABS の機能が一時的に作動しない。そのため、BAS、CPA（衝突警告システム）、ESP[®]、EBD（エレクトロニック・ブレーキ・ディストリビューション）、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトなども解除されている。 可能性のある原因： • 自己診断機能が終了していない • バッテリー電圧が不十分である アテンションアシストは解除される。 ▲ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、急ブレーキ時などには前輪と後輪がロックする可能性があります。ステアリング特性およびブレーキ特性が著しく影響を受けます。緊急ブレーキの状況で制動距離が増えるおそれがあります。 ESP[®] が待機状態でないときは、ESP[®] は車両を安定させることができません。 事故の危険性があります。 ▶ 適切な直線路で約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。 警告灯が消灯すれば、上記の機能は再度作動できる状態になります。 警告灯が点灯したままのとき： ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行を続けてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	EBD が故障している。そのため、ABS、BAS、CPA（衝突警告システム）、ESP[®]、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトも作動しない状態になっている。 アテンションアシストは解除される。 ▲ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、急ブレーキ時などには前輪と後輪がロックする可能性があります。ステアリング特性およびブレーキ特性が著しく影響を受けます。緊急ブレーキの状況で制動距離が増えるおそれがあります。 ESP[®] が待機状態でないときは、ESP[®] は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行を続けてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯と黄色のESP®表示灯、ESP®オフ表示灯、黄色のABS警告灯が点灯する。	ABSとESP®に異常がある。そのため、BAS、CPA（衝突警告システム）、EBD、PRE-SAFE®, ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトも作動しない状態になっている。 アテンションアシストは解除される。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、急ブレーキ時などには前輪と後輪がロックする可能性があります。 ステアリング特性およびブレーキ特性が著しく影響を受けます。緊急ブレーキの状況で制動距離が増えるおそれがあります。 ESP®が待機状態でないときは、ESP®は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行を続けてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 走行中に黄色のESP®表示灯が点滅する。	車が横滑りをする危険性があるか、少なくとも1つの車輪が空転し始めているため、ESP®やトラクションコントロールなどが作動している。 クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスの機能は解除される。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はよりゆるやかに加速してください。 ▶ 道路と天候の状態に運転スタイルを合わせてください。 ▶ ESP®の機能を解除しないでください。 例外は（▶70 ページ）をご覧ください。
 エンジンがかかっているときに黄色のESP®オフ表示灯が点灯する。	ESP®の機能が解除されている。車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、ESP®は車両を安定させることができない。 ⚠ 警告 ESP®が待機状態でないときは、ESP®は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。 ▶ ESP®を待機状態にしてください。 例外は（▶70 ページ）をご覧ください。 ▶ 道路と天候の状態に運転スタイルを合わせてください。 ESP®を待機状態にできないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場、ESP®の点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 エンジンがかかっているときに黄色のESP®表示灯とESP® オフ表示灯が点灯する。	故障のため、ESP®、BAS、CPA（衝突警告システム）、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトが作動しない状態になっている。 アテンションアシストは解除される。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。 緊急ブレーキ時の制動距離が増えるおそれがあります。 ESP® が待機状態でないときは、ESP® は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行を続けてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 エンジンがかかっているときに黄色のESP®表示灯とESP® オフ表示灯が点灯する。	ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライトとCPA（衝突警告システム）も作動しない可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 システムの自己診断が終了していない。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。 緊急ブレーキの状況で制動距離が増えるおそれがあります。 ESP® が待機状態でないときは、ESP® は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。 ▶ 適切な直線路で約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。 メッセージが消えれば、上記の機能は作動できる状態になります。 表示灯が点灯したままのとき： ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行を続けてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 赤色のパーキングブレーキ表示灯が点滅するか、黄色のパーキングブレーキ警告灯が点灯する。または、上記の表示灯と警告灯が点滅 / 点灯する。	▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 エンジンがかかっているときに赤色のSRS警告灯が点灯する。	SRS（乗員保護補助装置）が故障している。 ⚠ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに全く作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。 ▶ 注意して走行を続けてください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場 で SRS の点検を受けてください。 乗員安全装備の詳細な情報は（▶38 ページ）をご覧ください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下のものが故障している可能性がある。 • エンジン制御システム • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム • 燃料システム 排出ガスの制限値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場 で点検を受けてください。
 エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
 エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯し、エンジン冷却水温度計の指針が下限にある。	エンジン冷却水温度計の温度センサーが故障している。 冷却水温度を確認することができない。冷却水温度が高すぎる場合は、エンジンを損傷する危険性がある。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。状況を問わず走行を続けしないでください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください（▶342 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。	冷却水量が非常に不足している。 冷却水量が正常なときは、ラジエターへの送風が遮られているか、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されない。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください（▶342 ページ）。 ▶ エンジンが冷えるまで車両から離れ、車両との安全な距離を確保してください。 ▶ 冷却水量を点検し、補給してください（▶293 ページ）。注意事項を守ってください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給する必要がある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ 凍結した泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ メッセージが消え、冷却水温度が 120℃ 以下になるまでは、エンジンを再始動しないでください。さもないと、エンジンを損傷することがあります。 ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 ▶ そのときは、山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	冷却水温度が約 120℃を超えている。ラジエターへの送風が遮られているか、リザーブタンクの冷却水量が非常に不足している可能性がある。 ▲ 警告 エンジンが十分に冷却されないため、エンジンを損傷するおそれがあります。 オーバーヒートしたエンジンで走行しないでください。エンジンがオーバーヒートしているときに走行すると、冷却水がエンジンルーム内に漏れて、発火する原因になります。 オーバーヒートしているエンジンからの蒸気は、ボンネットを開いたときの深刻な火傷の原因になります。 けがの危険性があります。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください（▶342 ページ）。 ▶ エンジンが冷えるまで車両から離れ、車両との安全な距離を確保してください。 ▶ 冷却水量を点検し、補給してください（▶293 ページ）。注意事項を守ってください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給する必要がある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ 凍結した泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水温度が 120℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。

走行装備	
トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。	選択した速度に対して先行車との車間距離が短すぎる。 ▶ 車間距離を長くってください。
 走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯した。警告音も鳴った。	先行車または走行車線上にある障害物に、非常に高い速度で接近している。 ▶ ただちにブレーキ操作を行なう準備を整えてください。 ▶ 交通状況に十分注意してください。ブレーキペダルを踏むか、回避操作を行わなければなりません。

役に立つ情報	270
積載のガイドライン	270
収納エリア	271
室内装備	279

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で入手可能な、お客様の車両でのすべての車種、シリーズ、およびオプション装備について記載しています。国により仕様が異なることがあります。記載されているすべての機能が、お客様の車両に装備されていないことがあることにご留意ください。このことは、安全に関するシステムや機能にも当てはまります。

積載のガイドライン

 警告

荷物を積むときは確実に固定してください。さもないと、急ブレーキや急な進路変更時、事故のときなどに前方に投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

荷物は必ず固定して投げ出されないようにしてください。出発する前に荷物を確実に固定してください。

 警告

内燃エンジンは有害な一酸化炭素を発生します。エンジンがかかっているときにテールゲートを開いたままにしていると、排気ガスが車内に入ります。

中毒死するおそれがあります。

テールゲートを開ける前にエンジンを停止してください。絶対にテールゲートを開けたまま運転しないでください。

荷物を積載した車両の車両操縦性は、車内の荷物の配分に影響されます。この理由により、荷物を運搬するときは、以下の事項を守ってください。

- 荷物を積むときは、車両の制限重量（▶361 ページ）を超えないようにしてください。
 - 荷物はできるだけラゲッジルームに積んでください。
 - 重い荷物は、ラゲッジルームのできるだけ前方および低い位置に配置してください。
 - 荷物がシートのバックレストより高くないようにしてください。
 - 荷物は常に、リアシートまたはフロントシートのバックレストに接するように配置してください。バックレストが確実にロックされていることを確認してください。
 - なるべく乗員のいない席の後方に荷物を積んでください。
 - 荷物を積むときは、荷物固定用リングやラゲッジネットを使用してください。
 - 荷物固定用リングと固定用具を使用するときは、荷物の重量と大きさに合ったものを使用してください。
 - ラゲッジフロアボード下の小物入れの最大積載量は約 25kg です。
 - 十分な強度で、耐摩耗性のある固定用具で荷物を固定してください。角の部分にはカバーをしてください。
- i** 荷物固定用のアクセサリーについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! ラゲッジフロアボードの一部にのみ荷物を配置しないでください。ラゲッジフロアボードの制限重量は約100kgです。ラゲッジフロアボードの損傷を防ぐため、重量は均一になるように分散させてください。必要であれば、荷物の下に丈夫な板などを置いてください。荷物を固定しているときは、ラゲッジフロアボードへの負担が増加することに注意してください。

収納エリア

小物入れ

重要な安全上の注意事項

警告

荷物を正しく固定していない場合は、荷物が投げ出されてお客様や他の方がけがをするおそれがあります。

特に、急ブレーキや急な進路変更のときに、けがをするおそれがあります。

- 必ず荷物を固定して、投げ出されないようにしてください。
- 小物入れ、ラゲッジネットまたは収納ネットから荷物がはみ出さないようにしてください。
- 運転中は小物入れを閉じてください。
- 重い、固い、尖った物、鋭利な角のある物、こわれやすいまたは大きな荷物をラゲッジルームに積むときは、確実に固定してください。

荷物を積むときは、"積載のガイドライン"に従ってください (▶270 ページ)。

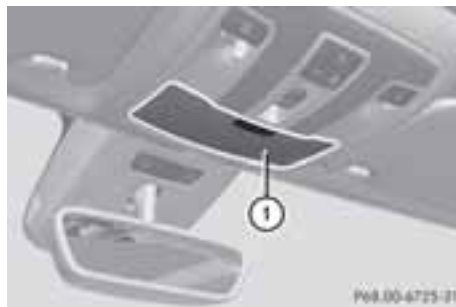
前席の小物入れ

グローブボックス



- ▶ **開く:** ハンドル ① を引いて、グローブボックスカバー ② を開きます。
- ▶ **閉じる:** グローブボックスカバー ② を押してロックさせます。
- i** グローブボックスのカバー上部には、ペンホルダーがあります。

サングラスケース



- ▶ **開く:** カバー ① のマークを押します。

走行中は常にサングラスケースが閉じていることを確認してください。

センターコンソールの小物入れ



- ▶ 開く：カバー①のマークを押します。

i 車両の装備によって、センターコンソールにはカバー付きの小物入れや灰皿の代わりに、カバーなしの小物入れがあります。

アームレスト前方の小物入れ



- ▶ 開く：カバー①のマークを押します。

i 滑り止めのマットや小物入れを取り外して清掃することができます。小物入れを取り外すときには、軽い手応えがあります。

アームレスト下の小物入れ / 携帯電話ケース



- ▶ 開く：可動式アームレスト装備車では、アームレストが最も後方の位置になっていることを確認します。

- ▶ ボタン①を押して、アームレストを引き上げます。

i 車両の装備により、小物入れ内にはUSBポート、およびAUX入力ジャックまたはメディアインターフェースが装着されています。メディアインターフェースはiPod®やMP3プレーヤーなどのポータブル音楽機器のための汎用インターフェースです（別冊のCOMANDシステム取扱説明書をご覧ください）。

アンダーシートボックス（前席）

⚠ 警告

小物入れの最大積載量を超えて荷物を積むと、カバーが開くことがあります。急な進路変更や急ブレーキを行なった際に、小物入れから荷物が投げ出されるなどして、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

小物入れの最大積載量を超えないようにしてください。重い荷物はラゲッジルームに積んで固定してください。

小物入れの最大積載量は、約 1.2kg です。



▶ **開く**：ハンドル ① を引き上げ、カバー ② を前方に引き出します。

後席の小物入れ

リアセンターコンソールの小物入れ



▶ **開く**：小物入れ ① の上部を持って、引き下げます。

ⓘ 車両の装備によって、小物入れ上部にカバーなしの小物入れがあります。

収納ネット

⚠ 警告

収納ネットには、軽い物のみを収納してください。重い物や鋭利な角のある物、こわれやすい物を運搬するために使用しないでください。事故のときに収納ネットが収納物を十分に固定できないおそれがあります。

❗ パーセルシェルフ裏側にある収納ネットの最大積載量は、約 2.5kg です。

収納ネットは以下の場所にあります。

- 助手席足元
- 運転席および助手席シート背面
- パーセルシェルフ裏側
- ラゲッジルーム左右

荷物を積むときは、"積載のガイドライン" (▷270 ページ) および小物入れの "重要な安全上の注意事項" (▷271 ページ) に従ってください。

スルーローディング

荷物を積むときは、"積載のガイドライン" に従ってください (▷270 ページ)。



- ▶ **開く**：アームレスト ① を引き下げます。
- ▶ リアシートの中央のヘッドレストを最も上の位置に引きます（▶103 ページ）。



- ▶ ロック機構 ③ を矢印の方向にスライドさせます。
- ▶ フラップ ② をいっぱいまで横に開きます。
フラップ ② は磁石で完全に開いたまま保持されます。
- ▶ **閉じる**：ラゲッジルーム内のフラップ ② を閉じてロックさせます。
- ▶ 必要であれば、アームレスト ① をいっぱいまで起こします。

ラゲッジルームの拡大

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

リアシートのバックレストが固定されていない場合は、急ブレーキや事故のときに前方に倒れます。

- それにより、バックレストによって乗員がシートベルトに押し込まれることがあります。シートベルトが意図した保護を行わず、けがの原因になるおそれがあります。
- ラゲッジルーム内の荷物がバックレストで固定できなくなります。

けがの危険性が高まります。

走行を開始する前には、リアシートのバックレストが固定されていることを確認してください。

- !** 後席のバックレストを前方に倒す前に、後席のアームレストとカップホルダーが収納されていることを確認してください。さもないと、それらを損傷することがあります。

荷物を積むときは、「積載のガイドライン」に従ってください（▶270 ページ）。

分割可倒式シート

リアシートのバックレストを前方に倒す

左側および右側のリアシートのバックレストを独立して前方に倒し、ラゲッジルームの容量を拡大することができます。



- ▶ バックレストのヘッドレストをいっぱいまで差し込みます (▶103 ページ)。
- ▶ 必要であれば、運転席または助手席シートを前方に移動します。
- ▶ 左側または右側のシートのバックレストの解除ハンドル ② を前方に引きます。
対応するシートのバックレスト ① が解除されます。
- ▶ シートのバックレスト ① を前方に倒します。
- ▶ 必要であれば、運転席または助手席シートを後方に移動します。



- ▶ シートベルトをシートベルトホルダー ① に差し込みます。

リアシートのバックレストを後方に起こす



- ▶ 必要であれば、運転席または助手席シートを前方に移動します。
- !** リアシートのバックレストを後方に起こすときは、シートベルトが挟まれていないことを確認してください。さもないと、シートベルトを損傷するおそれがあります。
- ▶ ロックするまで、シートのバックレスト ① を後方に起こします。
赤いロック状況インジケーター ② が見えなくなります。
- ▶ 必要であれば、ヘッドレストを調整します (▶103 ページ)。
- ▶ 必要であれば、運転席または助手席シートを後方に移動します。

パーセルシェルフ



! パーセルシェルフの最大積載量は、約 2.5kg です。

- ▶ **取り外す**：ストラップ ① をテールゲートから外します。
- ▶ パーセルシェルフを下ろします。
- ▶ パーセルシェルフを矢印 ② の方向に引き出します。
- ▶ **取り付ける**：パーセルシェルフを左右のガイドに合わせます。
- ▶ パーセルシェルフが固定されるまで、両手で均等に押し込みます。
- ▶ パーセルシェルフを上げます。
- ▶ ストラップ ① をテールゲートに取り付けます。

荷物の固定

荷物固定用リング

荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。

- "積載のガイドライン" に従ってください (p.270 ページ)。
- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。

- 荷物は荷物固定用リングで均等に固定してください。
- 伸縮性のあるストラップやネットは軽い荷物のずれを防ぐためだけのものですので、これらを使用して荷物を固定しないでください。
- 固定用具がとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 保護のため、鋭い角にはカバーをしてください。

ラゲッジルームに 4 個の荷物固定用リングがあります。



① 荷物固定用リング

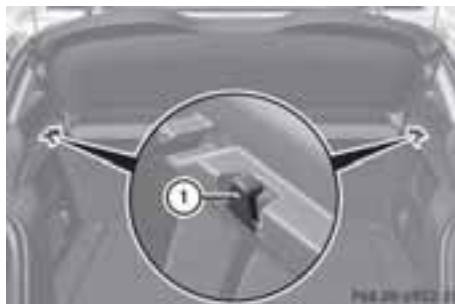
バッグフック

警告

バッグフックには軽い荷物のみを掛けてください。重い物やとがった物、壊れやすい物を運搬するために使用しないでください。急ブレーキや急な進路変更のとき、事故のときなどにバッグフックは十分に荷物を固定できません。お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

! バッグホルダーは、約 3kg までの荷重に耐えることができます。荷物を固定するために使用しないでください。

バッグホルダーはラゲッジルームのそれぞれの側面にひとつずつあります。



① バッグフック

ラゲッジフロアボード下の小物入れ

重要な安全上の注意事項

警告

ラゲッジフロアボード下の小物入れで物を運搬するときは常に、ラゲッジフロアボードを閉じてください。

さもないと、急ブレーキや急な進路変更、事故のときに周囲に投げ出された物により、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

! ラゲッジフロアボード下の小物入れの最大積載量は約 25kg です。

ラゲッジフロアボードの開閉

ラゲッジフロアボードの下は、タイヤフィット、車載工具などの収納スペースがあります。



▶ **開く**：テールゲートを開きます。

▶ ハンドル ① の凹凸 ② を押し下げます。

ハンドル ① が起き上がります。



▶ ラゲッジフロアボード裏側にあるフック ③ を取り外します。

▶ **パーセルシェルフが取り付けられているとき**：フックのストラップにあるループ部分をパーセルシェルフ裏側のバーに掛けます。



- ▶ パーセルシェルフが取り付けられていないとき：フック ③ をラゲッジルーム上部のシール部 ④ に掛けます。
- ▶ 閉じる（パーセルシェルフが取り付けられているとき）：パーセルシェルフ裏側のバーからループを外します。
- ▶ パーセルシェルフが取り付けられていないとき：シール部 ④ からフック ③ を外します。
- ▶ フック ③ をラゲッジフロアボード裏側にある固定部に取り付けます。
- ▶ ラゲッジフロアボードを下げます。
- ▶ ロックするまで、ラゲッジフロアボードを押し込みます。

ルーフキャリア

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

不適切に固定されたルーフキャリアやスキーラック、または荷物は、車両から脱落するおそれがあります。これらのものは周囲に投げ出され、お客様や他の方がけがをしたり、事故の原因になるおそれがあります。ルーフキャリアやスキーラックの製造者の装着指示や使用のための特別な指示に従ってください。

ルーフの荷物は車両の重心を上げ、そのため車両の操縦性に影響を与えます。常にルーフの最大積載量（約100kg）を遵守してください。常にそのときの道路、交通や天候状況にお客様の運転スタイルを合わせ、ルーフに荷物を積んでいるときは、特に注意して走行してください。

! メルセデス・ベンツ車のためにテストされ、承認されたルーフキャリアのみを使用することをお勧めします。これにより、車両の損傷を防ぎます。

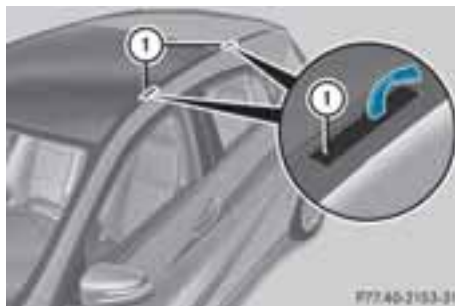
走行時に車両が損傷しないような方法で、ルーフの上に荷物を配置してください。

ルーフキャリアを装着しているときにパノラミックスライディングルーフを完全にをチルトアップすることができると、またテールゲートを完全に開くことができることを確認してください。

i パノラミックスライディングルーフ装備車：ルーフキャリアを装着したときは、パノラミックスライディングルーフを開くことはできません。車両の換気を行なうために、パノラミックスライディングルーフをチルトアップすることができません。

Daimler AG が承認したルーフキャリアを使用してパノラミックスライディングルーフと干渉したときは、パノラミックスライディングは少し閉じてチルトアップしたままになります。

ルーフキャリアの装着



- ▶ カバー ① を注意しながら矢印の方向に開きます。
- ▶ カバー ① を上方に開きます。
- ▶ カバー ① 内部の固定部にルーフキャリアを固定します。
- ▶ メーカーの装着指示に従ってください。

室内装備

カップホルダー

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

車両が動いているときは、カップホルダーには何も置かないでください。さもないと、以下のときに周囲に投げ出された物により乗員がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故に巻き込まれたとき

カップホルダーは停車しているときにのみ使用してください。カップホルダーには適切なサイズかつフタ付きの容器のみを使用してください。さもないと、飲み物がこぼれるおそれがあります。

カップホルダーで熱い飲み物を使用しないでください。火傷をするおそれがあります。

⚠ 警告

荷物を正しく固定していない場合は、荷物が投げ出されてお客様や他の方がけがをするおそれがあります。

特に、急ブレーキや急な進路変更のときに、けがをするおそれがあります。

- 必ず荷物を固定して、投げ出されないようにしてください。
- 小物入れ、ラゲッジネットまたは収納ネットから荷物がはみ出さないようにしてください。
- 運転中は小物入れを閉じてください。

- 重い、固い、尖った物、鋭利な角のある物、こわれやすいまたは大きな荷物をラゲッジルームに積むときは、確実に固定してください。

! カップホルダーには必ず適切なサイズかつフタ付きの容器のみを使用してください。さもないと、飲み物がこぼれるおそれがあります。

ドアの小物入れには、以下のボトルのためのスペースがあります。

- フロント：容量約 1.0 ℓ まで
- リア：容量約 0.5 ℓ まで

フロントセンターコンソールのカップホルダー

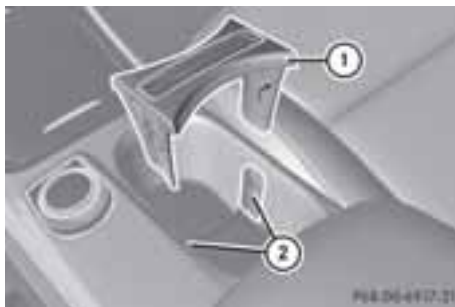
全車（Audio 5 装備車を除く）



2つのコインホルダー③とカードホルダー②がカップホルダーにあります。

カップホルダーと下部のラバーマットは、取り外して清掃することができます。清潔なぬるま湯でのみ清掃を行ってください。

- ▶ **取り外す：**カップホルダーを上方①に持ち上げて取り外します。



- ▶ **取り付ける：**小物入れ左右のカーブ部分②にカップホルダー①を差し込みます。カップホルダー上部の尖った部分が前方を向くように、カップホルダーを差し込みます。
- ▶ 左側および右側で固定されるまでカップホルダー①を下方に押しします。

Audio 5 装備車



- ▶ 小物入れ③のフタ①を突起②にあたるまで持ち上げます。前方部分④をカップホルダーとして使用できます。

リアシートのアームレストのカップホルダー

! 損傷するおそれがあるため、リアシートのアームレストが引き出されているときは、アームレストに座ったり、体重をかけないでください。

! リアシートのアームレストを上方に収納する前に、カップホルダーを収納してください。さもないと、カップホルダーを損傷するおそれがあります。



▶ リアシートのアームレストを引き出します。

▶ **開く**：カップホルダー ① または ② の前部を押します。

カップホルダー ① または ② が自動的に展開します。

▶ **閉じる**：ロックするまでカップホルダーを後ろにスライドさせます。

サンバイザー

はじめに



- ① ミラー照明
- ② フック
- ③ 駐車チケットなどのためのクリップ
- ④ バニティミラー
- ⑤ ミラーカバー

サンバイザーのバニティミラー

ミラーの照明 ① はサンバイザーがフック ② にかかっているときにのみ点灯します。

横方向からの眩しさ

- ▶ サンバイザーを下げます。
- ▶ サンバイザーをフック ② から外します。
- ▶ サンバイザーを横にまわします。
- ▶ **ミラー照明装備車**：必要に応じて、サンバイザーを水平にスライドさせます。

灰皿

フロントセンターコンソールの灰皿

! 灰皿下部の収納スペースには耐熱性がありません。火がついたたばこを灰皿に置く前に、灰皿が確実に固定されていることを確認してください。さもないと、収納スペースを損傷するおそれがあります。



小物入れにカバーがある車両の例

▶ **開く**：カバー①のマークを押します。

カバーが開きます。

▶ **灰皿を取り外す**：灰皿③を上げて②、取り出します。

▶ **灰皿を再度取り付ける**：固定されるまで、灰皿③をホルダーに押し込みます。

i 灰皿を取り外すと、小物入れとして使用することができます。

後席センターコンソールの灰皿



▶ **開く**：上端を持ってカバー③を引き出します。

▶ **灰皿を取り外す**：ハンドル①で灰皿②を支え、ロック解除の音がするまで矢印④の方向に引き出します。

▶ 灰皿②を上方に取り外します。

▶ **灰皿を再度取り付ける**：上方からホルダーに灰皿②を合わせ、固定するまでホルダーに押し込みます。

ライター

警告

赤熱部およびライターのソケット部に触れると火傷をするおそれがあります。

以下の場合には火災のおそれがあります。

- 熱くなったライターを落としたとき
- 子供が熱くなったライターで遊んだとき

火災やけがのおそれがあります。

熱くなったライターはノブのみを持ってください。さもないと、火傷をするおそれがあります。

子供がライターで遊ばないように注意してください。子供だけを車内に残して車から離れないでください。

交通状況に常に注意してください。ライターは、道路や交通状況が許すときにのみ使用してください。



小物入れにカバーがある車両の例

- ▶ イグニッション位置を **2** の位置にします。
- ▶ **開く**：カバー **①** のマークを押します。
灰皿が開きます。
- ▶ ライター **②** を押します。

熱くなる部分が赤く熱くなると、ライター **②** は自動的にポップアウトします。

12V 電源ソケット

使用する際の注意点

- ▶ イグニッション位置を **1** または **2** の位置にします。

ソケットは最大消費電力 180W (15A) のアクセサリに使用できます。アクセサリには、照明や携帯電話の充電器のような機器が含まれます。

エンジンが停止しているときに、ソケットを長時間使用すると、バッテリーが放電することがあります。

- i** 緊急遮断により、バッテリー電圧の過度の低下を防ぎます。バッテリー電圧が過度に低下したときは、12V 電源ソケットへの電力が自動的に遮断されます。これにより、エンジン始動用の十分な電力が確保されます。

フロントセンターコンソールのソケット



小物入れにカバーがある車両の例

- ▶ **開く**：カバー **①** のマークを押します。
小物入れが開きます。
- ▶ ソケットのカバー **②** を上げます。



小物入れにカバーがない車両の例

- ▶ ソケットのカバー ① を上げます。

後席センターコンソールのソケット



- ▶ 上端を持ってカバー ① を引き出します。
- ▶ ソケットのカバー ② を上げます。

ラゲッジルームのソケット



- ▶ ソケットのカバー ① を上げます。

携帯電話

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

走行中は携帯電話を操作しないでください。さもないと、交通状況から注意がそれ、事故やお客様または他の方がけがをするおそれがあります。

携帯電話は車両を停車しているときにのみ使用してください。

- i** 国により、車両に装着できる携帯電話ブラケットにはさまざまな種類があります。

適合している携帯電話や COMAND システムへの Bluetooth® 対応携帯電話の接続について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

- i** 電話を使用するときの機能やサービスは、お客様の携帯電話の機種やサービスプロバイダーにより異なります。

携帯電話の差し込み

- ▶ 携帯電話ケースを開きます (▷272 ページ)。
- ▶ あらかじめ装着されている装着部に携帯電話ブラケットを差し込みます。
- ▶ 携帯電話を携帯電話ブラケットに差し込みます。

i いくつかの携帯電話ブラケットでは、最初に Bluetooth® 経由で携帯電話ブラケットに携帯電話を接続しなければなりません。

この場合は、電話機能を使用可能にするために携帯電話ブラケットに携帯電話を差し込む必要はありません。ただし、充電機能とアンテナ機能は使用できません。

携帯電話の操作

ステアリングの  および  スイッチを使用して電話を操作することができます。マルチファンクションディスプレイ経由で携帯電話の他の機能进行操作することができます (▶227 ページ)。

エンジンスイッチからキーを抜いた場合、携帯電話はそのままになりますが、ハンズフリーシステムは使用できなくなります。

通話を行なっていて、エンジンスイッチからキーを抜きたい場合は、最初に携帯電話ブラケットから携帯電話を取り外してください。さもないと、通話が終了します。

i 携帯電話ブラケットが Bluetooth® 経由で携帯電話に接続された状態で、携帯電話での通話が続けたいときは、エンジンスイッチからキーを抜く前に "プライベートモード" に切り替える必要があります。さもないと、携帯電話をシステムから切り離すのに最大で 20 秒かかります。その後にも、携帯電話での通話が続けることができます。

"プライベートモード" について、詳しくは携帯電話の操作指示をご覧ください。

i 携帯電話によっては、"プライベートモード" をサポートしていません。

小物入れ内の携帯電話ブラケット

ブラケットの下にある小物入れへのアクセスを容易にするため、あらかじめ装着されているブラケットを持ち上げることができます。車両の装備により、小物入れ内には USB ポート、および AUX 入力端子またはメディアインターフェースが装備されています (▶272 ページ)。



▶ **ブラケットを持ち上げる：** ボタン ① を押します。

▶ **ブラケットを下げる：** ブラケットを下に押して、ロックさせます。

運転席側フロアマット

⚠ 警告

運転席の足元に物が入り込むと、ペダル操作の妨げになるおそれがあります。車両の安全性が損なわれ、事故の原因となるおそれがあります。

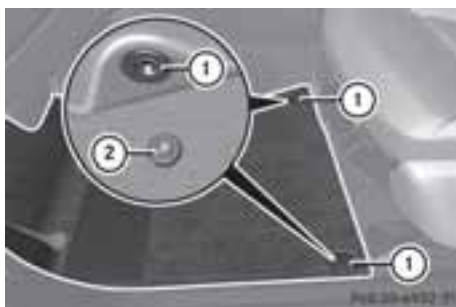
車内のすべての物が正しく固定されていて、運転席の足元に入り込まないようにしてください。

運転席のフロアマットを使用するときは、ペダル周囲に十分な空間があり、フロアマットが確実に固定されていることを確認してください。

フロアマットは常に、ノブと固定部を使用して確実に固定してください。

走行前にフロアマットを点検し、必要であれば固定してください。確実に固定されていないフロアマットは滑るおそれがあり、そのためペダルの動きを妨げるおそれがあります。

フロアマットを重ねて使用しないでください。



- ▶ シートを後方にスライドします。
- ▶ **取り付け**：足元にフロアマットを敷きます。
- ▶ ノブ①を固定部②に押し込みます。

- ▶ **取り外す**：固定部②からフロアマットを引き上げます。

- ▶ フロアマットを取り外します。

反射防止フィルムの装着

ウインドウの内側に装着した反射防止フィルムは、ラジオや携帯電話の受信を妨げることがあります。これは特に、伝導性があり、または金属コートが施されているフィルムの場合がそうです。反射防止フィルムに関しては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

役に立つ情報.....	288
エンジンルーム.....	288
メンテナンス.....	294
日常の手入れ.....	296

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で入手可能な、お客様の車両でのすべての車種、シリーズ、およびオプション装備について記載しています。国により仕様が異なることがあります。記載されているすべての機能が、お客様の車両に装備されていないことがあることにご留意ください。このことは、安全に関するシステムや機能にも当てはまります。

エンジンルーム

ボンネット

ボンネットを開く

 警告

ボンネットがロックされていないと、走行中に開いて、視界が遮られるおそれがあります。事故の危険性があります。

走行中は決してボンネットのロックを解除しないでください。

 警告

ボンネットを開閉しているときに、ボンネットが突然閉じることがあります。ボンネットの開閉範囲にいる人がけがの危険性があります。

ボンネットは、開閉範囲に誰も人がいないときにのみ開閉してください。

 警告

エンジンやラジエーター、排気システムの部品など、エンジンルーム内のいくつかの構成部品は非常に高温になっています。エンジンルーム内に手を伸ばしたときに火傷をする危険性があります。

エンジンが冷えるまで待ってから、取扱説明書に記載された箇所にのみ触れてください。

 警告

エンジンがオーバーヒートしているときや、エンジンルームから火が出ているときにボンネットを開くと、高温のガスや漏れ出した他の油脂類に触れることがあります。けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。エンジンルームから火が出ている場合は、ボンネットを閉じたままにして、消防署に連絡してください。

 警告

エンジンルーム内には作動している構成部品があります。ラジエーターファンなどのいくつかの部品は、エンジンスイッチからキーを抜いてあるときでも作動を続けたり、突然再作動することがあります。けがの危険性があります。

エンジンルーム内に手を伸ばさなければいけないときは、以下のようにしてください。

- イグニッションをオフにする
- ファンの回転範囲など、作動部品の危険な範囲には手を伸ばさない
- 作動部品から衣服を遠ざける

 警告

イグニッションシステムと燃料噴射システムは高電圧を使用しています。作動中の部品に触れると、感電することがあります。けがの危険性があります。

イグニッションがオンのときは、決してイグニッションシステムと燃料噴射システムには触れないでください。

アクティブボンネット（歩行者保護）

作動原理

! 一度作動したアクティブボンネットは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でリセットしてください。アクティブボンネット機能が再度作動可能になります。アクティブボンネットによる歩行者保護機能が元に戻ります。

アクティブボンネットは特定の国でのみ作動します。

アクティブボンネットは、特定の事故の状況下で歩行者のけがの危険性を軽減することができます。

アクティブボンネットが持ち上がることにより、エンジンなどのかたい構成部品との間隔が広がります。

アクティブボンネットが作動すると、ヒンジ周辺の後方が約 60mm 上がります。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行するために、運転者自身でアクティブボンネットをリセットしてください。アクティブボンネットが作動すると、歩行者保護が制限されます。

リセットする

 警告

エンジンやラジエーター、排気システムの部品など、エンジンルーム内のいくつかの構成部品は非常に高温になっています。エンジンルーム内に手を伸ばしたときに火傷をする危険性があります。

エンジンが冷えるまで待ってから、取扱説明書に記載された箇所にのみ触れてください。



- ▶ 手のひらで、アクティブボンネット ① の左右のヒンジ周辺（矢印）を、固定されたと感じるまで押し下げます。

ヒンジ周辺のアクティブボンネットが少し持ち上げられるときは、確実に固定されていません。手順を繰り返してください。

ボンネットが上がった状態のままのときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に直接向かってください。100km/h を超えないように走行してください。

ボンネットを開く

⚠ 警告

ボンネットが開いていて、ワイパーが作動可能な状態のときは、ワイパーの作動部品によりけがをすることがあります。けがの危険性があります。

ボンネットを開く前には、必ずワイパーを停止して、イグニッションをオフにしてください。

❗ フロントワイパーがフロントウィンドウから起きていないことを確認してください。さもないと、フロントワイパーやボンネットを損傷するおそれがあります。

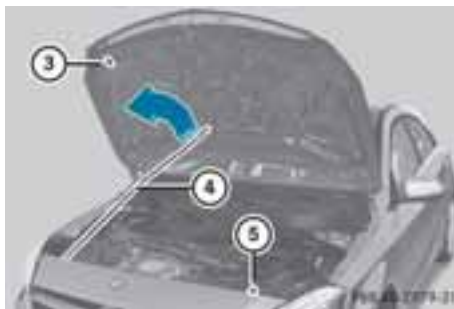


- ▶ ワイパーが停止していることを確認します。
- ▶ ボンネットロック解除レバー ① を引きます。

ボンネットのロックが解除されます。



- ▶ ボンネットとラジエターグリルの間のすき間に手を入れ、ロック解除ノブ ② を左側に押します。
- ▶ ボンネットを上げます。



- ▶ フック ⑤ からアーム ④ を引いて外します。
- ▶ アーム ④ を上げて、黄色の固定クリップ ③ に差し込みます。

ボンネットを閉じる

- ▶ ボンネットを少し上げ、同時に黄色の固定クリップ ③ からアーム ④ を外します。
- ▶ アーム ④ を下げ、固定するまでフック ⑤ に押し込みます。
- ▶ ボンネットを下げ、約 20cm の高さから落とします。
- ▶ ボンネットが確実に固定していることを確認します。

ボンネットが少し上がっているときは、確実に固定されていません。ボンネットを押して閉じないでください。ボンネットを再度開き、少し強めに閉じます。

エンジンオイル

全体的な注意事項

運転スタイルより、1,000km につき最大で約 0.8 リットルのエンジンオイルが消費されます。新車時やエンジンを高回転にして頻繁に運転しているときは、エンジンオイル消費量はこれより多くなることがあります。

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 水平な場所に停車します。
- エンジンが通常の作動温度のときは、エンジンを約 5 分停止します。
- エンジンを短時間のみかけたときなど、通常の作動温度でないときは、測定を行なう前に約 30 分間待ちます。

エンジンオイルレベルゲージを使用し てのオイル量の点検



- ▶ エンジンオイルレベルゲージ ① を抜きます。
- ▶ オイルレベルゲージ ① を拭きます。

- ▶ オイルレベルゲージ ① をオイルレベルゲージチューブに停止するまでゆっくり差し込み、再度抜き取ります。

レベルが MIN マーク ③ と MAX マーク ② の間にあれば、エンジンオイル量は正常です。

- ▶ エンジンオイルレベルが MIN マーク ③ かそれ以下のときは、約 1 リットルのエンジンオイルを補給します。

エンジンオイルを補給する

⚠ 警告

エンジンオイルが熱くなったエンジン部品に触れると、発火することがあります。火災や火傷の危険性があります。

エンジンオイルがフィラーネックからこぼれていないことを確認してください。エンジンを始動する前に、エンジンが冷えた状態でエンジンオイルが付着した箇所を完全に清掃してください。

🌱 環境

エンジンオイルを補給するときは、こぼさないように注意してください。エンジンオイルが地面や排水溝に流れると、環境に悪影響を与えます。

! 車両の点検整備用として承認された、エンジンオイルとオイルフィルターのみを使用してください。メルセデス・ベンツによりテストされ、承認されたエンジンオイルやオイルフィルターについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

以下のことが、エンジンや排気システムの損傷の原因になります。

- 点検整備用として承認されていないエンジンオイルとオイルフィルターを使用すること
- 点検整備により要求されている交換時期を過ぎてからエンジンオイルとオイルフィルターを交換すること
- エンジンオイルに添加剤を入れること

! エンジンオイルを補給しすぎないでください。エンジンオイルの過度の補給は、エンジンや触媒コンバーターの損傷につながるおそれがあります。エンジンオイルを抜いてください。



エンジンオイルフィラーキャップの例

- ▶ エンジンオイルフィルターキャップ ① を反時計回りにまわして取り外します。

- ▶ エンジンオイルを補給します。

オイルレベルがエンジンオイルレベルゲージの MIN マークかそれ以下のときは、エンジンオイルを約 1 リットル補給します。

- ▶ キャップ ① を補給口に合わせ、時計回りにいっぱいにまわします。

キャップが確実にロックされていることを確認します。

- ▶ エンジンオイルレベルゲージで、オイルレベルを再度点検します。

エンジンオイルについては (▶ 357 ページ) をご覧ください。

他のサービス用品の点検と補給

冷却水の量の点検

⚠ 警告

冷却システムには圧力がかかっており、特にエンジンが温まっている場合は強い圧力がかかっています。キャップをゆるめると、高温になった冷却水が吹き出します。けがの危険性があります。

キャップを開く前にエンジンを冷やしてください。開くときには、手袋と保護眼鏡を着用してください。圧力を逃がすため、キャップをゆっくりと 1/2 回転までまわしてください。

- ❗ 冷却水は、エンジンが冷えているとき（冷却水温度が約 40℃ 以下）にのみ量の点検と補給を行なわなければなりません。冷却水温度が約 40℃ 以上のときに冷却水量の点検を行なうと、エンジンやエンジン冷却システムの損傷につながるおそれがあります。



- ▶ 水平な場所に車を停めます。

冷却水量の点検は、水平な場所に停車して、エンジンが冷えているときにのみ行なってください。

- ▶ イグニッション位置を 2 にします。

- ▶ メーターパネルのエンジン冷却水温度計を点検します。

冷却水温度が約 40℃ 以下になっていなければなりません。

- ▶ イグニッション位置を 0 にします。

- ▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。

- ▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。

冷えているときに、補充口のマーカーカーバー ③ の高さであれば、リザーブタンク ② に十分な冷却水があります。

- ▶ 必要であれば、メルセデス・ベンツによりテストされ、承認された冷却水を補給します。
- ▶ キャップ ① を合わせ、いっぱいまで時計回りにまわします。

冷却水について、詳しくは (▷359 ページ) をご覧ください。

ウインドウウォッシャー / ヘッドライトウォッシャーの補給

⚠ 警告

ウォッシャー液は高い可燃性です。熱くなったエンジン構成部品や排気システムに触れると、発火することがあります。火災やけがの危険性があります。

フィルターネックからウォッシャー液がこぼれていないことを確認してください。



- ▶ **開く**：タブを持ってキャップ ① を上に引きます。
- ▶ 水と適正な混合比に混ぜたウォッシャー液を補給します。
- ▶ **閉じる**：固定するまでキャップ ① を補給口に押し込みます。

リザーブタンクは、ウインドウウォッシャーとヘッドライトウォッシャー両方に使用されています。

補給するときに推奨している最小量は 1 リッターです。水量がこれを下回っているときは、ウォッシャー液の補給を促すため、マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されます (▷259 ページ)。

ウォッシャー液について、詳しくは (▷360 ページ) をご覧ください。

メンテナンス

メンテナンスインジケーター

メンテナンスメッセージを消去する

メンテナンスインジケーターは、次のメーカー指定点検整備の時期を知らせます。

i メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量に関する情報は表示しません。エンジンオイルについての注意事項は (▷291 ページ) をご覧ください。

マルチファンクションディスプレイに以下のようなメッセージが数秒間表示されます。

- 次のメンテナンス A あと XX 日です
- メンテナンス A 期限が切れます
- メンテナンス A 超過しました - XX 日です

車両の使用状況に応じて、次のメーカー指定点検整備までの日数または距離が表示されます。

文字はいずれの点検整備が予定されているかを示しています。A は小規模な点検整備を、B は大規模な点検整備を表しています。文字の後に、数字または他の文字が表示されることがあります。この数字は実施すべき他の必要な点検整備作業を示しています。

ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲と法定点検の範囲は異なります。

点検整備の種類や点検整備のインターバルについては、別冊の整備手帳をご覧ください。

メンテナンスインジケーターは、バッテリーの接続を外している期間は考慮に入れません。

期日に応じたメーカー指定点検整備時期を維持するには、以下を行ないます。

- ▶ バッテリーの接続を外す前に、マルチファンクションディスプレイに表示されている点検整備時期を書き留めます。

または

- ▶ バッテリーを再接続した後に、マルチファンクションディスプレイに表示されている点検整備時期からバッテリーの接続を外していた期間を差し引きます。

メンテナンスメッセージを消去する

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押します。

メンテナンスメッセージを表示させる

- ▶ イグニッション位置を 1 か 2 にします。
- ▶ ステアリングの  か  スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイのメインメニューから **メンテナンス** を選択します。
- ▶ ステアリングの  か  スイッチを押して、**メンテナンス** を選択し、 スイッチを押して確定します。

マルチファンクションディスプレイにメーカー指定点検整備時期が表示されます。

メンテナンスに関する情報

メンテナンスインジケーターのリセット

- ❗ メンテナンスインジケーターが意図せずにリセットされた場合は、この設定をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で修正してください。

点検整備作業は、整備手帳に記載されているように実施してください。さもないと、車両の主要部品の摩耗の増加や損傷につながる場合があります。

メーカー指定点検整備の実施後に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。さらなる情報については、整備手帳などをご覧ください。

特別なメンテナンスの必要性

表示された点検整備のインターバルは、通常の使用状態を基準にしています。以下のような過酷な使用条件や、車両に高い負荷がかかるときには、車両を通常に使用するときよりも頻繁に各種の点検作業をする必要があります。

- ・ 頻繁に停止を繰り返すような市街地走行
- ・ 主に短距離で 사용되는場合
- ・ 山間地や路面の悪いところで使用している場合
- ・ エンジンを長時間にわたってアイドリングしている場合

過酷な使用条件で使用する車両では、たとえばエアフィルター、エンジンオイルやオイルフィルターなどを短い周期で交換してください。車両に高い負荷をかけた場合は、タイヤを頻繁に点検することが必要です。詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

日常の手入れ

全体的な注意事項

🌀 環境

空の容器や汚れた布は、環境に配慮した方法で廃棄してください。

! 車の手入れをするときは、以下のものを使用しないでください。

- ・ 乾いた布や目の粗い布、かたい布など
- ・ 研磨剤を含むクリーナー
- ・ 有機溶剤
- ・ 有機溶剤を含むクリーナー

強くこすらないでください。

指輪やアイスクレーパーなどのかたい物で塗装面や保護フィルムなどに触れないでください。さもないと、塗装面や保護フィルムなどを損傷したり、こすり傷が付くおそれがあります。

! 洗車してそのままの状態、特にホイールクリーナーでホイールを清掃したときは、長期間車を駐車したままにしないでください。ホイールクリーナーはブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングの腐食の原因になります。この理由により、洗車した後にしばらく走行してください。ブレーキ操作でブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングを温め、乾燥させることができます。その後に駐車してください。

定期的な車の手入れにより、長い期間に渡って品質を保つことができます。

メルセデス・ベンツが推奨し、承認した用品およびクリーナーを使用してください。

外装の手入れ

自動洗車機の使用

警告

洗車した後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。事故の危険性があります。

洗車した後は、ブレーキの効きを完全に戻すため、交通状況に注意を払いながら注意してブレーキ操作を行ってください。

! ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動しているときは、特定の状況で車両に自動的にブレーキが効きます。車両の損傷を避けるため、以下や他の類似の状況のときは、ディストロニック・プラスとホールド機能を解除してください。

- けん引されるとき
- 自動洗車機での洗車時

! 自走式の自動洗車機で洗車するときは、オートマチックトランスミッションのシフトポジションが **N** になっていることを確認してください。トランスミッションが他のポジションになっていると、車を損傷するおそれがあります。

! 以下の点を確認してください。

- サイドウィンドウとパノラミックスライディングルーフが完全に閉じていること
- 送風が停止していること（エアコンディショナーは送風量調整ダイヤルが **0** の位置になっている / クライメートコントロールは OFF スイッチが押されている）
- ワイパースイッチが **0** の位置になっていること

車両を損傷するおそれがあります。

新車時から自動洗車機で洗車することができます。

自動洗車機で洗車する前に、余分な汚れを洗い流してください。

自動洗車機を使用した後は、フロントウィンドウやワイパーブレードからワックスを拭き取ってください。これにより、フロントウィンドウの残留物による汚れを防ぎ、ワイパーノイズを低減させます。

手洗いによる洗車

- ▶ 熱湯を使用せず、直射日光下では洗車をしないでください。
- ▶ 柔らかいスポンジで洗車してください。
- ▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を使用してください。
- ▶ 低圧の水流で車体全体に水をかけます。
- ▶ 吸気口に向けて直接水流を当てないでください。

- ▶ 十分な量の水を使用して、スポンジで洗い流します。
- ▶ きれいな水で洗い流し、セーム皮などで水滴を拭き取ります。
- ▶ 塗装面に洗浄液がある状態で乾かさな

冬季に車両を使用したときは、すみやかに凍結防止剤を丁寧に取り除いてください。

高圧式スプレーガンの使用

警告

回転式ジェットノズルを備える高圧式スプレーガンは、タイヤや車体構成部品に外観上判別できない損傷を引き起こす原因になります。これによる構成部品の損傷により、予測できない不具合が起こることがあります。事故の危険性があります。

車両の清掃には、回転式ジェットノズルを備える高圧式スプレーガンを使用しないでください。損傷したタイヤや車体構成部品はただちに交換してください。

- ❗ 車両と高圧式スプレーガンのノズル間には、常に最低でも 30cm の間隔を確保してください。

高圧式スプレーガンのノズルは円を描くように動かしてください。

高圧式スプレーガンのノズルを直接、以下の物に向けないでください。

- タイヤ
- ドア接合面、ルーフ接合面、ジョイントなど
- 電気装備
- バッテリー
- コネクター
- ライト
- シール部
- トリム部品
- 吸気口

シール部や電気装備や塗装面が損傷することにより、車内への水の浸入や故障につながります。

ホイールの清掃

- ❗ ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルト、ブレーキ構成部品を損傷するおそれがあります。

- ❗ ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置しないでください。ブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングなどが腐食するおそれがあります。この理由により、清掃後は数分間走行し、ブレーキディスクとブレーキパッド / ライニングを温めて乾燥させてください。その後、車を駐車してください。

塗装面の清掃

! 塗装面に以下のものを貼付しないでください。

- ステッカー
- フィルム
- マグネットや類似の物

塗装面を損傷するおそれがあります。

- ▶ 不純物は、強くこすることなく、ただちに取除いてください。
- ▶ 虫の死がいやインセクトリムーバーで取除き、周囲をよく洗い流してください。
- ▶ 鳥のふんは水で落とし、周囲をよく洗い流してください。
- ▶ 油脂類、樹液、オイル、燃料、グリースなどは、ベンジンまたはライター用オイルを染み込ませた布で軽く拭いてください。
- ▶ タールはタールリムーバーで取除いてください。
- ▶ ワックスはシリコンリムーバーで取除いてください。

以下のものは完全に修復することはありません。

- 引っかき傷
- 腐食残留物
- 腐食作用を受けた範囲
- 不適切な取り扱いが原因の損傷

メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で補修を行なってください。

マットペイント塗装車の取り扱い

! 車体またはホイールを磨かないでください。磨くことにより、塗装面に光沢が出ます。

! 以下のことは塗装面に光沢を持たせたり、マット塗装の質感を損なわせるおそれがあります。

- 不適切な素材で力強くこすること
- 頻繁に洗車を行なうこと
- 直射日光下で洗車を行なうこと

! 塗装クリーナー、磨き布または研磨剤、またはワックスなどの光沢剤を使用しないでください。これらの製品は高い光沢の表面にのみ適しています。マット仕上げの車両にこれらを使用すると、表面の著しい損傷（光沢、まだら）につながります。

塗装の修復は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! いかなる状況でもホットワックス仕上げの洗車コースを使用しないでください。

マットペイント塗装車では、これらの注意事項を守ってください。不適切な取り扱いによる塗装面の損傷を防ぐ助けになります。

マットペイント塗装されたホイールについても、同様の手入れを行なってください。

i 洗車は、柔らかいスポンジとカーシャンプー、十分な水で、手洗いで行なうことをおすすめします。

i インセクトリムーバーやカーシャンプーは、メルセデス・ベンツにより推奨され、承認された製品のみを使用してください。

ウインドウの清掃

警告

ウインドウやワイパーブレードを清掃するときにワイパーが作動可能な状態にあるときは、ワイパーに挟まれることがあります。けがの危険性があります。

ウインドウやワイパーブレードを清掃する前には、必ずワイパーとイグニッション位置をオフにしてください。

! フロントウインドウからワイパーを起こすときは、ボンネットやフロントウインドウを損傷しないように注意してください。

! ウインドウの内側を清掃するときは、乾いた布や研磨剤、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。アイススクレーパーや指輪などのかたい物でウインドウの内側に触れないでください。さもないと、ウインドウを損傷する危険性があります。

! フロントウインドウおよびリアウインドウの排水口を定期的に清掃してください。特定の状況で、葉、花およびほこりなどの残留物が排水を妨げることがあります。これにより、腐食による損傷や電気装備の損傷につながるおそれがあります。

▶ ウインドウの外側と内側を水で湿らせた柔らかい布で清掃してください。

ワイパーブレードの清掃

警告

ウインドウやワイパーブレードを清掃するときにワイパーが作動可能な状態にあるときは、ワイパーに挟まれることがあります。けがの危険性があります。

ウインドウやワイパーブレードを清掃する前には、必ずワイパーとイグニッション位置をオフにしてください。

! フロントウインドウからワイパーを起こすときは、ボンネットやフロントウインドウを損傷しないように注意してください。

! ワイパーブレードを引っ張らないでください。さもないと、ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードの清掃を頻繁に行なったり、強くこすらないでください。さもないと、表面のコーティングが損傷するおそれがあります。これは異音の原因になります。

▶ フロントウインドウからワイパーアームを起こします。

▶ ワイパーブレードを、湿らせた柔らかい布で軽く拭きます。

▶ イグニッション位置を **1** や **2** にする前に、ワイパーアームを元の位置に戻します。

! ワイパーアームを元の位置に戻すときは、ワイパーアームをしっかり持ってください。ワイパーアームがフロントウインドウにぶつかると、フロントウインドウを損傷するおそれがあります。

ライト類の清掃

! ライト類の清掃には、樹脂製レンズに適したクリーナーと布を使用してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。

- ▶ 湿らせたスポンジとカーシャンプーを混ぜた洗浄液、または清潔な柔らかい布でライト類の樹脂製レンズを清掃します。

ドアミラー方向指示灯の清掃

! ドアミラー方向指示灯の清掃には、樹脂製レンズに適したクリーナーと布を使用してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。

- ▶ 湿らせたスポンジとカーシャンプーを混ぜた洗浄液、または清潔な柔らかい布でドアミラー方向指示灯の樹脂製レンズを清掃します。

センサーの清掃

! 高圧式スプレーガンでセンサーを清掃するときは、車両と高圧式スプレーガンとの間に最低でも 30cm の間隔があることを確認してください。適正な間隔についての情報は、用品の製造者から得ることができます。



- ▶ 流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で走行装備のセンサー①を清掃します。

パーキングアシストリアビューカメラの清掃

! 高圧式スプレーガンで、カメラのレンズやカメラの周辺を清掃しないでください。



- ▶ きれいな水とやわらかい布を使用して、カメラのレンズ①を清掃してください。

マフラーの清掃

! ホイールクリーナーなど酸性のクリーナーでマフラーの手入れを行わないでください。

- ▶ マフラーの手入れについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

路面の小石や腐食性のある環境物質などの不純物の影響により、マフラーの表面にサビが発生することがあります。冬季や洗車後は特に、定期的にマフラーを手入れすることにより、マフラーの輝きを保ち、また元の輝きを取り戻すことができます。

内装の手入れ

ディスプレイの清掃

! 清掃するときは、以下のものを使用しないでください。

- アルコール分を含んだ溶剤や有機溶剤、燃料
- 研磨剤を含んだクリーナー
- 家庭用クリーナー

ディスプレイ表面を損傷するおそれがあります。清掃するときは、ディスプレイ表面に圧力を加えないでください。ディスプレイに復元不可能な損傷を与えるおそれがあります。

- ▶ ディスプレイを清掃する前に、ディスプレイがオフになっていて、冷えていることを確認してください。
- ▶ 市販の不織布とディスプレイクリーナーを使用して、ディスプレイの表面を拭き取ります。

- ▶ 乾いた不織布でディスプレイを拭きます。

プラスチックトリムの清掃

警告

有機溶剤を含む手入れ用品やクリーナーは、ステアリングやインストルメントパネルの表面を劣化させます。この結果、エアバッグが作動したときにプラスチック部品が損傷して車内に飛散します。けがの危険があります。

ステアリングやインストルメントパネルの清掃には、有機溶剤を含む手入れ用品やクリーナーを使用しないでください。

! プラスチックトリムに、以下の物を貼付しないでください。

- ステッカー
- フィルム
- 芳香剤のボトルや類似のもの

プラスチックトリムを損傷するおそれがあります。

! プラスチックトリムに、化粧品や防虫剤、日焼け止めなどが付着しないようにしてください。表面の劣化の原因になります。

- ▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。
- ▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

表面の色が一時的に変化しますが、乾くと元に戻ります。

ステアリングおよびセクターレバーの清掃

- ▶ 水で湿らせた布で全体を拭くか、指定のレザーケア用品を使用してください。

ウッドトリムの清掃

- ❗ 有機溶剤を含むクリーナーや研磨剤、ワックスなどは使用しないでください。さもないと、ウッドトリムを損傷する危険性があります。
- ▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。
- ▶ **汚れがひどい場合**：専用のクリーナーを使用します。

シート表皮の清掃

全体的な注意事項

- ❗ 本革、人工皮革または アルカンターラ® の表皮の清掃には、不織布を使用しないでください。頻繁に使用すると、表皮を損傷するおそれがあります。
- i 定期的な手入れを行なうことにより、表皮の見栄えと快適さを長期間維持することができます。

純正レザーシート

本革は天然素材です。

天然表皮には以下のような特徴があります。

- 質感の違い
- シワや模様の痕跡
- わずかな色の差異

これらは本革に特有のものであり、素材の不具合ではありません。

- ❗ 本革の風合いを保つため、以下の手入れの指示に従ってください。

- 湿らせた布で注意して清掃し、その後に乾いた布で表皮を拭き取ります。
- 革が濡れないように注意してください。硬化やひび割れにつながります。
- メルセデス・ベンツによりテストされ、承認されたレザーケア用品のみを使用してください。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

その他のシート表皮

- ❗ 清掃するときは、以下に従ってください。

- 人工皮革の表皮は、1%の洗剤（洗濯液など）を含む溶液で湿らせた布で清掃します。
- 布の表皮は、1%の洗剤（洗濯液など）を含む溶液で湿らせた不織布で清掃します。拭き残しがないように注意深くこすり、シート全体をまんべんなく拭きます。その後、シートを乾燥させます。清掃の効果は、汚れの種類およびどの程度の期間汚れていたかによります。
- アルカンターラ® の表皮は、湿らせた布で清掃します。拭き残しがないように、シート全体をまんべんなく拭きます。

シートベルトの清掃

警告

脱色や染色をしたシートベルトは強度が著しく減少します。これにより、例えば事故のときにシートベルトが裂けたり機能しないことにつながります。けがの危険性を増加させ、致命的なけがをする可能性があります。

シートベルトには、決して脱色や染色をしないでください。

- **！** 化学薬品を含むクリーナーを使用しないでください。直射日光に当たったり、80℃以上の温度で乾燥させないでください。
- ▶ めるま湯か薄めた石鹼水を使用して拭き取ります。

ルーフライニングおよびカーペットの清掃

- ▶ **ルーフライニング**：柔らかいブラシを使用して清掃します。ひどい汚れには、指定のクリーナーを使用します。
- ▶ **カーペット**：指定のクリーナーを使用して清掃します。

役に立つ情報	306
車載品の収納場所	306
パンクしたとき	308
バッテリー（車両）	314
ジャンプスタート	318
けん引およびけん引始動	321
ヒューズ	325

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で入手可能な、お客様の車両でのすべての車種、シリーズ、およびオプション装備について記載しています。国により仕様が異なることがあります。記載されているすべての機能が、お客様の車両に装備されていないことがあることにご留意ください。このことは、安全に関するシステムや機能にも当てはまります。

車載品の収納場所

非常信号用具

懐中電灯を運転席ドアポケットに装備しています。

i 新品時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。

懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

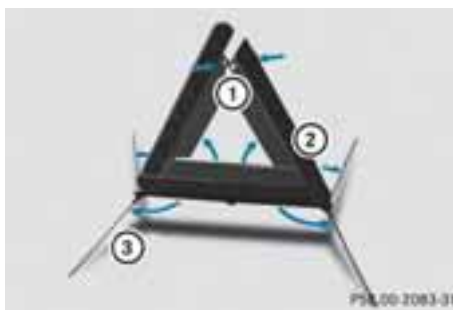
停止表示板

停止表示板の取り外し / 取り付け



- ▶ **取り外す**: テールゲートを開きます。
- ▶ ラゲッジフロアボードを上方向に開きます (▷277 ページ)。
- ▶ ブラケットのストッパーを後方に押し、停止表示板 ① を外します。
- ▶ ブラケットから停止表示板 ① を取り外します。
- ▶ **取り付け**: 停止表示板 ① をブラケットに戻して、押し込んで固定します。

停止表示板の組み立て



- ▶ スタンド ③ を引き出して、停止表示板を地面に立てます。
- ▶ 反射板 ② を開いて、先端のフック ① をかみ合わせます。

※ 仕様により、停止表示板の形状が異なります。

救急セット



- ▶ テールゲートを開きます。
- ▶ **小物入れを開く**：回転ノブ①を時計回りにまわして、カバー②を下方に倒します。



- ▶ 救急セット①を取り出します。
- ① 少なくとも1年に1度は救急セットの有効期限を点検してください。必要であれば中身を交換し、無くなった物を交換してください。

車載工具

全体的な注意事項

タイヤフィット装備車は、タイヤフィットはラゲッジフロアボード下の収納スペースにあります。

タイヤ交換工具装備車の場合は、タイヤ交換工具はラゲッジフロアボード下の収納スペースにあります。

応急用スペアタイヤ装備車は、" 応急用スペアタイヤを取り出す " をご覧ください。

① 国による仕様の違いとは別に、車両にはタイヤ交換工具は装備されていません。タイヤ交換のための工具には、その車両に固有のものがありません。車両のタイヤ交換に必要な工具に関するさらなる情報については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

必要なタイヤ交換工具としては、例えば以下が含まれます。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ

タイヤフィット装備車



- ① タイヤ充填コンプレッサー
- ② けん引フック
- ③ タイヤシール剤ボトル

- ▶ テールゲートを開きます。
- ▶ ラゲッジフロアボードを上方に開きます (▶277 ページ)。

i けん引フック ② はタイヤ充填コンプレッサー ① の下にあります。

タイヤ交換工具キット装備車

- ▶ テールゲートを開きます。
- ▶ ラゲッジフロアボードを上げます (▷277 ページ)。
- ▶ タイヤ交換工具を取り出します。

タイヤ交換工具には以下が含まれます。

- ジャッキ
- ホイールレンチ
- 1 組の手袋
- 折りたたみ式輪止め

パンクしたとき

車両の準備

車両には以下のいずれかが装備されています。

- MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ) (▷309 ページ)

MOExtended タイヤ装備車は、車両の準備を行なう必要はありません。

- タイヤフィット (▷310 ページ)
- 応急用スペアタイヤ (特定の国のみ)

車輪の交換に関する情報は、(▷342 ページ) をご覧ください。

- ▶ 交通からできるだけ離れた、かたくて滑らない、水平な地面に車両を停止します。
- ▶ 非常点滅灯を点滅させます。
- ▶ 車が動き出さないように固定します (▷168 ページ)。

▶ 可能であれば、前輪を直進の位置にします。

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ すべての乗員が車両から出なければなりません。そのときは、彼らに危険がおよばないことを確認してください。

▶ 車輪を交換している間は、危険な範囲に誰もいないことを確認してください。車輪交換を直接補助しない人は、バリアの後方に立つなどしてください。

▶ 交通状況に注意しながら、車外に出ます。

▶ 運転席ドアを閉じます。

▶ 車両の後方から離れた適切な場所に停止表示板を置きます (▷306 ページ)。

i MOExtended タイヤ装備車は、工場出荷時はタイヤフィットは装備されていません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で車両に装備することを推奨します。タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で購入できます。

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）

MOExtended タイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）により、1 本またはそれ以上のタイヤの空気圧が完全になくなった場合でも、車両の走行を続けることができます。不具合のあったタイヤには、明らかに目に見える損傷はありません。

MOExtended タイヤは、タイヤウォールの MOExtended のマークにより確認できます。タイヤサイズ表示、耐荷重、速度指数の脇にもこのマークがあります。

MOExtended タイヤは、作動しているタイヤ空気圧警告システムとの組み合わせでのみ、使用することができます。

マルチファンクションディスプレイに空気圧減少の警告メッセージが表示された場合：

- ディスプレイメッセージの指示に従ってください（▶256 ページ）。
- タイヤの損傷を点検してください。
- 走行を続ける場合は、以下の注意事項に従ってください。

荷物が少ないときの最大走行距離は約 80km、荷物を最大に積載しているときは約 30km です。

車両の荷物に加え、走行可能距離は以下に左右されます。

- 速度
- 道路状況
- 外気温度

パンクした状態での走行可能距離は、厳しい走行環境 / 操作により減少することがあり、ゆるやかな運転スタイルでは増加させることができます。

パンクした状態で走行できる許容最大距離は、タイヤ空気圧警告システムがマルチファンクションディスプレイに表示されたときから計測されます。

最高速度が約 80km/h を超えてはいけません。

i 1 本またはすべてのタイヤを交換するときは、以下のみを使用できます。

- 車両に規定されたタイヤサイズであり、および
- MOExtended のマークが付いたタイヤ

タイヤから空気が抜けてしまい、MOExtended タイヤに交換できない場合は、一時的な手段として一般的なタイヤを使用することができます。適切なサイズおよび種類（夏用、または冬用タイヤ）であることを確認してください。

i MOExtended タイヤ装備車は、工場出荷時はタイヤフィットは装備されていません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で車両に装備することを推奨します。タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で購入できます。

重要な安全上の注意事項

警告

パンクした状態で走行するときは、コーナリングや急加速をしているとき、およびブレーキを効かせているときなどに走行特性が悪化します。事故の危険性があります。

規定された最高速度を越えないでください。急なステアリング操作や運転操作、障害物（縁石、くぼ地、不整地）を乗り越える走行は避けてください。これは特に、荷物を積載している場合に当てはまります。

以下のときは、パンクした状態での走行を中止してください。

- 叩くような異音が聞こえる
- 車両が振れ始めている
- 煙が見えたり、ゴムの臭いがする
- 常に ESP® が作動する
- タイヤのサイドウォールが破れている

パンクした状態で走行した後は、それ以上使用できるかを確認するために、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ではホイールリムを点検してください。不具合のあるタイヤは交換しなければなりません。

タイヤフィット

重要な安全上の注意事項

警告

以下の状況では、タイヤを適切に塞ぐことができないため、タイヤシール剤は十分な緊急補助を行なうことができません。

- 4mm 以上のパンク、またはタイヤトレッド以外に裂け目や穴がある
- ホイールリムが損傷している
- 非常に低いタイヤ空気圧で、または空気が完全に抜けたタイヤで走行した

事故の危険性があります。

それ以上走行しないでください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

警告

タイヤシール剤は有害で、炎症の原因になります。皮膚、眼または衣服に付着しないように、また飲み込まないようにしてください。また、タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。タイヤシール剤は、子供から離してください。けがの危険性があります。

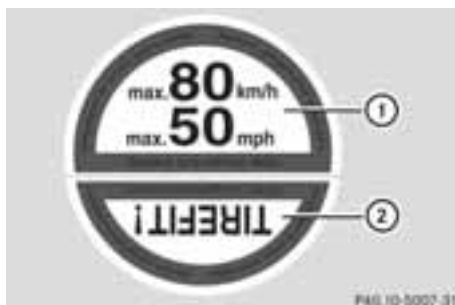
タイヤシール剤に触れた場合は、以下に従ってください。

- ただちに水で皮膚からすすぎ落としてください。
- タイヤシール剤が眼に付着した場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。

- タイヤシール剤を飲み込んだ場合は、ただちに口全体をすすぎ、大量の水を飲んでください。吐こうとせず、ただちに治療を受けてください。
- タイヤシール剤が付着した衣類は、ただちに変えてください。
- アレルギー症状が出た場合は、ただちに治療を受けてください。

タイヤフィットの使用

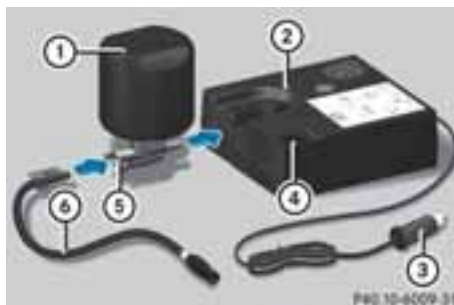
タイヤフィットはタイヤシール剤です。4mm までのパンク、特にタイヤトレッドの傷を塞ぐためにタイヤフィットを使用できます。－20℃までの外気温でタイヤフィットを使用できます。



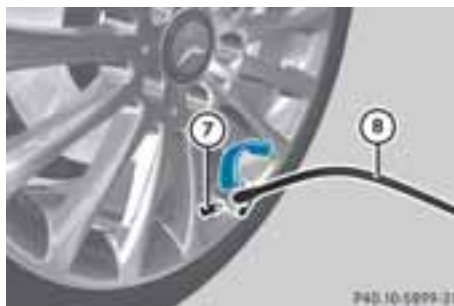
タイヤフィットステッカー（2分割式）

- ▶ ネジまたはクギなどのタイヤに刺さった異物は取り除かないでください。
- ▶ ラゲッジフロアボード下の収納スペースからタイヤシール剤ボトル、付属のタイヤフィットステッカー、およびタイヤ充填コンプレッサーを取り出します。
- ▶ タイヤフィットステッカーの①部分を運転者の視界内に貼付します。

- ▶ タイヤフィットステッカーの②部分を不具合のあるタイヤのホイールのバルブ付近に貼付します。



- ▶ タイヤ充填コンプレッサーケースの底部から充填ホース⑥とプラグ③を取り出します。
- ▶ プラグが固定されるまで、タイヤシール剤ボトル①の黄色のキャップ⑤の取り付け部に充填ホースの黄色のコネクターをスライドします。
- ▶ シーリングリングを前方にして、キャップと両方のフックが固定されるまで、タイヤ充填コンプレッサー②の取り付け部にタイヤシール剤ボトル①の黄色のキャップ⑤をスライドします。



- ▶ 不具合のあるタイヤのバルブ⑦からキャップを取り外します。

- ▶ 充填ホース ⑧ をバルブに締めます。
- ▶ 電源プラグ ③ を車両のライターソケット (▷282 ページ) または 12V 電源ソケット (▷283 ページ) に差し込みます。
- ▶ イグニッション位置を **1** にします。
- ▶ タイヤ充填コンプレッサーの作動 / 停止スイッチ ④ の **ON** を押します。

タイヤ充填コンプレッサーが作動します。タイヤに空気が充填されます。

- i** 最初にタイヤシール剤がタイヤに送り込まれます。空気圧が一時的に約 500kPa (5bar/73psi) に上がることあります。

この間はタイヤ充填コンプレッサーを停止しないでください。

- ▶ タイヤ充填コンプレッサーを最大約 10 分間作動させます。タイヤは少なくとも 200kPa (2.0bar/29psi) の空気圧になっていなければなりません。

- !** タイヤ充填コンプレッサーを絶え間なく 10 分以上作動させないでください。さもないと、過熱することがあります。

冷えてから、再度タイヤ充填コンプレッサーを作動させることができます。

10 分間作動させても、200kPa (2.0bar/29psi) のタイヤ空気圧に達していないときは、(▷312 ページ) をご覧ください。

10 分間作動させた後に、200kPa (2.0bar/29psi) のタイヤ空気圧に達しているときは、(▷313 ページ) をご覧ください。

- i** タイヤシール剤が漏れ出した場合は、乾かしてください。その後にフィルムのように取り除くことができます。

タイヤシール剤が衣類に付着した場合は、すみやかにドライクリーニングで洗濯してください。

空気圧が達していない場合

10 分後に 200kPa (2.0bar/29psi) のタイヤ空気圧に達していない場合は、以下のようにします。

- ▶ タイヤ充填コンプレッサーを停止します。
- ▶ 不具合のあるタイヤのバルブから充填ホースを取り外します。
- ▶ ごく低速で約 10m 前進または後退します。
- ▶ 再度、タイヤに空気を入れます。

10 分後までには、タイヤ空気圧は少なくとも 200kPa (2.0bar/29psi) に達していなければなりません。

警告

規定時間後に要求されたタイヤ空気圧に達していない場合は、タイヤがかなり損傷しています。このときはタイヤシール剤でタイヤを修理することはできません。損傷したタイヤと非常に低下したタイヤ空気圧で、車両の制動および走行特性が著しく損なわれます。事故の危険性があります。

走行を続けしないでください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が達している場合

警告

タイヤシール剤で一時的に塞いだタイヤは走行特性が損なわれるため、高速走行に適していません。事故の危険性があります。

そのため、それに応じて運転スタイルを合わせ、慎重に運転してください。タイヤシール剤を使用して修理されたタイヤに規定された最高速度を超えないようにしてください。

- ❗ 使用後、余分なタイヤシール剤が充填ホースから出てくることがあります。これはシミにつながるおそれがあります。そのため、タイヤフィットが入っていたプラスチックの袋に充填ホースを入れてください。

環境

使用したタイヤシール剤ボトルは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で廃棄してください。

10 分後に 200kPa (2.0bar/29psi) のタイヤ空気圧に達している場合は、以下のようにします。

- ▶ タイヤ充填コンプレッサーを停止します。
- ▶ 不具合のあるタイヤのバルブから充填ホースを取り外します。
- ▶ タイヤシール剤ボトル、タイヤ充填コンプレッサーおよび停止表示板を収納します。
- ▶ ただちに走行します。

タイヤシール剤で塞いだタイヤの最高速度は 80km/h です。運転者が容易に視認できるメーターパネル内に、タイヤフィットステッカーの上部を貼付してください。

- ▶ 約 10 分間走行した後に停止し、タイヤ充填コンプレッサーでタイヤ空気圧を点検します。

このとき、タイヤ空気圧が少なくとも 130kPa (1.3bar/19psi) になっていなければなりません。

警告

短時間の走行後に要求されたタイヤ空気圧に達していない場合は、タイヤがかなり損傷しています。このときはタイヤシール剤でタイヤを修理することはできません。損傷したタイヤと非常に低下したタイヤ空気圧で、車両の制動および走行特性が著しく損なわれます。事故の危険性があります。

走行を続けしないでください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

- ▶ 空気圧が 130kPa (1.3bar/19psi) 以上ある場合は、タイヤ空気圧を修正します (数値は燃料給油フラップをご覧ください)。
- ▶ **空気圧を上げる**：タイヤ充填コンプレッサーを作動させます。



- ▶ **空気圧を下げる：**空気圧ゲージ②の横にある空気圧リリースボタン①を押します。



- ▶ タイヤ充填コンプレッサーからタイヤシール剤ボトルを取り外すためには、黄色いキャップのロックノブを同時に押します。
- ▶ タイヤ充填コンプレッサーからタイヤシール剤ボトルを引き出します。充填ホースはタイヤシール剤ボトルに取り付けたままにします。
- ▶ タイヤシール剤ボトル、タイヤ充填コンプレッサーおよび停止表示板を収納します。
- ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、そこでタイヤを交換します。

- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、すみやかにタイヤシール剤ボトルおよび充填ホースを交換します。
- ▶ タイヤシール剤ボトルは、4年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

バッテリー（車両）

重要な安全上の注意事項

交換や取り付けなど、バッテリーに関する作業を行なうときは、特別な工具と専門の知識が要求されます。そのため、バッテリーにかかわるすべての作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で実施してください。

⚠ 警告

不適切に実施されたバッテリーへの作業は、たとえばショートや車両の電気システムの損傷につながるおそれがあります。これは、ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）または ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）のような走行安全システムを非作動にするおそれがあります。

- ABS が故障した場合は、ブレーキの間に車輪がロックすることがあります。これにより、ブレーキ時の車両操縦性が制限され、制動距離が長くなることがあります。事故の危険性があります。
- ESP® が故障した場合は、滑り始めたときや車輪が空転し始めたときに、車両を安定させることができません。事故の危険性があります。

そのため、バッテリーにかかわるすべての作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で実施してください。

警告

静電気を帯びていると火花が発生し、バッテリーの爆発性の高いガスにより発火することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱う前にボディに触れてください。帯電した静電気の放電につながります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なっているときは、高い発火性のあるガスが発生します。

身体に静電気が帯電していないことを常に確認してください。静電気は以下のようなことにより帯電します。

- 合成繊維の衣服を着用する
- 布製シートの上をスライドさせる
- シートの上で布を擦る
- カーペットや他の合成繊維の上でバッテリーを引いたり、スライドさせる
- 布を使用してバッテリーを拭く

警告

充電作業の間は、バッテリーから水素ガスが発生します。ショートや火花が発生すると、水素ガスが発火します。爆発の危険性があります。

- 接続されたバッテリーのプラス端子に、車両部品が接触していないことを確認してください。
- 金属製の物をバッテリーの上に置かないでください。

- バッテリー端子を取り付けたり取り外すときは、記載されたバッテリー端子の手順を守ることが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極性のバッテリー同士が接続されていることを確認してください。
- ジャンプケーブルの接続や取り外しを行なうときは、記載された手順を守ることが特に重要です。
- エンジンがかかっているときに、バッテリーの接続を外さないでください。

警告

バッテリーの酸は腐食性です。けがの危険性があります。皮膚、目または衣類に触れないようにしてください。バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。子供からバッテリーを遠ざけてください。バッテリーの酸はただちに水で洗い、医師の診断を受けてください。

環境



バッテリーには有害物質が含まれています。家庭ごみとして廃棄することは違法です。分別して収集され、環境を配慮したリサイクルシステムで廃棄されなければなりません。



バッテリーは環境を配慮した方法で廃棄されなければなりません。放電したバッテリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または使用済みバッテリーの収集場所にお持ちください。

! バッテリーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に点検してください。

詳しい情報は整備手帳の点検整備時期をご覧ください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! バッテリーにかかわるすべての作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で実施してください。例外的にお客様ご自身でバッテリーの接続を外す必要があるときは、以下を確認してください。

- エンジンを停止し、キーを抜いてください。メーターパネルのすべての表示灯が消灯していることを点検してください。さもないと、オルタネーターのような電気部品を損傷するおそれがあります。
- 最初にマイナス端子を、それからプラス端子を取り外してください。端子を入れ替えないでください。さもないと、車両の電気システムを損傷するおそれがあります。

- バッテリーの接続を外した後にトランスミッションがポジション **P** にロックされます。車両は固定され、動き出さなくなります。その後は車両を動かすことができません。

作業をしている間は、バッテリーとプラス端子のカバーが確実に取り付けられていなければなりません。

バッテリーを取り扱うときは、安全の注意に従い、保護対策を取ってください。



警告



バッテリーを取り扱っているときは、火気、裸火および喫煙は禁止されています。火花の発生を避けてください。



バッテリーの酸は腐食性です。皮膚、眼および衣服に触れないようにしてください。

手袋、エプロンおよびマスクなどの適切な保護用衣類を着用してください。

飛散した酸は、清潔な水でただちにすすぎ落としてください。必要であれば、医師に相談してください。



保護眼鏡を着用してください。



子供から離してください。



取扱説明書に従ってください。

安全上の理由により、メルセデス・ベンツがお客様の車両のためにテストを行ない、承認したバッテリーのみを使用することをお勧めします。これらのバッテリーは、事故でバッテリーが損傷したときに乗員が酸による火傷を負うことを防ぐ、優れた衝撃保護性能があります。

バッテリーが最大限の寿命を得るためには、常に十分に充電されていなければなりません。

他のバッテリーと同じように、車両を使用しない場合は時間とともに車両のバッテリーが放電することがあります。この場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのバッテリーの接続を外してください。

主に短い走行で車両を使用する場合や、長い期間使用しないでいる場合は、より頻繁にバッテリーの充電状態を点検してください。長い期間車両を駐車したままにしたい場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。

i 電気装備が必要でなければ、車両を駐車するときはキーを抜いてください。キーが差し込まれた状態では、車両はわずかな電力を使用し、バッテリーの電力を消耗します。

i バッテリーが放電した場合など、電力供給が中断された場合は、以下の作業を実施しなければなりません。

- 時計の設定（別冊のCOMANDシステム取扱説明書をご覧ください）

- ドアミラーの自動格納 / 展開機能のリセット（▶107 ページ）

バッテリーの充電

警告

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なっている間は、バッテリーから爆発性の高いガスが発生します。爆発の危険性があります。

特に火気、裸火、火花の発生と喫煙を避けてください。バッテリーの充電やジャンプスタートは、換気のよい場所で行なってください。バッテリーをのぞき込まないでください。

警告

バッテリーの酸は腐食性です。けがの危険性があります。皮膚、目または衣類に触れないようにしてください。バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。子供からバッテリーを遠ざけてください。バッテリーの酸はただちに水で洗い、医師の診断を受けてください。

警告

放電したバッテリーは氷点下で凍結します。ジャンプスタートまたはバッテリーを充電するときは、バッテリーからガスが発生します。爆発の危険性があります。

充電やジャンプスタートを行なう前にバッテリーを解凍してください。

! 最大充電電圧 14.8V のバッテリー充電器のみを使用してください。

! バッテリーを充電するときは、ジャンプスタートの接続端子のみを使用してください。

ジャンプスタートの接続端子はエンジンルーム内にあります (▷318 ページ)。

- ▶ ボンネットを開きます (▷288 ページ)。
- ▶ ジャンプスタートの手順で救援用バッテリーを接続するときと同じ順番で、バッテリー充電器をプラス端子とアース端子に接続します (▷318 ページ)。

外気温度が低く、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯しない場合は、放電したバッテリーが凍結していることがあります。このような状況では、車両をジャンプスタートさせることも、またはバッテリーを充電することもできないことがあります。解凍したバッテリーの寿命は短くなるおそれがあります。始動特性は、特に外気温度が低いときに制限されることがあります。解凍したバッテリーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

装着されているバッテリーは、メルセデス・ベンツによりテストされ、承認されたバッテリー充電器のみで充電してください。これらのバッテリー充電器は、バッテリーを車両に装着している間に充電することができます。バッテリーを充電する前に、バッテリー充電器の操作説明もご覧ください。

ジャンプスタート

ジャンプスタート作業のためには、ジャンプスタート接続端子であるエンジンルーム内のプラス端子、およびアース端子のみを使用してください。

警告

バッテリーの酸は腐食性です。けがの危険性があります。

皮膚、目または衣服に触れないようにしてください。バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。子供からバッテリーを遠ざけてください。バッテリーの酸はただちに水で洗い、医師の診断を受けてください。

警告

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なっている間は、バッテリーから爆発性の高いガスが発生します。爆発の危険性があります。

特に火気、裸火、火花の発生と喫煙を避けてください。バッテリーの充電やジャンプスタートは、換気のよい場所で行なってください。バッテリーをのぞき込まないでください。

警告

充電作業の間は、バッテリーから水素ガスが発生します。ショートや火花が発生すると、水素ガスが発火します。爆発の危険性があります。

- 接続されたバッテリーのプラス端子に、車両部品が接触していないことを確認してください。

- 金属製の物をバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリー端子を取り付けたり取り外すときは、記載されたバッテリー端子の手順を守ることが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極性のバッテリー同士が接続されていることを確認してください。
- ジャンプケーブルの接続や取り外しを行なうときは、記載された手順を守ることが特に重要です。
- エンジンがかかっているときに、バッテリーの接続を外さないでください。

警告

放電したバッテリーは氷点下で凍結します。ジャンプスタートまたはバッテリーを充電するときは、バッテリーからガスが発生します。爆発の危険性があります。

充電やジャンプスタートを行なう前にバッテリーを解凍してください。

警告

未燃焼の燃料が排気システムに集まり、発火する危険性があります。火災の危険性があります。始動操作を長時間繰り返し行なうことは避けてください。

! 始動操作を長時間繰り返し行なうことは避けてください。さもないと、未燃焼の燃料により、触媒コンバーターを損傷するおそれがあります。

外気温度が低く、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯しない場合は、放電したバッテリーが凍結していることがあります。このような状況では、車両をジャンプスタートさせることも、またはバッテリーを充電することもできないことがあります。解凍したバッテリーの寿命は短くなるおそれがあります。始動特性は、特に外気温度が低いときに制限されることがあります。解凍したバッテリーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

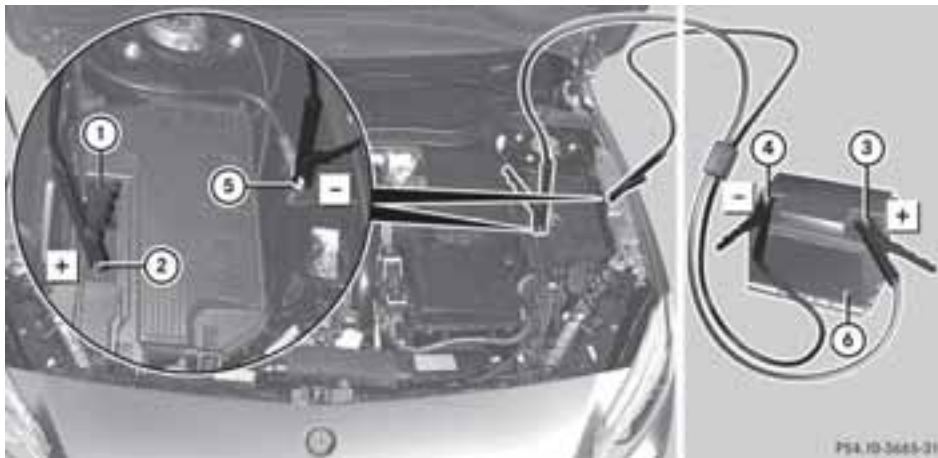
車両を始動するために急速充電器を使用しないでください。車両のバッテリーが放電した場合は、他の車両のバッテリー、または他のバッテリーから、ジャンプケーブルを使用してエンジンをジャンプスタートすることができます。以下の項目に従ってください。

- すべての車両でバッテリーに手が届くわけではありません。他の車両のバッテリーに手が届かない場合は、他のバッテリーやジャンプスタート機器を使用して、車両をジャンプスタートしてください。
- エンジンおよび触媒コンバーターが冷えているときにのみ、車両をジャンプスタートすることができます。
- バッテリーが凍結しているときは、エンジンを始動しないでください。最初にバッテリーを解凍してください。
- ジャンプスタートは電圧 12V のバッテリーからのみ行なうことができます。

- 十分な太さがあり、絶縁された端子クランプを持つジャンプケーブルのみを使用してください。
- バッテリーが完全に放電している場合は、始動の試みの前に数分間、バッテリーをジャンプスタートで接続したままにしてください。これにより、空のバッテリーに少しだけ充電が行なわれます。
- 2台の車両が接触していないことを確認してください。

以下を確認してください。

- ジャンプケーブルが損傷していないこと
 - ジャンプケーブルがバッテリーに接続されている間は、端子クランプのむき出しの部品が他の金属部品に触れていないこと
 - ジャンプケーブルがVベルトのプーリーやファンのような部品に触れていないこと。エンジンを始動するときやかかっている間は、これらの部品が動きます。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせて、車両が動かないようにします。
- ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。
- ▶ イグニッション位置を **0** にして、キーを抜きます。
- ▶ すべての電気装備を停止します（オーディオ、送風など）。
- ▶ ボンネットを開きます（▷288 ページ）。



番号 ⑥ の位置は、他の車両または同様のジャンプスタート機器の充電されたバッテリーを示しています。

- ▶ プラス端子のカバー ① を押して、同時に後方にスライドします。

- ▶ ジャンプケーブルを使用して、お客様のバッテリーを先に、お客様の車両のプラス端子②と救援用バッテリー⑥のプラス端子③を接続します。
- ▶ 救援車のエンジンを始動し、エンジンをアイドリングさせます。
- ▶ ジャンプケーブルを使用して、先に救援用バッテリー⑥にジャンプケーブルを接続して、救援用バッテリーのマイナス端子④とおお客様の車両のアース端子⑤を接続します。
- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ ジャンプケーブルの接続を外す前に、数分間エンジンをかけたままにします。
- ▶ まずアース端子⑤とマイナス端子④から、そしてプラス端子②とプラス端子③からジャンプケーブルを取り外します。いずれの場合もおお客様の車両の端子から先に始めます。
- ▶ ジャンプケーブルを取り外した後、プラス端子②のカバー①を閉じます。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのバッテリーの点検を受けてください。
- i** ジャンプスタートは通常の操作状況とはみなされていません。
- i** ジャンプスタートケーブルやジャンプスタートに関する詳しい情報については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

けん引およびけん引始動

重要な安全上の注意事項

 警告

以下のときは、安全に関する機能が制限されたり、作動しないことがあります。

- エンジンがかかっていないとき
- ブレーキシステムまたはパワーステアリングに異常があるとき
- 電力供給または車両の電気システムに異常があるとき

車両をけん引するときは、ステアリング操作やブレーキ操作に非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

けん引される前に、ステアリングをスムーズに操作することができるとを確認してください。

 警告

自車よりも重い車のけん引やけん引始動を行なうと、以下のようなことが起こります。

- けん引フックが抜ける
- トレーラーをけん引した車両の場合は横転する

事故の危険性があります。

他の車両のけん引やけん引始動を行なう場合は、その重量が自車の重量を超えないようにしてください。

自車の重量については、車検証をご覧ください。

⚠ 警告

ホールド機能またはディストロニック・プラスが作動しているときは、車両にブレーキが効いています。そのため、車両がけん引される前に、ホールド機能およびディストロニック・プラスを解除してください。

! けん引ロープは、けん引フックにのみ固定してください。さもないと、車両を損傷するおそれがあります。

! けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

- ロープは両車とも同じ側につないでください。
- ロープの長さは 5m 以内とし、ロープの中央に白布 (30cm × 30cm 以上) を付けてください。これにより、車両がけん引されていることを周囲に明示します。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- 走行中は前車のブレーキライトに注意してください。ロープをたるませないように常に車間距離を調整してください。
- けん引にはワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。さもないと、車を損傷するおそれがあります。

! 車両を損傷するおそれがあるため、車両を復帰させるためにけん引フックを使用しないでください。不明なときは、車両をクレーンで復帰させてください。

! けん引の際にはスムーズに発進してください。駆動力が大きすぎるときは、車両を損傷するおそれがあります。

! 最大で 50km まで車両をけん引できます。けん引速度は、50km/h を超えてはいけません。

50km を超えるけん引距離の場合は、フロントアクスルまたは車両全体を上げて運搬しなければなりません。

! けん引始動を行なってはいけません。さもないと、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

けん引されるときは、関連する国の法律要件に従ってください。

けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。

けん引されるときは、トランスミッションがポジション **N** になければいけません。

バッテリーが接続されていて、充電されていなければなりません。さもないと、以下のようになります。

- イグニッション位置を **2** にすることができません。
- トランスミッションをポジション **N** にシフトできません。

i 車速感知ドアロックを解除してください (▷85 ページ)。さもないと、車両を押したりけん引されるときに、閉め出されるおそれがあります。

けん引される前に、けん引防止警報を解除してください (▷74 ページ)。

けん引フックの取り付け / 取り外し

けん引フックの取り付け



- ▶ 収納スペースからけん引フックを取り出します。

けん引フックはラゲッジルームフロア下の収納スペースにあります (▷307 ページ)。

タイヤフィット装備車は、けん引フックはタイヤ充填コンプレッサーの下にあります (▷307 ページ)。

- ▶ カバー ① のマークを矢印の方向に内側に押します。
- ▶ 開口部からカバー ① を外します。
- ▶ けん引フックを時計回りに停止するまでまわして締めます。

けん引フックの取り外し

- ▶ けん引フックを緩めて、取り外します。
- ▶ カバー ① をバンパーに合わせ、ロックされるまで押します。

- ▶ けん引フックをラゲッジルーム内のラゲッジフロアボード下の収納スペースに置きます。

- ▶ タイヤフィット装備車は、タイヤ充填コンプレッサーを元の位置に収納します。

フロントアクスルを上げて車両をけん引する

- ❗ フロントアクスルを上げて車両をけん引する場合は、イグニッションをオフにしなければなりません。さもないと、ESP® の作動によりブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

- ▶ イグニッション位置を **2** にします。
- ▶ 車両が停止しているときに、ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジション **P** にシフトします。
- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを解除します。
- ▶ 車速感応ドアロックを解除します (▷85 ページ)。
- ▶ 非常点滅灯を作動させます (▷116 ページ)。
- ▶ イグニッション位置を **0** にして、そのままにします。

フロントアクスルを上げて車両をけん引するときは、安全上の指示に従うことが重要です (▷321 ページ)。

両アクスルを接地させて車両をけん引する

⚠ 警告

エンジンがかかっていないときは、ステアリングのパワーアシストや制動力ブースターは作動しません。車両にブレーキを効かせたり、操舵するために、より多くの力が必要になります。それに応じて運転スタイルを合わせてください。

- i** 非常点滅灯を作動させてけん引されているときに方向変更の合図が必要なときは、通常通りコンビネーションスイッチを使用してください。この場合、望む方向の方向指示灯のみが点滅します。コンビネーションスイッチを元に戻すと、再度非常点滅灯が点滅し始めます。

運転席ドアまたは助手席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、オートマチックトランスミッションが自動的にポジション **P** にシフトします。車両をけん引するときに、オートマチックトランスミッションをポジション **N** のままにしたいときは、以下のようにしてください。

- ▶ 車両が停止していることを確認します。
- ▶ イグニッション位置を **2** にします。
- ▶ ブレーキペダルを踏んで保持します。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトします。
- ▶ イグニッション位置を **2** のままにします。
- ▶ ブレーキペダルを放します。

- ▶ 電気式パーキングブレーキを解除します。
- ▶ 非常点滅灯を作動させます (▷116 ページ)。

けん引の際には、安全上の指示に従うことが重要です (▷321 ページ)。

車両を運搬する

- !** アクスルやサスペンション構成部品のような車両部品ではなく、ホイールまたはホイールリムでのみ車両を固定してください。さもないと、車両を損傷するおそれがあります。

- ▶ イグニッション位置を **2** にします。
- ▶ トランスミッションをポジション **N** にシフトします。

車両が積載されたら、すぐに以下のことを行ないます。

- ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせて、車両が動かないようにします。
- ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。
- ▶ イグニッション位置を **0** にして、キーを抜きます。
- ▶ 車両を固定します。

運搬したいときは、車両を車両運搬車に引き上げたり、運搬するために、けん引フックを使用することができます。

けん引始動 (緊急エンジン始動)

- !** けん引始動を行なってははいけません。さもないと、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

ヒューズ

重要な安全上の注意事項

 警告

不具合のあるヒューズを加工、ブリッジ、またはより高いアンペアのヒューズに交換した場合は、電気配線に負荷がかかりすぎるおそれがあります。このことは、火災につながる可能性があります。事故やけがの危険性があります。

不具合のあるヒューズは必ず、規定に合った適切なアンペアの新しいヒューズに交換してください。

! メルセデス・ベンツにより承認され、システムの要求に合った適切な規格のヒューズのみを使用してください。"S" マークがあるヒューズのみを使用してください。さもないと、構成部品やシステムが損傷するおそれがあります。

車両のヒューズは、不具合のある回路を切断する働きをします。ヒューズが切れた場合は、回路のすべての構成部品とそれらの機能は作動を停止します。

切れたヒューズは、色やヒューズ規格で区別することができる、同じ規格のヒューズと交換してください。ヒューズの規格はヒューズ一覧表に記載されています。

新しく差し込んだヒューズも切れるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を特定し、修理してください。

ヒューズを交換する前に

- ▶ 車両が動き出さないようにします (▶168 ページ)。
- ▶ すべての電気装備を停止します。
- ▶ イグニッション位置を **0** にして、キーを抜きます (▶149 ページ)。メーターパネルのすべての表示灯が消灯します。

ヒューズは複数のヒューズボックスに収められています。

- 正面から見てエンジンルーム内右側のヒューズボックス
- 助手席足元のヒューズボックス

助手席足元のヒューズボックスにはヒューズ配置表があります。

エンジンルームのヒューズボックス

 警告

ボンネットが開いているときにフロントウインドウのワイパーが動くと、ワイパーのリンケージでけがをするおそれがあります。けがの危険性があります。

ボンネットを開く前には必ず、フロントワイパーを停止し、イグニッション位置を **0** にしてください。

! カバーが開いているときに、湿気が入らないことを確認してください。

! カバーを閉じるときは、ヒューズボックスに正しくかぶさっていることを確認してください。さもないと、湿気や汚れによりヒューズの作動を損なうおそれがあります。



- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ 乾いた布を使用して、ヒューズボックスに付着している水分を取り除きます。
- ▶ **開く**：クリップ②を外します。
- ▶ カバー①を矢印の方向に上方に開いて取り外します



- ▶ **閉じる**：シールがカバー①内に正しく位置していることを確認します。
- ▶ ヒューズボックスの固定部③にカバー①の後部を差し込みます。
- ▶ カバー①を閉じます。

- ▶ クリップ②をヒューズボックスにかけ、固定します。
- ▶ ボンネットを閉じます。

助手席足元のヒューズボックス

- ▶ **開く**：助手席側のフロアマットを取り外します。



- ▶ カバー③上部のクリップから配線を取り外します。
- ▶ 固定クリップ②を押して、カバー③のロックを解除します。
- ▶ カバー③を手前に取り外します。
- i** ヒューズ配置表④はカバー③の左側下部にあります。
- ▶ **閉じる**：ヒューズボックス右側の取り付け部にカバー③をはめ込みます。
- ▶ 音がしてクリップがロックされるまで、カバー③を前方に押します。

ヒューズ一覧

助手席足元のヒューズボックス

ヒューズ 番号	アンペア 数	装置名
23	30A	フロントパワーウインドウ
24	30A	フロントパワーウインドウ
25	30A	CBC/SAM
26	10A	スターター
27	30A	オートマチックトランスミ ッション、ESP [®] 、エンジンエレ クトロニクス
28	-	
29	15A	オプション
30	5A	オプション
31	5A	オプション
32	5A	マルチファンクションステア リングホイール
33	5A	ラジオ
34	7.5A	エアコンディショナーシス テム
35	40A	リアデフォグガー
36	7.5A	左フロントシート
37	7.5A	ラジオ
38	7.5A	エアバッグシステム
39	10A	前席上方の操作部
40	15A	エンジンエレクトロニクス
41	30A	パノラミックスライディング ルーフ
42	5A	ラジオ
43	5A	パークトロニック
44	40A	エアバッグシステム
45	40A	エアバッグシステム
46	7.5A	エアバッグシステム
47	7.5A	ラジオ
48	-	
49	-	
50	7.5A	パークトロニック
51	-	

ヒューズ 番号	アンペア 数	装置名
52	-	
53	-	
54	7.5A	自己診断
55	15A	ダンパー調整
56	10A	マルチファンクションステア リングホイール
57	30A	オプション
58	30A	オプション
59	30A	右フロントシート
60	30A	左フロントシート
61	40A	ラジオ
62	20A	ステアリングロック
63	25A	燃料ポンプ
64	-	オプション
65	5A	グローブボックスライト
66	5A	オプション
67	-	
68	-	
69	-	
70	25A	センターコンソールの 12V 電源ソケット
71	25A	ラゲッジルームの 12V 電源 ソケット
72	25A	ライター、フロントの 12V 電源ソケット
73	30A	電気式パーキングブレーキ
74	30A	電気式パーキングブレーキ
75	20A	オプション
76	25A	オプション
77	25A	オプション
78	40A	オプション
79	40A	車外ライト
80	40A	CBC/SAM
81	40A	エアコンディショナーシス テム
82	10A	前席上方の操作部
83	7.5A	イグニッションロック

ヒューズ 番号	アンペア 数	装置名
84	-	
85	5A	オプション
86	5A	ラジオ
87	10A	自己診断
88	10A	メーターパネル
89	5A	ライトスイッチ
90	5A	パークトロニック
91	5A	オプション
92	5A	燃料ポンプ
93	5A	電気式パーキングブレーキ
94	7.5A	エアバッグシステム
95	7.5A	エアバッグシステム
96	15A	リアワイパー
97	5A	電話
98	5A	CBC/SAM
99	5A	タイヤ空気圧警告システム
100	5A	オートマチックトランスミ ッション
101	10A	オプション
102	5A	エアコンディショナーシ ステム
103	5A	オプション
104	5A	メディアインターフェース
105	5A	ラジオ
106	5A	メーターパネル
107	5A	ラジオ
108	5A	パークトロニック
109	-	
110	30A	ラジオ

エンジンルーム内のヒューズボックス		
ヒューズ 番号	アンペア 数	装置名
201	5A	オプション
202	20A	エアコンディショナーシ テム
203	-	
204	25A	ESP®
205	15A	ホーン
206	5A	エンジンエレクトロニクス
207	5A	エンジンエレクトロニクス
208	5A	エンジンエレクトロニクス
209	-	
210	-	
211	5A	エンジンエレクトロニクス
212	20A	エンジンエレクトロニクス
213	15A	エンジンエレクトロニクス
214	10A	エンジンエレクトロニクス
215	20A	エンジンエレクトロニクス
216	5A	エンジンエレクトロニクス
217	25A	オートマチックトランスミ ッション
218	5A	ESP®
219	-	
220	10A	オートマチックトランスミ ッション
221	40A	自己診断
222	-	
223	-	
224	7.5A	ディストロニック・プラス / FCW
225	10A	自己診断
226	5A	エンジンエレクトロニクス
227	-	
228	-	
229	5A	左フロントライト
230	5A	ESP®
231	5A	右フロントライト

ヒューズ 番号	アンペア 数	装置名
232	15A	車外ライト
233	-	
234	5A	エンジンエレクトロニクス
235	15A	エンジンエレクトロニクス
236	40A	車外ライト
237	40A	ESP®
238	-	
239	30A	フロントワイパー
240	25A	スターター
241	-	

(2011-10-19・A 246 005 11 99 002)

i 記載の内容は取扱説明書作成時点
のもので、予告なく変更されることがあります。

役に立つ情報.....	332
重要な安全上の注意事項.....	332
タイヤ / ホイールの使用	333
冬季の使用.....	335
タイヤ空気圧.....	337
車輪の交換.....	340
ホイールとタイヤの組み合わせ...	347
応急用スペアタイヤ.....	351

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で入手可能な、お客様の車両でのすべての車種、シリーズ、およびオプション装備について記載しています。国により仕様が異なることがあります。記載されているすべての機能が、お客様の車両に装備されていないことがあることにご留意ください。このことは、安全に関するシステムや機能にも当てはまります。

重要な安全上の注意事項

 警告

誤ったサイズのホイールやタイヤを使用すると、ブレーキやサスペンションの構成部品を損傷するおそれがあります。事故の危険性があります。

常に純正品の仕様に適合するホイールおよびタイヤに交換してください。

ホイールを交換するときは、以下に適合していることを確認してください。

- 仕様
- 種類

タイヤを交換するときは、以下に適合していることを確認してください。

- 仕様
- 製造者
- 種類

 警告

パンクしたタイヤにより、車両の走行、ステアリング、制動特性が著しく損なわれます。事故の危険性があります。

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）以外のタイヤを装着している場合は、以下を守ってください。

- パンクしたタイヤでは走行しないでください。
- ただちに応急用スペアタイヤに交換するか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

MOExtended タイヤを装着している場合は、以下を守ってください。

- MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）に関する情報と警告事項に注意してください。

メルセデス・ベンツにより承認されていない、または正しく装着されていないアクセサリにより、操作安全性が損なわれます。

お客様の車両のホイールおよびタイヤのサイズや種類については、"ホイールとタイヤの組み合わせ"の項目をご覧ください（▷347 ページ）。

タイヤ空気圧に関する情報については、以下をご覧ください。

- 燃料給油口フラップ内のタイヤ空気圧ラベル
- "タイヤ空気圧"の項目

ブレーキシステムやホイールの改造は許可されていません。また、ホイールスペーサーやダストシールドは許可されていません。保証の適用外になります。

i タイヤとホイールに関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におだずねください。

タイヤ / ホイールの使用

走行時の注意

- 車両に特に重い荷重をかけるときは、タイヤ空気圧を点検し、必要であれば調整してください。
- 走行しているときは、振動や騒音、ステアリングが片方向にとられるなどの不自然なステアリングの動きに注意してください。ホイールやタイヤが損傷しているおそれがあります。タイヤやホイールの損傷が疑われるときは、ただちに速度を落としてください。すみやかに安全な場所に停車して、タイヤとホイールを点検してください。目に見えないタイヤやホイールの損傷も、不自然なステアリングの動きの原因になります。

異常が見つからないときも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で点検を受けてください。

- 車両を駐車するときは、縁石や他の障害物でタイヤが変形していないことを確認してください。縁石や速度抑制用の突起、類似の突起物を持ち越える必要があるときは、速度を落とし、縁石に対してタイヤをできるだけ直角にしてください。さもないと、タイヤ、特にサイドウォールを損傷するおそれがあります。

ホイールおよびタイヤの定期的な点検

警告

損傷しているタイヤは空気圧低下の原因になります。その結果、車のコントロールを失うことがあります。事故の危険性があります。

損傷している兆候がないかタイヤを定期的に点検し、損傷しているタイヤはただちに交換してください。

少なくとも1カ月に1度は、車両のホイールとタイヤに損傷がないか定期的に点検し、同様にオフロードまたは不整地の走行後にも行なってください。損傷したホイールはタイヤ空気圧低下の原因になります。特に以下のような損傷には注意してください。

- タイヤの傷
- パンク
- タイヤの亀裂
- タイヤの膨らみ
- ホイールの変形や腐食

タイヤの溝の深さとタイヤの幅全体にわたる接地面の状態を定期的に点検してください。必要であれば、前輪をいっぱいまで切り、タイヤの内側も点検してください。

ほこりや水分の浸入を防ぎバルブを保護するため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。他のバルブキャップや市販のタイヤ空気圧計測システムなどのシステムを装着しないでください。

特に長距離走行の前にはすべてのタイヤの空気圧を点検し、必要であればタイヤ空気圧を調整してください（▷337 ページ）。

応急用スペアタイヤに関する注意事項もご覧ください（▷351 ページ）。

タイヤの寿命は以下を含め、様々な要因に左右されます。

- 運転スタイル
- タイヤ空気圧
- 走行距離

タイヤトレッド

警告

溝の深さが十分でないタイヤはタイヤの駆動力を低下させます。また、タイヤが水を排水できなくなります。これにより、特に速度が走行状況にあっていないときは、濡れた路面でハイドロプレーニング現象を起こす危険性が増加します。事故の危険性があります。

タイヤ空気圧が非常に高い、または低いときは、タイヤはタイヤトレッドの異なる部位で様々な度合いで摩耗します。すべてのタイヤのトレッド全体にわたり、溝の深さを定期的に点検してください。

溝の深さの最低値は以下の通りです。

- 標準タイヤ：3mm
- ウインタータイヤ：4mm

安全上の理由により、溝の深さが最低値になる前に、必ず新品と交換してください。

タイヤの選択、装着と交換

- 同じ種類、および同じ銘柄のタイヤとホイールのみを装着してください。

例外：パンクした場合は、異なる種類、および銘柄のタイヤを装着することが許可されています。"MOExtended" の項目に従ってください（▷309 ページ）。

- ホイールに対して適切なサイズのタイヤのみを装着してください。
- 新品のタイヤでは、最初の 100km までは控えめの速度で走行してください。この距離を超えてからでのみ、最大限の性能が発揮されます。
- 溝の深さがほとんどないタイヤで走行しないでください。さもないと、濡れた路面での駆動力が著しく減少します（ハイドロプレーニング）。

- 摩耗にかかわらず、6年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

応急用スペアタイヤも同様に交換してください。

MOExtended (ランフラットタイヤ)

MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ) 装備車は、1本または複数のタイヤの空気が完全に抜けた状態でも、車両の走行を続けることができます。

MOExtended タイヤは、タイヤ空気圧警告システムが作動していて、メルセデス・ベンツにより特別にテストされたホイールと組み合わせた場合にのみ使用できます。

パンクした場合の MOExtended タイヤでの走行に関する注意は " 万一のとき " にあります (▶309 ページ)。

i MOExtended タイヤ装備車は、工場出荷時はタイヤフィットは装備されていません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で車両に装備することを推奨します。タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で購入できます。

冬季の使用

標準タイヤでの走行

外気温度が約 7°C 以下のときは、標準タイヤは弾力性を失い、それにより駆動力や制動力も失います。ウィンタータイヤに交換してください。非常に低い温度で標準タイヤを使用すると、亀裂が生じてタイヤの損傷の原因になることがあります。この種類の損傷については、メルセデス・ベンツは責任を負いません。

ウィンタータイヤ

警告

溝の深さが 4mm 以下になったウィンタータイヤは、十分な駆動力を確保できないため、冬季の使用には適していません。事故の危険性があります。

溝の深さが 4mm 以下になったウィンタータイヤは交換してください。

外気温度が約 7°C 以下のときは、ウィンタータイヤを使用してください。

冬季の道路状況では、ウィンタータイヤでのみ最良のグリップを得ることができます。冬季はこれらのタイヤでのみ ABS や ESP® などの走行安全装備が適切に機能します。これらのタイヤは雪の上での走行のために特別に設計されています。

安全なハンドリング特性を維持するため、同じ種類、同じトレッドのタイヤのみを使用してください。

装着したウインタータイヤの許容最高速度を常に守ってください。

装着したウインタータイヤの許容最高速度が車両の最高速度より低い場合は、運転者の視界に入る場所に警告ステッカーを貼付してください。

そのような状況では、ウインタータイヤの許容最高速度を超えないように、ウインタータイヤスピードリミッターを使用して、車両の最高速度を制限してください（▶182 ページ）。

ウインタータイヤを装着したときは、以下を行なってください。

- ▶ タイヤ空気圧を点検してください（▶337 ページ）。
- ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▶339 ページ）。

ウインタータイヤについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

応急用スペアタイヤでの走行に関するさらなる情報は、（▶351 ページ）をご覧ください。

スノーチェーン

警告

後輪にスノーチェーンを装着すると、車体やシャーシ構成部品に接触することがあります。このことは、車両やタイヤの損傷の原因になります。事故の危険性があります。

危険な状況为了避免するためには、

- 後輪には決してスノーチェーンを装着しないでください。
- スノーチェーンは左右前輪に装着してください。

！ スチールホイール装着車：スチールホイールにスノーチェーンを装着する場合は、対応するホイールのホイールカバーを最初に取り外してください。さもないと、ホイールカバーを損傷することがあります。

安全上の理由により、メルセデス・ベンツによりお客様の車両のために特別に承認された、または同等の品質基準のスノーチェーンのみを使用することをお勧めします。

スノーチェーンを装着するときは、以下のことに注意してください。

- スノーチェーンは、すべてのホイールおよびタイヤの組み合わせに装着できるわけではありません。許容されているホイールおよびタイヤの組み合わせについては（▶347 ページ）をご覧ください。
- 路面が完全に雪に覆われているときにのみ、スノーチェーンを使用してください。雪に覆われていない路面に来たときは、すみやかにスノーチェーンを取り外してください。

- スノーチェーンを装着するときは、関連する法規に従ってください。
- 最高速度が約 50km/h を超えないでください。
- スノーチェーンを装着したときは、決してアクティブパーキングアシストを使用しないでください。

i スノーチェーン装着中に発進するときは、ESP® の機能を解除したほうがよい場合があります。このようにして車輪をコントロールしながら空転させ、駆動力を増やすことができます（地面を掘る動作）。

応急用スペアタイヤでの走行に関するさらなる情報は、(▷351 ページ) をご覧ください。

タイヤ空気圧

指定のタイヤ空気圧

警告

空気圧が非常に低い、または非常に高いタイヤには、以下の危険があります。

- 特に車両に大きな荷重がかかったときや高い速度で走行しているときに、破裂するおそれがあります。
- タイヤが過度に、または不均等に摩耗して、タイヤの駆動力を著しく損なうおそれがあります。
- 走行やステアリングおよびブレーキの特性を著しく損なうおそれがあります。

事故の危険性があります。

以下のときは、推奨タイヤ空気圧に従い、応急用スペアタイヤも含めたすべてのタイヤの空気圧を点検してください。

- 少なくとも 2 週間ごと
- 荷重が変わったとき
- 長距離走行前
- 不整地の走行など、使用条件が変わったとき

必要であれば、タイヤ空気圧を調整してください。

警告

タイヤバルブに不適切なアクセサリを装着すると、タイヤ空気圧低下の原因になるようなタイヤバルブの過負荷、および不具合が発生することがあります。設計上、後付けのタイヤ空気圧モニターはタイヤバルブを開いたままにします。これもタイヤ空気圧低下につながるおそれがあります。事故の危険性があります。

タイヤバルブには、純正バルブキャップまたはお客様のメルセデス・ベンツ車のための特別なバルブキャップのみを装着してください。

⚠ 警告

タイヤ空気圧が繰り返し低下するときは、ホイール、バルブ、またはタイヤが損傷しているおそれがあります。非常に低すぎるタイヤ空気圧は、タイヤの破裂につながるおそれがあります。事故の危険性があります。

- タイヤに異物がないか確認してください。
- ホイールやバルブから空気が漏れていないか確認してください。

問題を解消できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

🔧 環境

タイヤ空気圧は定期的に点検してください

燃料給油フラップ内のタイヤ空気圧ラベルにより、様々な使用状況でのタイヤ空気圧を確認できます。

応急用スペアタイヤでの作業 (▷351 ページ)

燃料給油フラップ内のラベルには、様々な使用状況でのタイヤ空気圧が記載されていることがあります。乗車人数や荷物の量の違いに応じて、ラベルに定義されています。実際の座席数も様々ですので、詳しい情報は車両の登録書類を参照してください。

タイヤサイズが特定されていないときは、タイヤ空気圧ラベルに記載されているタイヤ空気圧は、この車両のために承認されている、すべてのタイヤに適用されます。



タイヤ空気圧の前にタイヤサイズがある場合、後に続くタイヤ空気圧はそのタイヤサイズのみ有効です。

適切なタイヤ空気圧ゲージを使用してタイヤ空気圧を点検してください。タイヤの外見を点検しても、空気圧を正しく判断することはできません。

タイヤ空気圧は、できるだけタイヤが冷えているときに測定してください。以下のときはタイヤは冷えています。

- 直射日光を浴びていない場所で、少なくとも約 3 時間以上駐車したままのとき
- 車両が約 1.6km 以上走行していないとき

周囲の気温、走行速度そしてタイヤへの荷重により、タイヤ温度およびタイヤ空気圧は変化することがあります。10℃あたり 10kPa (0.1bar/1.5psi) です。暖まったタイヤの空気圧を点検するときは、このことを考慮に入れてください。そのときの使用状況に対してタイヤ空気圧が低すぎる時のみ、空気圧を修正してください。

タイヤ空気圧が高すぎたり低すぎる状態で走行すると、以下のようなことが起こります。

- タイヤの寿命が短くなります。
- タイヤの損傷につながります。
- 車両操縦性や走行安全性に悪影響を与えます（ハイドロプレーニングなど）。

i 少ない荷物に対応した空気圧値は、快適な良い乗り心地をもたらすための最低空気圧です。

ただし、多い荷物に対応した空気圧を使用することもできます。これらは許容されており、車両の走行に悪影響を与えません。

タイヤ空気圧警告システム

重要な安全上の注意事項

車両が走行しているとき、タイヤ空気圧警告システムは車輪の回転速度を使用して、設定したタイヤ空気圧をモニターします。これにより、システムはタイヤの急激な空気圧低下を検知することができます。空気圧低下の結果、車輪の回転速度が変化すると、対応する警告メッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

タイヤ空気圧警告システムは、誤ったタイヤ空気圧の設定に対しては警告は行ないません。推奨タイヤ空気圧についての注意事項は（▶337 ページ）をご覧ください。

タイヤ空気圧警告システムは複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合には検知できないため、定期的なタイヤ空気圧点検の代わりになるものではありません。

タイヤに異物が貫通した場合など、突然の空気圧低下に対しては、タイヤ空気圧警告システムは警告を行なうことができません。急激な空気圧低下のときは、慎重にブレーキ操作を行なって停車してください。急なステアリング操作は避けてください。

タイヤ空気圧警告システムの機能は、以下のときに制限されたり、遅れることがあります。

- 車両のタイヤにスノーチェーンが装着されているとき
- 冬季の道路状況のとき
- 砂地や砂利道などを走行しているとき
- 非常にスポーティな走行スタイル（高速でのコーナリングや急加速）のとき
- 重い荷物を積載して走行しているとき（車内やルーフの上）

タイヤ空気圧警告システムの再起動

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を変更したとき
- ホイールやタイヤを交換したとき
- 新しいホイールやタイヤを装着したとき

- ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップ内側のタイヤ空気圧ラベルを参照して、4 輪すべてのタイヤが対応する使用状況に対して適正に調整されていることを確認してください。

タイヤ空気圧警告システムは、適正なタイヤ空気圧に設定されているときのみ、信頼性のある警告を行なうことができます。不適切なタイヤ空気圧に設定されている場合は、それらの不適切な値がモニターされます。

- ▶ タイヤ空気圧に関する注意事項を確認します (▷337 ページ)。
- ▶ イグニッション位置が **2** になっていることを確認します。
- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**メンテナンス**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**タイヤ空気圧**を選択します。
- ▶  スイッチを押します。

タイヤ空気圧 警告システム オンというメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

再起動を確定したいとき

- ▶  スイッチを押します。
タイヤ空気圧 正常ですか? キャンセル はいというメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。
- ▶  または  スイッチを押して **はい**を選択します。

- ▶  スイッチを押します。

タイヤ空気圧 警告システム 再起動しましたというメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

読み込み時間終了後に、タイヤ空気圧警告システムが 4 輪すべての設定したタイヤ空気圧をモニターします。

または

再起動を中断したいとき

- ▶  スイッチを押します。

または

- ▶ **タイヤ空気圧 正常ですか? キャンセル はい**というメッセージが表示されているときに、 または  スイッチを使用して**キャンセル**を選択します。

- ▶  スイッチを押します。

最後の再起動時に保存されたタイヤ空気圧値が引き続きモニターされます。

車輪の交換

パンクしたとき

"パンクしたとき"の項目には、パンクしたときの対処方法に関する情報が記載されています。パンクしたときの MOExtended タイヤでの走行に関する情報も記載されています。

応急用スペアタイヤ装備車：パンクしたときは、"車輪の装着"に応急用スペアタイヤの装着に関する記載があります (▷342 ページ)。

車輪の入れ替え

警告

ホイールまたはタイヤが異なるサイズのときに前輪と後輪を入れ替えると、走行特性を著しく損なうことがあります。ブレーキやサスペンション構成部品を損傷するおそれもあります。事故の危険性があります。

ホイールおよびタイヤが同じサイズの場合にのみ前輪と後輪を入れ替えてください。

サイズが異なる前輪と後輪の入れ替えは、保証を無効にします。

"車輪の交換"の項目にある指示と安全に関する警告に常に注意を払ってください (▶340 ページ)。

使用状況により、フロントタイヤとリアタイヤの磨耗パターンは異なります。タイヤに明確な磨耗パターンが形成される前に、車輪の入れ替えを行なってください。通常はフロントタイヤはショルダー部が、リアタイヤはセンター部がより磨耗します。

前輪と後輪のサイズが同じ車種の場合は、タイヤの磨耗具合により 5,000 ~ 10,000km 毎に車輪を入れ替えることができます。タイヤの回転方向は維持してください。

車輪を入れ替えるときは常に、ホイールとブレーキディスクの接合面全体を清掃してください。タイヤ空気圧を点検し、必要であればタイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

回転方向

タイヤの回転方向が指定されているタイヤは、例えばハイドロプレーニング現象の危険性がある状況などで補助的な効果を発揮します。回転方向が指定されているタイヤは、指定された回転方向になるように装着することで性能を十分に発揮できます。

タイヤの側面にある矢印は、適切な回転方向を示しています。

車輪の保管

使用していない車輪は、乾燥した冷暗所に保管してください。オイルやグリース、燃料などからタイヤを保護してください。

車輪の清掃

警告

回転式ジェットノズル付きの高圧式クリーナーは、外見からは見えないタイヤや車体構成部品の損傷の原因になるおそれがあります。そのようにして損傷した構成部品は、予期せずに故障するおそれがあります。事故の危険性があります。

車両を清掃するときに、回転式ジェットノズル付きの高圧式クリーナーを使用しないでください。損傷した車体やタイヤはただちに交換しなければなりません。

車輪の装着

車両の準備

- ▶ かたく、すべりにくい、水平な地面に車両を停車します。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で効かせます (▷169 ページ)。
- ▶ 前輪を直進の位置にします。
- ▶ DIRECT SELECT レバーを **P** に動かします。
- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ 車両の装備に含まれているときは、タイヤ交換工具を車両から取り出します。
- ▶ 車両が動き出さないように固定します。

i 国別仕様の違いとは別に、車両にはタイヤ交換工具キットは装備されていません。車両の車輪交換を行なうために必要な工具について、詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におだすねください。

タイヤ交換工具には、例えば以下が含まれることがあります。

- ジャッキ
 - 輪止め
 - ホイールレンチ
- ▶ 車の後方に停止表示板を置きます。
- i** 高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

輪止めで車両を固定する



車両に輪止めが装備されている場合、輪止めはタイヤ交換工具キットの中に収納されています (▷308 ページ)。

折りたたみ式の輪止めは、車輪を交換するときなどに車が動き出すのを防止するための補助的な固定手段です。

- ▶ プレートを両方とも引き起こします ①。
- ▶ 裏面のプレートを引き出します ②。
- ▶ 裏面のプレートの突起部分を、ベースプレートの開口部に差し込みます ③。



水平な場所で輪止めをする場合

- ▶ **水平な場所**：交換する車輪の対角にある車輪の前後に輪止めまたは類似の物を置きます。



緩い下り坂勾配で輪止めをする場合

- ▶ **緩い下り勾配：**前輪および後輪の前側に輪止めまたは類似の物を置きます。

車両を上げる

⚠ 警告

車両の適切なジャッキポイントにジャッキを正しく合わせないと、車両を上げたときにジャッキが倒れるおそれがあります。けがの危険性があります。

車両の適切なジャッキポイントにのみジャッキを合わせてください。ジャッキは車両のジャッキポイントの真下にくるようにしてください。

車両を上げるときは、以下の点に注意してください。

- 車両を上げるときは、メルセデス・ベンツによりテストされ承認された、車両専用のジャッキのみを使用してください。不適切なジャッキを使用すると、車両を上げたときにジャッキが倒れるおそれがあります。

- ジャッキは、車輪を交換するときに短時間車両を上げたままにするために設計されています。車両の下での整備作業には適していません。
- 上り坂や下り坂での車輪交換は避けてください。
- 車両を上げる前に、パーキングブレーキを効かせ、また輪止めをして、車両を固定してください。車両を上げているときは、決してパーキングブレーキを解除しないでください。
- ジャッキは、かたく、平坦で滑りにくい路面に置いてください。不整地などでは、大型の耐荷重マットを使用してください。滑りやすい路面では、ラバーマットなどの滑りにくい敷物を使用してください。
- ジャッキの敷物として、木製のブロックなどを使用しないでください。さもないと、高さが制限されることによりジャッキの耐荷重を得られないおそれがあります。
- タイヤ底面と地面との間の距離が3cmを超えないようにしてください。
- 上げた車両の下には決して手や足を入れないでください。
- 上げた車両の下には決して横たわないでください。
- 車両を上げているときは、決してエンジンを始動しないでください。
- 車両を上げているときは、決してドアやテールゲートを開閉しないでください。
- 車両を上げているときは、車両に人が乗っていないことを確認してください。



ホイールカバーを装着したスチールホイール

- ▶ **スチールホイール装備車**：注意してホイールカバーの2ヶ所の開口部に手を入れ、ホイールカバーを取り外します。



- ▶ ホイールレンチ ① を使用して、交換する車輪のボルトを約1回転ほど緩めます。ボルトを完全に緩めないでください。



ジャッキポイントは、フロントホイールアーチのすぐ後方、リアホイールアーチのすぐ前方（矢印の位置）にあります。



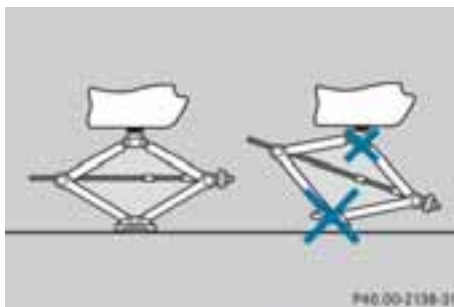
カバー、フロント（例：AMG 装備装着車両）

AMG スタイリングパッケージ装着車両：サイドスカートジャッキポイントには、車体を保護するためのカバーが装着されています。

- ▶ **AMG スタイリングパッケージ装着車両**：カバー ② を上方に開きます。
- ▶ タイヤ交換工具からラチェットレンチを取り出し、**AUF** の文字が見えるようにジャッキの六角ナットに合わせます。



- ▶ ジャッキポイント③にジャッキ④を合わせます。



- ▶ ジャッキの底部がジャッキポイントの真下で垂直の位置にあることを確認します。
- ▶ ジャッキ④がジャッキポイント③に完全にはまり、ジャッキの底部が均一に地面に接するまで、ラチェットレンチ⑤をまわします。
- ▶ タイヤが地面から最大で約3cm離れるまで、ラチェットレンチ⑤をまわします。

車輪を取り外す

- ❗ ホイールボルトを砂や汚れのあるところに置かないでください。さもないと、ボルトを締めるときにホイールボルトのネジ山やホイールハブを損傷するおそれがあります。

- ▶ ホイールボルトを緩めます。
- ▶ 車輪を取り外します。

車輪を取り付ける

⚠ 警告

オイルまたはグリースが付着したホイールボルト、または損傷したホイールボルト / ハブのネジ山はホイールボルトが緩む原因になるおそれがあります。結果として、走行しているときに車輪が外れるおそれがあります。事故の危険性があります。

ホイールボルトにオイルやグリースを付着させないでください。ネジ山が損傷している場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷したホイールボルトまたはハブのネジ山を交換 / 再生してください。走行を続けしないでください。

⚠ 警告

車両が上がっているときにホイールボルトまたはホイールナットを締めると、ジャッキが倒れるおそれがあります。けがの危険性があります。

車両が地面の上にあるときのみ、ホイールボルトまたはホイールナットを締めてください。

"車輪の交換"の指示や注意事項にも常に注意を払ってください(▶340ページ)。

必ずホイールおよび車両のために設計されたホイールボルトのみを使用してください。安全上の理由により、メルセデス・ベンツ車および対応するホイールのために承認されたホイールボルトのみを使用することをお勧めします。



- ▶ ホイールとホイールハブの接合面を清掃します。
- ▶ 新しい車輪をホイールハブに合わせて押します。
- ▶ ホイールボルトを手で締めます。

車両を下げる

警告

ホイールナットおよびボルトが規定の締め付けトルクで締められていないときは、ホイールが緩むおそれがあります。事故の危険性があります。

車輪を交換した後は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で締め付けトルクを点検してください。



- ▶ **AB** の文字が見えるようにラチェットレンチをジャッキの六角ナットに合わせます。
 - ▶ 車両が再度地面に確実に着くまで、ラチェットレンチをまわします。
 - ▶ ジャッキを脇に置きます。
 - ▶ 図のように対角の順番(①～⑤)で、ホイールボルトを均一に締め付けます。規定の締め付けトルクは 130 Nm です。
 - ▶ ジャッキを元の位置にまわして戻します。
 - ▶ ジャッキと他の車載工具を再度車内に収納します。
 - ▶ 新しく装着した車輪のタイヤ空気圧を点検し、必要であれば調整します。
- 推奨タイヤ空気圧に従ってください(▶337ページ)。

ホイールとタイヤの組み合わせ

全体的な注意事項

! 安全上の理由により、車両のためにメルセデス・ベンツにより特別に承認されたタイヤとホイールのみを使用することをお勧めします。

それらは、ABS や ESP® などの制御システムに特別に適合しており、以下のマークが付いています。

- MO = メルセデス・ベンツ純正タイヤ
- MOE = メルセデス・ベンツ純正ランフラットタイヤ (ランフラットタイヤ)
- MO1 = メルセデス・ベンツ純正タイヤ (特定の AMG タイヤのみ)

メルセデス・ベンツ純正ランフラットタイヤは、メルセデス・ベンツにより特別に承認されたホイールでのみ使用することができます。

メルセデス・ベンツによりテストされ、承認されたタイヤ、ホイールおよびアクセサリのみを使用してください。さもないと、ハンドリングなどの特定の特性、車両排出騒音および燃料消費に悪影響を与えます。さらに、荷物を積んで走行しているとき、タイヤサイズの種類によっては、タイヤが車体やアクスル構成部品と接触するおそれがあります。これにより、タイヤまたは車両の損傷につながるおそれがあります。

テストおよび承認されていないタイヤ、ホイールおよびアクセサリの使用に起因する損傷については、メルセデス・ベンツは責任を負いません。

ホイール、タイヤおよび承認された組み合わせについての詳しい情報については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 再生タイヤでは元の損傷状態を常に確認することができないため、メルセデス・ベンツでは再生タイヤのテストを行なっておらず、それらの装着はお勧めしません。結果的に、メルセデス・ベンツでは再生タイヤを装着した場合の安全性は保証できません。タイヤの以前の使用状態に関する情報が分からない場合は、中古タイヤを装着しないでください。

! 大径ホイールは、特定のホイールサイズでは外周部分が低くなり、悪路での乗り心地も悪くなります。ロール時の快適性やサスペンションの快適性が損なわれ、結果として障害物を乗り越えたときのホイールやタイヤへの損傷の危険性も高まります。

燃料給油フラップ内のタイヤ空気圧ラベルにより、様々な使用状況でのタイヤ空気圧を確認できます。タイヤ空気圧に関するさらなる情報は (▷337 ページ) をご覧ください。タイヤが冷えているときにのみ、定期的にタイヤ空気圧を点検してください。

タイヤとホイールは、以下の点を確認して正しく装着してください。

- 左右には必ず同サイズのタイヤを装着してください。
- サマータイヤ、ウィンタータイヤ、ランフラットタイヤ (MOExtended) など、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

例外：パンクした場合は、異なる種類、および銘柄のタイヤを装着することが許可されています。
"MOExtended" の項目に従ってください (▷309 ページ)。

MOExtended タイヤ装備車は、工場出荷時はタイヤフィットは装備されていません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で車両に装備することを推奨します。タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で購入できます。

標準タイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
A 180	225/45R17 MOExtended ^{1,2}	7.5J × 17	52.5mm
A 180 ナイトパッケージ	225/40R18 MOExtended ^{1,2,3}	7.5J × 18	52mm
A 180 Sports	225/40R18 MOExtended ^{1,2,3}	7.5J × 18	52mm
A 180 Sports ナイトパッケージ	225/40R18 MOExtended ^{1,2,3}	7.5J × 18	52mm
A 250 SPORT	235/40R18	8.0J × 18	48mm

オプションまたは仕様により、以下のタイヤ / ホイールが装着される場合があります。

	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
前後の車輪	195/65R15 91 H ⁴	6.5J × 15 H2	47mm
前後の車輪	205/55R16 91 H	6.5J × 16 H2	49mm
前後の車輪	205/55R16 91 V	6.5J × 16 H2	49mm
前後の車輪	205/55R16 91 V ¹ MOExtended ¹	6.5J × 16 H2	49mm
前後の車輪	225/45R17 91 V ²	7.5J × 17 H2	52.5mm
前後の車輪	225/45R17 91 W MOExtended ^{1,2}	7.5J × 17 H2	52.5mm
前後の車輪	225/40R18 92 W XL MOExtended ^{1,2,3}	7.5J × 18 H2	52mm
前後の車輪	235/40R18 95 Y XL	8.0J × 18 H2	48mm

1: MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）では、タイヤ空気圧警告システムを作動させてください。

2: スノーチェーンの装着は許可されていません。"スノーチェーン"の注意事項に従ってください。

3: "ホイールとタイヤの組み合わせ"の"大径ホイール"の注意事項に従ってください。

4: A180：工場出荷時に 15 インチホイールを装備した車両のみ。

- i

一部のホイール / タイヤの組み合わせは、国によっては装着できない場合があります。
- i

上記の内容は本国仕様のもので、日本においては購入や装着ができない場合があります。適切なホイール / タイヤの組み合わせについては、購入前に必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ウィンタータイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
A 180	195/65R15 91 T M+S ⁴	6.5J × 15 H2	47mm
	205/55R16 91 H M+S	6.5J × 16 H2	49mm
	205/55R16 91 H M+S MOExtended ¹	6.5J × 16 H2	49mm
全車	205/50R17 93 H XL M+S	6.5J × 17 H2	49mm
	205/50R17 93 H XL M+S MOExtended ¹	6.5J × 17 H2	49mm

1: MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）では、タイヤ空気圧警告システムを作動させてください。

4: A180：工場出荷時に 15 インチホイールを装備した車両のみ。

- i

一部のホイール / タイヤの組み合わせは、国によっては装着できない場合があります。
- i

上記の内容は本国仕様のもので、日本においては購入や装着ができない場合があります。適切なホイール / タイヤの組み合わせについては、購入前に必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

応急用スペアタイヤ

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

スペアタイヤ / 応急用スペアタイヤのホイール / タイヤサイズおよびタイヤの種類は、交換されるタイヤと異なることがあります。スペアタイヤ / 応急用スペアタイヤの装着により、走行特性が著しく損なわれるおそれがあります。事故の危険性があります。

以下により、危険な状況を避けてください。

- ・ 適時に運転スタイルを合わせ、慎重に運転してください。
- ・ 交換される車輪とサイズが異なる場合は、1 つ以上のスペアタイヤ / 応急用スペアタイヤを取り付けないでください。
- ・ 交換される車輪とサイズが異なる場合は、スペアタイヤ / 応急用スペアタイヤは短時間のみ使用してください。
- ・ ESP[®] を解除しないでください。
- ・ 該当するスペアタイヤ / 応急用スペアタイヤは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。ホイール / タイヤサイズとタイヤの種類が適切であることを確認してください。

応急用スペアタイヤ、または異なるサイズのスペアタイヤを使用しているときは、最高速度が 80km/h を超えないようにしてください。

応急用スペアタイヤには、スノーチェーンを装着しないでください。

全体的な注意事項

定期的に、特に長距離走行の前には、応急用スペアタイヤのタイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気圧を調整してください (▷337 ページ)。空気圧は車輪にある数値、または " ホイールとタイヤの組み合わせ " の項目 (▷347 ページ) にあるものが有効です。

i 応急用スペアタイヤを装着して走行する場合は、タイヤ空気圧警告システムは正常に作動しません。パンクしたタイヤを新品と交換してから、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

応急用スペアタイヤは回転方向とは逆に装着することもできます。応急用スペアタイヤに規定された速度制限に従ってください。

少なくとも 6 年ごとにタイヤを交換してください。これは、応急用スペアタイヤにも当てはまります。

応急用スペアタイヤを取り出す



- ▶ テールゲートを開きます。
- ▶ 応急用スペアタイヤバッグ ① の固定ストラップ ② を緩めます。

▶ 応急用スペアタイヤが収納されている
 応急用スペアタイヤバッグ ① を
 取り出します。

車輪の交換と装着に関する情報は
(▷342 ページ) をご覧ください。

サービスデータ	
応急用スペア タイヤ	
タイヤ	スチールホイール
T125/80R17	3.5B × 17
タイヤ空気圧： 420kPa (4.2bar/ 61psi)	オフセット 19.5mm

役に立つ情報.....	354
テクニカルデータに関する情報…	354
車両の電子機器.....	354
ビークルプレート.....	354
サービスプロダクトと容量.....	355
車両データ.....	360
24 GHz レーダーセンサーシステム	362

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で入手可能な、お客様の車両でのすべての車種、シリーズ、およびオプション装備について記載しています。国により仕様が異なることがあります。記載されているすべての機能が、お客様の車両に装備されていないことがあることにご留意ください。このことは、安全に関するシステムや機能にも当てはまります。

テクニカルデータに関する情報

i テクニカルデータは EC 指令に準拠して決定されています。すべてのデータは車両の標準装備に該当します。そのため、オプション装備を装備した車両では異なることがあります。

車両の電子機器

電子制御部品の改造

! エンジン電子機器およびそれに関連するコントロールユニット、センサー配線類のような部品に関わる作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのみ実施してください。さもないと、車両の構成部品がより早く摩耗することがあったり、車両の使用に関する保証が無効になることがあります。

ビークルプレート

車台番号が記載されたビークルプレート



- ▶ 右側フロントドアを開きます。
ビークルプレート ① があります。

車台番号



- ▶ 右側フロントシートを最も後方の位置にスライドします。
- ▶ 右側フロントシート前方のフロアカバー ① をめくり上げます。
車台番号 ② があります。
車台番号はビークルプレートにもあります (▷354 ページ)。

エンジン番号

エンジン番号はクランクケースに刻印されています。

詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

サービスプロダクトと容量

重要な安全上の注意事項

警告

サービスプロダクトには毒性があり、健康を害するおそれがあります。けがの危険性があります。

サービスプロダクトを使用、保管、廃棄するときは、元の容器に記載されている取り扱い指示に従ってください。サービスプロダクトは常に、密閉された元の容器に保管してください。サービスプロダクトは常に、子供の手の届く場所から離してください。

環境

サービスプロダクトは、環境に配慮した方法で廃棄してください。

サービスプロダクトには以下が含まれます。

- 燃料
- 油脂(エンジンオイル、トランスミッションオイルなど)
- 冷却水
- ブレーキ液
- ウォッシャー液
- エアコンディショナーの冷媒

車両の構成部品とそれぞれの油脂は適合していません。メルセデス・ベンツによりテストされ、承認された製品を使用することをお勧めします。

これらの製品は本書の関連する章に挙げられています。

メルセデス・ベンツにより承認されたサービスプロダクトは、以下の容器の記載により識別できます。

- MB-Freigabe (MB-Freigabe 229.51 など)
- MB-Approval (MB-Approval 229.51 など)

MB シート番号 (MB 229.5 など) に準拠した品質レベルまたは仕様は、他の記号や推奨で示されています。これらは、メルセデス・ベンツによる承認を必要としません。

詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

燃料

重要な安全上の注意事項

警告

燃料は高い可燃性です。燃料を不適切に取り扱くと、火災や爆発の危険性があります。

火気や裸火、火花、喫煙を避けてください。燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

 警告

燃料には毒性があり、健康を害するおそれがあります。けがの危険性があります。

燃料を飲み込んだり、燃料が肌や目または衣服に直接触れないようにしてください。気化した燃料を吸い込まないでください。燃料は子供の手の届く場所から離してください。

お客様や他の方が燃料に触れた場合は、以下のようにしてください。

- ただちに水と石鹼で、燃料に触れた部分の肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で燃料を完全に洗い流してください。ただちに医師の診断を受けてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診断を受けてください。無理に吐かせないでください。
- 燃料が衣服に付着した場合は、ただちに着替えてください。

燃料タンク容量

燃料タンク容量	約 50.0 ℓ
警告灯点灯時の残量	約 6.0 ℓ

ガソリン

! ガソリンエンジン車に軽油を補給しないでください。もし誤って軽油を補給してしまった場合は、イグニッションをオンにしないでください。さもないと、燃料が燃料システムに行きわたります。たとえ少量の不適切な燃料でも、燃料噴射システムとエンジンを損傷します。修理費用は高額になります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡し、燃料タンクと燃料の配管から軽油を完全に抜き取らなければなりません。

! 無鉛プレミアムガソリンのみを補給してください。

! 以下は使用しないでください。

- 有鉛ガソリン
- 軽油

これらの燃料をガソリンに混合したり、添加剤を使用しないでください。さもないと、エンジンの損傷につながる可能性があります。生成残留物の除去および防止のための添加剤は、これには含まれません。メルセデス・ベンツにより推奨された洗浄添加剤のみをガソリンに混合してください。推奨されている添加剤の詳細情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

添加剤

！ 燃料添加剤とともにエンジンを作動させると、燃料高圧ポンプの摩耗となり、燃料システム全体の損傷につながります。修理費用は高額になります。生成残留物の除去および防止のための添加剤は、これには含まれません。ガソリンには必ずメルセデス・ベンツにより承認された添加剤のみを加えてください。推奨された添加剤についての詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

低いグレードの燃料による主なトラブルのひとつに、燃料が燃焼する過程でのカーボン堆積物の生成があります。メルセデス・ベンツは、清浄剤を含有する種類の燃料の使用をお勧めします。

これらの清浄剤を含まない燃料を長期間使用した場合は、カーボン堆積物が生成されることがあります。これらは特に、吸気バルブや燃焼室に発生します。

これにより、エンジン作動の以下のトラブルにつながるおそれがあります。

- エンジン暖気時間の長期化
- 不安定なアイドリング
- エンジンノイズ
- ミスファイア
- 出力の低下

燃料に他の燃料の添加剤を混合しないでください。これにより、不要な出費につながり、エンジンを損傷するおそれがあります。

燃料消費に関する情報

🌱 環境

お客様の車両の CO₂ 排出は燃料消費に直接関係し、そのため以下により左右されます。

- エンジンによる燃料の効率的な使用
- 運転スタイル
- 環境的な影響や道路状況のような、技術的ではない他の要因

慎重に運転し、定期的に点検整備を行なうことにより、車両の CO₂ 排出量を最小限にできます。

以下の状況では、車両は通常より多くの燃料を使用します。

- 外気温度が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 短時間の走行のとき
- 山道や坂道を走行するとき

エンジンオイル

一般的な注意事項

エンジンオイルを取り扱うときは、サービスプロダクトに関する重要な安全上の注意事項に従ってください (▷355 ページ)。

エンジンオイルの品質は、エンジンの機能や使用寿命を決定します。多くのテストの後で、メルセデス・ベンツは現在の技術基準に対応するエンジンオイルを承認しています。

そのため、メルセデス・ベンツが承認したエンジンオイルのみを使用してください。

テストされ、承認されたエンジンオイルに関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。オイル交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行うことをお勧めします。

メルセデス・ベンツによる承認は、オイル容器の "MB Approval" の記載により、または MB Approval 229.51 などの対応する記号により示されています。

表はお客様の車両に承認されているエンジンオイルを示しています。

車種	MB Approval
全車	229.3、229.5、229.51

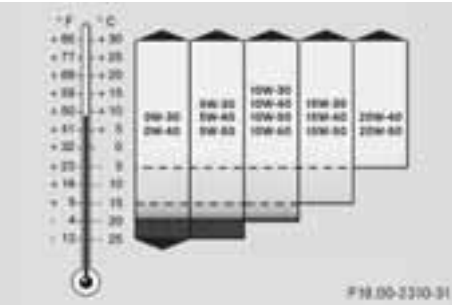
容量

車種	交換量
A 180 BlueEFFICIENCY	約 5.8 ℓ
A 180 BlueEFFICIENCY Sports	
A 250 SPORT	
A 250 SPORT	約 5.6 ℓ

添加剤

エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジンオイルの粘度



粘度は液体の流動性を示します。エンジンオイルが高い粘度値を持つ場合は、ゆっくり流れます。粘度が低いほど、速く流れます。

エンジンオイルの選択は、対応する外気温度および SAE 等級（粘度）に基づきます。表は使用する SAE 等級を示しています。劣化または煤煙および燃料付着等の原因により、低い温度でのエンジンオイルの特性は著しく損なわれます。そのため、適切な SAE 等級での、承認されたエンジンオイルを使用した定期的なオイル交換に従うことを強くお勧めします。

ブレーキ液

警告

ブレーキ液は絶えず空気から湿気を吸収します。これにより、ブレーキ液の沸点が下がります。ブレーキ液の沸点が非常に低い場合は、ブレーキに大きな負荷がかかったときに、気泡が形成されることがあります。これによりブレーキ効果が損なわれます。事故の危険性があります。

定期的な間隔でブレーキ液を交換してください。

ブレーキ液を取り扱うときは、サービスプロダクトに関する重要な安全上の注意事項に従ってください（▶355 ページ）。

ブレーキ液の交換間隔は整備手帳にあります。

メルセデス・ベンツにより承認されたブレーキ液のみを使用してください。

承認されたブレーキ液の情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i ブレーキ液は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に点検してください。

冷却水

重要な安全上の注意事項

警告

不凍液がエンジンルーム内の熱い構成部品に触れると発火することがあります。火災やけがの危険性があります。

不凍液を補充する前に、エンジンを冷ましてください。補給口脇に不凍液がこぼれていないことを確認してください。エンジンを始動する前に、構成部品から不凍液を完全に拭き取ってください。

! あらかじめ混合した不凍保護に適した冷却水のみを加えてください。さもないと、エンジンを損傷するおそれがあります。

冷却水に関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 常に適切な冷却水混合液を使用してください。

さもないと、エンジン冷却システムが腐食から十分に保護されず、オーバーヒートします。

冷却水を取り扱うときは、サービスプロダクトに関する重要な安全上の注意事項に従ってください（▶355 ページ）。

冷却水は水と防錆不凍液の混合液です。以下の役割を果たします。

- 防錆保護
- 凍結防止
- 沸点の上昇

適切な濃度の防錆不凍液では、作動時の冷却水の沸点は約 130°C になります。

エンジン冷却システム内の防錆不凍液の濃度は以下でなければなりません。

- 少なくとも約 50% 以上にしてください。約 -37°C までエンジン冷却システムの凍結を防止します。
- 約 55% を超えないようにしてください。（約 -45°C までの凍結防止）。さもないと、熱が効果的に発散しません。

車両の冷却水が不足している場合は、水と防錆不凍液の混合液を補充してください。

メルセデス・ベンツは、サービスプロダクト 310.1 に関する MB 仕様に準拠した防錆不凍液をお勧めします。

冷却水は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのメーカー指定点検整備実施時に、毎回点検が行なわれます。

i 車両の納車時には、適切な不凍および防錆保護をもたらす冷却水混合液が充填されています。

ウインドウウォッシャーおよびヘッドライトウォッシャー

重要な安全上の注意事項

警告

ウォッシャー液は高い可燃性です。ウォッシャー液が熱くなったエンジン構成部品や排気システムに触れると、発火するおそれがあります。火災やけがの危険性があります。

補給口脇にウォッシャー液がこぼれていないことを確認してください。

! MB SummerFit または MB WinterFit などのプラスチック製ライトレンズに適したウォッシャー液のみを使用してください。適していないウォッシャー液は、ヘッドライトのプラスチックレンズを損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液に蒸留水や脱イオン水を使用しないでください。さもないと、液量のセンサーを損傷するおそれがあります。

! MB SummerFit や MB WinterFit は、混ぜてのみ使用してください。さもないと、スプレーノズルが詰まるおそれがあります。

ウォッシャー液を取り扱うときは、サービスプロダクトに関する重要な安全上の注意事項に従ってください (▷355 ページ)。

気温が氷点より高いときは、以下のよう to してください。

▶ 水と MB SummerFit などのウォッシャー液の混合液をリザーブタンクに補充します。

水の量 100 に対して MB SummerFit の量 1 を混合します。

気温が氷点以下のときは、以下のよう to してください。

▶ 水と MB WinterFit などのウォッシャー液の混合液をリザーブタンクに補充します。混合比を外気温度に合わせます。

- 約 -10℃までは、水の量 2 に対して MB WinterFit の量 1 を混合します。
- 約 -20℃までは、水の量 1 に対して MB WinterFit の量 1 を混合します。
- 約 -29℃までは、水の量 1 に対して MB WinterFit の量 2 を混合します。

i 1 年を通して、MB SummerFit または MB WinterFit などの濃縮ウォッシャー液をウォッシャー液に加えてください。

車両データ

全体的な注意事項

規定されている車両データについては、以下に注意してください。

- 記載の車高は、以下に応じて異なることがあります。
 - タイヤ
 - 荷物
 - サスペンションの状態
 - オプション装備

- オプション装備品により空車重量が増加し、最大荷重が減少します。空車重量は、EC 指令に基づいて規定されており、以下が含まれます。
 - 運転者（68kg）
 - 荷物（約 7kg）
 - すべての液類（約 90%に満たされた燃料タンク）
- 車両の重量に関する情報は車検証にあります。

サイズと重量



車種	① 最大 頭上高	② 開口部 高さ
A 180 Blue EFFICIENCY	1856mm	1975mm
A 180 Blue EFFICIENCY Sports		
A 250 SPORT	1861mm	1980mm

上記の数値は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。

全車種	
全長	4292mm
ドアミラーを含む全幅	2022mm
ドアミラーを含まない全幅	1780mm
ホイールベース	2699mm
最大ルーフ荷重	100kg
最大荷室荷重	100kg

A 180 BlueEFFICIENCY

A 180 BlueEFFICIENCY Sports

全高	1433mm
空車重量	1395kg

A 250 SPORT

全高	1438mm
空車重量	1445kg

上記の数値は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。

24 GHz レーダーセンサーシステム

24 GHz レーダーセンサーシステムは、各々の国により、それぞれの承認を必要とします。レーダーセンサーシステムが承認されていない国で走行するときは、マルチファンクションディスプレイを使用して、システムを停止しなければなりません（▷236 ページ）。

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

現在作動中のシステムは自動的に停止します。

- ブラインドスポットアシスト（▷212 ページ）

マルチファンクションディスプレイに、レーダーセンサーシステムが停止していることが表示されます（▷252 ページ）。

マルチファンクションディスプレイを使用して、レーダーセンサーシステムを解除することもできます（▷236 ページ）。

国名	施設名	地理緯度	地理経度	施設からの 周辺距離
日本	野辺山 長野県南佐久郡南牧村 野辺山 462-2	北緯 35° 56' 40.9"	東経 138° 28' 23.2"	約 8 km
	水沢 岩手県奥州市水沢区 星が丘町 2-12	北緯 39° 08' 01"	東経 141° 07' 57"	約 14 km
	入来 鹿児島県薩摩川内市入来町 浦之名 4018-3	北緯 31° 44' 52"	東経 130° 26' 24"	約 11 km
	小笠原 東京都小笠原村父島字旭山	北緯 27° 05' 31"	東経 142° 13' 00"	約 1 km
	石垣島 沖縄県石垣市登野城高田 2389-1	北緯 24° 24' 44"	東経 124° 10' 16"	約 2 km
	鹿嶋 茨城県鹿嶋市平井 893-1	北緯 35° 57' 21"	東経 140° 39' 36"	約 15 km
	苫小牧 北海道苫小牧市字高丘	北緯 42° 40' 25"	東経 141° 35' 49"	約 17 km
	岐阜大学 岐阜市柳戸 1-1	北緯 35° 28' 03"	東経 136° 44' 14"	約 13 km
	鹿児島大学 鹿児島県鹿児島市平川町	北緯 31° 28' 04"	東経 130° 30' 18"	約 5 km
	国土地理院 茨城県つくば市北郷 1	北緯 36° 06' 11"	東経 140° 05' 20"	約 20 km
	臼田 長野県佐久市上小田切 字大曲 1831-6	北緯 36° 07' 57"	東経 138° 21' 46"	約 6 km
	山口大学 山口県山口市仁保中郷 123	北緯 34° 12' 58"	東経 131° 33' 26"	約 3 km

国名	施設名	地理緯度	地理経度	施設からの 周辺距離
日本	日立 茨城県日立市十王町大字 伊師字加幸沢 3866	北緯 36° 41′ 51″	東経 140° 41′ 32″	約 20 km
	高萩 茨城県高萩市大字石滝 字呉坪 650	北緯 36° 41′ 54″	東経 140° 41′ 40″	約 20 km
	内之浦 鹿児島県肝属郡肝付町南方 1791-13	北緯 31° 15′ 16″	東経 131° 04′ 42″	約 20 km

対象モデル

A 180 BlueEFFICIENCY

A 180 BlueEFFICIENCY Sports

A 250 SPORT

"ESP®" は Daimler AG の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2012 年 11 月現在のものです。

総輸入元

メルセデス・ベンツ日本株式会社

〒106-8506 東京都港区六本木一丁目9番9号 六本木ファーストビル

環境保護のため、この取扱説明書は再生紙を使用致しました。

MBJCSD 32584-111205000 A
6515 5003 20 NA 2012-09c, 11/12